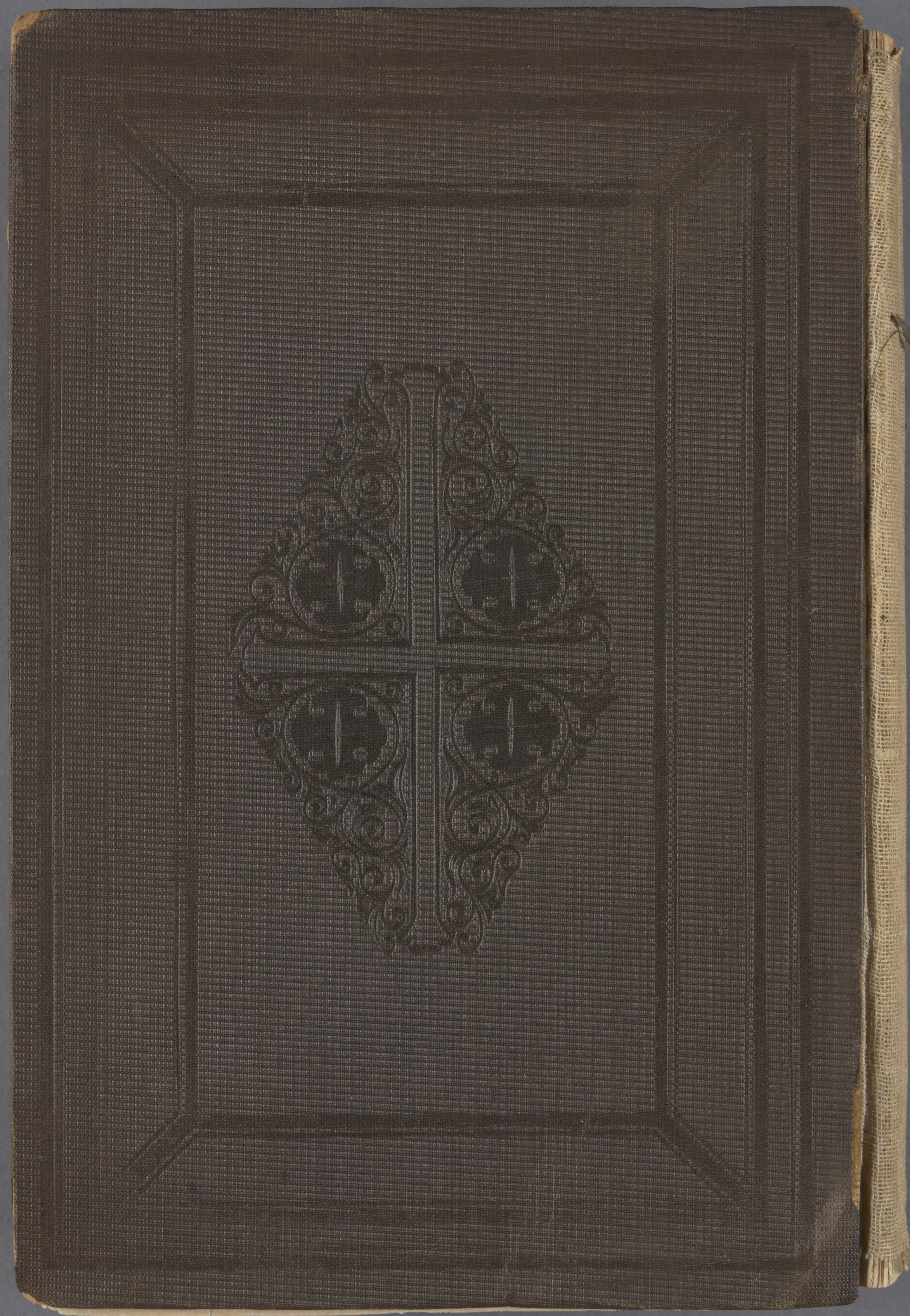


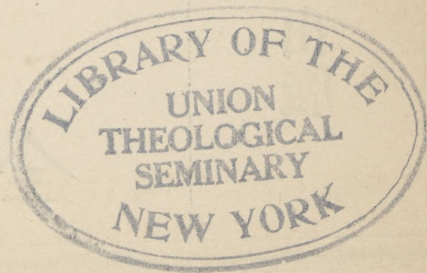
長崎女學校教師エリセベテ、ウラセル著

舊約史略

全

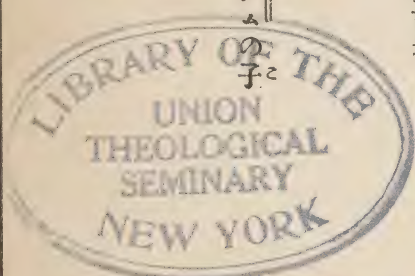
明治十九年

美以美雑書會社出版


LIBRARY OF THE
UNION
THEOLOGICAL
SEMINARY
NEW YORK

舊約史畧目録

單線ハ人名
複線ハ地名



舊約史畧　目錄　終

F アントニア
G 新市
a タイロピアン谷
b カルベリー
c ケドロンの谷
d ヒンノンの谷
e 悪謀の小山
f ヲフェンス山
g エリコ街道
h 橄欖山
i スコプス小山
j ミズフエ
k 地中海の方に向きたる郊原
1 ゲッセマネ

古城壁
1 ヒピクス
2 フエセルス塔

8 陶器門
9 泉の門
10 羊の門

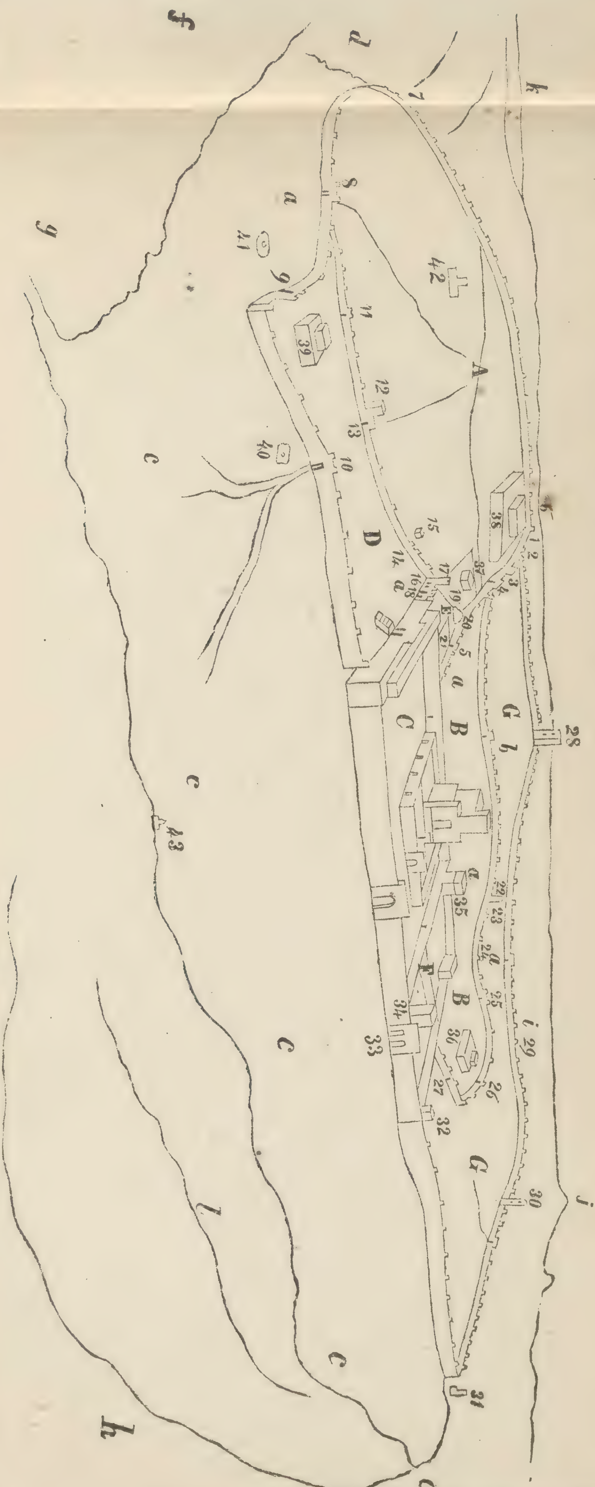
附属壁
11 階段
12 巨人の塔
13 門
14 入口
15 アーモウリー
16 橋
17 馬の門
18 牢の門
19 外の塔
20 牢
21 評議所

中壁
22 フルチンスの塔

外壁
28 セフィノスの塔
29 婦人の塔
30 角の塔
31 フウラの記念碑
32 ハナニーの塔

普通のもの
33 金門
34 メアの塔
35 アントニアの塔
36 ヘレナの宮室
37 王の宮室
38 ヘロデ・の宮室
39 モノバズの宮室
40 ベテスダの池
41 シロアムの池
42 ダビデの墓
43 アブサロムの石柱

古代のエルサレムの景況の圖



A 上市
B 下市
C 宮殿
D オペル
E ミルロ

3 マリアン
4 ゼナス門
5 水門
6 谷の門
7 エセンスの門

23 角の門
24 廣壁
25 イフレイム門
26 古門
27 魚の門

舊約史略小引

第一問　聖書とは如何
答　世のいと古き經書を編輯たるものなり
第二問　此書は何時の頃書きしものなるや
答　此書は時代を異にして其第一の部は他の歴史より一千年以前に記されしものにして今より殆んど三千三百年前に記されしものなり
第三問　バイブル即ち聖書といふ語意は何ぞや
答　世上の書籍に勝りて神聖き書といふ義なり
第四問　聖書は幾册に分つや
答　六十六册
第五問　聖書は誰が著述しや
答　數多の人眞神の默示を蒙りて錄せしものなり
第六問　聖書を二部に區別ち之を何と稱ふるや
答　一を舊約全書と云ひ一を新約全書といふ

第七問　約書とはいかん

答　約書とは喩へば人の死に臨みて其所有を親類に分與んとの遺證あれば其死後に至りても其言の通になりゆくが如し

第八問　舊約書とは如何

答　耶蘇降生の前モーセ及び數多の預言者の錄されしものにして其事柄は犧牲の献物等に付て耶蘇人の罪を贖ひ給ふヿを表せしものなり

第九問　新約書とは如何

答　耶蘇の弟子の錄されしもの即ち耶蘇の深き聖旨の儘を載るものにして耶蘇の貴き血を以て之を證し且固め給ひしものなれば更に廢す可らざるの重き書なり

第十問　舊約は何によりて固めしや

答　牡牛と山羊の血を以て固めたり

第十一問　新約はいかん

答　基督の貴き血にて固められたり

第十二問　聖書は原何國の語にて録されしや
第十三問　答　舊約書は希伯來語を用ゐ新約書は希臘語を以て録されたり
舊約書は幾種に分つや
第十四問　答　四種に分てり「ペンテチュク」即ち律法、歴史、詩篇、預言是なり
「ペンテチュク」とは何ぞや
第十五問　答　其は希臘語にて五箇の書といふ義にして聖書の初の五巻をいふなり即ち創世記、出埃及記、利未記、民數記略、申命記（一に復傳律ともいふ）なり
此の五巻は誰の著述なるや
第十六問　答　皆モーセの作なり今を距る約三千有余年前に録せしものにて現在仍猶太の會堂に依然として保存せり
右の五巻を一に何と呼ぶや
第十七問　答　モーセの律法と云ふ蓋は神モーセに憑りて命じ給ひし猶太人の國法及び教法を記載したればなり
五巻中には如何なる事を録せしや
答　世界の開闢よりモーセの死去まで殆んど二千五百五十三年間の

事を載せ並に人類組織の初より遂に一國爲政の時に至る迄を記せり

第十八問　創世記とは如何なる意味なりや

答　創世とは元始の世といふ義なり此書は天地の創造人類の始まり及び罪惡の原由又眞神の無限恩愛の救ひを敎ゆるものにして世の始よりヨセフの死まで約ね二千三百六十九年間の事を記載せり

第十九問　此書は何時の項に錄せしや

答「イスラエル」人埃及を出立して神律の示授ありし後に錄されしものならん

第二十問　此書を分て三大時代とす其分ちは何ぞや

答（第一）世界の創造より大洪水まで（一千六百五十六年）（第二）大洪水よりアブラハムの誕生まで（三百五十二年）（第三）アブラハムの誕生よりヨセフの死まで（三百六十年）なり以上三大時代の年數を合すれば二千三百六十九年となるなり

第廿一問　アンドリユフルラルの説いかん

答　此歴史世に微りせバ如何なして世界の創造ありしや又將來如何になりゆくや知るな由なく恰も暗夜の如くなるべし故に小兒にても此書に就て一時間學びなバ一千年も學びたる世界の諸博士よりも曼かに勝ることあらん

創世記　世界の始まりの事

第一章

第一問　初めに記載されしことは何ぞや

答　天地の創造れしことなり

第二問　第一日に何を創造せしや

答　神光を造り之を暗きより分け光を晝といひ暗を夜と名づけ給へり

第三問　第二日はいかん

答　蒼穹を造りて上下の水を判ち蒼穹を天と名づけ給へり

第四問　第三日は如何

答　神水を一處に滙めて陸地を露し之に菜蔬草木等を發生ぜしめ給へり

第五問　第四日は如何

答　日と月とを造り日は晝を司り月は夜を司らしむ又星辰を造り給へり

第六問 第五日ハ如何

答 鳥と魚を造り給へり

第七問 第六日ハ如何

答 家畜と昆蟲と野の獸を造り又神其像に肖せて人を造り人をして諸ての生物と全地を治理させ給ふ

第八問 神の像とハ何の謂ぞや

答 眞と義と潔となり此かたちに從つて神ハ人を造り給へり

第九問 神ハ其造りたる諸ての物を如何に視なし給ふや



イデンの園

答 神之れを見て善しとし給へり

第二章

第十問 第七日に神何を立て給ひしや

答 神此日を記憶せんが爲めに安息日を立て之を祝して聖日とせり蓋し神此日に其業を息み給へばなり

第十一問 神始の人を創造給ひしてと如何

答 土の塵を以て造り給へり

第十二問 神始の人に魂を賦與給ひしあと如何

答 神其鼻より生氣を吹き入れて生靈となし給へり

第十三問 始の人の名を何と云ふや

答 アダムといふなり

第十四問 始めアダムを何處に置き給ひしや

答 エデンの園なり

第十五問 此園は摸樣を語るべし

答 エデンは能く潤ひ且つ豐饒にして樂しき園なれば神其東の方

の最も佳き所に園を設けてアダムを置ぎ給ひしなり

第十六問　神アダムを園に置き何を命じ給ひしや

答　之れを耕し之を守らしめ又神アダムに園の中央にある善惡を知るの樹の外ハ各種の果を食ふことを許し給へり唯善惡を知るの樹ハ食ふべからず汝之を食ふ日にハ必ず死せんと言給へり

第十七問　神アダムに命じ給ひし始めの業ハ何ぞや

答　神アダムに總ての生物を名づけさせん爲め率ゐて彼の所に至り給へり依てアダム之に名を與へたり

第十八問　神女を創造り給ふ事如何

答　神アダムを熟睡せしめて其肋骨の一を取りて女を創造し之をアダムの所に連れ來り給へり

第十九問　アダム此女を受けしてと如何

答　アダム言けるそこれ我骨の骨我肉の肉なり此ハ男より出たれバ女と名くべし故に人ハ其父母を離きて其妻に好合ひ二人一體となるべしと

第三章

第二十問　アダムの罪に陷りし事を語れ

答　惡魔蛇に憑りて婦を誘ひ禁止の果實を食はしめ婦亦夫に與へて之を食はしめたり

第二十一問　アダム夫婦罪を犯せし時の形狀如何

答　耻辱恐懼痛憂等其心に充てり彼等其裸體なることを知て耻、園の中に神の聲を聞て恐き、其罪を問はれて痛憂たり

第二十二問　彼等は其罪に付て神に如何なる遁辭を試みしや

答　アダム曰けるは我裸體なるにより汝の聲を聽きて恐ると神アダムを責め給ひければ彼、罪を婦に歸し婦は之を蛇に歸したり

第二十三問　神いかに夫婦を罪みし給ひしや

答　神罪の原は蛇にあるを以て先づ之を糾して曰ひけるは汝ぢ是を爲に因て汝は諸の家畜と野の諸の獸よりも勝りて呪はる我汝と婦の間及び汝の苗裔と婦の苗裔の間に怨恨を置ん彼は汝の頭を碎き汝は彼の踵を碎かんと又婦に言ましけるは我大に

汝の劬勞と懐姙を增すべし又夫汝を治めんと又アダムに地は汝の爲に詛はる汝は一生の間苦みて其より食を得ん汝は面に汗して食物を食ひ終に土に歸らんそは其中より汝は取れたればなりと曰へり

第二十四問　婦の裔とは誰を指すや

答　キリストなり

第二十五問　アダムは婦を何と名づけしや

答　エバと名づけたりそは群て生の母なればなり

第二十六問　アダムエバの名の義を説け

答　アダムは赤土エバは命と云ふ意なり

第二十七問　罪起りて何等の品必要となりしや

答　衣服なり則ちアダムエバが果實を食ひて其裸體なるを知り先無花菓樹の葉を綴て裳を作れり其後神皮衣を造りて二人に着せ給へり

第二十八問　神の怒り給ひしことを語れ

答　神アダムとエバを園より出し生命の樹の途を保守らん爲に天使と焰の劍とを園の東に置き給へり

第四章

第二十九問　カインとアベルの物語を爲すべし

答　兄のカインは土を耕すものなり其母これを神の賜と思へり而して弟のアベルは羊を牧ふ者なりき一日兄弟共に神に供物を献げしに神アベルの供物を眷顧たまひしかどもカインと其供物をバ眷たまはざりき

第三十問　アベルの運命は如何ん

答　カインアベルを殺せりそはカインアベルを妬の心甚しく遂に斯く殘酷行爲をなせり

第三十一問　カインの罰如何

答　神曰ひけるは汝は詛はれ汝が耕すとも地は再其力を汝に效さ



「カイン」「アベル」を殺すこと

じ汝地に吟行流離子となるべしと又彼に遇ひ彼を撃つ者の手より免れしめ給へりかくて神を離き埃田の東挪得に往き居れり

第三十二問　カインに付て尚詳説

答　其子孫に物語ありカインより五代のレメクはアダとチラなる二人の妻を娶りアダは天幕に住みて家畜を牧ふ所の者の先祖なるヤバルを生めり又其弟ユバルを生めり彼は琴と笛を弄ぶ者の先祖なり而してチラは銅と鐵の諸の刃物を鍛ふトバルカインを生みたり

第三十三問　レメクは其二妻に何といひしや

答　アダとチラよ我聲を聽けレメクの妻等よ我言を容よ我創傷のため人を殺す我痍のため少年を殺すカインのためには七倍の罰ありレメクのためには七十七倍の罰あらん

第三十四問　此物語りに付き如何なる説あるや

答　これは世界に於て最とも古き歌にて大洪水の前より傳はりた

る對句の一種なるべし且樂器發明の前に作りたるものならん

第五章

第三十五問　アダムの三男ハ誰なるぞ又其性質ハいかん

答　セツなり父に象て生れたり

第三十六問　アダム死せしとき何歳なりしや

答　九百三十年

第三十七問　アダムよりノアに至る迄列祖の系圖と年齢ハ如何

答　アダムの子セツハ九百十二歳其子エースハ九百五歳其子カイナンハ九百十歳其子マハラレルハ八百九十五歳其子ヤレドハ九百六十二歳其子エノクハ三百六十五歳其子メトセラハ九百六十九歳其子レメクハ七百七十七歳レメクの子即ちノアハ九百五十歳にて死り

第三十八問　エノクの物語をなすべし

答　エノクハ神と共に歩みしが三百六十五歳の後神彼を活ながら天に昇らしめ給へり

第三十九問　開闢より洪水まで幾年なるや

答　一千六百五十六年なり

第六章

第四十問　世界中の人民にて格別な神の恩を受けしものは誰なるや

答　ノアなり

第四十一問　ノアの物語をなすべし

答　ノアは義人にて正道を傳へり故に人民は世と共に罪の爲な亡ぶと雖も獨りノアは神の命により其眷屬を救ふを得たり

第四十二問　洪水の時ノアは何歳なりしや又其事を述べよ

答　六百歳なり當時の人々は甚だ長壽かりし故な甚だ地の面な繁殖したり神ノアな人々の惡を罰せんためな大洪水を起して天下より剪滅し絶んと云へどもノアは善人なるを以て之を救はん爲めに方舟を造ることを命じ且其妻及其子等と子等の媳とを洪水より救はんと約し給へり故にノアは神の命に從て方舟を造れり神又地上諸の生物の血肉あるものを其類に從ひ各二(獸

畜禽鳥昆蟲)をして方舟に入らしめたまひしが其中多くは生存へしならん是に於てノア夫婦及其子セム、ハム、ヤペテと其媳の八人食物を携へて方舟に入る神之を閉ぢ給へり先にノア洪水のことを人民に語りしと雖も人々之を信ずるの心なかりしが神雨を天より降し水を海より出したまふに及で人類悉く滅びたり

第四十三問　ノアは安全にてありしや

答　然り方舟水の面に漂へる時神彼を守りたまひし神は總てノアの如く神を愛し神に事ふるものを無難に守り給ふは疑ふべからざる事どもなり

第四十四問　方舟は何の表なるや

答　我儕の主耶穌キリストなり

第四十五問　方舟に就きて略說すべし

答　方舟の形は長さ四十五丈幅七丈五尺高さ四丈五尺なり然し方舟の尺に就ては種々の說ありスコットの註解書には方舟の大

さは長さ四十八丈幅八丈一尺高さ四丈八尺傍らに戸あり頂に
窓ありと云へり

第四十六問　ノアは幾年の間に方舟を造りしや
答　百二十年なり

第四十七問　ノアは大洪水の來るを世
に示しゝや
答　然り彼れは正實なる講義
者なりき

第四十八問　方舟には幾人ありしや
答　ノアと其妻及び其子セム
ハムヤベテの夫妻八人な
りき

第四十九問　ノア及び其家族の外何の
方舟の中にありしや
答　種々の鳥獸なり



大洪水の圖

第七章

第五十問　洪水の起りし形勢は如何

答　大淵の源皆潰れ天の戶開けて雨四十日四十夜地に注げり

第五十一問　ノアは如何に久しく方舟の中に居りしや

答　凡一ケ年なり

第八章

第五十二問　ノアは何によりて水の乾きしを知りしや

答　ノア鴉と鴿とを放ちしに鴉は翱翔往來したれども鴿は方舟に返へれりノア之を接入れて七日の後再び鴿を放ちしに口に橄欖の新葉を含て歸れり尚又七日の後更に鴿を放ちたれば鴿遂に歸らざりし故に水の乾たることを識きり

第五十三問　水減しとき方舟は何處に止まりしや



方舟の浮みたる圖

答　アラヽト山の頂に止れり

第五十四問　アラヽト山ハ何處にあるや

答　此山ハアルメニヤにありアラヽト山に二嶺あり其第一嶺ハ高さ一萬七千七百五十尺にして其第二嶺ハ高さ一萬三千四百二十尺なり方舟の止りし處ハ其第二嶺なりしと云ふ

第五十五問　ノア方舟より出て何をなせしや

答　燔祭を壇の上に献げたり

第五十六問　此洪水の說話に依て我儕ハ何を悟るや

答　神ハ罪を嫌ひて之を罰し正直を愛して之を守り給ふことを知るなり

第九章

第五十七問　神ハ兇殺の罪に就て何なる法律を設け給ひしや

答　妄に人の生命を取バ死刑に所せらるべし即ち人の血を流す者ハ人其血を流さん蓋ハ神の像の如くに人を造り給ひたれバなり

第五十八問　神はノア及び其子孫に如何なる契約を立給ひしや

答　世界を亡さんが爲めに再び洪水を起さずとなり乃其契約の徴として虹霓を造り給へり

第五十九問　ノアの子孫の物語をなすべし

答　ノアの子はセムハムヤペテなりヤペテの子は小亞細亞及び異邦の島と呼ばれたる歐羅巴にハムの子は亞拉比亞の南部及び亞弗理加に殖民し而してセムの子は亞細亞に於て繁殖せり

第六十問　セムの事を詳說よ

答　セムはエベルの先祖なり凡て神の契約の人民はエベルの後胤なり世に云ふヒーブルなる言葉はエベル或はヒーポルなる語より轉化したるものなり

第六十一問　我儕日本人はノアの子誰の後胤なるや

答　多分セムの子孫ならん

第六十二問　ノアの子の誰が詛はれしや又其故は如何

答　ハムなり如何となれば其父の罪と耻辱を秘す心なく却て之を

顯れせしが故なり

第六十三問　ノア酒醒めて其子孫に就て何と預言せしや

答　カナンは詛はれよ彼は僕等の僕となりて其兄弟に事へんセムの神エホバは頌美べきかなカナン彼の僕となるべし神ヤベテを大ならしめたまはん彼はセムの天幕に居住はんカナン其僕なるべし

第十章

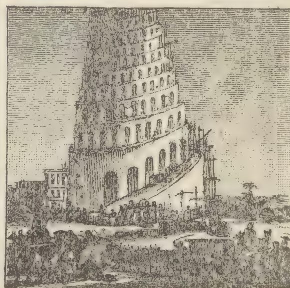
第六十四問　ハムの孫にて名高きものは誰ぞや又其所以は如何

答　ニムロデなり彼は權力ある獵夫なり其性剛勇なるを以て能く猛獸を打從へしめしが故に又能く人々を打從はしめたりしの國の初はシナルの地のバベルエレクアツカデ及ひカルネなりき其後アッシリヤを襲ひてニ子ベレホボテイリ及カラの城邑を建てたり

第十一章

第六十五問　ノアの子孫が大業を企してと又其結果は如何

答　其名を得んが爲めに大なる都府を建て且天に達く高き塔を建てんとしたり當時人衆總て同じ言語を用ゐたれども　ヱホバ降りてその言語を淆し互に通じがたからしめ給へり因て其業をやめたり


バベルの塔

第六十六問　セムよりアブラハムまで系圖は如何

答　セムアルパクサデシラエベルペレグリウサルクナホルテラアブラム

第六十七問　テラの家族の物語を爲せよ

答　テラはアブラムの外に男子二人あり即ちナホルとハランなりハランはロトの父にして其父テラに先だちカルデヤのウルにて死せりナホルの妻はハランの娘ミルカなり

第六十八問　テラは何處にて死せしや

答　テラは其子アブラム及孫のロトと共にカナンに赴く途中ハランに止まりしが二百五歳にて死せり

第十二章

第六十九問　アブラムに其國を離れんことを命ぜしものは誰ぞや

答　エホバアブラムを呼て其國と親族とを離れんことを命じて曰けるは我汝を大なる國民となし汝を祝み汝の名を大ならしめん汝は福祉の基となるべし我は汝を祝する者を祝し汝を詛ふ者を詛はん天下の諸の宗族汝によりて福禔を獲んと

第七十問　アブラムハランを離れし時其齡幾何なりしや

答　七十五年なり

第七十一問　アブラムは誰と共に去りしや

答　其妻サライ甥のロトと共にカナンの地に趣けり

第七十二問　此地に於て誰がアブラムに顯れしや又アブラムの感ぜしことは如何

答　エホバの神モレにてアブラムに顯れ曰けるは我汝の後胤に其地を與へんとアブラム此處に壇を築きし後ベテルの東の山に移りて再び壇を築きエホバの名を籲べり

第七十三問　アブラムエジプトに行かざるを得ざるは何の故ぞや

答　此地に甚しき飢饉ありしに依る

第七十四問　エジプトにてアブラムは其妻を何と呼しや

答　妹と呼べり

第七十五問　妹と呼て如何なる禍に遇ひしや

答　エジプト王サライを奪へり然れども神大に王を惱まし之をしてアブラムの許に歸らしめ給へり其後アブラムはロトと共にエジプトを去り

第十三章

第七十六問　アブラムカナンに歸りし時發生たる困難いかん

答　アブラムとロトの牧者の間に家畜のことに付き競爭を生ぜり

第七十七問　其競爭の結局いかん

答　アブラムロトに云けるは我等兄弟の人なれば請我と汝の間及び我牧者と汝の牧者の間に競爭あらしむる勿れ地は皆汝の前

にあるにあらずや請ふ我を離れよ汝若左にゆかば我右にゆかん又汝右にゆかば我左にゆかんと是に於て二人相別るアブラムはカナンの地に居りロトはヨルダンの潤澤ひたる平原を撰み天幕をソドムに張たり

第七十八問　神アブラムに何と云ひ給ひしや

答　エホバアブラムに言たまひけるは凡そ汝が観る所の地は我之を永く爾と爾の裔に



ヨルダン河の渡場

與べし我爾の後裔を地の塵沙の如くなさんとアブラムヘブロンに至り壇を築てヱホバを祭れり

第十四章

第七十九問　何時ロトは虜にせられしや

答　シデム谷の戰爭の時なり

第八十問　此戰に關係りしは幾王なるや

答　九王なり即ち四王と五王との戰なり

第八十一問　ロトは如何にして免かれしや

答　アブラム熟練たる家の子三百十八人を率ゐて敵を追ひロトを救ひたり

第八十二問　アブラム凱旋せし時之に面會せしは誰ぞ

答　サレムの王メルキゼデクアブラムの爲めにパンと葡萄酒とを携出して之を祝せり

第八十三問　メルキゼデクは如何なる人ぞや

答　メルキゼデクの系圖審かならずユダヤにヨセフスなる歷史家

有れり其說に依ればメルキセデクはカナン國の一王にて昔より傳へ來りの獨一の眞神を信じたる人なりアブラム之に其諸の物の十分の一を饋れり一は恩に報ひ一は神を敬ふ爲めなるべし希伯來書七章の三節を見よ

第十五章

第八十四問　何をアブラムは悲めるや

答　嗣なきを以てなり

第八十五問　神アブラムに何と約せしや

答　神アブラムに嗣を與へんことを約して之を門の外に連れ行て曰たまひけるは天を望みて星を數へ得るかを見よ又汝が子孫は是の如くなるべしとアブラムは神を信ず故に彼を義となしたまへり

第八十六問　其他神はアブラムに何を示し給ひしや

答　其子孫は他人の國に旅人となり其人々に服事へて四百年の間惱さるべし其後彼等は大なる財貨を携へて出んと神又アブラ

ムにカナンの地を其子孫に與へんこと及びアブラムの遐齡に
達りて安然に其父祖の所にゆかんことを示し給へり

第十六章

第八十七問　イシマエル生れしときアブラムハ幾歳なりしや
答　八十六歳なり

第八十八問　イシマエルの母ハ誰なりしや
答　アブラムの妻セライの侍女ハガルなり

第八十九問　此嬰孩に名〻しものハ誰にして又之に就て何の預言あるや
答　天使ハガルに云けるハ汝男子を產んイシマエルと名づくべし神汝の艱難を聽知したまへるなりとハガルサライより苦めら
れければ彼を避け逃れて曠野にゆきし時天使來てハガルに云
けるハ我大に汝の子孫を增し其數を衆多して數ふることあた
はざらしめん又イシマエルを預言して曰けるハ彼ハ驢馬の如
き人とならん其手ハ諸の人に敵し諸の人の手ハ之れに敵すべ
しと

第九十問　彼の預言如何に應ひしや

答　彼の苗裔ハアラビヤ人の中に最も著しきも他の國人の其風習時と變りて毫も舊習の有らざるに違ひて彼の子孫のミ尚野蠻の氣を帶びて殆んど三千余年荒野に住居せり

第十七章

第九十一問　神復たアブラムに顯され給ひしや

答　然り神更にアブラムと約して其名をアブラハムと變稱しめ給へりアブラムハ尊き父アブラハムハ衆多の人の父と云ふ意なり

第九十二問　アブラムの外誰の名を變へたまひしや

答　サライの名をサラと變へ給へりサラハ女皇と云ふ義なり

第九十三問　神アブラハムと約束せしとき設給ひし禮式如何

答　割禮なりアブラハムイシマエル及其家の內の男と共に割禮を受けたり當時アブラハムハ齡九十九イスマエルハ十三歲なり

第十八章

第九十四問　マムレの平原に於てアブラハムに顯れしは誰ぞや

答　天使三人なり

第九十五問　アブラハムは天の使なる客を饗應せしや

答　アブラハム客を止めて其足を濯ひ一口のパンを食せんことを乞へりサラ之を備ふアブラハム趨ゆき柔にして善き犢を取來り少者に之を調理せしめアブラハム又牛酪と牛乳及び調理へたる犢を彼等の前に供へ己は樹の下にありて彼等の食ひ終るまで其傍に立てり

第九十六問　天使何をアブラハムに告げしや

答　サラの子を生むとなり

第九十七問　サラは之を聞て何と思ひしや

答　サラ心に哂ひ之を疑ひたれば天使之を咎て曰けるは神豈に爲し難き事あらんやと

第九十八問　アブラハムは別に天使より如何なる告を受けしや

答　ソドムの滅亡

第九十九問　アブラハム此ことを聞て何と云ひしや

答　アブラハム若ソドムの邑の中に五十人若くハ四十五人若くハ四十人若くハ三十人若くハ二十人の義人あらバ之を滅さゞらんことを願ひ遂に若くハ十人の義人あらバ之を救ひ給はんことを乞ひたれバ神之を許し給へり

第十九章

第百問　ソドムにて天使を饗應せしハ誰ぞや

答　ロトなり

第百〇一問　其翌日ソドムとゴモラの成果如何

答　神ソドムとゴモラに硫黄と火を降て滅し給へり

第百〇二問　ロト及び其眷族ハ如何なりしや

答　ロトハ其妻其二人の女と天使に導かれて急ぎ邑の外に逃れたり天使預め命じて後を回顧なかれと曰けるに妻ハ其命に從ハずして顧みたれバ鹽の柱となりぬロトハ其女等と共にゾアルに至て穴に住たり

第百〇三問　ロトの犯せし罪は何なりや

答　貪飲及び朋淫是なり

第百〇四問　ロトより如何なる二種の國民を出せしや

答　モアブの子孫とアムモンの子孫なり

第二十章

第百〇五問　アブラハム再び其妻サラを秘せし事あるや

答　然りゲラルにてありしときアビメレクサラを宮の内へ召入たり

第百〇六問　アビメレクはサラのアブラハムの妻なることを如何にして知りしや

答　これ神アビメレクに臨みて示し給ひしによるアビメレク即ちサラをアブラハムに返せり

第二十一章

第百〇七問　イサクが生れしときアブラハムは何歳なりしや

答　アブラハム百歳にてイサクを生みたり神の命じたまひし如く

割禮を行へり

第百〇八問　イシマエルとイサクの交誼いかん

答　サライスマエルのイサクを嘲弄せしを見たり

第百〇九問　イシマエルのなりゆきいかん

答　イシマエルは其母ハガルと共に逐ひ出されたりアブラハム甚だ愁傷たれども婢の子も汝の胤なれば我之を一の國となさんとの神の約束により大に慰みを得しと云ふ

第百〇十問　ハガルと其子に何事有りしや

答　ハガルベエルシバの野に赴きしときアブラハムが與へたる水既に罄たればハガル其子を灌木の下に置き曰けるは我子の死るを見るに忍びずと天の使天よりハガルを呼て我其子を大なる國となさんと約し給へり而して神ハガルの目を開き水の井あるを知らしめ給へり神イシマエルと偕に在す彼遂に成長し曠野に居て射者となれり其母彼の為にエジプトより妻を迎へたり

第二十二章

第百十一問　アブラハムの試を受しこと如何

答　イサクを燔祭に献ぐべしと命じ給へり

第百十二問　燔祭をなすべき地ハ何處なりしや

答　モリアの地にある一山なり此モリアハ後我儕の爲めにキリストの十字架にかゝり給ひし處なり

第百十三問　アブラハム其子と共にかしこに行きし其狀を物語るべし

答　三日に及びて親子共にモリアに近づきたるときアブラハム二人の少者を爰に殘してイサクに燔祭の柴薪を負はせ己ハ火と刀を執りて共に行けりイサク其父に燔祭の羔ハ何くにあるやと問ければアブラハム答て曰けるハ子よ神自ら燔祭の羔を備へ給はんと

第百十四問　アブラハム其子を宰さんとせしとき何事のありしや

答　アブラハム手を舒べ刀を執りて其子を宰さんとせしとき天使彼を呼て曰けるハ汝の手を童子に按るなかれ亦何をも彼にな

すべからず汝其獨子をも我ために惜まざれば我今汝が神を畏るヿを知ると於是神アブラハムにイサクの代りに供べき牡綿羊を與へ給へり

第百十五問　アブラハムは此處を何と名づけしや

答　エホバエレと稱せり譯けば神預備へたまはんと云ふの意なり

第百十六問　神アブラハムの從順なるにより何に諭給ひしや

答　神復アブラハムと約して曰たまひけるは我己を指して誓ふ汝是事を爲し汝の獨子を惜まざりしに因て我大に汝を祝み又汝



アブラハム　イサクヲ犠牲ニ備フル圖

の子孫を増して天の星の如く濱の沙の如くならしむべし汝の子孫によりて天下の民皆福祉を得べし

第二十三章

第百十七問　サラは幾年生存しや又何處に葬られしや

答　サラは百二十七歳にて死り後アブラハムの四百「シケル」即ち二百金を以てヘテの子孫より買ひたるマクペラの野の洞穴に葬れり

第二十四章

第百十八問　アブラハム其子イサクの爲に妻を娶りたる事如何

答　アブラハム其親族の中よりイサクの爲めに妻を娶らんとて僕をメソポタミヤのナホルの許に遣はしたり

第百十九問　其結果はいかん

答　僕邑に至りし時祈て曰けるは我主人アブラハムの神エホバよ願くは今日我に逢しめ我主人アブラハムに恩惠を施したまへ我此に水井の傍に立ち邑の人の女等水を汲に出づ我童女に向

ひて請ふ汝の瓶をかたむけて我に飲しめよと言んに彼答へて飲め我また汝の駱駝にも飲しめんと言ば彼は汝の僕イサクの爲めに定めたまひし者なるべし然れば我汝の吾主人に恩惠を施したまふを知らんと其言の終まへにナホルに生たる子ベトエルの女リベカ彼の坐せる井の傍に來りて僕と駱駝に水を與へ然して彼を父の家に連れ往きたればリベカの兄ラバン及び母ベトエルは僕を慇懃に饗應せり然ども僕は我事をのぶるまでは食はじと云へりベトエル等之に曰けるは此事は神



より出づ神の言たまひし如くりべかを携へ行くべしと僕は之を聞地に伏して神を拜めりやがて金銀の飾などをりべかに與へ又其母と兄に寶物をあたへたり彼等は僕のながく留まらんことを願ひたれど僕從はざればりべかを呼びて僕と共に往やと問ひたれば我行くべしと答へしによりりべかと其乳母及びアブラハムの僕と倶に彼處に遣はしたり

第百二十問　イサクとりべかの面晤せし事を語るべし

答　イサク黄昏に野に出て默想をなしたりしが目を擧て見じに駱駝の來るありりべか目を擧てイサクを見僕に問ふて曰けるは野にあゆみて我等に迎ひ來る者は誰なるやと僕これ我主人なりと曰ければりべか覆衣を取りて身をおほへりイサクりべかを携て母サラの天幕に至るイサクりべかを愛すること甚だ厚く母死せし後にも大に慰めを得たり

第二十五章

第百二十一問　イサクが婚姻せし其時は何歳なりしや

答　四十歳なり

第百二十二問　アブラハムの世嗣は誰なりや

答　アブラハムイサクを嗣となして妾等の子なは皆これ〴〵に物を與へたり

第百二十三問　アブラハムの壽幾ばくぞ

答　百七十五歳なり其子イサクとイシマエルは父をマクペラの洞穴に葬たり

第百二十四問　イシマエルと其眷族に付て詳説すべし

答　イシマエル其父を葬るときイサクと親和し如く他の兄弟にも常に友愛厚かりき死せし時は齢百三十七歳なり其子十二人ありて各族名稱を此十二祖に受く皆主として アラビヤの北部に住居へり又女二人あり其一はエサウに嫁す

第百二十五問　リベカイサクに嫁せしより二十年後に生れし子は誰ぞや

答　エサウとヤコブなり

第百二十六問　エサウとヤコブに就て何の話ありや

答　兄のエサウは巧なる獵人にして野の人となり弟ヤコブは質樸なる人にして天幕に居るものとなれり父イサクはエサウを愛し母リベカはヤコブを愛せりエサウは家督の權を有つと雖ども之を一杯の紅羹の爲めに鬻たり

第百二十七問　家督の權とはいかん

答　眷屬の長にして祭司の職あり且キリストの先祖と爲るを得るこれなり

第二十六章

第百二十八問　イサクは飢を避んとて何處に往きしや

答　ゲラルに往きたり

第百二十九問　イサクは何の故に其妻を妹といひしや

答　リベカの美麗かりければ人之を奪はんと欲して己を殺さんことを恐れてなり

第百三十問　其僞欺を詰責たる者は誰ぞや

答　アビメレクなり

第百三十一問　誰がベエルシバにてイサクに顯れましや

答　神なり彼曰たまひけるは我は汝の父アブラハムの神なり恐るゝ勿れ我汝と共にありて汝を祝み我僕アブラハムのために汝の子孫を増んと是に於てイサク壇を築て神の名を籲べり

第百三十二問　エサウは誰を娶りしや

答　カナン國の二人の婦なり此二婦大に彼の父母を愁煩しめたり

第二十七章

第百三十三問　ヤコブ其父の祝を受ることいかん

答　ヤコブ其母と謀り詐欺以て祝を受けたり

第百三十四問　イサク何と祝せしや

答　嗚呼吾子の香はエホバの祝たまへる野の馨香の如し願くは神天の露と地の腴及び饒多の穀と酒を汝にたまへ諸の民汝につかへ諸の邦汝に躬を鞠ん汝兄弟等の主となり汝の母の子等汝に身をかゞめん汝を詛ふ者は詛れ汝を祝する者は祝せらるべしと

第百三十五問　ヤコブの祝せられしことをエサウの聞し時如何せしや

答　エサウ大に哭き痛く泣ていふ父よ我を祝せよ我をも祝せよ

第百三十六問　イサクエサウを祝せしや

答　然り之を祝したれども固よりヤコブを祝したるが如くならず祝し曰けるは汝の住所は地の膏腴にはあれ上よりの天の露にもあるべし汝は劍を以て世をわたり汝の弟に事ん然れど汝振ふ時は其軛を碎て汝の頸よりおとすを得んと

第百三十七問　エサウヤコブを惡み如何なる事を企てしや

答　エサウヤコブを惡んで之を殺さんと企てたりヤコブこのことをを悟り父母の命に從つてパダンアラムに逃れたり

第二十八章

第百三十八問　其途にて如何なる夢を見しや

答　其夢に梯の地にたちゐて其巔の天に達れるを見又神の使の其に陟降するを見たり神其上に立て曰たまはく我は則ち汝の祖父アブラハムの神イサクの神エホバなり汝が偃臥す所の地は

我之を汝と汝の子孫に與へん汝の子孫ハ地の塵沙の如くなりて西東北南に蔓るべし又天下の諸ての族汝と汝の子孫に依りて福祉を得ん又我汝と共にありて汝を守るべしとヤコブ目を醒して曰けるハエホバ此處に居ますに我知らざりきと此處をベテルと名けたり

第百三十九

問　ヤコブ又何と云ひしや

答　ヤコブエホバに誓つて曰けるハ神若し我と共に居し我を護り食ふパンと衣る衣を我に與たへ我をして我父の家に安然に歸る事を得せしめたまハゞエホバを我神となさん又我柱



ヤコブベテルにて夢みし圖

に立たる此石を神の家となさん又汝我に賜ふ物ハ皆必其十分の一を汝に献げんと

第二十九章

第百四十問　ヤコブラバンに到り井の傍にて誰に逢しや
答　ラケル其羊に飲んとて來れり
第百四十一問　誰がヤコブを家に導きしや
答　ラケルの父ラバンヤコブに逢ひ喜びて其家に導きたり
第百四十二問　ヤコブラケルを娶らんとて幾何の間職役をなせしや
答　七年の間ラバンに服役たり
第百四十三問　其期滿ちたるとき如何なる事出來しや
答　ラバンヤコブを欺きてレアを與へたれバ更に七年の間ラケルの爲めに服役せり

第三十章

第百四十四問　ヤコブの諸子の名を示すべし
答　ルベンシメヲンレビユダダンナブタリガドアセルイツサカル

ゼブルンデナ及びラケルの子ヨセフとベニヤミンなり

第三十一章

第百四十五問　ヤコブは幾年の間ラバンと共に居りしや

答　二十年なり彼れ大に富みければラバンと其諸子之を大に嫉めり

第百四十六問　神ヤコブに何と命し給ひしや

答　親族の國に歸ることを命じ給へり

第三十二章

第百四十七問　其途にて誰に逢ひしや

答　神の使なりヤコブ曰けるはあれは神の陣營なりと

第百四十八問　ヤコブエドムに近づきし時誰に逢ひしや

答　其兄エサウ四百人を從へて來るに逢へり

第百四十九問　ヤコブは誰に應援を求めしや

答　神に應援を願へり

第百五十問　ヤコブ其兄に幾何の禮物を與へしや

答 家畜五百八十頭あり又ヤコブ其僕をエサウに遣はさんとして曰けるは謙遜にしてエサウを主と稱し僕ヤコブは後より來ると云へり

第百五十一問 ヤコブエサウに逢ふ前の夜何事の有りしや

答 或人に遇ふて之と黎明迄角力をとれり其時ヤコブの髀の樞骨挫離たり其人夜明んとすきば我を去らしめよと請ふにヤコブいふ汝我を祝せずば去らしめずと

第百五十二問 天使はあちたあいかある名をヤコブに與へしや

答 イスラエルなり之を譯ば神の君あり蓋は彼神と人とお力を爭ひて勝たきばなりヤコブ此地をベニエルと名づけり此は神の面と謂ふ義あり

第三十三章

第百五十三問 ヤコブとエサウの面會せし事如何

答 相互に親睦げり而してエサウは暫くおして別れたり

第百五十四問 ヤコブは何處お祭壇を築きしや

答　シイケムの邑なるサレムなり此祭壇をエルエロヘイスラエルと稱せり此れイスラエルの神なる神と云ふ義なり

第三十四章

第百五十五問　ヤコブらの眷屬の爲めに如何なる困難を受け又如何なることとの出來しや

答　シケムのデナを辱しむる是なり故にシメヲンとレビシケムの邑を襲ひ男子を悉く殺してデナを携へて皈けり

第三十五章

第百五十六問　玆に神ヤコブに何處に行くべきことを命じ給ひしや

答　ベテルなりヤコブ乃ち之れに行きて祭壇を築けりヤコブ出立の際家の人に向ひ汝等の中にある異神を棄て身を清め衣服を易よと告げたり

第百五十七問　其次神何處にてヤコブに顯れ給ひしや

答　バダンアラムにて顯れ給へり而してイスラエルを名とすべきことを命じ且つ多の國民汝より出んと云給へり神曾てアブ

ラハムとイサクに與へし地をヤコブと其子孫に賜んことを約し給へり是に於てヤコブ神の己と言ひ給ひたる處に石の柱を立て〻酒と油を其上に沃ぎ處の名をベテルと稱へりベテルとは神の宮と云ふ義なり

第百五十八問　ヨセフの同母弟は誰なるや

答　ベニヤミンなり此は我右手の子と云ふ義にして母のラケルは死に臨みてベノニ即ち吾苦痛の子と呼べり

第百五十九問　ラケルは何處に葬られしや

答　ベツレヘムのエフラタに赴く途中なり

第百六十問　ヤコブは如何なる二つの石の柱を建てしや

答　ヤコブの建てし石柱の一は神己れに顯れ給ひし處を記念る爲めなり其二はラケルの墓柱なりき

第百六十一問　ラケル死せんとするときリベカの乳母彼を慰めしや

答　否な乳母はラケルに先ちて死しベテルの下にて橡樹の下に葬られたり是によりて其樹の名をアロンバックス即ち哀哭の橡

といふ

第百六十二問　ヤコブは再び父に逢ひしや

答　然りマムレにて父に逢ひたり

第百六十三問　イサクの死せしとき其齢如何

答　一百八十歳なり其二子エサウヤコブは父イサクを葬たり

第三十六章

第百六十四問　エサウの傳を說け

答　神エサウにセイル山を賜はり其子孫をエドム人と名づくエサウは妻三人子五人あり聖書中其子孫の姓名のみを記載して其傳を略せり

第三十七章

第百六十五問　ヤコブの鍾愛せし子は誰ぞや

答　ヨセフなり

第百六十六問　何故にヨセフは斯く愛せられしや

答　其は最も愛する妻の子にして且老年子なるが故なり

第百六十七問　ヤコブハヨセフを其諸の兄弟に勝りて愛するがため何を與へしや

答　彩る衣あり

第百六十八問　何故ヨセフの兄等ハ彼を惡みしや

答　其ハヨセフハ兄等の惡行を父に告げ又大に父より愛せられたれバなり

第百六十九問　何に由りて兄等愈ヨセフを惡むに至りしや

答　ヨセフが二の夢あり其一ハヨセブ諸の兄弟と田の中にて禾束を結ぶときヨセフの禾束起且立ち而して彼等の禾束環り立ちて之を拜せり其二ハ日と月と十一の星皆ヨセフを拜せしてきあり

第百七十問　何故ヤコブハヨセフをドタンに遣ハせしや

答　往て彼の諸兄及び畜群の恙なきや否やを觀しめん爲なりき

第百七十一問　ヨセフの彼所にて受たる苦みを述よ

答　諸兄遙のにヨセフを見て之を殺さんと謀り互に曰けるハ視よ

夢みる者來る去來彼を殺して阱に投いれんとルベン聞て彼を拯はんとしていふ我等之を殺すべからずまた血を流す勿れ彼を此阱に投いれて手を之につくる勿れと是は父に歸しめんとてなりき茲にヨセフ來りければ其彩る衣を褫ぎ彼を空阱に投げいれたり諸兄坐りてパンを食ひ目を擧げて遙にイシマエルの人駱駝に香物と乳香と沒藥をおはせてギレアデよりエジプトに下りゆかんとて來るを見てユダ弟を殺して其血を匿すよりイシマエルの人に擄らんことを語りしに兄弟等善として之を擄たり遂に山羊の血にて其衣を濡らし之を父ヤコブにおくり遣せり

第百七十二 問 ヤコブはヨセフの衣を視て何と云ひしや

答 ヨセフは惡き獸に噬み裂れしこと疑ひなしとてヤコブ其衣を裂き麻布を腰にまとひ又曰ひけるは我は哀きつゝ陰府に降りて我子にいたらんと

第百七十三 問 ヨセフ擄られてエジプトに挈へられし時何歳なりしや

答　十七歲なり

第三十八章

第百七十四問　答の條目を略す

第三十九章

第百七十五問　ヨセフの主人ポテパルいかに彼を遇せしや

答　ポテパルヨセフを其家の宰となせり神ヨセフの爲にポテパルを祝し且其財産を富まし給り

第百七十六問　ポテパルの妻の艷言にヨセフの返答及び其結果れ如何

答　我いかで此大なる惡をなして神に罪を犯すをえんやと之に由て讒を蒙り囹圄に入れられたり



ヨセフの兄弟彼を人に賣る圖

第四十章

第百七十七問　ヨセフが囹圄に居る時の物語如何

答　典獄ヨセフを恩顧み獄にある囚人を悉くヨセフの手に付せり



ヨセフ囹圄にて二人の夢をときあかす圖

又ヨセフハ幽囚中酒人と膳夫の長の夢を占ひて其事果して應へり酒人赦されし後ヨセフを覺へずして之を忘れたり

第四十一章

第百七十八問　二年の後ヨセフの奏上させしこといふん

答　パロ王河の濱に立て七の美はしき肥たる牝牛の河より昇りて葦を食ふ其後又七の醜き瘠たる牛にの美はしき肥たる牛を食ひ盡せるを夢みたりパロ王再び夢に一の莖に七の肥たる佳き穂いできたる其後に又萎て東風に燒たる七の穂出て來りてかの肥實りたる穂を呑盡せるを見たり王心安からずエジプトの法術士と其博士を悉く召して夢を述べたれども之を解くものなかりき時に酒人の長ヨセフを憶ひ出して王にヨセフの事を奏せり

第百七十九問　ヨセフパロ王に召されて何といひしや

答　我によるにあらず神パロの平安を告げ賜はん

第百八十問　ヨセフ如何に夢を説明せしや

答　七の美牝牛と七の佳穂は七年の大なる豊年なり七の瘠たる醜き牛と七の空穂は七年の饑なりと

第百八十一問　ヨセフはパロ王に何事を勸奏せしや

答　エジプト國の滅ざる爲に慧く賢き官吏を撰み七豐年の穀物を蓄へて七年の飢饉に備へん事なり

第百八十二問　パロ王は如何にヨセフを評し又ヨセフに何と云しや

答　パロ王其臣僕にいふ我等神の靈のやどる是の如き人を看出を得んやとまたかしてヨセフに云けるは汝の如く慧く賢き者なるなし汝我家を宰るべし我民皆汝の口に遵はん唯位に於ての我は汝より大なるべし視よ我汝をエジプト全國の家宰となすと

第百八十三問　ヨセフを尊ぶ徵として王は何を與へしや

答　王已の指環と白布の衣と金の索とを與へ己のもてる次の輅に乘しめてエジプト全國の家宰となせり

第百八十四問　當時ヨセフ幾歳なりしや及び其結婚をときわかせ

答　時に歳三十パロオンの祭司ポテパルの女アセプテを以てヨセフに妻はせたり

第百八十五問　ヨセフの子ハ幾人ありや

答　ヨセフ子二人あり長をマナセと名づく即ち忘るゝと云ふ意なりヨセフ曰ふ神我をして諸の苦難と父の家の凡の事を忘れしめ給へりと次をエフライムと名つく即ち多く生ると云ふ義なりヨセフ曰けるハ神我をして我艱難の地にて多の子を得せしめたまふといへばなり

第百八十六問　饑饉ハ他國にも及びしや

答　然り此饑饉ハカナンと諸の國に及べり

第四十二章

第百八十七問　ヤコブがエジプトに穀物のあることを聞し時如何せしや

答　ヤコブ穀物を買ハんが爲めにベニヤミンを除くの外其諸子を悉くエジプトに遣ハせり

第百八十八問　聖書に所謂穀物とハ何ぞや

答　小麥裸麥大麥黍なり

第百八十九問　彼等が初にヨセフに逢ひし物語をなすべし

答　彼等ヨセフの前に伏て拜すヨセフ其兄弟を識りたれどもしらざる者の如くして彼等を間者として應接せり依て彼等間者ならざるを証さんが爲に其親族の物語をなしたりヨセフ彼等を三日の間幽囚おき後ち彼等を出して末弟を携れ來ることを命じ穀物を與へて返せり

第百九十問　彼等ハこの酷遇に由て何を思出せしや

答　弟のヨセフに殘酷振舞をせしことを思ひ出して曰ふ我等ハ弟の事によりて信に罪を犯したるものなりと

第百九十一問　彼等此言をヨセフの目前にて云ひし

答　然りヨセフの目前にて語れりされハヨセフをエジプト人とし彼等の言語を悟り得ざるものと考へたればなりヨセフ彼等を離れかなしさに堪へずして哭きたり

第百九十二問　ヨセフハ彼等の盡く歸ることを許せしや

答　否オシメンを彼の中より取り其目の前にて之を縛り而して餘の人を悉く返せり

第百九十三問　諸の子の言をヤコブハ聞て何と云ひしや

答　我ガ欲ざるところなりと云へり

第四十三章

第百九十四問　ヤコブハベニヤミンを彼等と共に遣せしや

答　穀物尽きたる後ヤコブ彼等をエジプトに遣ハさんとしていふ汝等國の名物を器に入れ携へくだりて彼人に禮物とせよ乳香、蜜少許、香物、沒藥、胡桃、及巴旦杏又手に一倍の金を挈へよ願くハ全能の神其人の前にて汝等に惠を施し其人をして汝等の他の兄弟とベニヤミンを放ち皈さしめたまハんことを若し我子に別るべくバ別れんと

第百九十五問　ヨセフハ再び彼等をいかに遇ひしや

答　ヨセフハ家宰に命じ彼等を家に導き畜を屠て備へよ此人々ハ我と午食を共にせんといへり又シメオンを彼等の所に携へ出たりヨセフ彼等に父の安否を問ひベニヤミンを見て心焚ガ如く室に入りて哭きたり食するに及て獨りベニヤミンの皿ハ彼等に

五倍せり

第四十四章

第百九十六問　彼等ヨセフに別れし後ち何事の生ぜしや

答　ヨセフ其家宰に我銀の杯を彼の少き者の嚢の口に入れ置き彼等ベニヤミンに杯の難問をなし後より之を逐ふべしと命ぜり彼等ベニヤミンの嚢中より銀の杯を見出されしとき衣を裂き哭て再び城市に歸たり。

第百九十七問　ヨセフは何をなさんと意ひしや

答　ベニヤミンをヨセフの奴隷となさんとなり

第百九十八問　ユダ何と云ひしや

答　ユダ其父のベニヤミンと別を悲む事只ならざることを知りたれば之をいふ我等の季弟我らと共に皈らざれば父の白髮をして悲みて墓に降らしむるなりされば請ふ僕をして童子に代りて主の奴隷となしたまはんことをところは彼れ父にベニヤミンを連れかへらんことを保あひたればなり又いふ我いかでか童

子を伴れずして我父のもとにのぼりゆくべけん恐くは災害の父におよぶを見んと

第四十五章

第百九十九問　ヨセフ感慨に堪へず如何なる狀態を顯せしや

答　ヨセフ自から禁る能はざるに至りければ悉くエジプト人を退け聲を揚げて泣けり故にエジプト人之を聞きパロ王の家またこれを聞きたりヨセフいひけるは我はヨセフなり我が父は尚は生ながらへおるやと其兄弟等これを聞き大に愕きてたふることを得ざりきヨセフ曰ふ憂ふる勿れ身を恨むなかれ神生命を救はしめんとて我を汝等の前に遣し給へりと又ヨセフ其兄弟に速に父に往き神彼れを立てゝエジプト全國の宰となし給ひしてとゝ尚は五年の饑饉あるにより父と汝等の家族を携へて彼に來り住居はんことをいへり而して其父と兄弟の妻子とをエジプトに連れ來らんが爲めに彼等に車を與へ又畜に荷物を負はせ途の用に供ふる粮糧を與へて皈らしめ途にて相爭ふな

第二百問　答　かゝと云へり

ヤコブ意外の音信の結果ハ如何

ヤコブハ彼等の云ふことを信ぜざりしも車を見るに及びて其氣已に返へり云々るは我子ヨセフ尚は生て居るか我死ざる前に往きて之を見んと

第四十六章

第二百一問　ヤコブエジプトヘ赴く途ヘて何事のありしや

答　ヤコブベエルシバに至り神に犠牲を献ぐ神夜のまぼろしにヤコブを彼處にて大國となし神と共にエジプトに下り亦必ず彼の地より導きのぼるべしヨセフ手を汝の目の上におかんと約し給へりヨセフ其車を整へゴセンに上りて父を迎へ頸を抱き久く哭きたり

第二百二問　イスラエルヨセフヘ會ひ何と云ひしや

答　汝尚は生ており我汝の面を見ることを得たれバ今ハ死するとも可し

第四十七章

第二百三問　パロ王はヨセフの眷屬をいかに敬遇せしや

答　パロ王はヨセフにエジプトの地は汝の前にあり地の最も善き處に彼等を住居はしめよと

第二百四問　ヤコブパロ王に謁せし物語をなすべし

答　ヤコブパロ王を祝すパロ王いふ汝の齢の日は如何答けるは百三十歳なり我が齢の日は僅少にして且悪かり未だ我先祖等の齢の日と旅路の日には及ばざるなりとヤコブ再びパロ王を祝し王の前を退けり

第二百五問　ヤコブは幾年の間エジプトに居りしや

答　十七年なり

第二百六問　ヤコブ死せんとするとき其子ヨセフに何を遺言せしや

答　我をエジプトの地に葬る勿れ我を舁出して先祖等の墓場に葬むれとヨセフと諸子に命ぜり

第四十八章

第二百七問　ヤコブヨセフが其子二人を伴ひて來るとき何と云ひしや

答　ヤコブ强て牀に坐すヨセフに神の約束を語り又云ひけるは汝に生れたる二人の子は我子なりと故に此兩人はヤコブの孫にあらずして其子たるが如し兩人はエジプトにてヨセフの嗣にあらずして神がアブラハムとイサクになし給ひたる約束に依りヤコブの嗣となる可しと

第二百八問　ヤコブが二子を祝せし事如何

答　ヤコブ曰ひけるはアブラハムイサクの事へし神我をして諸々の災禍をまぬかれしめたまひし天使願くはこの童子等を祝したまへ我が名と我父祖アブラハムとイサクの名をも稱へられ是等の地の中に繁殖にいたれと時にヨセフ父の右の手をエフライムの頭に按き左の手をマナセに按くを見て父に云ひけるは然にあらず是長子なれば右手を其頭に按き給へヤコブ拒みていふ我子よ我之を知れり彼も大なる者となるらん然ども弟は彼よりも大なる者となりて其子孫は衆多の國民

となるべし又曰けるはイスラエルの民は汝に依りて惠まれ汝に依て曰はん願はくは神汝をエフライムの如くマナセの如くならしめたまへ

第四十九章

第二百九問　ヤコブ其子等を呼びて何と云ひしや

答　後の日に遇ん所の事を彼等に告げん爲めなり

第二百十問　ヤコブルベンに何を云ひしや

答　ヤコブルベンに向て曰ふ汝は我家子我勢我力の始威光の卓越たる者權威の卓越たる者なり汝は水の沸あがるが如き者なれば卓越を得ざるべし嗚呼彼は我寢牀に上れりと實にルベンは諸子の中にて長子の特權もなく其子孫に士師預言者及君主等の一人も出づるなく其名の著はれたる者は唯モーセに叛きたるダサンとアビラムあるのみにして其他は碌々としてヨルダンの一隅に繁殖れり

第二百十一問　シメオンとレビに何を云ひしや

答　彼等ハ兄弟なり其劍ハ暴逆の器なり彼等ハ其怒に任せて人を殺し其怒烈けれバ詛ふべし我彼等をヤコブの中に分ちイスラエルの中に散さんと預言せり此預言に應ひて彼等ハ他の種族の中に散されしも詛變じて幸となれりと云ふシメオンろの鬮にて得たる地最も狹ければ其族の人々多ハ殖民地と其他諸所に散りて物品を求めたり又エジプトを出るとき人數に於てハ第三に位せるもパレスタインに着きし頃ハ人員最も減りしとぞ

第二百十二問　ユダを祝することハいかん

答　ユダとハ讃美と云ふ意なりヤコブ曰けるハユダよ汝ハ兄弟の讃る者なり汝の手ハ汝の敵の頸を抑へん汝の父の子等汝の前に跪まん杖ユダを離れず法を立る者其足の間を離るゝ事なくしてシロの來る時迄に及ばんと汝の手に汝の敵の頸を抑へんとハ是この種族の能く戰に勝つ意なるべし乃ちこの預言ハダビデの時に應へり(詩篇十八篇四十節を見よ)又て

の族は他の族よりも人員多く亦た領地も廣く且曠野の先導者となれりカナンにても軍功甚だ多く實にルベンの失へる長子の權はユダ之を取りしと云ひつべし又ユダを獅子に譬へたるは權力ある の意にして獅子のごとく猛惡なるを云ふにあらず勇敢能く功をなし自ら喜悦滿足するに似たれどなり救主の來る迄は力と權威はユダより去らざりき且キリスト降世せし時ユダヤはローマの屬國となり戸籍調の時代迄キリストの時代を距る甚だ遠しと雖ども死せんとするとき信仰に依てキリストの日を見るを得て大に慰み且安心せしなりユダの族の領地他の族よりも廣くして又富みたることは創世記本章の十一節十二節に見たり

第二百十三問　ヤコブはゼブルンに何を云ひしや

答　ゼブルンは海濱にすみ船の泊る所に居り其界はシドンに及ぶべしとゼブルンは住所と云ふ意なりされヤコブは神の示

を受けて云ひたるものにして其時代にはカナンの地の分ちあらず數百年の後に至り始めて鬮にて細かに分たれたるを視て知るべしヤコブの子孫はテベリアの湖を境とし其國地中海に濱し而してこの種族は大約商賈及び舟子等なりき

第二百十四問　イッサカルに何と云しや

答　イッサカルは二の櫪の間に伏す健き驢馬の如し彼安泰を善とし其國を樂とし肩を下て負ひ租税を出して僕となるべしとあの種族はカナンの領地豐饒にして力を盡せり兩の櫪とは服役と租税をなすこととなり然ども彼等は善くイスラエルのなすべきことを悟りしといふ

第二百十五問　ダンに就て預言せしこと如何

答　ダンはイスラエルの他の支派の如く其民を鞫き路の旁の蛇の如く途邊に在る蝮の如し馬の踵を嚙て其騎者をして後に落ちむとこの預言はダン妾の子と雖ども一派の族となり同族中の士師に支配せらるゝをいふ乃ちサムソンの事を云ふ

ならんサムソンピリシテ人と戰ひし時他の士師のごとくならず艱難を忍びて終に屋の上に立ちたるピリシテ人三千を壓殺してイスラエル人を救へり

第二百十六問　ヤコブハダンとガドの兩人のことを預言せしが其間にいかなる祈をなせしや

答　エホバよ我汝の救を待り

第二百十七問　ガドに何を云ひしや

答　ガドハ軍といふ意なりヤコブ曰けるハ軍勢之をせまらんされど彼反て其後にせまらんとガド族の人ハ戰を好むものにして歷代志畧上十二章八節に英武の士なして能く陣に臨むと記されたり彼等ハ屢敗北したれども預言の如く遂にソーロとダビデの代にモアブ人とアモリ人に勝たり

第二百十八問　アセルに何を云ひしや

答　アセルより出る食物ハ美るべし彼王の食ふ美味を出さんとアセルハ惠との意なりカナンなる彼の領地ハ最とも豊饒

にして後ソロモンは其食物を得ん爲め官吏一人をこの地に置けりといふ列王記畧上四章二十節を見よ

第二百十九問　ナフタリに何を云ひしや

答　ナフタリは釋れたる麀の如し彼美言を出すなりとナフタリとは角力といふ意にしてこの種族は麀の如く親切にして且自由を好む事甚だしく熱心にして職業をなすこと速なり

第二百二十問　ヨセフに就ては如何

答　ヨセフは實を結ぶ樹の芽の如し即ち泉の傍にある實を結ぶ樹の芽の其枝つひに垣を踰るが如し射者彼を惱し彼を射彼を惡めり然ど彼の弓は尚勁くあり彼の手の臂は力あり是ヤコブの全能者の手によりてなり其よりイスラエルの磐なる牧者出づとヨセフは實を結ぶ樹の芽にして神其困苦の地に大に繁榮させ給へりヨセフの二子は其榮へしてと垣を逾ゆる枝の如し今ヨセフ平安なりと雖ども先きに射者に大なる苦難を受けしをヤコブ思ひ出せり射者とは其兄弟とポテパ

ルの婦を謂ふなり然るにヨセフの弓は尚勁くして其信仰神の契約に根を固め毫も動かざりきされば神ヨセフに智慧と勇氣を與へて諸ての苦難に堪へさせ給へるなり祝し終りてヤコブヨセフの神より受けたる祝に天より下る靈の賜を數へ次に現世の幸福を述べしなり實に我等は先づ現世の幸福よりも來世無疆の賜を慕ふべし是即ち山嶽の恒久に存するが如く永遠の賜にぞある

第二百二十一

問　ベニヤミンに何を云ひしや

答　ベニヤミンは物を噛む狼なり朝に其所掠物を啖ひ夕に其所獲物を分たんと此時ヤコブの精神人情に依らず惟預言の力に依れり故に己が愛子と雖ども強き事柄を述べたりベニヤミンの子孫は凡て勇氣にして戰を好む種族なるべしと云ひしが果して此族中は勇氣にして軍事に長けたる人々起れり即ち第二の士師イスラエル初代の王サウロ世に名あるエステルとモルデカイのごときは皆此種族より出たるなり又彼

ギベヤに居たるベリエル人の主義を保守して之に助力せしことをも指せり(士師記二十章の十四節を見よ)使徒ポウロもこの種族より出たり(羅馬十一章の一節腓立比三章の五節を見よ)

第二百二十二問　ヤコブの死せしとき齢幾何なりしや

答　百四十七年なり

第五十章

第二百二十三問　ヨセフはヤコブの尸に如何すべしと僕に命ぜしや

答　其尸に香料を以て釁しむ

第二百二十四問　エジプト人は幾日の間イスラエルの死を哭きしや

答　七十日間なり

第二百二十五問　イスラエルを葬たる事に就き物語をなすべし

答　エジプト人大なる隊をなして車と騎兵にてヨセフに従ひ諸の兄弟と共にカナンに往き七日の間痛く哭きてマクペラの穴に葬たりカナン人等之を見て是エジプト人の痛く悲哀る

りといへり

第二百二十六問　ヤコブの死せし後ヨセフの兄弟等何と云ひしや

答　彼等嘗てヨセフに惡をなせし故其なしたる諸の惡を報ひられんことを恐れ其罪を赦さんことをヨセフにいひおくり且自ら來りて我等は汝の僕とならんと彼の前に俯伏しけれどヨセフ其言を聞て啼泣彼等を慰さめて曰ひけるは汝等は我を害せんと思ひたれど神はこれを善にかわらせ給へりとて彼等と其子女等を養育はんことを約せり

第二百二十七問　ヨセフ死するの期に其兄弟に何と云ひしや

答　我死ん神必ず汝等を顧ミ汝等を導きてこの地より出し給ふべしと此時己の骨をこの邦より携へ出んことを彼等と誓ひたり

第二百二十八問　ヨセフ死せし時何歳なりしや

答　百十歳なりヨセフの兄弟はエジプトにて其尸に釁りて棺に入れ置けり

創世記第一章附錄

天地創造の事たるや天下人世の一大問題にして創世記首章の如きに至りては學者之を讀まざるはなく識者之を研究せざるはなく勉勵以て之を論じ熱心以て之を講じ其深意の分明ならんことを欲するや久しく説も亦多し然りと雖も天地創造の如きは其時代と其法方の如何とを問はず先づ眞神の創造に因ることを知る可し昔者天地の形體六日の創造以前には未熟の有様にして其形體をなしたるは六日の創業後に在りとの説専ら流行したりしが後に至りて地質學者地質を研究して地球の狀態は人間創造以前に於ては千變萬化一動一靜止むことなく數萬年間既に存在せりと云ふ説専ら流行するに至れり此に於て輕躁の敬神者は大に驚き之を瞥視して猥りに辦論し無神者は之を嘲弄し自己の説を以て教法を亡ぼすの器具と爲し各派互に爭論せり然ども先づ心を虚にして私心を脱し聖書を熟讀し深く學術に入りて考るときは雙方敵にあらず無二の親友なるを知るべしろき學術にも空説有らん察地學にも思想あらん其空説を捨て其臆測を去りて確乎不易の事實に本づき以て之を見るときは學術は世に新らしき註解なり天地の間主たるもの神の外

に主なく信實の創世記たるもの聖書の外に聖書なし天下眞理の依る所學術の服する所は聖書なるのみとは即ち是學問の證する所にして更に疑ふべきにあらず

或曰く聖書に所謂六日とは通常の二十四時間なる日にあらず一日を以て一時代と見るべしと余之に答て曰く聖書には其事明らかに記しあらず只神創めに天地を作り給へりとあるのみ而て此説たるや近世の發明に非ず昔時の信者之を解て天地創造の始めより六日の始めまでは一大時代其間にありと云へる人ありき惟ふに察地學未だ完全の地に至りしに非ず聖書の意十分に之を探り得たるにあらず故に齟齬するが如き事件度々之を有るも亦當然のみ然れども齟齬するは其外面のみにて其實は大に相符合するものなり故に云く神の聖書は世の進歩の先導者なり我等之に後るゝ事なるべし神の言葉は決して世に後るゝことを有るべからずと

出埃及記

紀元前一千六百三十五年より一千四百九十年に至る

第一問　此記の重大なる事柄を述べよ

答　此記は諸の表と奇跡を載するものにして初に神イスラエル人のエジプトにて苦むを憫み之を救はんためモーセを遣しパロ王の前にて十度の奇跡を行はしめ又その人民がエジプトよりカナンに赴かんと準備をなせし時神命じて踰越節を守らせ其救を記憶させたまへり次て彼等が國境を出るやパロ大に軍勢を率ひて追ひ來りたれども悉く紅海に溺れ死せり神雲或は火の柱を立て彼等を導き天よりの食物岩よりの水などを以て之を惠み加之彼等シナイ山に抵りしときモーセによりて法律と教會規則と穡時の節並に幕屋の什器の模範を授且敎たまへり此禮拜の條例は本書貳十五章より卒章までに詳かなり夫れモーセは祭司の職なるをアーロン及び其子に離き坐して安息日を守りまた穡時の節には人民皆悅びて貢を收めたり然して神降りたまひて其榮光幕屋に滿ち

しといふ是を以て我儕ハ榮光ある救主の神を禮拜することハ一般の法則となするなり

第二問　出埃及記ハ幾年間の事を記しあるや

答　百四十五年なり

第一章

第三問　ヨセフの死せし後イスラエル人の狀勢を說け

答　イスラエルの子孫甚だ增加しエジプトの國に滿てり時にヨセフを知らざる新しき王イスラエルの子孫を嚴しく虐げ男子生れバ直に之を殺せよと命じたれども遂に行はれざりしかバ即ち男子の生るゝあらバ皆河に投入よと令したり

第二章

第四問　モーセの誕生と教育並に婚姻を語れ

答　モーセハレビの族にして其母生みて三月の間匿せしかども最早能はざるを知り瀝青と樹脂を塗りたる萑の方舟の中に納きて河邊の葦の中におきたりたま〳〵パロ王の女視て憐みモーセと名

づけて己の子とし教育せりモーセとは曳出と云ふ意なりモーセ生長に及びて或ヘブル人とエジプト人との爭ひ與りしを以てパロ彼を捕へて殺さんと索めり故に彼は逃げてミデアンに往き後祭司エテロの女を娶りて妻とせり

第五問　モーセは幾年パロの宮殿に在りしや

答　四十年なり(使徒行傳七章四十三節を看るべし)

第三章



パロの女モーセを得し圖

第六問　神は何時始めてモーセに現れたまひしや

答　モーセホレブにエテロの群を牧居しに棘の裏の火燄の中より現れたまへり彼は棘の火に燃へて燬ざるを視て甚だ驚けり

第七問　神モーセに何を云ひたまひしや又其結果いかん

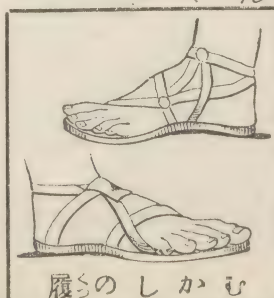
答　神曰たまひけるは此に近よる勿れ汝の履を脱ぐべし汝が立所は聖き地なればなりと既にしてモーセ神を見ることを畏れ其面を蔽せり

第八問　この燃ゆる棘は何の意を含むや

答　エジプトにて暴虐らるゝ神の教會の和泥瓶作及び諸の工に嚴しく働くも尚は望を失はず男子を水に投げ入れらるゝも尚は滅びざるの意あり（哥林多後書四章八九節創世記十五章十七節以賽亞書十章十七節を觀よ）

第九問　神モーセに何を委任したまひしや

答　三つの事件なり其一は預言者として神のイスラエル人を速に救ひ出したまふことを證せん爲に遣さるゝことと其二はパロに説て


むかしの履

イスラエル人に自由を得さする爲めの使節となること其三ハイスラエル人の長となりて之を治め又エジプトの苦患の中より導き出して乳と蜜の流るゝ地に導き至らしめんことなり

第十問　神モーセを如何に勵ましたまふや

答　神モーセに其聖名を示し曰けるハ我ハ有て在る者なりと又汝等の先祖等の神アブラハムイサクヤコブの神汝等を憐み拯はん爲めに我を遣ハせりと彼等に云べしと命じたまへり

第四章

第十一問　モーセが神に遣ハされしことを何の徴によりてイスラエル人ハ信ぜしや

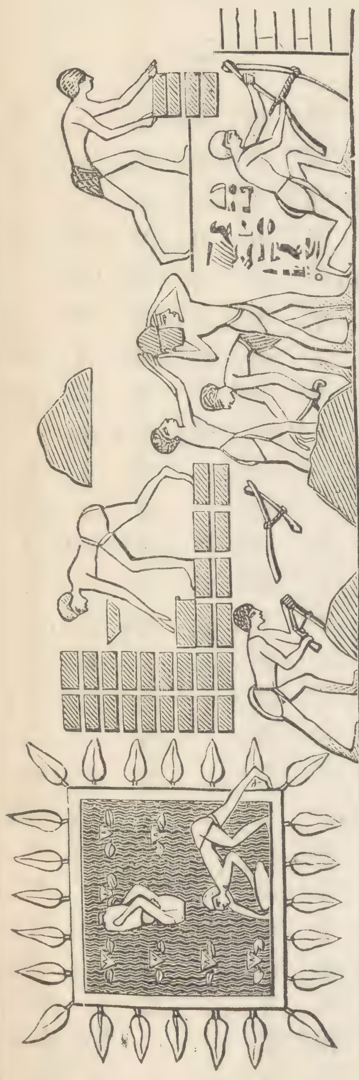
答　モーセ杖を蛇となし又其手忽ち癩病を生じ忽ちそれの痊りしと河より取たる水の血となることによりてなり

第十二問　モーセエジプトに往くことに付て如何に異義を抱きしや

答　主よ我ハ口重く舌重きものなり

第十三問　神の答へたまひしこと如何

答　人の口を造るものは誰なるや唖者聾者目明者瞽者などを造る者は誰なるや我エホバにあらずやとモーセ尚は異義を抱きしかば

イスラエル人エジプトにて苦役の圖

神アロンに其代言をなさしめかつ汝等の爲すべき事を自から敎へんと約したまへり

第十四問　イスラエル人にモーセとアロンが使節として往きしときの結果如何

答　彼等乃ち之を信じかつ神の民を眷み其苦を思ひ給ふを聽て身を屈め拜せり

第五章

第十五問　モーセとアロンパロに論ぜしことゝ其結果いかん

答　兩人パロに曰けるはイスラエルの神斯く云たまふ我民曠野に於て我を祭ることを得せしめよパロ之を聽ざりき然るに兩人尙は請たればパロ愈イスラエル人を苦め稈を與へずして甎を前に造りし數の如く造らしめたり

第十六問　イスラエル人悲を誰に訴へしや

答　モーセに訴へたりモーセ亦神の前に訴へければ神モーセを以てイスラエル人を勵まさしめ曾てイスラエル人の先祖なるアブラ

ハムイサクヤコブに與へんと誓ひし地を彼等に與へんと申ね
て約したまへり

第六章

省略

第七章

第十七問　神モーセをパロに遣はさんとせし時何と云ひたまひしや

答　モーセを神の如くアロンは汝の預言者となるべしとさきに其
實は唯委任を受けしよりパロに對して云爾のみ活る眞の神は
天地の主にして天使や主理者などを神といふは眞の神と謂ふ
には非ざるなり

第十八問　モーセとアロンがパロの前に出でしときの齢いかん

答　モーセは八十歳アロンは八十三歳なりし

第十九問　パロ兩人の寔に神より遣はされしを証せんため汝等自から奇
術を行へといふ時アロンは如何にすべしと詔告たまひしや

答　アロン杖を擲よ其は蛇となるらんとなりさてエジプトの法術士

等もろの秘術を以て斯く行ふといへどもアロンの杖は彼等の杖を呑盡せり

第二十問　是時パロは如何なる心情なりしや

答　其心尚は剛愎なりし

第二十一問　エジプト人は幾度罰せらきしや

答　十度なり

第二十二問　第一の災害はいかん

答　河の水の血になることなりモーセとアロン杖を揚てパロと其臣下の前にて河の水を撃ち左に悉く血となり魚死臭悪してエジプト人水を飲み得ざりしみと七日なりさきどパロも尚はイスラエル人を出さゞりき

第八章

第二十三問　第二の災害はいかん

答　蛙河より群り出でゝエジプト人の家に上り牀と器具等を穢せり時にパロはモーセとアロンを召して此蛙を去らしめむイス

ラエル人の旅立を許さんといへりやがて蛙死亡たりしかどパロまた其心を剛愎にせり

第二十四問　第三の災害はいかん

答　エジプト全國の塵虱となりて人と畜に滿ちしことあり法術士等は之を爲す能はざりき乃ちパロに曰けるは是神の指なりとされどパロは尚ほ心を剛愎にして彼等に聽かざりき

第二十五問　第四の災害はいかん

答　蚋夥しく全國に出來りてパロと其臣下の家と地を害なへりしかして蚋ゴセンにのみ來らざりしパロ彼等の曠野に往てヱホバを祭ることを許しゝかどこの災の止むやまた僞を行ひたり

第九章

第二十六問　第五の災害はいかん

答　惡しき疫癘行はれてエジプトの家畜皆死ねりされどイスラエル人の家畜は一頭をも亡びざりき

第二十七問　第六の災害はいかん

答　エジプト全國の人と畜獸及び法術士等脹るゝ腫物を生じたり

第二十八問　第七の災害はいかん

答　エジプトの開國より嘗てあらざりし大なる雹と雷又火雹雜り降て草木人畜こと〴〵く打たれ麻大麥も皆枯れたりたゞイスラエル人のみ無事なりきしかしパロも後また罪を犯したり

第十章

第二十九問　第八の災害はいかん

答　蝗の害なり當時臣下パロを諫めて曰ふ汝なほエジプトの亡ぶるを知らざるかと然どもパロはモーセ等の願を聽ずしてその前より逐ひ出だせり翌日東風蝗を吹き來しければ蝗全國を掩ひ青き物とては殘らざりき然るにパロ此死を釋し今一次罪を免さんことを願ひし故に烈しき西風起りて蝗悉く紅海に馳せ投たりパロの剛愎故の如し

第三十問　第九の災害はいかん

答　三日の間全地咫尺も不辨やうになり人々互に相見る能はず又

己の處より起ものなかりきしかしてイスラエル人の居所には皆光ありたり

第三十一問　是に於てパロは如何なる思慮ありしや

答　牛と羊を留めおきてイスラエル人のみ出さんこと也モーセ之を肯ぜざりきそはイスラエル人は犧牲と燔祭に牛羊を用ひざるを得ざればなり

第三十二問　時にパロはモーセに何と云ひしや

答　我を離きて去れ自から愼め重ねて我面を見る勿れ汝我面を見る日には死すべしモーセ言けるは汝の言ふ所は善し我復汝の面を見ざるべし

第十一章

第三十三問　第十の災害即ち終の罰は何ぞや

答　エジプト人長子の死亡是なり

第十二章

第三十四問　如何にしてイスラエル人は救れきしや

答 羔を殺して其血を家の門口の兩旁の柱と鴨居に塗りたれバ天使ハ之を見て踰越したり

第三十五問 此事を記憶せんがため何の節筵を定めらきしや

答 踰越の節筵なり

第三十六問 エジプト此夜の景況を說け

答 神の使來りエジプトの人と畜を論ず其國の首生たる者を擊殺したりパロ夜起きて大なる號哭をきゝ速にイスラエル人を出しめたり是に於てエジプト人皆死ると言て彼等の乞に應じて金銀の飾物及衣服を與へ其國を去しめたり其人々ハ子女の外六十万人にして皆許多の牛羊等を率ゆけり

第三十七問 イスラエル人ハ幾年の間エジプトに居りしや

答 二百五十年なり本章四十節に四百三十年とあるハアブラハムに約束したまふ時より算らきしなるべし創世記十二章二節を見よ又ポーロハての事を加拉太三章十七節に載たり

第十三章

第三十八問　イスラエル人は何の日を記憶して守らんことを命ぜられしや

答　アビブ即ち一月の十四日に(此の月は我三月の半より四月の半に至る)踰越の節筵を守りてイスラエル人は七日の間無酵の餅と苦き菜を食ひ畜の首生を神に献げて彼等の長子を贖へり斯此節筵を立たまふは彼等の子孫に限りなく神の救を記憶せしめんためなり

第三十九問　踰越の羔は何の豫表なるや

答　我々の踰越のために十字架に釘られたまひし神の羔キリストイエス是なり主は青年の時に献げられたまひしが是ぞ初年の羔にて疵なく汚なきものとは云ふなり(彼得前書一章十九節を見よ)踰越の節は四日前より其備をなせし如く主も之がため四日前にエルサレムに入り節筵の時に死を遂げたまへり約翰十九章卅六節に此事成れり録して其骨の一をも摧かざるべしと有るに應せん爲なりといへり

第四十問　イスラエル人は何故必らず踰越の節筵に除酵餅を食ふや

答　イスラエル人エジプトを出て數日の間除酵餅を用ゐしことを記念せん爲めなり

第四十一問　キリステアンは踰越の節の代に何の禮式を守るや

答　聖なる晩餐なり

第四十二問　イスラエル人は誰に導かれしや

答　神なり晝は雲の柱夜は火の柱の中に在まして彼等を導きたまひし

第四十三問　イスラエル人エジプトを去る時ヨセフの遺骸を如何にせしや

答　ヨセフの約束に從ひ其遺骸を携へりかつ其他の種族の先祖等の骨をも携へしならん（使徒行傳七章十五六節を看よ）

第十四章

第四十四問　パロは何處にてイスラエル人に追着きしや

答　紅海の傍にイスラエル人陣營を設けしときパロ追來れり

第四十五問　モーセに何を命じたまひしや並にエジプト人の運命を述よ

答　神モーセに曰ひたまひけるはイスラエルの子孫に進め行しめ

よ又汝の杖を舉げ手を海の上に伸て之を分つべしとモーセ斯く爲しければ潮退て海陸となりたりイスラエル人れ相率ひてこゝを通りしにエジプト人も其の後より追ひ來りし神雲と火の柱の中より彼等の軍勢を望み車輪を脱して人を助けたまふを知り恐れて逃れんとする時モーセ神の命により手を海の上に伸たれバ潮パロの軍勢を掩ひ一人も遺れる者あらざりき

第十五章



エジプト人の紅海に溺し死する圖

第四十六問　モーセとイスラエル人大に喜び其感謝を顯せしてと如何

答　讃美歌を以てす

第四十七問　其歌の重なる部分を說け

答　我エホバを歌ひ頌ん主は馬と其乘者を海に擲ちたまへり主は我力我歌はエホバなりエホバは神の中に誰か汝に如ものあらん誰か汝の如く聖にして榮あり頌美べくして威ありかつ諸の奇跡を行ふものあらんや

第四十八問　この歌に誰が和へしや

答　モーセの姉ミリアム他の婦等と鼓を執りつゝ躍り彼等に和へて言ふ汝等エホバを歌ひ頌めよ彼は馬と其乘者を海に擲ちたまへり

第四十九問　イスラエル人紅海を離れて最初の呟は何ぞや

答　水のなきてとなりましてメラの水苦かりしかばますく不平を抱けりモーセ神の命に依り木を投入れしに水忽ち甘くなりたり

第十六章

第五十問　其次の呟は何ぞや

答　パンと肉のことなり

第五十一問　其時神何を與へたまひしや

答　マナなり

第五十二問　マナの形と味また之を歛むる方法を述よ

答　莞の實の如くにして白く其味は蜜を入れたる菓子の如し毎朝一オメル（凡そ我一升三四合）を歛め六日目には安息日の爲めに二日の食物を歛むることに定められし

第五十三問　其外に何を與へられしや

答　鶉なり

第十七章

第五十四問　次にイスラエル人の怨言は何ぞや

答　水の無きことなり

第五十五問　如何にして水を得しや

答　モーセホレブの岩を打たれし水出て人々之を飲りモーセこの處をマッサ又メリバと稱す即ち爭といふ意なり

第五十六問　彼地にてイスラエル人に敵したるものは誰ぞや

答　エサウの裔なるアマレク人なり

第五十七問　アマレク人と戰ひしときイスラエル人を導きしものは誰ぞや並に敵軍の運命如何

答　ヨシュアイスラエル人を帥ひて彼等を破れり

第五十八問　此時モーセは何をなせしや

答　モーセは祈禱せんとて小山の頂に登りしがアロンとホルはイスラエル人が勝遂る迄彼の手を支へたり

第五十九問　神はこの戰に就てモーセに何を命じたまひしや

答　この事を書に記てヨシュアの耳に之を入れよとなり聖書中筆記は蓋し此記を初と云ふべし

第六十問　其他モーセは記念のため何事をなせしや

答　モーセ一座の壇を築き其名をエホバニシと稱ふてはエホバは

吾旗と云ふ義なり

第十八章

第六十一問　エテロがモーセの妻と其子二人を連れ來りしとき彼は如何待遇せしや

答　モーセ神のイスラエル人に賜ひし恩惠をエテロに語りて共に喜べり又モーセ彼の爲めに饗宴を設けたりしがアロン及び長老等皆來り會せり

第六十二問　其翌日モーセ何をなせしや

答　モーセ朝より夕まで民を審判きたり

第六十三問　エテロがモーセに忠告せしことは如何

答　賢くて神を畏れ眞實を重んじ利を惡む所のものを撰みて司となし小事は彼等に判かしめ大事はモーセ鞫くべしとなり

第十九章

第六十四問　次にイスラエル人は何處に陣取せしや

答　シナイの野なり

第六十五問　神シナイ山よりモーセを以てイスラエル人に傳へたまひし詔旨を述べよ

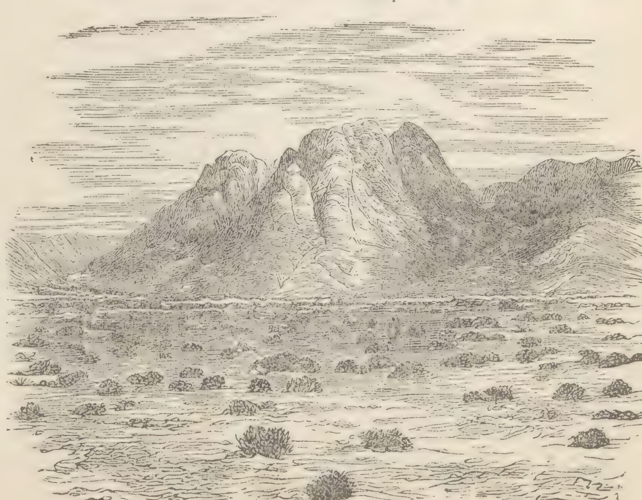
答　汝等はエジプト人に吾施したる所の事を見我鷲の翼を伸て汝等を負ひ我に至しめしを見たりされば汝等もし善く我言を聽き我契約を守らば汝等は諸の民に愈りて我寶となるべし全地は我所有なれば也

第六十六問　モーセ詔旨をイスラエル人に陳しとき其對いかん

答　エホバの言たまひし所は皆我等之を爲すべし

第六十七問　法律の授けらるゝ前の事柄をはなすべし

答　三日目は朝雷電密雲喇叭の聲甚厲げしく民皆大に慄く又シナ



シナイ山の眺望

イ山の烟竈の烟の如く立升りて震動けり

第二十章

第六十八問　十誡を述よ

答（三節より十七節迄に記載されたる事を諳ずべし）

第六十九問　人民は凡て見聞しことにより如何に感ぜしや

答　彼等恐を懐きて遠く立ちモーセに云けるは汝我等に語を我等聽かん唯神の我等に語りたまふことあらざらしめよ恐くは我等死ん

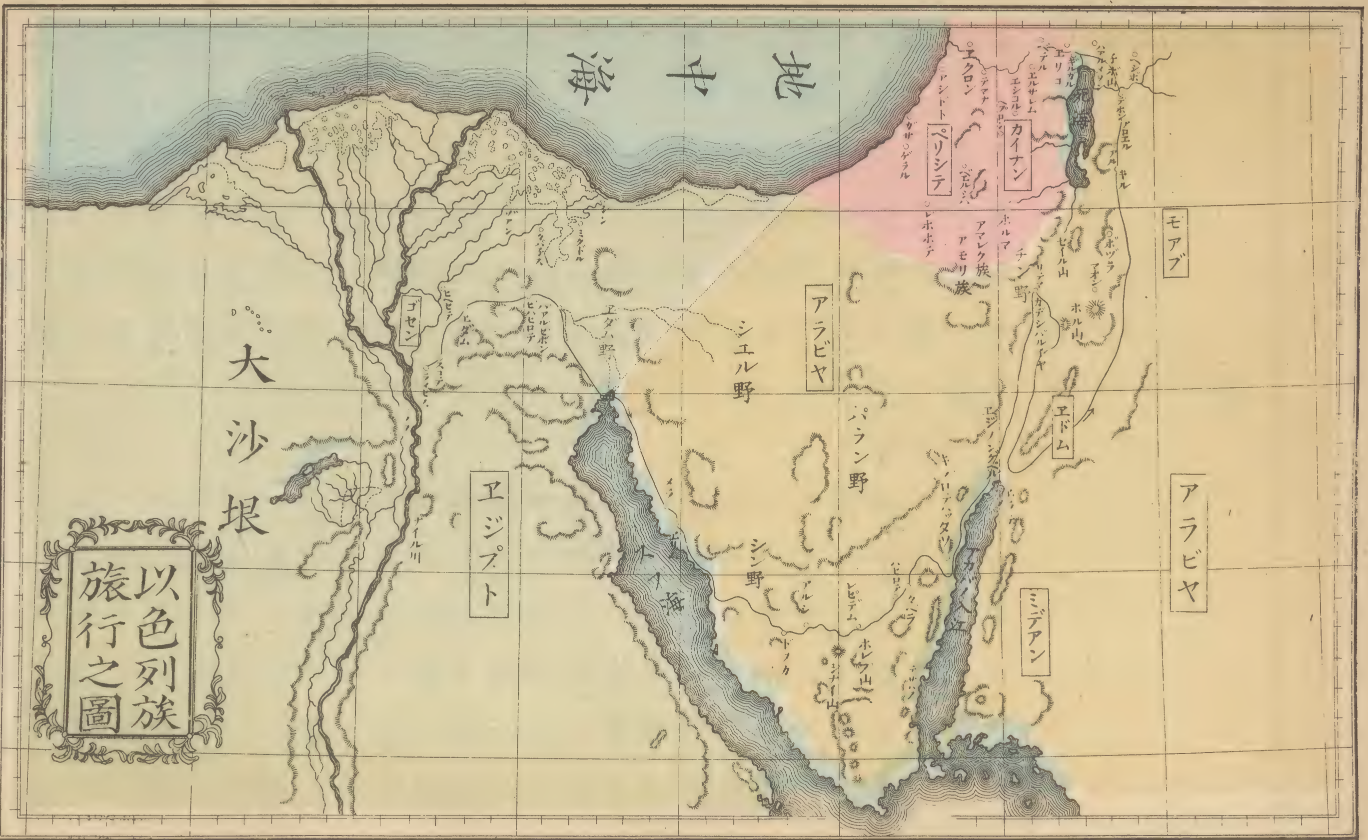
第七十問　モーセは尙は如何なる敎を人民に傳ふべく命ぜられしや

答　偶像を拜することを禁じ祭壇を築く方を敎ゆることなり

第二十一章

第七十一問　ヒブルの僕に付ての法律を述よ

答　人ヒブルの僕を買ふ時は六年の間之に職業をなさしめ七年には購を索めずして釋つべし獨身にて來らば獨身にて去り妻あらば之と與にすべし其主人之に妻を與へて男子又は女子生き


以色列族旅行之圖
地中海
大沙垠
エジプト
アラビヤ
アラビヤ
モアブ
エドム
ミデアン
カイナン
ペリシテ
ゴセン
シエル野
パラン野
シン野
チン野
アマレク族
アモリ族
アカバノ入江
ナイル川
エクロン
アシドト
エリコ
エルサレム
ホルマ
ホル山
ボツラ



たらバ妻と其子等ハ主人に屬し彼ハ獨身おて去るべしといへども僕明白に我釋たるを好まず我主人と我妻子を愛すと言バ主人士師の所に携ゆき錐を以て彼の耳を刺徹し彼ハ何時までも之に事ふべきあり人其女を賣て婢とあす時其主人の心ぉ適ハざるも僕の如く去るべからず必ず之を贖ハしむべしまた主人己の子ぉ與へんと約しるバ女子の如くぉ待ふべしもし彼ぉ食物と衣服とろの交接の道を間斷ぉめバ金を贖ハずして出さるゝを得べし

第七十二問　死刑を略記せよ

答　人を撃て死しめたるものハ必ず殺さるべし故ぉ其隣人を謀りて殺す者或ハ其父母を撃つ者人を拐帶したる者父母を罵る者其牛の衝くを知り守おかずして男或ハ女を殺すに至らしむるものハ皆殺さるべし

第二十二章

第七十三問　其他猶太國法の一班を揚言よ

答　人の物を竊み有つとき或は他人よりの預り物を其家より竊むものは倍償せしむ時としては五倍を償はしむ(一節を見よ)又イスラエル人は他國の人を惱すべからず蓋は彼等も曾てエジプトの旅人なればなり寡婦或は孤子を惱ますべからず民の貧き者に金貸の如くなすべからず廿一節より廿五節迄を參照よ

第二十三章

第七十四問　如何なる節禮を命ぜられしや

答　除酵の節穡時の節收藏の節是なり除酵の節はイスラエル人エジプトを出立せしを記憶する爲に春時之を守り穡時の節は初實の節にして夏時之を守り收藏の節は收穫の祝日にして秋時に守られたり

第七十五問　神イスラエル人を如何にして導かんと約したまふや

答　天使を彼等に先だゝせて約束の地に至らしめ又此地よりイスラエル人の敵を逐出し彼等の蔓衍するまでは土地荒れ野獸増して害を加ふるが如きことなからしめんとなり神又命じ言た

まひけるはカナン人等の神を拜する勿き

第二十四章

第七十六問 法律を受けたる後にモーセは何をなせしや

答 モーセは神の諸の言及び其典例を民に告げしに皆同音に應ていふ神の言は皆我之を行んとモーセは神の言を悉く記し朝夙く起て壇と十二の柱を建たり十二の柱は十二の支派に從へり
モーセ又燔祭と酬恩祭をなして其羊の血を壇に灌ぎしかして民に契約の書を讀聞せたれバ彼等再び應へて言ふ神の言は皆我れ之をなして遵ふべし乃ちろの血を民に灑ぎて神の約束を結びたまへる徵となせり

第七十七問 斯くて神の聖許に至りしは誰等なるや

答 モーセアロンナダブアビウ及イスラエルの長老七十人なりき

第七十八問 此時彼等に就て如何なる物語ありしや

答 イスラエルの神を見るに其足の下には透明なる青玉をもて作れる如き物ありて耀ける天空にさも似たり而して彼等は神を

見又飲食をなせり

第七十九問　茲に神何をモーセに命じたまひしや

答　神モーセに法律と誡命を載る所の石板を與へん故に山に上り來るべく命じたまへり

第八十問　誰がモーセと共に行きしや

答　ヨシユアモーセの從者となりて行けりヨシユアはモーセの嗣となるべき人物にして神彼を長老よりも尊しとなしたまへるなり

第八十一問　モーセとヨシユアが山に行し時に人民と共に止まりし者は誰ぞや

答　アロン及びホルモーセの不在中司となりて止まれり

第八十二問　モーセは神山の巓に呼びたまふ迄ヨシユアと共に幾許の間止まりしや

答　六日なりしが第七日に(多分安息日ならん)至りモーセは雲の中に入り山に登りし其時イスラエル人は神の榮光山の巓に燃ゆ

る火の如きを見たり

第八十三問　モーセは幾許山に止まりしや又その山に於て何を受けしや

答　四十日四十夜なり然して二箇の石板と禮式を受けたりろも此禮式はイスラエル人に教へん爲のものなりき

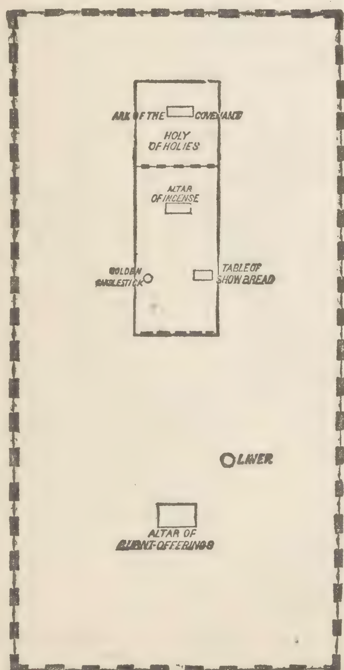
第八十四問　禮式は何を教ゆるものなりや

答　猶太人禮拜の式なり

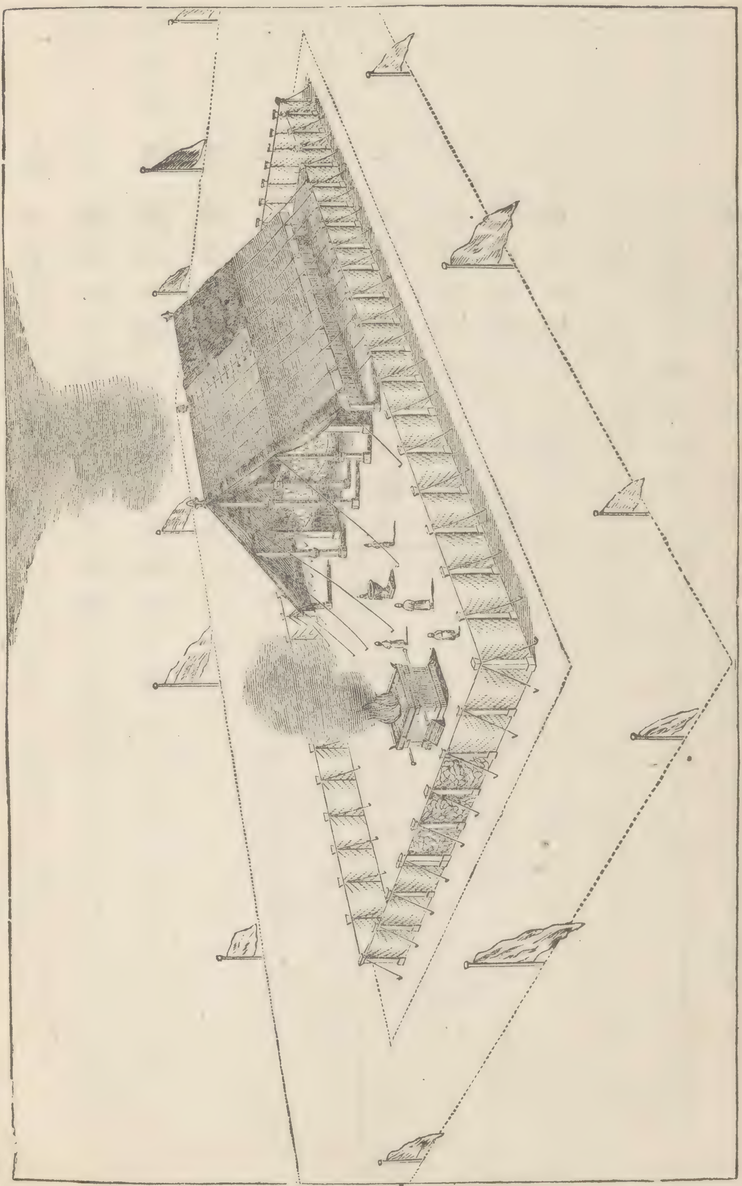
第二十五章より第二十七章まで

第八十五問　幕屋を立るために神モーセに何を命じたまひしや

答　人民の信施及び禮物を集め供ふべき方法を設けたまへりては人民の好んで出すものにして金銀銅青紫紅の線麻山羊毛羊獾の皮合歡木油膏及び寶石等の禮物なり



幕屋の雛形

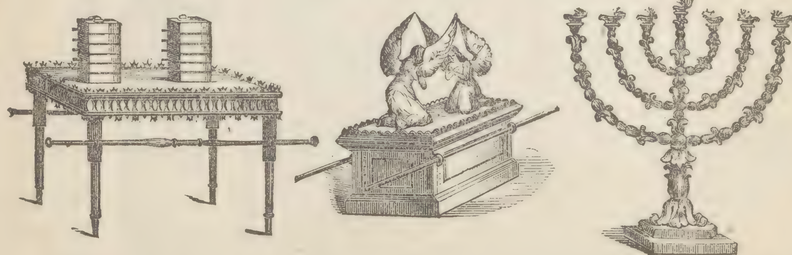


イスラエルの幕屋の圖

第八十六問　幕屋の簡短なる譚をなせ

答　幕のために金を着たる板を金の環にて合せ之に横木を貫きて

四の蓋あり第一は青紫紅にしてケルビムを織込み柱の上に掛けたるもの第二は第一より大にして山羊の毛にて織たるもの第三は紅かき牡山羊の皮にて作りたるもの第四は堅固の皮にて作りたるものにて風雨に能く堪ゆべきものなり門戸は東方にあり窓には圖を織りたる華美の幔あり幕屋の内部はケルビムを織込みたる幕を以て聖所と至聖所とを分てりこれは金にて飾れる四の柱に掛けたり至聖所の契約櫃には彼の二の石板をその中に藏めり純金にて造られたる贖罪所は翼を高く展べて面を相合せたる二ケルビムを置けり聖所には案の上に常供餅と金の燈臺香爐あり幕屋の四周には庭ありて之に燔祭の壇と銅の器あり



燭臺と契約櫃と供餅案への圖

第八十七問 此礼拜式ハ如何改革られしや
答 元ハ一家の主人其家族の祭司となり土の壇を築きて禮物を供へゐたりしが當時アロンの家を以てイスラエル全族の祭司に撰びたりさて幕屋ハ禮拜場の中央にありたり

第二十八章

第八十八問 祭司の禮服ハ如何
答 エポデ即ち肩帶附の禮服なり審判の胸牌裾に金の鈴と石榴を飾れる明衣額なるエホバの聖と鐫つけたる金の冠ハこきアロンが顯榮と榮光の聖衣なりき



祭司と祭司の長とレビ人の圖

第八十九問　エポデを説明せよ

答　エポデは袖なき短衣にて異様の帯を以て飾れる物なり之を金のエポデといふるは多の金にて飾れる故なり兩の肩帯には金をもて包みたる二箇の寶石を着け之にイスラエル人の名を六人宛彫付たり是を以てアロンは其肩にイスラエル人の名を負て其代人たることを表せり以賽亞九章六節にも政事は彼の肩に負ふといへり

第九十問　胸牌を説明せよ

答　胸牌は聖服の最重なるものにして金青紫紅の線及麻の撚絲をもて之を製り長さ凡九寸幅凡九寸即ち凡九寸平方にして金の紐にて分ち寶石三種金にて包み四行となし全族の名を各玉石に彫りしなり故にアロンは聖所に到る時は其胸にイスラエルの子孫の名を有てり又此胸牌にウリムとトンミムなる二の語あり此は光と完全の意との謂にしてモーセが彫りしものなるらん歟よりて祭司たる者は神の審判を表すものなり(民數紀畧二十

七章二十一節を見よ）

第二十九章

第九十一問　神祭司に禮式を命じ終ていかなる約束をなしたまひしや

答　我イスラエルの子孫の中に居て神とならん我れ彼等をエジプトより導き出せしことを知らん我れ彼等の神エホバなりと

第三十章

第九十二問　幕屋の勤に於て何を供しや

答　人民幕屋に集りし時貧き者とても皆凡貳十五錢を出せり之れ贖罪金として毎年出す所のものなり

第三十一章

第九十三問　幕屋を造ること並に其職を命ぜられし者は誰ぞ

答　ユダの族のベサレルとダンの族のアホリアブなり

第九十四問　神は安息日に付て如何なる嚴しき命令を下したまひしや

答　汝等安息日を守るべし之を瀆す者は殺さる六日の間勞働て七日に安息すべしこれは我とイスラエルの子孫との間の永遠な

る徵なりそはヱホバ六日の間天地を創造七日に安息たればな
り

第九十五問　神モーセと語り終りし時に何を授けたまひしや

答　神の指を以て書したまふ二枚の石板なり

第三十二章

第九十六問　モーセが山に居りし間にイスラエル人は如何なる罪を犯かせしや

答　偶像を拜することなりイスラエル人はモーセが久しく山を下らざるを見アロンの許に至り曰けるは起よ汝我等を導く神を我等の爲めに造れ其は我等をエジプトより導き上りし彼モーセは如何になりしを知らざるなりとアロン乃ち民の金の耳環を取集め之を鑄て犢を造りしかして其前に壇を築き其翌日犠牲を供へ坐して飲食し起て戲り

第九十七問　其時神モーセに何を爲んことを云たまひしや

答　神モーセに云けるは汝往て下れよ汝の民は惡しきことをなし

たり我怒を發して彼等を滅盡汝をして大なる國をなさしむべしと

第九十八問　モーセイスラエル人のために如何に辨護せしや

答　モーセは神曾てイスラエル人に造せし約を記憶たるに由り今若神彼等を滅したまはゞエジプト人は神の名を誹らんことを慮り神にアブラハムイサクヤコブを憶ひたまへと願へり(詩篇百六篇廿三節をみよ)

第九十九問　モーセ營に近に及びて



モーセ十誡の石をやぶる圖

犢と舞踏を見し時に何をなせしや

答　モーセ怒を發しかの板を投げ碎き犢を取て火に焚き粉となして水に撒き民に飮ましめ且つアロンを責たり

第百問　偶像を拜する者の罰いかん

答　モーセ營の門に立て凡て神に歸する者は來れと云ひしにレビの子孫皆來り集れりモーセ此等に劍を横へ營に入り各其兄弟と其伴侶隣人を殺すべしと命ぜりこの日殺されたる民凡そ三千なりき

第百一問　殺害の後モーセに就ての事實を説け

答　モーセ神に見へ民の罪を謝し曰けるは彼等の罪を赦したまへ然すれバ汝の書の中より我名を抹さりたまへと神曰けるは凡て我に罪を犯すものは我書の中より抹さん汝今往て導けよたゞ我罰を行ふ日彼等の罪を罰す可し

第卅三章

第百二問　モーセ何處に幕屋を築きしや

答　陣營の外遙に離れたる處に築けり

第百三問　モーセ陣營に入りし時如何なる事起りしや

答　雲の柱幕屋の門に立ち神モーセと語りたまふ民之を見て皆起ち天幕の門口より拜したり

第百四問　神モーセと語りし景況いかん

答　人が其友に言談如く面を合せて語りたまふ

第百五問　神とモーセの應答いかん

答　モーセ曰けるは汝もし親から行きたまはずは我等を此より上らしめたまふ勿れと神乃ち汝が言るかの事をも我爲さん汝は我目の前に恩を獲つ我名をもて汝を知るなりと曰たまへり

第百六問　モーセが次の願と其答いかん

答　モーセ請けるは汝の榮光を我に示したまへと神曰たまはく我は惠憐んとある者を惠憐み諸の善を通らしめヱホバの名を汝の前に宣んとまた我面を見る事能はず我面を見て生る者あらざればなりと言たまひしかして神モーセを岩の穴に入れ蔽ふ

て其背後を見せたまひき

第卅四章

第百七問　其次日神モーセに何を爲すべく命じたまひしや

答　神前の如き二つの石板を斫り前の石板にありし語を書したまふ準備をなすべしと命じたまへり

第百八問　神の宣たまひし自からの聖体いかん

答　神宣たまはくヱホバヱホバ憐憫あり恩惠あり怒ることの遲く恩惠と眞實の大なる神恩惠を千代までに施し惡と過と罪とを赦す者又罰すべき者をば必ず赦すことをせず父の罪は子に報ひ子の子に報いて三四代に及す者なり

第百九問　此時モーセは幾許の間山に止まりしや

答　四十晝夜にしてこの間モーセは飲食せざりしといふ

第百十問　モーセが山を下りし時に如何なる事ありしや

答　モーセは律法の板二枚を持ち下りし時彼の面輝けり故に民は近づくことを畏れたり因て人民と語る間覆面帕をあてたり

第卅五章

第百十一問　人民は幕屋の立てらるゝ爲めに禮物を欣び出せしや

答　然り男女兒童等皆悅んで出せしにより之を禁ずるにいたりしと云ふ

第卅六章より第卅九章十まで

省畧

第四十章

第百十二問　二个の石板をモーセ何處に置きしや

答　契約櫃に藏めたり

第百十三問　モーセは祭司長に誰を撰み又誰に香油を灌ぎしや

答　アロンを祭司長に其子等を祭司に撰て油を注げり

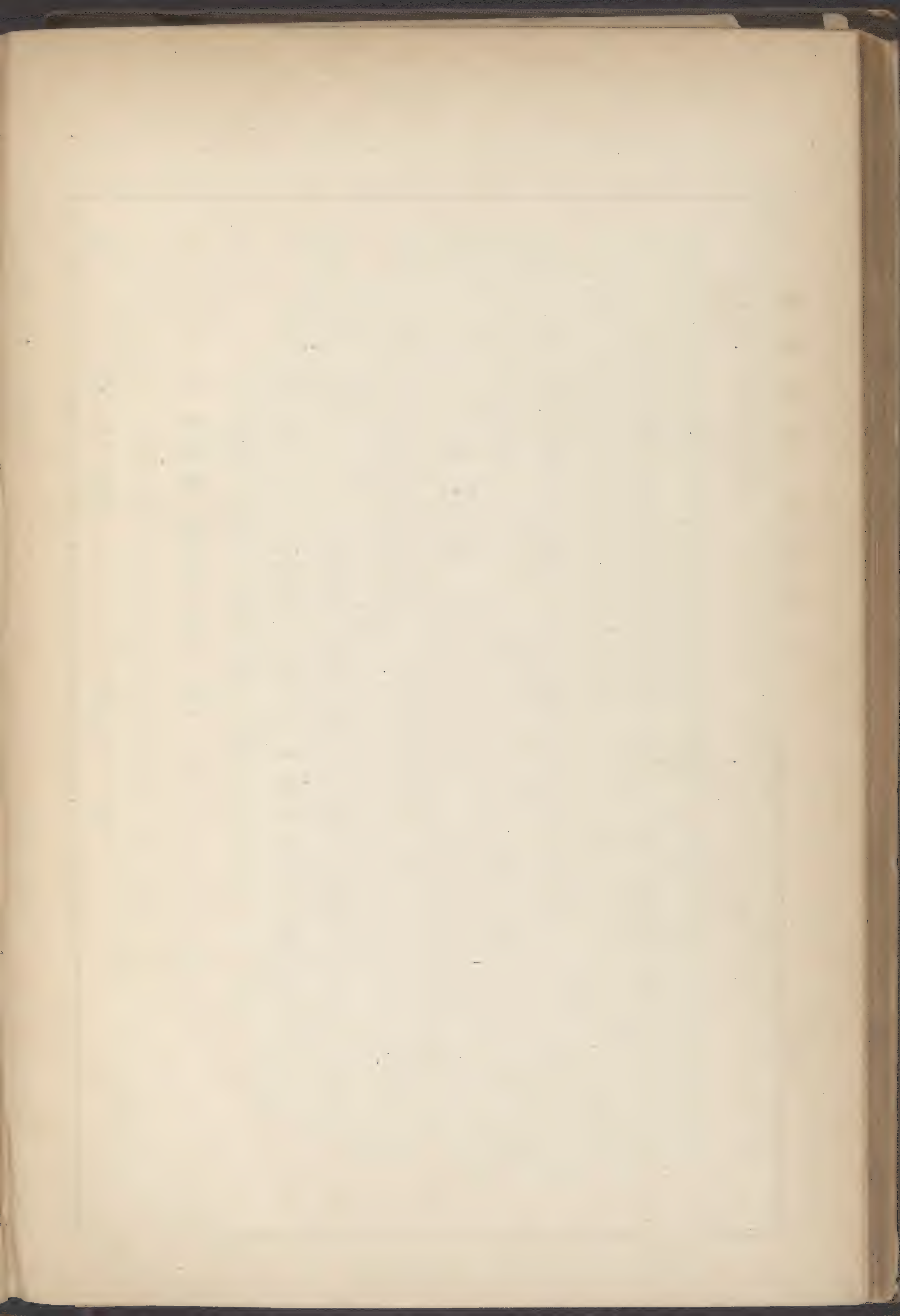
第百十四問　幕屋の竣功し時如何なる事ありしや

答　雲集會の幕屋を蔽ひ神の榮光之に滿てり故にモーセ其中に入ることを能はざりし

第百十五問　此雲如何に彼等を導きしや

答　雲の幕屋より上升る時民途に進みしあらざるとき止まりして
の雲常にイスラエル全家の前に晝は雲となり夜は火となりて
途次彼を導けり

舊約史畧出埃及記終



利未記

紀元前一千四百九十年

第一問 此記の順序と大意を問ふ

答 この記はレビ族の事歴と其職務を記す故に之をレビ記と名けイスラエル人禮拜の法則を示すものなり

出埃及記はエホバの幕屋に在ましたまふことを述べ是記は幕屋の中の聖行を揭げり

エホバは恩の御座よりモーセを以てイスラエルの子孫は世々幕屋を神の教會として敬ひ首として犠牲を供ふべきなどの命令と義務を與へたまふのみならず獻祭を行ふ者は誰其方法は如何其節期は如何及祭司の職務章程等を諭したまへり

モーセ神勅を奉じてアロンと其子等を祭司となしメッシャの來るまで之を世襲の職とせり然して彼の子ナダブとアビウの兩人は自信と不敬の罪を以て神の嚴刑に坐せり

此記十章より末章まではモーセとアロンに祭司とイスラエル人

ゞの守るべき爲に授けたまふ律法即ち來らんとする者の影にして
キリストの來るや其福音を以て直に之を証せられたり

第一章

犧牲の命令

第二問　各種の獻祭を述よ

答　凡五種あり即燔祭禴祭酬恩祭罪祭(贖罪祭)補過祭(愆祭)等なり

第三問　重なる獻祭と其方法をとふ

答　燔祭なり祭司は民の携來る所の獸畜を殺し其血を壇に灌ぎ犧牲を全く焚て祭を爲なり

第四問　これは何の表なるや

答　キリストは我儕に代りて屠られ且神の怒の火に苦を受け其血を聖座にそゝぎて我儕の罪を贖ひたまふ前表なり
キリストは喜で其心より我儕の爲め全く己を獻物となしたまふゞの故に是を馨香なる犧牲と云ふべし(以弗所五章二節)

第二章

第五問　論祭とハ如何

答　人民献物を祭司ふ攜へ行けバ其少許を焚て祭をなし餘分ハ彼の食料と為なりての祭にハ油鹽及香料を用ひたり

第六問　油香料鹽等を論祭に用ゆるハ何の表ぞや

答　論祭ハキリストの表なり即ちキリストの肉ハ實に食物其血ハ實ふ飲料ふして油ハ聖靈を表すなり

聖靈ハ我等がキリストふ歸する前に必要なるものにして香料ハキリストの中保たるてと又契約の鹽ハ諸の献物に用ひて我儕が心を潔くし是契約に確實忠義なるべきを示す

第七問　酬恩祭は如何

答　献物を奉る者は其手を犠牲の頭に按け己の罪を移轉せバ祭司幕屋の門にて之を宰り壇の上ふ其一部分を焚き余分を祭司と人民に分ち與ふるものふして神と人との間に行るゝ一種の節筵なり

第八問　てきは何の表なるや

答　我儕の為ふ屠きし神の羔ふ我儕の罪を負せしのみならず羔即ち

キリストは神人の兩性にましませる我儕之を敬愛し又互に親睦して其心に平安を有べきものとす其犧牲を門に殺すが如きはキリストに由て恩惠を得ることを表す(約翰傳十章九節を看よ)最も精好品を獻ぐべきことを示さんために肥れるものを焚きたり又我儕の平安は贖に由て得らるゝことを表さんために酬恩祭は燔祭にせられたり

第九問　燔祭と禴祭の差違如何

答　燔祭ハ全く焚盡すと雖も禴祭ハ焚盡さずして其禮物を祭司の爲に殘存するなり

第四章より第七章まで

第十問　罪祭はいかん

答　教法師祭司或は人民が教會の公務に暗きよりして罪を犯すときに行ふものなり例ハ全會罪を犯すときは長老等其手を犧牲の上に按け壇にて其少許を焚き其餘を營の外に携出して之を焚くなり若罪犯人民の中にある時ハ壹人の長老其手を犧牲上に按き燔

第十一問　祭をなして罪を贖ふなり
あきは如何に救主を表すや
答　キリストは我等の諸罪を移轉す所の罪祭なることをエルサレムの門の外にて我儕の爲に死たまふことを表す（希伯來書十三章十一二節）且蒙昧の罪を認めゝ悉めたりキリスト十字架の上より祈曰けるは父よ彼等を救ひ給へ其爲す所を知らざるが故なり

第十二問　愆祭はいかん
答　燔祭と同じきものにて隣人に罪を犯すか或は禮式に背き或は神の聖旨に違ふ等の時になすものなり

第十三問　愆祭と罪祭との區別如何
答　愆祭は重に人に對し罪祭は直に神に犯す罪の祭なり

第十四問　是等の祭に用ゆる動物は何ぞや
答　牡犢羊山羊鳩鴿等なり元來其人の分に應じて牡犢羊山羊を供へ得る故に貧者は鳩或は雛鴿を供へるなり此等の牲畜は清潔温和にして无害の物とせられたり

第十五問　犧牲と禮物は何を示すや

答　救世主に對する我等の義務と愛を以て事ふべきことを示すものなり蓋は救世主我等に代りて己を捧げたまへるなり

第八章　祭司の立らるゝと禧年

第十六問　如何にしてアロンと其子等は聖別られて祭司になされしや

答　モーセ集會を幕屋の門の前に開きアロンと其子等を連來りて水もて洗ひ祭司の衣を着せ油を灌ぎ罪祭と燔祭をなせし時アロン父子は各手を禮物の上に按たり又聖別の牡羊の血をアロン父子の右の耳と右の手足の拇に血と油を彼等の衣に灑ぎて七日の間幕屋の內に止まらんことを命じたり

第九章

第十七問　アロンが撰擧されし時初次の事務は何ぞや

答　己及民の爲に罪祭燔祭酬恩祭等を行したり

第十八問　この後何事の有りしや

答 モーセとアロン人民を祝したればヱホバの榮光全會に現れ火降りて壇の上の脂と燔祭とを燬たり人民之を見大に呼り其面を伏せたり

第十章

第十九問 アロンに子幾人ありしや

答 四人なりナダブアビウヱリアザルイタマルと云ふ

第二十問 ナダブとアビウは何の罪を犯せしや

答 聖祭には唯神の火をのみ用ゆべきに彼等は各〻異火を香爐に盛り香料を献げたり

第廿一問 彼等の刑罰を問ふ

答 神の火降りて彼等を滅したり

第廿二問 是時アロンは如何

答 アロンは安全なり

第廿三問 モーセはアロンに何を命ぜしや

答 ナダブとアビウの尸を營の外に出すこととアロン及生存る二子

れ喪を執らず各其務を行ふことを命じたり然れ共イスラエルの全家は滅されし二人を哀めり

第廿四問　何故モーセはアロンの二子を咎めしや

答　彼等罪祭を食せずして只之を焚き盡せしが故なり

第廿五問　是過失をアロン如何に辨解せしや

答　我若今日罪祭を食せしならば聖旨に適ひしならんとモーセ聞て善とせり

第十六章

第廿六問　アロンは贖罪の大祭日に就て何を命ぜられしや

答　此日には祭司の長美服を脱ぎ麻布の衣を着單身至聖所に入りて己の爲に罪祭と燔祭を供へ牡牛の子の血少許を恩の座に灑ぎ又二の山羊を鬮にし其一を屠りて民の贖罪祭をなし其一に罪を移し野に放つこと等なり此日は大安息日或は刻苦日として永く律例とせられたり是祭司長は我儕の大祭司長キリストが其榮光の衣を捨て人の卑しき服を着け我儕の爲に罪を贖ひたまふこと

を表すと云ふべし

第十七章より第二十三章迄は聖書を見るべし

第廿四章

第廿七問　シロミテの子の罪及其罰は如何

答　シロミテの子神の名を瀆し且詛ひしが故に縛せられて神のモーセに示したまふ日まで獄に繫ぎしに頓てモーセ彼の聖旨を傳へければ其言を聽くもの彼を營の外に曳き出し各手を彼の頭上に按け石にて之を撃殺せり

第廿五章

第廿八問　安息年とは何ぞや

答　七年毎に地を安息しむる爲の法にして即ち九月より始まるなり此年には穀物を刈納れず葡萄を摘らず又播種ず地の產物を共有し野にて食ふなりこの安息年はヨシュアの第八年カナンを討服へし後に設けられしと云ふ

第廿九問　禧年とは如何

答　此年は七安息年の后即ち五拾年毎の大安息年なり此年の贖罪日に喇叭を吹て國中に禧報を布くや土地を鬻る者復之を得囚者は釋され奴隷は自主となり負債は免解され又典押する所の物は悉く還さるゝなり實に自由なる禧年になろわれ

第三十問　モーセは何處にてこの法律を受けしや

答　シナイ山に於てなり然れども前方に記す法律は惣て幕屋にて受けしものなり

民數記

紀元前一千四百九十年より一千四百五十一年に至る
開闢以降二千五百十四年より二千五百五十三年に至る

第一問　此記の中に載する事ハ何ぞや

答　此記ハイスラエル人がシナイ山の麓よりカナンの國境までの旅行を誌すものにして之を民數記と稱す蓋ハ民數計算のことを載すればなり

又此記を歴史及律法の二部に分てり

第二問　此記ハ何時を開巻とするや

答　紀元前一千四百九十年即ちイスラエル人埃及を出し後第二年二月より三十八年間のことを記載せり

第一章

第三問　神ハ誰に民數の計算を命じ給ひしや

答　支派長各一人とモーセアロンに命じ給へり

第四問　其ハ何處なりしや

答　シナイの野

第五問　二十歳以上の男の戰に出得る者幾名なりしや

答　六十萬三千五百五十人なり又或は總數二倍の女子もありしならん

第六問　ヤコブと埃及に同行せし者は幾人ありしや

答　七十名なり

第二章

第七問　埃及を出る時最も人の夥しき支派は何なるや

答　ユダ族なり他の支派より多きこと一萬一千九百人にしてイスラエル人曠野を旅する時先鋒となりしも此支派なり

第八問　レビ人は幾人ありしや

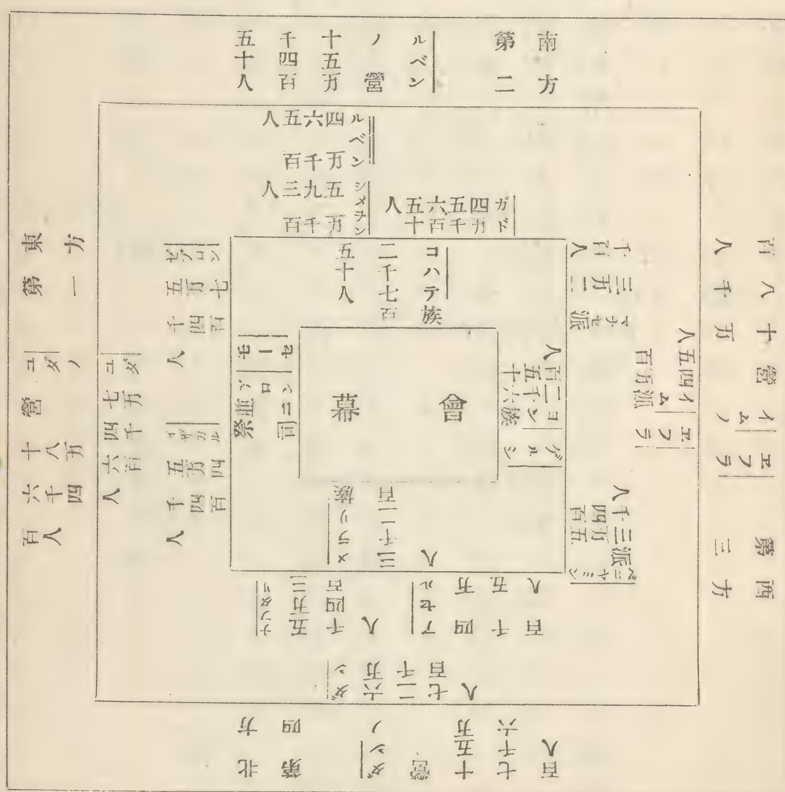
答　一月以上の男子二萬二千八人(三章三十九節)此内八千五百八十八人は撰れて幕屋の職務をなせり(四章四十八節)

第九問　各營の配置順序を問ふ

答　中央に幕屋あり之より凡一里半を離てダン族營を布き他の各族

其四周を繞りて旗を揚げ各營を列ねたり各の營の門は幕屋に向

イスラエル列營ノ圖



けて立られしならん蓋ハ營の內より自由ふ禮拜をゑさむためなり

十二族を四隊に分ち一隊ハ三の支派より派る

幕屋の東方ふてユダイツサカル及ゼブロンの支派前驅とゑり南方ふてルベンシメヲンカドの數派第二隊とゑり又第三隊のエフライムマナセベニヤミンハ西方に第四隊即押後のダンアセルナプタリハ北方に神のモーセふ命ずる所ふ從ひ各營を次れり

第三章

第十問　レビ族ハ幕屋の何の方ふて其營の順序ハ如何ゑるや

答　モーセアロンハ祭司と共ふ東方ゑる幕屋の前にレビの三子メラリーハ北方即ち其左にコハテハ南方即ち其右に然して西方ゑる其背後ふゲルションハ營を布けり

第十一問　モーセ及アロンハ何の支派の中に在しや

答　コハテの支派の中ふ在し

第六章

第十二問　モーセはイスラエル人に何なる祝福を表明せしや

答　モーセ民に曰けるはエホバ汝等を福し汝等を佑け其光を以て汝等を照して恩を施し又平康を賜はん

第八章

第十三問　レビ人は何歳にて幕屋の職に去就せしや

答　二十五歳に職に就き五十歳に至りて罷む

第九章

第十四問　曠野にてイスラエル人を前導し者は何ぞや

答　雲晝は幕屋を覆ひ夜は火の如く顯るれは民之を見て進又止まり或二日或一月或一年の間といへども雲其上に在れば民止まり雲昇れは乃進めり

第十章

第十五問　銀の喇叭を製し且之を用るに何なる命令ありしや

答　鑄製にあらず打延の喇叭二個を造り發足の時會衆を呼び戰の時衆を勵まし又祭典に用ゐることとなり

第十六問　モーセ偕行かん爲め誰を招きしや又其理由ハ如何

答　妻の兄弟なりモーセ曰けるハ汝我と偕來れ我儕汝を懇切待遇ハん蓋ハ曾て神イスラエル人へ善言を以て諭し給ひたれバなりとホバブ肯ハざるによりモーセ再び勸め曰けるハ神の我儕に爲し給ふ善を我等亦汝になさむと是に於てホバブ肯へり

第十七問　契約櫃の起止にモーセ何と祈りしや

答　其進やモーセ祈りけるハ主よ起ちて主の敵を散し主を恨む人を去しめ給へと又其止まりし時主よイスラエルの衆庶と在ハし給へと祈れり

第十一章　怨言と探偵

第十八問　イスラエル人ハシナイの野より何處へ進しや

答　バランの野なり

第十九問　民の怨言ハ如何

答　民旅の勞に神を怨言によより火營の極處に在る者數名を焚亡せり民モーセに哭ければモーセ神に祈りて火熄たり故に此地をタベ

ラと稱す之を譯けば燃の義なり

第二十問　次に民の怨言ハ何ぞや

答　マナに飽き肉を欲せり

第廿一問　是に於てモーセハ大に感じて何を爲せしや

答　モーセ悦びずヱホバに曰けるハヱホバよ何ぞ爾の僕を苦め給ふや衆民我前に哭て肉を求む我何處に之を得て彼等に與ん我任重くして耐難し生て是苦を見むより寧我を殺し給へと

第廿二問　ヱホバモーセに何を命じたまひしや

答　ヱホバハモーセに民の長老七十人を携へて幕屋に至ることを命じヱホバ雲中に降りてモーセの上に在る聖靈を彼等にも與へ同く民の事を任じてモーセの勞を輕くしたまへり

第廿三問　ヱホバの民に下し給ふ命令ハ如何

答　汝明日肉を得食して期月に至り後厭惡んと

第廿四問　七十人が聖靈を受し後何を爲せしや

答　彼等預言を述たり其中ヱルダデメダデの二名ハ幕屋に適ず營に

止りて預言せりヌンの子ヨシユアは之をモーセに訴へければモーセ彼を戒め曰けるは願くばエホバの民へ聖靈感じて悉く預言せんことを

第廿五問　何にして鶉を與へられきしや

答　エホバ許多の鶉を與へたまひ其肉民の口に在て未だ嚙盡さゞりしに大なる災降きり故に此地をキブロテハツタワ即ち貪の墓といへり

第十二章

第廿六問　アロンとミリヤムがモーセへ怨言せし理由如何ん

答　モーセ曾てクシの女を娶しによりてなりアロンとミリヤム曰けるはエホバ獨りモーセのみに假り我等に假て言はざりしや

第廿七問　モーセの性質は如何

答　モーセの人と爲天下に勝て溫和なりし

第廿八問　エホバは何處にモーセアロンミリヤムを召し又何を告げ給ひしや

答　彼等がモーセを畏れざるを責め又モーセがエホバに重んぜられエホバ之と面晤せしこと及モーセなること等を知しめ給へし

第廿九問　次の如何なること有しや

答　雲亦幕屋を離たればミリヤム癩病に罹り色雪の如くなれりアロンモーセに言けるは我等は愚昧にして罪を取れり願くば我主よ罪を我等に歸せしめ給ふこと勿れ又ミリヤムをして死する者の如くならしめ給ふ勿れとモーセエホバを籲びミリヤムを醫し給はんことを祈れり

第三十問　神は幾許の間ミリヤムの入營を禁じ給ひしや

答　七日なり民はミリヤムの再び入營を許さるゝまで其處に止まりし

第卅一問　其後イスラエル人は何處に營を布きしや

答　カナン國の南堺にしてシナイ山より十一日の旅路なるバランの野に營を立たり

第十三章

第三十二問　幾人カナンを探偵せしや

答　各支派より一人宛即ち十二名なり

第三十三問　此等の人ハ誰の命によりて遣されしや

答　神の命なり然れども其原因ハ人民より生ぜしものにて不信仰の結果なり

第三十四問　彼等の旅行と其報知及其成績ハ如何

答　彼等許多の組に分れ四十日の間ジンよりホレブまでの地を巡視て歸り報じけるハ彼地果して乳と蜜を流す國にして此其果なり然ども民強くして城も亦大なり其中に丈夫ありて居れりとカレブとヨシユアの他の探偵者曰けるは彼我等より強くして我往く能ハず我等を以て之に較バ恰も蝗蟲の如きものなり

第十四章

第三十五問　衆會の怨言と又カレブヨシユアの之に告してとハ如何ん

答　衆會大に號びモーセとアロンに向ひ我儕埃及或は曠野に於て死せざるを恨む我等一長を立て埃及に歸へらしめよと怨言し

にモーセとアロン面を前に伏せりカレブ及びヨシユア其衣を裂き曰ひけるは其土甚だ美なり神我等と共に在せば必ず我等を導き其地に至らせたまふ故に其民を懼るゝ勿れと是に於て衆會石を以て彼等を撃たんとせり

第三十六問　此際何が幕屋に顯れしや又神如何に彼等を罰せんと告げたまひしや

答　エホバの榮光幕屋に顯れたり神モーセに諭して曰けるは我民の中に奇跡を顯はせし事幾許ぞたゞ民我を信ぜず我を侮りて已なからんとす我災を降し此族を殄し獨り汝を熾ならしめ大國と成さんとすと

第三十七問　モーセの仲保となりしことは如何

答　モーセは神の譽の穢れんことを慮ひ民の罪を赦し給ふことを歎願せり蓋は埃及と斯地の民が神の民を導きて彼地に入らしむる能はざるにより野にて滅したまへりといわんことを思へばなり

第三十八問　神は民の怨言と謀反を如何に處置し給ひしや

答　カレブとヨシュアを除き二十歳以上の者は盡く野に斃れ其子孫彼地を伺察せし日數四十日に從ひて一日を一年とし四十年の間曠野に盤旋ひ又探偵者の中歸て怨言きしものを疫を以て死せしむることなり

第十五章　コラの叛逆

第三十九問　安息日に薪を採し者の罰如何

答　エホバモーセに諭しけるは衆會彼を營外に出し石にて之を撃ち其人を必ず死なしめよ

第十六章

第四十問　コラの叛反の物語を爲す可し

答　コラダタンアビラムヲン及び名望ある會長百五十人モーセアロンを攻め曰けるは衆會皆聖なり汝奚んぞ自らエホバの衆會に超越ものとするや

第四十一問　斯時モーセの擧動如何

答　モーセ地に俯し曰けるはヱホバ必ず明日汝等に孰きる主の僕なるや孰かヱホバの前に進む可きものなるやを示し給わんと

モーセ彼等に明日香爐を取りヱホバの前に來る可しと命ぜり

第四十二問　コラの黨の罪は何んぞや

答　ヱホバに叛反を企て己の僭越を欲してモーセ及びアロンを妒みしことなり

第四十三問　衆會幕屋の門に集まりし時ヱホバ何をモーセアロンへ命じたまひしや

答　我斯衆會を滅さんとす汝ぢ迅かに之を離るべし

第四十四問　是に於てモーセアロンは如何なる乞宥の祈を爲せしや

答　モーセとアロン伏して曰けるは主よ億兆に生命を賜ふ神よ一人の罪によりて衆會を怒りたまふや

第四十五問　是に於てヱホバは如何なる命を下し給ひしや又叛黨の運命は如何

答　衆會は必ずコラダタン及びアビラムの幕を遠かるべしとモーセ逆黨の滅亡を預言し竟りければ土地裂けて彼等も其家族所有品等を呑み地閉ぢたりイスラエル族は其號呼を聞き遁れ去れり又エホバの火の爲に二百五十人悉く死せり

第四十六問　何故香爐は保存せられしや

答　エホバの前に香を焚て事ふるは唯アロンの子孫のみに任ぜられしことをイスラエルの族に知せん爲に保存せられたり

第四十七問　其翌日起りしことは何ぞや

答　其翌日逆黨再び起りモーセとアロンにエホバの民汝等の爲に殺されたりと怨言ければ疫病の爲め死する者一萬四千七百人ありし是に於てモーセアロンに命じて香爐を取り趨りて衆會の生者と死者との間に立ち衆に代り其罪を贖ひければ厥災遂に弭めり

第十七章

第四十八問　祭司の職はアロンと其子孫にのみ屬することを證せんためエー

ホバは何を爲すべく命じたまひしや

答　各族より一の杖を幕屋に取集め特にレビ族の杖にアロンの名を書すことなり。

第四十九問　其結果如何

答　アロンの杖に芽を生じ花開きて巴旦杏の菓を結べり是に於て會衆語けるは我儕死亡なんエホバの幕屋に近づく者は必ず死なんと

第五十問　アロンの杖は如何になりしや

答　幕屋の契約櫃の中に保存せられてレビ族が祭司の職に選れしことを記憶せしめたり

第二十章

メリバに於てイスラエル族の罪惡並に黄銅の蛇

第五十一問　イスラエル人は三十二日の後何處に至りしや

答　ジンの野ガデシに至れり

第五十二問　イスラエル人旅行中其布營の地を除き記載されざること幾年

第十六問　モーセ偕行かん爲め誰を招きしや又其理由ハ如何

答　妻の兄弟なりモーセ曰けるハ汝我と偕來れ我儕汝を懇切待遇ハん盖ハ曾て神イスラエル人へ善言を以て諭し給ひたれバなりとホバブ肯ハざるなよりモーセ再び勸め曰けるハ神の我儕ホ爲し給ふ善を我等亦汝になさむと是に於てホバブ肯へり

第十七問　契約櫃の起止にモーセ何と祈りしや

答　其進やモーセ祈りけるハ主よ起ちて主の敵を散し主を恨む人を去しめ給へと又其止まりし時主よイスラエルの衆庶と在ハし給へと祈きり

第十一章　怨言と探偵

第十八問　イスラエル人ハシナイの野より何處へ進しや

答　バランの野なり

第十九問　民の怨言ハ如何

答　民旅の勞に神を怨言なより火營の極處に在る者數名を焚亡せり民モーセホ哭けれバモーセ神ホ祈りて火熄たり故に此地をダベ

撃てば水即ち湧出たり

第五十七問　エホバ如何にモーセを諭したまひしや

答　汝我を信ぜず又イスラエルの子孫の前に我を聖くせざるによ
り汝斯會を約束の地に導き入ることを得ずと

第五十八問　此處を何と云ふや

答　メリバと云ふ爭の意なり

第五十九問　エドム王に如何なる願をなせしや

答　エドム國を通行することなりエドムはエサウの裔なるにモー
セ彼を兄弟と云へり彼此願を免さば通行の際田園に入ること
なく又井水をも飲むことあらじと約束せり然れどもエドム王
は許さゞりき

第六十問　次に民の止りし所又其處に起りし事は何ぞや

答　ホル山なり此處にてアロン死せり

第六十一問　アロンの死に就き重大なる事柄を述よ

答　エホバ曰けるはアロンはメリバにて我に背しにより己の族に

歸り約束の地に入ることを容さずと又モーセにアロンとエリアザルを山に伴ひアロンの禮服を脱ぎてエリアザルに着せしめよと命じ給へりアロン山の巓に死しければ民三十日の間喪を守れり

第二十一章

第六十二問　次に民の怨言は何ぞや

答　エドムに境する曠野を行く時水なく又常に食する所のマナを厭ひて怨言けり

第六十三問　民いかに罰せられしや

答　毒蛇許多の人を咬殺せり

第六十四問　民如何に痛悔し又其傷の痊されしこと如何

答　民モーセに曰けるは我等曾てエホバと汝を攻めしにより今此罪を獲たり願くは我等の爲に祈り給へとモーセ民の爲に祈りければエホバモーセに命じて黄銅の蛇を製りて竿に懸け負傷者の之を見るによりて其生を保たしめ給へり

第六十五問　此蛇ハ何の表なるや

答　キリストの表なりモーセ野に蛇を擧し如く人の子も擧らるべし凡て之を信ずる者に亡ぶることなく永生を受けしめんが爲なり(ヨハネ三章十四、十五節)

第六十六問　ユダヤ人ハ何と之を呼びしや

答　奇跡中の奇跡と云へり夫れ黄銅ハ毒蛇の咬傷に害あるものなるに神ハ之を以て理外の治療をなせり

第六十七問　黄銅の蛇ハ如何にされしや

答　七百年の間保存されしが終に善良なる王ヘゼキヤに毀たれたり蓋し民香を焚き之に禮拜せしによる

第六十八問　イスラエル人ハアモリ王シホン及ハシヤン王オグとの戰爭に於て如何なる勝利を得しや

答　イスラエル人彼等を生擒り其國及都府を獲たり

第二十二章

バラム

第六十九問　イスラエル人は次に何處に陣取せしや

答　ヨルダンの近傍モアブの地なり

第七十問　モアブの王は誰ぞや

答　バラクなり

第七十一問　モアブ人はイスラエル人を見て如何にせしや

答　モアブ人イスラエル族の數多なるを懼れ甚憂てメデアンの長老に曰けるは此群草を食ふ牛のごとく我儕の四方を呑まんとす

第七十二問　バラクは救助を誰に請しや

答　モアブとミデアンの長老を使者としてバラムのもとに遣せり

第七十三問　バラムは誰ぞや

答　バラムは魔術に熟練せる名高き卜者にてシモンマガスの如く民に預言者と呼きしものなり

此シモンマガスハ神の大なる能なりと呼きし程魔術を以て民を駭かせしものなり（使徒行傳八章十節）バラムはモアブの東エフラテの

河に沿たるメソポタミヤに住居せり

第七十四問　長老等の遣されし主意並にバラムへ獻げし禮物は如何

答　長老等はバラムへト筮の謝金を呈し曰けるは埃及より來りし民普く地に充滿す汝來りて之を詛ひて出さしめよ

第七十五問　エホババラムに何を言ひ給ひしや

答　神バラムに曰たまひけるは汝彼等と偕に往く勿れ斯民を詛ふ勿れ蓋は彼福を受しものなればなり

第七十六問　バラクの使節にバラムの返答を述よ

答　バラム使節に曰けるは神我汝と偕に行ことを許したまはざれば汝皈る可しと最後にバラムは不信により神の諭に從ひ答へざりき

第七十七問　バラクの第二回の使は如何

答　バラク更に前より位高き使臣を遣しバラムに曰けるは我汝に高位を與へ凡て汝が好む所のものは我之を與へん願くは汝來て彼等を詛へ

第七十八問　バラムの返答を述よ
答　バラム答へけるは假へバラク室に盈る所の金銀を我に饋るとも我エホバの命に違ず
第七十九問　是夜エホバ、バラムに何の許可を與へたまひしや
答　人來て招かば行く可し然ども我諭す所のことをなんぢ必ず遵ふ可し
第八十問　バラムの旅路に起りし事を述よ
答　エホバの使劍を拔きバラムの前に立ければバラムの驢之を避けて其道を行ざること既に再度なりしも策ちて途に循せしめたり次に驢途に天使の前に伏しければバラム大に怒り復之を策ちたりエホバ驢の口を開きければ驢バラムに向ひ我汝に何を致せしぞ我は汝の昔より今まで常に乘る所の驢にあらずやといへりエホバ、バラムの目を啓きければ彼天使の前に立を見躬を鞠めて伏せり天使バラムが驢を策ちしことを責め曰けるは汝何ぞ三次驢を策つや若我を見て避けざりしならば我驢を

救ひ汝を殺せしならんと是に於てバラム己の罪を悟り歸らんとせしに天使曰けるは汝行を許さるされど唯エホバの諭し給ふ所に從ひ語る可し

第八十一問　バラクはいかにバラムを接待せしや

答　バラク彼をモアブ境に迎へ初の使節と共に來らざりしを歎けり其後牛羊をモアブの神に献げ又彼等に餽きり

第八十二問　バラムの返答を述よ

答　バラム曰けるは我敢てするにあらず唯神の諭を語るのミ

第八十三問　バラクはイスラエル人を詛はんためバラムを何處に伴ひ行きしや

答　(一)バアルの高邱(二)ピスガ山の巓(三)ペオル山の巓に伴なへり

第二十三章

第八十四問　イスラエル人を詛はんとせしバラムが最初の企如何

答　バラムはバラクに命じて七の壇を築き壇毎に一の牛と一の羊を供しめバラクを壇の側に殘して己は神の諭を蒙らん爲高き

山に昇り夫れ壇と牛羊を以て神の聖意を得んとせし彼の謀計を神は却て聖旨を遂げる要具と爲し給へり

バラムバラクの許に歸りし時譬を以てイスラエルを祝し其安全を述たり蓋神の詛ひ給はざるものはバラム詛ふこと能ざればなり彼また孰るのヤコブの裔を計ることを得ん願くは我を義人の死の如く死せしめよといへり

第八十五問　バラクはバラムを導きてピスガの巔に至りてイスラエルの一部を見ることを得て其願を遂げ得しや

答　否神詛を變じ前より大なる幸福を民に與へたまふ故にバラムはバラクに其念慮の道理に適ざることを諭たり其故は(第一)神は是にして非なく人間と異なりて言ことして行はざることなく語る所として應ぜざるはなし今神我に命じて民を祝せしむ我いかでか神に反き民を詛ふことを得んや(第二)イスラエルは神の前に咎なくヤコブの家に罪なし(第三)ヱホバなる神は斯民の王にして民呼てヱホバの祐を求む故に其勢昌にして埃及より出

し途次誰も之に觸るゝなしバラム又曰けるはヤコブを攻む邪術其利なくイスラエルを擊つ其占道なしと又バラムも豫め彼等のカナンの國にての勝利を語りけるは斯民は獅の如く死せし者の肉と血を飲食せざれバ偃さずと

第二十四章

第八十六問

バラム占の術を廢し後如何なる成切ありしや

答

バラム邪術の無益なることを知りて之を廢し唯曠野を望み目を擧てイスラエルの營を見忽ち神の靈に感じ曰けるは神の言を聞ける者全能の神の顯はるゝを見たり又彼等の幕の美しきと其隊伍の正しきを視美なる哉ヤコブの營イスラエルの幕其形萬谷の綿亘せるが如く河濱の園の如しと曰へり次にバラム彼等の榮昌と發達に就てイスラエルの裔は水の器に溢るゝが如く其王はアガグより高かる可しと預言せり彼等の埃及より出してとゝカナン國の勝利を思ひ曰けるは其捷てと兕の如く其蹲伏する獅の如し孰か之に攖るものあらんやと遂にアブラ

ハムの祝詞を固して汝を祝する者ハ祝せられ汝を詛ふものハ詛はる可しと云へり(創世記十二章三節)

第八十七問 是に於てバラクの擧動如何

答 バラクハ怒と失望とを以て掌を皷ちバラムを攻め彼が故郷に歸ることを命じたり

第八十八問 バラムが救世主に付ての預言如何

答 バラム曰けるは我彼を(救世主)觀んたゞ目前にあらず(此言は一千五百年の後を指すものにして猶は富人の遙かにアブラハムを見しが如しイスラエルより大權興りヤコブより明星出て其國を廣大にしてモアブエドムアマレクカイン等其攻を受けんエベルを虐ぐるものも亦永滅せん

第八十九問 バラムの物語尙あるや

答 バラムミデアンに至り此處の婦女をイスラエル人に與へて罪に誘んことを謀りしが數ケ月の後イスラエル人とミデアン人との戰爭に及に罹りて死たり(民數記三十一章八節)

第九十問　バラムの罪惡と其結果は何ぞや

答　バラムはバラクに敎へてイスラエルの民に偶像に獻し物を食はせ姦淫を行はしめたり是は多分ミデアン人に薫陶かされしモアブの婦女によりて彼等は邪徑に導びかれしならん是に於てエホバ大災を降し死するもの二萬四千人なりき

第二十五章

第九十一問　斯災は如何にして斷されしや

答　祭司エレアザルの子ピネハス戈を揮てシメオン人の長ジムリ及ミデアン族長の女コズビを殺しければ災忽ち止まれり彼此功を以て神より平安の約束を受け其子孫祭司の職を世襲げり

第九十二問　ミデアン人イスラエル人を罪惡に導きしにより何なる罰を蒙りしや

答　モーセの命を以て潔き婦の外諸民悉く亡ぼされ都邑獸畜財貨等イスラエル人の手に落たり

第九十三問　この戰にイスラエル人死傷せしや

答 一名も死傷せず

第二十六章

第九十四問 イスラエル人の計算を復び何處に爲れしや

答 モアブの平地に於てせり

第九十五問 イスラエル人は幾何ありしや又初度の計算に比して何名の差ありしや

答 六十萬一千七百三十人なり而してシナイ野の計算に寡きこと一千八百二十名なり

第二十七章

第九十六問 セロペハデの女等の請求及其結局如何

答 彼等の父セロペハデは曠野に於て男子なくして死しければ女等父の姓系の絶へんことを畏れ父の兄弟に家督を請ひければモーセ之をエホバに啓せりエホバモーセに諭し給ひけるはセロペハデの女等の言是なり必ず父の遺産を以て彼等に歸す可し

斯事は即父男子なくして死せば父の家督其女子に歸するの例を立られたり

第九十七問　ヱホバモーセの死することとろのあと續者の事に付て約束は如何

答　ヱホバはモーセをアバリム山に登りイスラエルの子孫に與し地を眺望しめろこに死すべしと命じ又ヌンの子ヨシユアを連て祭司エレアザルと全會衆の前に立せて彼らの前にて之がわと續の職を取しむことを命じ給へり

第廿八章より第三十一章迄省畧す

第三十二章

第九十八問　ルベンガドマナセの半族は何地を請求せしや

答　此三族はアモリ王シホンベシヤン王オグの屬地なるヨルダンの東の地を願へり蓋は美しき遊牧の地にして民に數多の牲畜わきばなり

第九十九問　何故モーセハ彼等の願を許可せしや

答　彼族の軍人ハ其兄弟等と相助けてカナン國を取るべしと約束せしによりモーセ彼等の願を許したり

第三十四章

第百問　カナンの地ハ如何に分配せられしや

答　モーセヨシユア及各族中より一人の首長撰べきて分配の務を執きり其資産を分つ例を嗣業者の多寡に取る

第百〇一問　カナン國の廣袤ハ幾何なるや

答　長さ殆と百六十里にして廣さ五十里なり

第三十五章

第百〇二問　イスラエル人の為めに幾何の逃邑を設けしや

答　六ツなり誤て人を殺せしものゝ如きハ斯邑に遁れて生を保てり

舊約史畧民數紀畧　終

申命記(復傳律例)

紀元一千四百五十一年

開闢二千五百五十三年

律法の申ねて記されしこと

第一問　此書の由來を述べよ

答　此書の名は律法を申ねて記すと云ふ意を含むものにしてモーセがイスラエルの民を導きエリコの向面なるカナンの國界に一ケ月の間停留りし時新なる民即ちシナイ山にて律法を授かりし以來に生きたる者に授けし書なり此書にモーセが二ツの旅路を眺め見ることを記るせり其一は往路のカナン國にして其二は來路の曠野なり

扨てモーセ顧りてホレブと稱するシナイ山よりヨルダンまでの旅路を望み新しき民に其先祖が旅の中頑梗にして謀叛を爲せし如何と上帝の恒忍と寬容なると寵愛と其奇跡と上帝より授かりし律法と禮儀とを申ね記して之を說明し更に種々の律例を設け

て民の之に從順なんことを戒めたり又カナン國の榮華と富實を語りて上帝の必ず此地を與へ給なんことを誓ひ嚴しく民に偶像を斥け聖旨に從て諸ての惡をなさずして律例と禮式を守るべきことを命ぜりモーセ民に約して曰けるハ人々上帝に從へバ彼汝を祝し離るれバ記の中にある所の詛汝に來るべしとかくしてモーセ此記の末に民を祝し將來の預言と感ずべき演說を爲し終にニホル山の巓より約束の地を眺めてモアブの地に死たり此書ハモーセの喪三十日を除きて一ケ月間の事を記せり。

第二問　ペンタチユーク即ち律法の書の貴べる所以ハ如何

答　其故三つあり第一ハ以色列王親から寫して常に之を學びしこと第二ハイスラエル族ヨルダン河を濟りし時大なる石炭石に之を記せしこと第三七年毎に幕屋節の時祭司イスラエル全族の前に之を朗讀せしこと

第三問　前に掲る外尚此書に格別なる事杯あるや

答　然り此記ハ年高き先祖モーセの不忠なる彼子孫への最後の勸と

思はる其教訓の懇切と慈愛に充たるを以て格別に感ずべき經典となれり又此記は文雅なる論法と詩學の摸範とすべきもの多く其教歌民を祝せし等により其身體も精神もことに壯健なることを顯せり彼前記にては立法者として上帝の授け給ひし律例を布告し此記に於ては講議者となりて之を説明し民を勸め民を警むるに言語簡短聞く者を感ぜしめたり主イエスは此書の經言を引てサタンの誘に勝ち給ひしは此書の譽にして使徒の如きも折簡の中に屢之を引用せり(加拉太書三ノ十〇使徒行傳三ノ二十二〇羅馬書十二ノ十九〇)

第四問　モーセの死の狀を述よ

答　モーセ民に歌を授け各族を祝し單身モアブの地に進みてエリコに對するピスガ山の一の巔に到りけるにエホバ彼にカナンの全國を示し其死するや之をモアブの谷に葬りたまへりしかし今日に至るまで誰も其墓を知る者なし民其死を以て三十日の間喪を擧げたり

第五問　モーセの性質を述べよ

答　モーセは舊約書中最大の預言者にして上帝彼に依て律法を授けユダヤ人の教會を立給へり他の預言者の如きは種々の警戒箴言と命令預言等を授けたまひしのみにして預言書の終りに至ては唯モーセの律法を忘るべからずと云ふに過ぎず特にキリストは屢モーセが經典に照して教を爲し我が日を遙に見又我に就て語りしものとして彼を己れの證人と爲し給へりモーセ死するまで肉體も精神も最強健にして齡百二十歲を迎へしと云ふ民の崇めて淫祀に陥らんことを恐れ其墓は匿されたり且說上帝の民の中モー



モーセピスガ山よりイスラエルの地を眺めし圖

ーセより大なる預言者は未だ起らざりしろは彼の如くエホバを能く敬ふ預言者なりけきむなりたとへモーセ死して體は朽るも彼はの言語はイスラエル人の中に存して限りなしと云ふべし

舊約史畧申命記終

重大なる年表

	紀元前
創造より洪水まで	四千零々四年より二千三百四十八年に至る
洪水よりアブラハムの召まで	二千三百四十八年より一千九百二十一年に至る
アブラハムの召より埃及の移住まで	一千九百二十一年より一千七百零六年に至る
埃及の移住より其出發まで	一千七百零六年より一千四百九十一年に至る
イスラエル人の埃及を出るよりヨルダンを濟る迄	一千四百九十一年より一千四百五十一年に至る
通計	二千五百五十三年

重大なる事情

	紀元前	
創造		四千零々四年
罪に陷る	仝	四千零々四年
洪水	仝	二千三百四十八年
離散	仝	二千二百四十七年
アブラハムの召	仝	一千九百二十一年
神アブラハムとの契約を新にす	仝	一千八百九十七年
イサク生る	仝	仝

イサク供へらる	紀元前	一千八百七十二年
エサウ及びヤコブの誕生	仝	一千八百三十六年
アブラハム死す	仝	一千八百二十一年
エサウ其家督を賣る	仝	一千八百零五年
ヤコブエサウの祝を奪ふ	仝	一千七百六十年
ヤコブメソポタミヤに逃る	仝	一千七百六十年
ヨセフの誕生	仝	一千七百四十五年
ベニエルにてヤコブ天使と角力を爲す	仝	一千七百三十九年
ヤコブベテルに往く	仝	一千七百三十二年
ヤコブヘブロンに往く	仝	一千七百二十九年
ヨセフ賣らる	仝	仝
イサク死す	仝	一千七百十六年
七年の飢饉はじまる	仝	一千七百零八年
ヤコブとその家屬埃及にくだる	仝	一千七百零六年
ヤコブ死す	仝	一千六百八十九年

ヨセフ死す	仝	一千六百三十五年
モーセ生る	仝	一千五百七十一年
モーセミデヤンへ逃る	仝	一千五百三十一年
モーセ召さる	仝	一千四百九十一年
十の災害及びエジプトの出發	仝	仝
律法の賜	仝	仝
幕屋の建築	仝	一千四百九十年
モーセに向ひ反逆せし事	仝	一千四百五十二年
ホル山にてアロン死す	仝	仝
バラムの預言	仝	仝
モーセ死す	仝	一千四百五十一年

約書亞記

紀元前一千四百五十一年より一千四百二十五年に至る
開闢貳千五百五十三年より貳千五百七十九年に至る

第一問　舊約書中歴史の書とハ何ぞや

答　ヨシユア記の開卷よりエステル記の終までを云なり（共に十二卷）

第二問　歴史の書に如何なる事實を記すや

答　即ち神の公會の歴史にしてイスラエル人がカナン國へ進軍の時に初り民のバビロンより歸るに終り一千餘年間の事實を記すものなり

第三問　ヨシユア記の重なる事柄と其順序を述よ

答　此記ハモーセの後嗣ヨシユアに支配せられしイスラエル人の歴史にして分つて四部となす第一ハイスラエル人カナンの進軍及び其舉動（本書一章より五章まで）第二ハカナン國の征略と滅亡にて（同六章より十二章まで）第三ハイスラエルの各族國土の分配（同十三章より廿二章まで）第四ハヨシユアの死する前に神の敎法の

立らるゝなとなり

(同二十三四章)

第四問　此記ハ幾年間の事を載するや

答　殆ど二十六年なり

第一章

第五問　ヱホバのヨシュアを勗めたまふこと如何

答　ヱホバヨシュアに曰たまひけるハ汝と此民皆起て此ヨルダン河を濟り我イスラヱルの民に與る地に往汝の畢生人よく汝に抵抗することと能ハず我曾てモーセと偕にありし如く汝と共にありて汝を離れずまた汝を棄ざるなり強あれ且勇よ汝ハ我誓て其列祖に與へんと云し此地を此民に嗣すべきなり

第六問　ヱホバ又如何にヨシュアを諭したまひしや

答　たゞ強く且勇て我僕モーセの命ぜし法を守りこれを離れて右と左にゆくなかれ汝の往く所に於て利達んがためなりまた法のこの書を口より離さず日夜之を思ふべし然バ汝の途利達て汝

の福とならん驚て懼る勿れろも汝の神エホバ汝と偕におきべなり

第七問　ヨシユア民の有司等に何を命ぜしや

答　汝等陣營をめぐり民に命じてかくいへ汝ら三日の中にてのヨルダンを濟らん爲め糧の預備をなせ

第八問　全ての族は河を濟りしや

答　ルベン人ガド人及びマナセの半族は其妻幼者及家畜を率てモーセの彼等にわたへしヨルダンの東の地に止りたりたゞ勇士は皆伍を整て兄弟の前にわたり彼等に地を嗣しむるまでこれを助けたり

第九問　ヨシユアの命に民何と答しや

答　汝の命ずる所我等凡て之を行はんと云り

第十問　民をヨシユアの權威に從はしめし條例は如何

答　其命令に逆き又其命言を聽ざるものは殺るべしとの條例なり

第二章

第十一問　ヨシユア地理を斥候ため幾名の偵者を遣しや

答　二名なり

第十二問　此人々は如何にしてヱリコ王の手を脫れしや

答　妓婦ラハブ既に偵者を屋上に陣列たる麻の莖の中に匿し時ヱリコ王の使ラハブの許に偵者を索めければラハブ之に答て曰けるは誠に我許に來りしかども我彼等は何より來れるものなるやを知らず且既に瞑なりて彼等此より出行けり其跡を追ひなばそれに及ばん

第十三問　ラハブは偵者を出さゞりし前如何なる願を爲や

答　彼等カナン國を略有せん時其全家に憐を施し死より救はんことを願へり

第十四問　如何なる事情ありて二人の者はラハブの願を承諾せしや

答　三の誓あり（其一）はラハブ彼二名を縋下せし其赤繩を牖に繫ぎイスラエル人へ其家をしめす事（其二）はラハブが救助を願ひし人々は皆集て其家に留ることを（其三）はラハブ偵者の爲んとする所を秘

することゝなりさて彼等言けるハ汝もし我等の職を他に洩せしならバ此誓に於て我等關りなからん

第十五問　ラハブ其國王に不忠なるハ如何にして義とせらるるや

答　ラハブハイスラエルの神エホバハ天地の神にして彼等に其地を賜りしなとを信ぜり然に彼仍敵(カナン人)に與し共にイスラエル人を禦ぎしならバ其罪免れざるなり

第三章

第十六問　イスラエル人ハヨルダン河を濟らんとて如何なる用意を爲しや

答　ヨルダンに至り三日の後有司等陣營を巡り民に命ずるに汝祭司レビ人の契約櫃を舁き進むを見なバ凡そ五百間ばかりを離れ契約櫃に從ひ行く可しと又ヨシュア民に告て曰けるハ汝等己れを潔めよそハエホバ明日汝等の中に奇跡を行ひ給へバなりと又エホバヨシュアに曰給ひけるハ我今日始てイスラエル人の前に汝を尊めんそハ我昔モーセと偕に在し如く汝と偕に在んことを汝等に知しめんがためなり

第十七問　祭司ヨルダン河を濟らんとせしとき如何なる奇蹟起りしや

答　ヨルダン河忽ち分れて上流の水は堆の如く立ち下流の水は鹽海に流れ入り契約櫃を舁る祭司等は河の中に立留まり是に於てイスラエルの衆みなエリコにむかひてその陸地を直線にわたれり

第四章

第十八問　此異蹟を記臆せんが爲め何をなせしや

答　ヨシユア十二人をわけ各一石をヨルダン河の祭司の駐足し所に取らしめギルガルに記念碑を築けり蓋はイスラエルの子孫及世界の人に疆なく神の大能を知しめ彼を畏れしめんためなり

第五章

第十九問　此奇蹟はカナン人等へ如何なる感念を起さしめしや

答　彼等は膽を寒し力を喪へり

○エリコ及アイ

第二十問　イスラエル人カナン國へ着せしや直ちに守し禮式は何ぞや

答　割禮なり凡そ埃及より來りし者は割禮を受け埃及を出るの後曠野

に生れし者ハ未だ此禮を受ざりしゆゑなり

第廿一問　此禮式を守し後エホバヨシユアに何とのたまひしや

答　我今日エジプトの恥を灑ぎぬと故に其地をギルガルとよべり

第廿二問　此後イスラエル人ハ何なる節を守しや

答　逾越の節なり

第廿三問　彼等如何なる食物を受しや

答　カナンの地の穀物を受けたり故に其食ひし次の日よりマナ降らざりき

第廿四問　誰がヨシユアに顯れしや

答　エホバの軍長と稱するものヨシユアに現れ曰けるハ履を汝の足よりぬぐべし汝の立所ハ聖なれバなりと是即ちモーセの死せし後神のヨシユアに顯れたまひし初にて曾て神のモーセに燃る棘の中より履を汝の足よりぬぐ可しとの命に同じ

第六章

第廿五問　ヨシユアのエリコを攻る事如何

答　ヨシユア是に於て祭司等ゞの契約櫃を舁き及七祭司ユビリの鉦を持ち共に邑を環るべく命ぜり此輩は六日間一日に一回其城を環り言語をいださゞりし第七日に至りて邑を環ること七度其七次目にヨシユア民に曰けるは叫よヱホバこの邑を汝らにあたへたまへばなりと石墻の傾くや民進て人畜を屠り火を放て之を焼けり僅にラハブと其眷族のみ全きことを得たり



エリコの城を陷いるゝ圖

第廿六問　ヨシユア掠奪物につき民へ如何なる命令をなせしや

答　呪べき物に於て自己を愼よ恐くば汝呪べき物をとらば己れも呪われイスラエルの陣營をも呪ふべき物となしてこれに災をかけんされど金銀及び銅鐵の器はヱホバに奉て之をヱホバの寶庫に納めよといへり

第廿七問　ヨシユアヱリコの再び建らるゝことを禁ぜしや

答　然りヨシユア曰けるは凡そ起てこの邑を建る者はヱホバの前に於てたゝりをかふむらん其基を築かば其長子を傷ひ其門を立つれば季子を傷なはんと

第七章

第廿八問　イスラエル人アイの敗北を述べよ

答　偵者アイをうかゞいヨシユアに返てきに曰けるは二三千人をのぼらせて之をうたしめよアイの民わづかなればなりとかくて三千人許かしてにのぼりしがアイの人の前より逃き三十六人殺されたり

第廿九問　此敗北はヨシユア及イスラエルの長老へ如何なる感念を起せしや

答　彼等地に伏首に塵を蒙り契約櫃の前にありてヨシユア曰けるは

イスラエルにして敵にうしろむけるば我何をか言わん

第三十問　エホバヨシユアへ何と云たまひしや

答　汝起よイスラエル罪を犯し我約にそむけり蓋は呪べき物を窃み僞りて己が分資の中に納めたればなり故に敵を抵抗ことあたはざりしなり呪べき物を汝曹の中より滅さざれば我再び汝等と偕にあるまじ

第三十一問　ヨシユアイスラエルを煩はせし者誰なるやを知ん爲何をなせしや

答　ヨシユアは各族をして己を潔て翌朝エホバの前にいで其族と其一族にしたがひて籤を掣らしめたり而してエホバの掣しものは火に燬きたり

第三十二問　誰が掣れしや

答　ユダ族のアカンといへる者なり

第三十三問　アカンはヨシユアに如何に語りしや

答　我子よ請ふイスラエルの神エホバを榮めて之に懺悔をなせ汝の行ひしことを我に告て隱すこと勿れ

第三十四問　アカンの返答は何ぞや

答　誠に我イスラエルの神エホバに罪を犯し我奪掠物の中にバビロンの美衣一枚と銀二百「シケル」および舌形金五十「シケル」のあるを見て之を貪取れり視よ我之を幕の中の地の下に隱せり

第三十五問　アカンの滅亡を述よ

答　ヨシユア使を遣わし是等の物を取りてエホバの前に置けり又アカンと其子女牛驢羊幕其他の所有物を取りアコルの谷に至らしめイスラエル人皆石をもて之を擊火にて之を燬石を其上に積めり

第三十六問　其處を何と云ふや

答　アコルの谷と云ふ即ち煩ひの意なり

第八章

第三十七問　アイは終に如何にして落されしや

答　謀計を以て落されたり

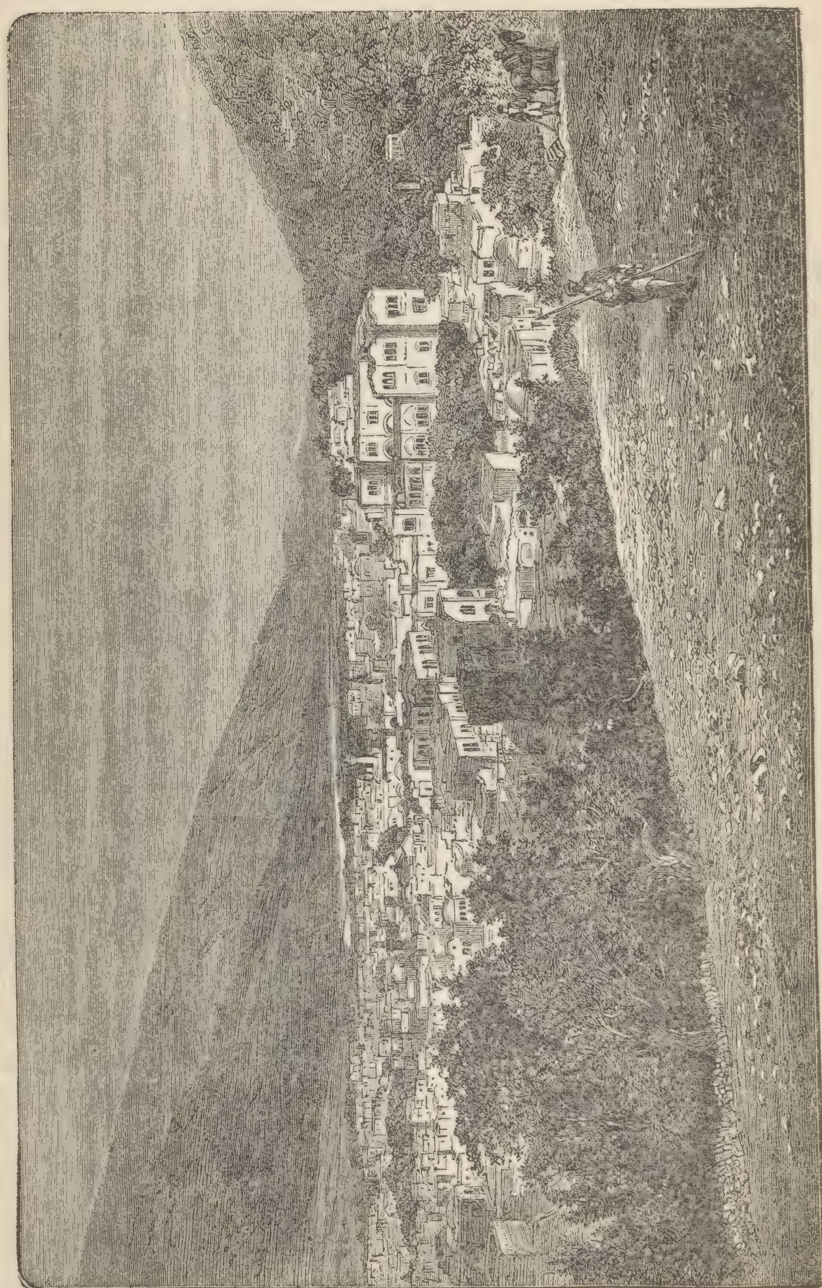
第三十八問　其策を詳説せよ

答　ヨシユア神より曾てヱリコになせし如くアイになし唯掠奪物は汝のために奪ふべしとの命を蒙り更にヱホバの命によりヨシユアイスラエル人を二隊となし其一隊を邑の後に伏せ其一隊を帥ひて邑の前に出しにアイの王彼等と戰んとて衆を引て進み來しがヨシユアとイスラエルの衆敗北さまをなして曠野の方に逃ぐアイ人之を追ひ遠く邑を離れしが伏兵其背後に起り火を邑に放てりヨシユア返戰隻敵も免すことなかりし是日死し男女一萬二千人アイの民全く盡く

第三十九問　アイ王の最期如何

答　イスラエルの衆アイの王を生捕りて木にかけ暮方其屍を邑門の入口に投げて其上に多の石をつめり

○エバル山ゲリジム山及ギベヨン人の事


セカムとゲルジム山の眺望

第四十問　モーセはエバル山に付ての約束を如何に命ぜしや

答　モーセ民に命じけるは爾ヨルダン河を濟りなばエバル山に大石を立て堊を以て之を塗り且之に律法を記すべし而してエホバの壇を築き燔祭と酬恩祭を献げエホバを祭るべしと當時シメヲンレビユダイッサカルヨセフ及ベニヤミンの六族をゲリジムに立て又ルベンガドアセルゼブロンダン及ナフタリの六族をエバル山に列ねレビ人は高聲にてエバル山より詛をよみゲリジム山より祝をよみ悉く律法の書に記す所に循ふべしと故にイスラエル人は是等を守るの義務を有てり（申命記二十七章）

第四十一問　如何なる詛と祝が布達されしや

答　詛は前に記せし誡に背きし者の爲にして雕刻又は鑄たる偶像を造る者父母を蔑如る者隣人の界標を移す者瞽者を其途に迷はしめ旅客孤寡を枉鞠する者其父の妻妻の母或は姉妹及獸類と牀を同したる者陰に隣人を撃つ者賄を受け無辜を害する者等は詛はるべしと

レビ人の詛を讀む每に律法のしるす所に從はざる者は詛るべしと言へる民之にアーメンと答たり
從順の故を以て福を受る各種は今之を畧す夫福は神の誡の一を守り他を忽にする者に屬せず蓋は其一を犯す者は是全を犯すものなればなり彼等其神なるエホバの誡の都てを守りしならば邑田子孫地の産物家畜牛羊藍盤等に到まで歸るにも往にも福あらしめしならん(申命記廿八章を見よ)

第四十二問　ヨシユアはモーセが與し此命令を守りしや

答　然り彼はエバル山に完全石の壇を築き燔祭と酬恩祭を獻じイスラエル人の前に於てモーセの法の表式を石に錄るせり又民を分ち其半はエバル山に其半はゲリジム山に至らしめモーセの命ずる所の事を悉く行へり

第九章

第四十三問　イスラエルに同盟せし王は誰等なるや

答　ヘテの王アモリの王カナンの王ペリジの王ヒビの王及エブスの王なり

第四十四問　ギベオン人は如何にして平和の定約をなせしや

答　詐を以てなりての詐露はれしと雖も彼等が立てし誓約のために其命救はれしと云ふ

第四十五問　更に此事を詳説べし

答　ギベオンの人使の如く詭りて出たち身に敝衣を纏ひ舊き食物を携へヨシュアに來りて誓約をなさんため遠國より來れる者なりと言ひ其舊き衣服食物及び酒の皮囊をいだし遠き旅の様を示しければヨシュア詐むかれて之と好を修めたり其後イスラエル人は彼が其隣人なることを知りたり

第四十六問　ギベオン人の衰運は如何

答　彼等イスラエルの子孫の僕となりしことなり

第十章

第四十七問　ギベオン人と戰ひし五王を問ふ

答　エルサレムの王アドニセデクヘブロンの王ホハムヤルムテの王ピラムラキシの王ヤピヤ及エグロンの王デビルなり

第四十八問　ギベオン人は誰に援を請ひしや

答　ヨシユアなり彼等ギルガルの陣營に言ひ遣はしけるは汝の僕をすつる勿れ速上て我等を拯ひ我等を助けよ

第四十九問　エホバギベヲン人を援ふべくヨシユアを勵ましたまひし言いかん

答　エホバいひたまひけるは彼等を懼ること勿れ我彼等を汝の手に付せしめむ一人も汝を抵抗こと能はず

第五十問　エホバイスラエル人を如何に惠みたまひしや

答　二の奇跡を以てせりエホバ雹をくだし交戰にて死せしよりも多の敵を殺したまふこと又日と月天中に停りて入らざることなり蓋耿光の下に敵を尾擊せしめんためなり

第五十一問　第二の奇跡によりて二の敎訓あり何ぞや

答　エホバは萬物の神にして自然の定則を止むるの力あるのみな

らず宇宙の元素やカナン人の神なる日月星辰等よりも最大なるものなり

第五十二問　王等の不幸ハ何ぞや

答　彼等マケダにありて穴にかくれければヨシュア穴の口に大石をつみ彼が戰場より歸りしときまでにいたれり其後彼等いだされしがイスラエルの軍長ハ足にて王の頸をふめり而して彼等を暮がたまで五本の木にかけしが木よりとりおろし再びこれを穴になげいれ穴の口に石をつめり

第十一章

第五十三問　カナンの他の王につき何事が話さるゝや

答　彼等イスラエルにむかひ同盟をなせしもイスラエル人と戰はんとメロムの水濱に宿陣せりエホバヨシュアに彼等を攻撃ことを勗め給へり故にヨシュアこれとたゝかひ彼等をほろぼせり

第十二章

第五十四問　ヨルダンの西方に於て亡ぼされし王は幾名ありしや

答　三十一の王なり

第十三章

第五十五問　イスラエルの子孫の得る所の地如何

答　九族半はヨルダン河の西の地二族半は其東の地を得たり

第五十六問　パレスタインの地圖に就て各族所得の位置を指示すべし

答　(該地圖を見よ)

第五十七問　何族が家業を讓られざりしや

答　レビ族なりそはイスラエルの神なるエホバに祭へし燔祭は其業なればなり

第十四章

第五十八問　何故にカレブはヘブロンを求めしや

答　モーセ彼に此地を約せりそは彼全くエホバにしたがひしによりてなり昔アナキの子此地を領せり而してカレブ彼等を逐ひ出せりと云ふ

第十八章

第五十九問 彼等何處に幕屋を移せしや

答 エフレイムの領地シロの邑に移せり

第十九章

第六十問 ヨシュアは産業を何處に受しや

答 エフライム山のテムナテセラなり

第六十一問 何處にて各族の領地を定めしや

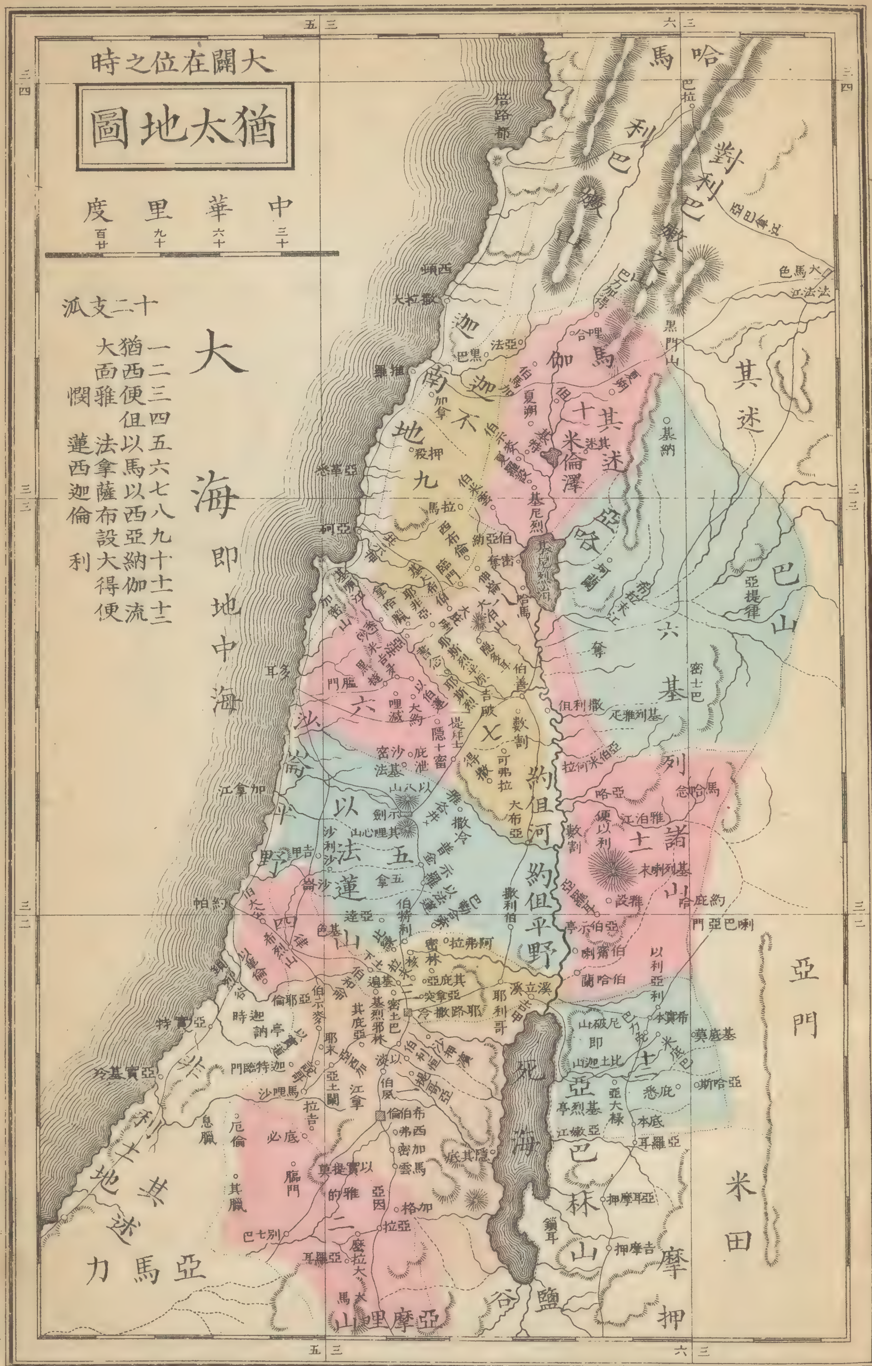
答 シロの會幕の門に於てなり

第二十章

第六十二問 如何なる所を避邑とされしや

答 ナフタリのケデシエフライムのシケムユダのキリヤテアルバ即ちヘブロン及ヨルダンの東なるルベン族の地のベゼルガド族の地のギレアデのラモテ又マナセ族の地のバシヤンのゴランなり

第二十一章


大闢在位之時
猶太地圖
中華里度
三十
六十
九十
百廿
十二支派
一猶大
二西面
三便雅憫
四但
五以法蓮
六馬拿西
七以薩迦
八西布倫
九亞設
十納大利
十一伽得
十二流便
大海
即地中海
死海
約但河
約但平野
亞門
米田
摩押
亞馬力
非利士地
其述
巴山
哈馬
亞捫
以法蓮山
迦密山

第六十三問　レビ人のために幾干の邑が設立されしや

答　四十八なりレビの族は皆ろの職務を得又彼等の職務の利益を普くせんため總の族の中に散されたり此故に民詛を受べき時には詛變じて祝となされたり

第六十四問　レビ人の分派は幾何なるや

答　ゲルションコハテメラリの三派なり

第六十五問　アロンは何の家屬より出しや

答　コハテより出たり

第六十六問　レビ族は悉く祭司なりしや

答　否なかし祭司は皆レビ人より出しなり

第六十七問　祭司の職は特に何の家屬に屬せしや

答　アロンの子孫なり

第六十八問　祭司には幾許の邑を與へられしや

答　十三の邑なり

第六十九問　其邑は何處に在るや

答　シメオンユダベニヤミンの族中ゐ在りて其避邑ハレビの邑ゐり

第二十三章と第廿四章

第七十問　ヨシユアの最後の勸ハ如何

答　ヨシユアイスラエルの長老及有司等を招きテラの日よりヨシユアのカナンに在りし時まで列祖へ神の賜ゑりし仁惠の畧史を授け神の憐及來福のため神ゐ欽服すべく命じたり又偶像につき誡め曰けるハ神に背かバ神必ず汝等を罰し神に從ふ時ハ神必其約束を滿しめ給ゑんと尙民に向ひエホバを畏れ誠信と眞實を以て之ゐつかへ昔先祖等大河則ちエフラテの東方及エジプトに於て事へし僞神を棄て己の崇奉と欲る神を今日ゑらむべしたゞ我と我家ハ必エホバにつかへんと云へり民亦エホバに事へんと約せしによりヨシユア約束の證據として石をたてたり

第七十一問　此約束ハ何處にてなされしや其物語を述よ

答　シケムなり彼處は神の約束を受けしアブラハムのカナン國へ來りし時に最初に止りし所なり神は此處にてアブラハムに現れ彼と彼の子孫へこの地を約し給へり(創世記十二章六、七節)此地はエバル山とゲリジム山の中間に位する谷にして民のはじめてカナンへ來りし時神と約束を新にし又民の先祖等と民の神へ爲せし約束を記憶せしむる所なり或言ふ此時こゝにヨセフの骨を葬りしならん

第七十二問　ヨシユアは幾歳にて死せしや

答　百十歳なり

第七十三問　何處に埋葬れしや

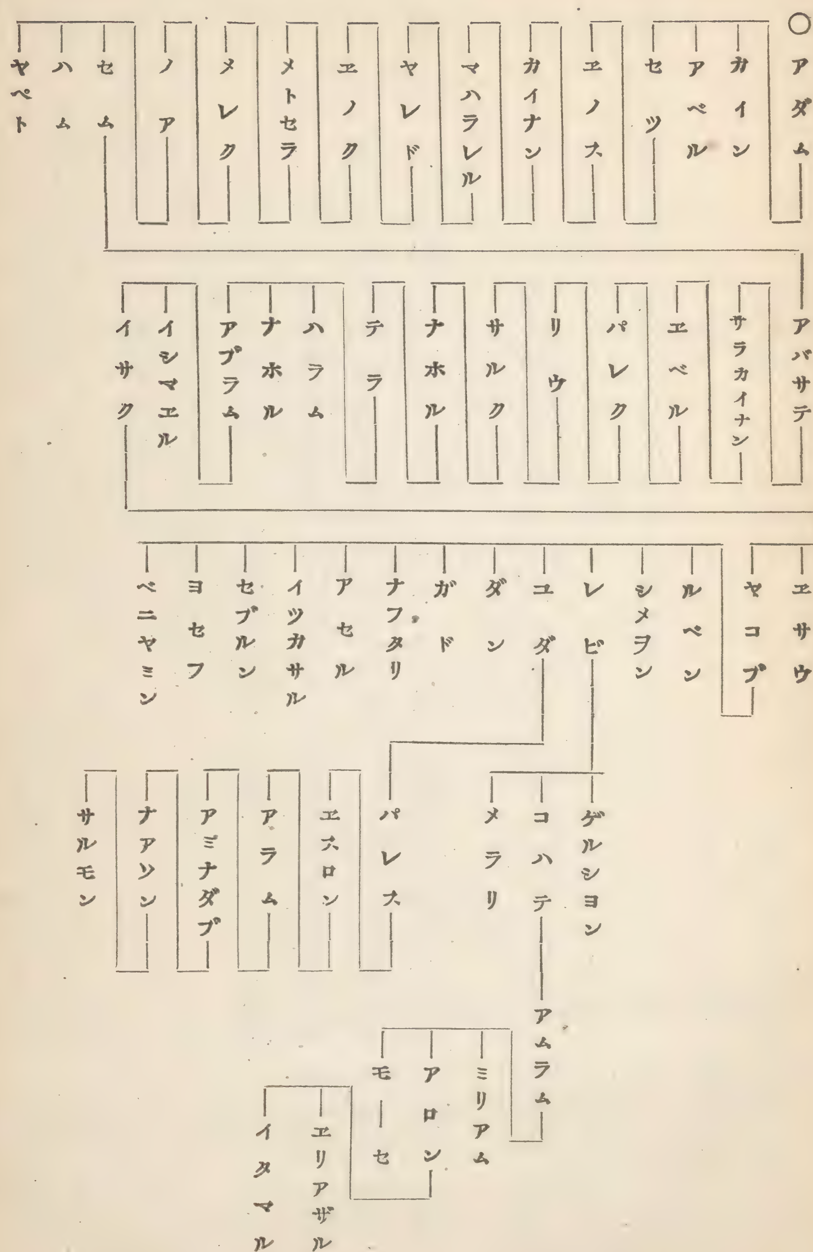
答　ガアス山の北なるエフライム山のチムナトセラなり

第七十四問　祭司エレアザルは何處に葬れしや

答　エフライム山なり

舊約史畧約書亞記　終

ユダヤ人系圖



○アダム
カイン
アベル
セツ
エノス
カイナン
マハラレル
ヤレド
エノク
メトセラ
メレク
ノア
セム
ハム
ヤペト
アバサテ
サラカイナン
エベル
パレク
リウ
サルク
ナホル
テラ
ハラム
ナホル
アブラム
イシマエル
イサク
エサウ
ヤコブ
ルベン
シメヲン
レビ
ユダ
ダン
ガド
ナフタリ
アセル
イツカサル
セブルン
ヨセフ
ベニヤミン
ゲルシヨン
コハテ
メラリ
パレス
エスロン
アラム
アミナダブ
ナアソン
サルモン
アムラム
ミリアム
アロン
モーセ
エリアザル
イタマル

士師記

紀元前一千四百二十五年より一千百二十年に至る
開闢二千五百七十九年より二千八百八十四年に至る

第一問　此記の首眼なる事實と其順序を述よ

答　此記二つに分る一章より十六章迄はヨシュアの死よりサムソンの死迄を略述し十七章より以下も亦イスラエル人の景況を記るせり

第二問　此間イスラエル人を治めし士師は誰ぞや又各の就職年限は如何

答　ヲテニエル四十年、エホデ八十年、シャムガル、デボラとバラク四十年、ギデヲン四十年、アビメレク三年、トラ二十三年、ヤイル二十二年、エフタ六年、イブザン七年、エロン十年、アブドン八年、サムソン二十年、エリ四十年、サムエルなり

第三問　士師の權力は何ぞや

答　士師は國君と崇敬られ製律の權なしといへども神の下にありてイスラエル人の最上官吏たるものなり其重なる職務は祭司をし

てモーセの律法に從ひ神の敎を正しく行なはしめ且つ官吏をしてモーセの律法に依り誠實に其職務を行なはしむるものにて事あれバ元師として陣に臨めり

第四問　此記の十六章より終まで錄すところは何ぞや

答　士師政治の間に起りし肝要なる事情なり

第五問　此記ハ幾年間に亘るや

答　殆ど三百五十年なり

第一章

○カナン人と戰ふ

第六問　ヨシュアの死後エホバハ何族をカナンに攻め登るべく命じ給ひしや

答　ユダなり彼ハシメヲンを誘ひ共に行きたり

第七問　彼等如何なる成功を得しや

答　エホバカナン人とペリジ人を彼等の手に付しけれバベゼクにて一萬人を殺せりアドニベゼク逃去りしかバ彼等之を追捕へて其

手足の大指を割落して之をエルサレムに曳きゆきしが彼其處にて死せり

第八問　アドニベゼクは如何に此所爲を考へしや

答　アドニベゼクは己の罪を認諾あまんじて法律の問ふ可き罪人にして今度の災を自から招きし者と思ひ懺悔して曰けるは曾て七十八の王を殺し其手足の大指を斫落し我食几の下に屑を拾へり神我曾て爲せし如く我にむくい給ふと云へり

第九問　カレブはキリアテセペルを撃取る者に如何なる約束を爲せしや

答　其娘アクサを妻に與へんとなり

第十問　之を撃取りし者は誰ぞや

答　カレブの弟ケナズの子オテニエルなり

第十一問　ユダとシメヲンは何處を撃しや

答　ホルマガザアシケロン及びエクロンなりユダは山地を手に入れしが谷に住る民は鐵の戰車を所持せしにより之を逐出すこと能ざりき

第十二問　エルサレムに留まりし人は誰ぞや

答　エブス人なり

第十三問　エフライムとマナセは何處を撃しや

答　もとルズと名けしベテルなり

第十四問　何族はカナン人を逐出すこと能はざりしや

答　マナセ　エフレイム　ゼブロン　アセル　ナフタリ　ダンの子孫はアモリ人の爲に山に逐ひこめられたり

第二章

第十五問　民の不順從なるが故に如何に責られしや

答　ギルガルよりボキムに來りし神の使曰るは我汝等をエジプトより出し汝の先祖へ誓ひたる地へ汝を携へ來れり我曰けるは我汝と立し約を破ることなし汝等此國の民と約を結ぶ可らず必ず其壇を毀つべしとされど汝等我命に遵はず何故斯の如くなせしや故に我此民を逐はず却て汝等の肋を刺す棘となるらん神は汝を坎阱に陷しいれん

第十六問　幾許の間イスラエルの子孫はエホバに事へしや

答　ヨシュアと長老等の在世の間なり

第三章

第十七問　イスラエルの子孫の重なる罪は何ぞや

答　偶像を拝む罪なり則ち民バアルとアシタロテに事へり

第十八問　其結局は如何

答　エホバ甚しく怒りたまひイスラエルを敵の手に付し給へりされどエホバ彼等を憐み士師を立て民を救ひたまへり

第十九問　イスラエル人は誰に属せしや

答　メソポタミヤの王なり之に事ふること八年なりき

第二十問　民エホバに願ひし故エホバ救主として誰を立たまひしや

答　カレブの弟ケナズの子オテニエルなり彼イスラエルを救ひ其地四十年の間平和なりき

第廿一問　民を苦めし次の王は誰ぞや

答　モアブの王エグロンなり彼アンモンとアマレクの子孫を集めイ

第廿二問　スラエルを撃りイスラエルの子孫之に事ふること十八年なり

イスラエル人エホバに願ひしときエホバ如何なる救主を立たまひしや

答　ベニヤミンの人エホデなりモアブの王エグロン彼に殺されき又イスラエルの子孫彼等の凡そ一萬人を殺せり此後其地八十年の間大平なりき

第四章

第廿三問　其次の叛逆の物語を爲すべし

答　エホデの死後イスラエルの子孫エホバの前に惡を爲ければエホバ之をカナンの王ヤビンの手に付せり此王二十年の間きびしくイスラエルの民を苦しめり

第廿四問　此時イスラエルの士師は誰なりしや

答　女預言者デボラなり

第廿五問　デボラは誰を撰んで軍勢の長とし又之に何を命ぜしや

答　バラクなりデボラ之に命じてゼブロンとナフタリの子孫一萬人

を率てヤビンの軍長シセラに向ひ進まんことを告たり又デボラ自ら之と共に行けり

第廿六問　シセラ之と戰ハんと幾何の軍勢を從へしや

答　數多の軍勢と鉄車九百挺あり

第廿七問　交戰の成果ハ如何

答　バラクシセラの鉄車と其軍勢を敗れりシセラ徒歩にてヘベルの妻ヤエルの幕屋に遁るヤエルシセラの熟眠せしとき釘を其額に貫て殺せり

第廿八問　ヤエルハ誰ぞや

答　ケニ人なるヘベルの妻にてホアブ分派モーセの同族なり

第廿九問　ヤビンの不幸ハ何ぞや

答　彼打敗られたり

第五章

第三十問　デボラハ如何に此勝利を祝せしや

答　讃美の歌を以てせり

第三十一問　其地の太平幾年なりしや

答　四十年なり

第六章

○ギデヲンの事

第三十二問　イスラエル人再び罪を犯せしとき如何に罰せられしや

答　彼等七年の間メデアン人の手に付さき爲めに大に零落たり

第三十三問　其後彼等救を誰に求めしや

答　エホバに救を乞へりエホバ天使を遣はし人民の救をギデヲンに任ぜり

第三十四問　ギデヲンは此命を如何に拒みしや

答　彼曰けるは我家はマナセの族中最も弱き者且我は我父の家の最も微なる卑賤ものなり

第三十五問　如何に彼を勵まし給ひしや

答　エホバ約して曰たまひけるは我汝と共に在ん汝ミデアン人を撃つこと一人を撃つ如くならん

第三十六問　天使は此委任を如何に證しせしや

答　火燃へて禮物を燃き盡せり

第三十七問　ギデヲンは如何なる感じを起せしや

答　ギデヲンはエホバの使ひなるを知て懼れたりされどエホバ彼を勵まし曰たまひけるは懼るゝ勿れ汝死ぬることあらじと其後ギデヲンはエホバに壇を築き牲を供へてエホバシヤロムと呼べり（之を譯ければエホバ我に安を賜ふとの意なり）又偶像を摧けり

第三十八問　此事バアルの人々に如何なる感を起せしや

答　彼等ギデヲンを殺さんことを企てり

第三十九問　ギデヲンの爲に誰が仲保せしや

答　其父ヨアシ人々に曰けるは汝バアルの爲に訟へんと欲るやバアルもし神ならばバアル自から爭論はんと是に於て人々はギデヲンにエルバアルの新き名を與へりエルバアルはバアル爭論はんと云ふ意なり

第四十問　ギデヲンはミデアン人及びアマレク人と戰かはんと如何なせ

しや

答 彼マナセアセルセブロン及びナフタリの中に使を遣はしけれバ民之を迎へたり又彼ハ左の二樣の奇徵によりて勵まされり即ち綿羊の毛に露の落ちしも其四周の地ハ燥きて露なかりき又羊毛ハ燥きて露ろの四周の土に在りしこともあり

第七章

第四十一問 ギデヲンの軍勢ハ幾何ありしや又其試られしこと如何

答 三萬二千人ありエホバ曰たまひけるハ人多し恐らくハ人己の能力を以て救を得たりと云んと又エホバギデヲンに命じたまひけるハ懼るゝ者ハギレアデ山より歸るべしと是に於て歸りし者ハ二萬二千人ありき又エホバ曰たまひけるハ民尙多しと曩に止まりし一萬人導かれて水際に至りしが唯三百人のミ舌を以て水を舐めしにより撰れたり

第四十二問 尙はギデヲンハ如何に勵まされしや

答　大麥のパンの夢と其解明によりてなりギデヲンエホバの命に遵ひ秘かに敵の軍勢をうかゞはんと從者をしたがへ進みしが無數の駝と敵の蝗の如く谷に臥すを見たり尚は彼近づきしに人ありて其從者に夢を告るをきくに其人告けるは大麥のパン轉旋んでメデアンの陣中に入りて天幕之を毀ちて倒れたりと從者之に答て曰けるはこれ他なしギデヲンの劍なりとこれ神メデアンの軍勢をこの手に付し給へるなり

第四十三問　戰の物語を爲すべし

答　ギデヲン三百人を三隊となし手に手に鈸及び空瓶を携へ其中に火炬を置き夜中三隊敵の陣營を犯せしが合圖をまちて人皆鈸を吹き瓶を破ぶりて燈火を執り呼わり云けるはエホバの劍ギデヲンの劍なるぞとメデアン人皆亂れ叫んで逃げければエホバ遍く彼をして同士撃せしめ給へりエフライム人はメデアンの二君ヲレブとゼエブを擒へ殺して首をギデヲンの許に送れり

第八章

第四十四問　ギデヲンメデアンの他の二王を追ひし際ギデヲンを拒ミ其軍勢にパンを與へざりし者ハ誰ぞや

答　スコテとペヌエルの人なり彼等ギデヲンを罵り曰けるハゼバとザルムンナを擒へしに我汝の疲れたるに食を與へんや

第四十五問　ギデヲン此王を擒へしや

答　彼之を擒へ且つ其軍勢を撃てり此勢ハさきに死せし十二萬の餘一萬五千人なりき

第四十六問　ギデヲンハ其歸途に於てパンを與へざりしスコテ及びペヌエルの人を如何にせしや

答　彼スコテの長老を擒へ荊棘を以て之を鞭ちペヌエルの城樓を毀ちて邑の人を殺せり

第四十七問　メデアンの王ハ何事によりてギデヲンをして怒らせしや

答　彼等ギデヲンの兄弟をタボルに殺せしによる

第四十八問　ギデヲンハ國の政事を司どるに及んで其返答ハ如何

答　ギデヲン曰けるは我汝等を治ることをせじ又我子も汝等を治むべからずヱホバ汝等を治めたまふべし

第四十九問　ギデヲンは民に如何なる願をなせしや

答　ギデヲンは民に其掠奪し金の環を求め之を以てヱホデを造れり此ヱホデは偶像を拜する證據となりたり

第五十問　ギデヲンに幾名の子ありしや

答　七十人ありシケムに妾の子ありギデヲン之を名づけてアビメレクと云へり

第五十一問　其地は幾年太平なりしや

答　四十年なり則ちギデヲンの世に在る間なり

第五十二問　ギデヲンの死し後民如何なる罪に落しや

答　人々偶像を拜せり又ギデヲンの恩を忘れ其家を厚く待ふことをせざりき

第九章

○アビメレク及びヨタムの事

第五十三問　イスラエルの次の士師は誰ぞや

答　ギデヲンの子アビメレクなり

第五十四問　如何にして彼は位に登りしや

答　彼偽をもつて位を奪へり彼シケム人と約し末の弟を除き總ての兄弟を殺せり此末の弟は自から遁れしと云ふ

第五十五問　シケム人の恩を知らざることを示されしことは如何又其滅亡の預言は何ぞや

答　民アビメレクを王に登せんとシケムに集りし時ヨタム曩に遁れし者ゲルジム山の巓に立ち(多分勇んで山の絶壁に立しならん)號び曰けるはシケムの民よ我に聽よ神亦汝等に聽給はん樹木已の上に王を立んとして先づ橄欖の樹を撰びしが此樹は其油を棄て王たるを好まざりし故に無花菓樹を撰みしが此樹亦橄欖にひとしく其甘味と善果を捨て王となるを好まざりし因て葡萄の樹を撰みしが此樹も亦其美酒を捨て樹木の王たるを好まざりき是に於て諸の樹木棘を撰びしが此樹は豊なる橄欖

樹葡萄樹の其撰にあづからざりしわけを以て之に答へて曰けるハ我を立て王となさバ我蔭に托れよ然ざれバ棘より火出てレバノンの檜木を燬盡さんと○ヨタム其譬の意を解きけるハ棘ハ樹の中にて數ふるに足らず果なくして無用なるのみならず煩をしき害物にして人に惡まれ火に投ちるゝ者也今アビメレクハ之に似て政權を執れりとさて、ヨタムはアビメレクを避けて身を匿せり

第五十六問　三年の後シケム人ハ誰と徒黨を結びアビメレクに逆ひしや

答　カナンの人ガアルと云へる人と徒黨を結べり

第五十七問　其結局ハ如何

答　アビメレクはシケムの邑を毀ち鹽を撒けり又櫓に遁れし者をも攻て之を焚き多の男女を殺したり

第五十八問　アビメレクの死の物語をなすべし

答　民悉くテベツの櫓に遁れ之を衞りしがアビメレク進み攻め火を以て之を焚んとせし時一人の婦磨石の上層石を擲て其腦骨

を破れり是時アビメレク己の武器を執る少者を招き曰けるハ刄を以て我を刺せ恐くハ人我をさして婦人に殺れたりと曰んと遂に己を此小者に殺さしめたり

第五十九問　此事ハ如何に應ひしや

答　ヨタムの詛なり

第十章

第六十問　アビメレクに繼ぎし士師ハ誰ぞ

答　イッカサルの人トラにして二十三年の間イスラエルを治めたり彼死せし後ギレアデ人のヤイルと云へる者起りイスラエルを治めしこと二十二年なりし

第六十一問　此二士師の死し後イスラエル人に何事ぞ起りしや

答　彼等再び偶像の敎に歸りたれバピリシテアンモン人の手に付されたり

第六十二問　民此苦を誰に呼しや

答　神に呼はれり神ハ元民の撰ぶ所の偶像の道にまかせ給へりさ

れど民深く其罪をさとりしにより其苦を顧み民を憐み給へり

第十一章

第六十三問　アンモン人との戰に民の首となりし者は誰ぞや

答　妓婦の子ギレアデ人のエフタなり彼其父の死し後兄弟等に放逐せられしが遊蕩者の巨魁となりて勇名を著せり

第六十四問　ギレアデ人の長老等エフタの許に往き彼を大將となさんとせしとき彼何と答へしや

答　彼答へけるは汝我を惡みて父の家より放逐せしにあらずや汝等今患難に遭ふとて何ぞ我に來るやと長老之を强ゆ是に於て彼長老等に問ひけるはエホバ若しアンモン人を我手に付し給はゞ我は汝の長たらんと長老等答けるは我等誓て汝の言の如くなすべしエホバ即ち其證者たり

第六十五問　エフタの成功如何

答　アンモン人の子孫盡くイスラエル人に從へり

第六十六問　エフタ出陣の前忽卒なる契約を爲せしハ如何

答　アンモン人の所より安然かに歸らん時我家を出て我を迎ふ者ハ我之を燔祭となしエホバに供へんとの契約を爲せり

第六十七問　誰が彼に遇ひしや又感ぜし所如何

答　エフタの獨娘鼓を執り舞ひ蹈りて出迎たりエフタ衣を裂き歎じて曰けるハ嗚呼我女よ汝ぢ我を傷しむるハエホバに約したればハ我之を改むることを能ず

第六十八問　其約ハ守られしや

答　此契約ハ二ヶ月の後に果されたりゆへにイスラエルの女子の毎年エフタの娘の爲に哀哭をなせし

第十二章

第六十九問　エフタハ誰の族と戰を交へしや

答　エフライムの人と戰へり此族ハアンモン人との戰の時に招ハれざりしを怒れるによる

第七十問　此戰に殺されし者は幾人ありしや

答　四萬二千のエフライム人なり

第七十一問　エフタは幾年間イスラエルを治めしや

答　六年なり

第七十二問　如何なる士師が彼に繼ぎしや又各の治世年間を問ふ

答　エフタに繼者はベツレヘムのイブザンなり此人イスラエルを治めしこと七年其次はゼブルン人のエロンにして十年ピラトン人のアブドン之に次で八年の間支配せり

第十三章

○サムソンのこと

第七十三問　此事の後イスラエル人に何事が起りしや

答　民エホバの前に惡を行ひしによりエホバこれを四十年の間ペーリシテ人の手に付し給へり

第七十四問　イスラエルの次の士師は誰ぞや

答　ダン族のマノアの子サムソンなり

第七十五問　サムソンの物語をなせ

答　他の士師にサムソンの歷史の如く委く録されし者はあらじ。その歷史は殆ど此記の半分におよべり記中感ずべき事多し即ちサムソンの體力と道義の微弱より發するものにして彼がエホバを信じて動ず從順なる信仰を以てエホバに事へしことなり而して此事の中にサムソンが至大至尊なる性質を含るなりイサクを除の外誕生のことを天使に示されし者はたゞ此サムソンあるのみイサクの誕生は其父に示されしが母は傍にありて之を聽けりサムソンの事は其母へ諭さるゝのみならず天使は養育法をも命じてサムソンを神に捧ぐ可しといへり又彼はペリシテ人よりイスラエルを救はんと約せられたり

第七十六問　如何にしてマノア及び其妻は天使を知しや

答　マノア天使へ食せんことを願ひしが彼これをこばめりマノア天使に其名を問ひしに汝何故に其名を問ふや我名は不思議なる

りと云へりて其後マノア羊羔を取り燔祭として之をエホバに献じければ火焰壇より天に揚る時エホバの使これに乗りて昇れり

第十四章

第七十七問 サムソンは誰を娶らんとせしや

答 サムソンは其父母へペリシテ人の女にてテムナテの一女を娶らんことを願ひしに父母之を喜ばずして曰けるは汝兄弟等若くは我全ての民の中に婦あらざるか汝何ぞ割禮なき女子を娶らんとするやとサムソン尚は強て願ひけるは我斯女我心に適ふ願くは我爲にこれを娶れ

第七十八問 テムナテへサムソンの旅する途中再び何事の起りしや

答 稚き獅子サムソンに吠へ來りしがサムソンエホバの靈に感じ獅を剖しことと恰も山羊羔を剖くが如くなりき

第七十九問 彼女を娶らんとして三度テムナテに下りし際何事に逢しや

答 サムソン途の側への獅の体に蜂の群と蜜のあるを觀てきを取

りて其父母に與へたり

第八十問　東方縁組の習例如何

答　縁組に二箇の習例あり其一は新婦の家に於て新婦の父之を祝ひ其二は新郎祝儀を守りて新郎と新婦共に食することなり當時實に此の如くなりし通例新婦は七日の間の祝儀に友等と偕になりて其友のせわを受く新約書に之を新郎の友と云ひ又婚禮室の子供と云へり（馬太傳九章十五節　約翰傳三章廿九節）

第八十一問　婚筵にてサムソンは如何なる隱語を設けしや又其事情は何ぞや

答　食ふ者より食物出で強き者より甜き物出との隱語を七日の中に解かばサムソン之に裏衣三十と衣三十襲を與へ之を解こと能はずば彼等サムソンへ其數に同じき品物を與ふべしとの事なり

第八十二問　如何にしてペリシテ人は此隱語の意をさとりしや

答　サムソンの妻頻にサムソンへ隱語の意を求め終に其意をさと

りしが之を其同儕の者へ傳へり斯して同儕の者筵宴の七日目にサムソンへ曰けるは何ものか蜜より甜からん何ものか獅より強からん

第八十三問　サムソンは欺れしとき何をなせしや

答　サムソンアシケロンに下り三十のペリシテ人を殺し其物を奪ひて彼等に與へたり彼甚しく怒りて父の家に歸れり

第十五章

第八十四問　サムソン妻を訪んと家に歸りしとき何如に待れしや

答　妻の父サムソンを拒いひけるは汝は彼の女を嫌ひたりと思ひしが故に彼を汝の伴侶たりし者に與へたりとて其妹をサムソンへ與へり

第八十五問　サムソンは如何に此の取扱ひを忍びしや

答　サムソンは此所業を國民に係はる罪と思ひペリシテ人を害するも尚は條理ありとし三百の狐に火炬を結付ペリシテ人の麥と橄欖の園を燔はらへり

第八十六問　其成果ハ如何

答　ペリシテ人ハサムソンが恨を雪んための所爲と聽き往て其婦及婦の父を燔けり

第八十七問　又サムソンハ何を爲せしや

答　サムソン彼に曰けるハ汝等斯く行ふと雖も我必ず仇を汝等に報ひんとサムソン大にペリシテ人を撃ち往きてエタムの巖間に住まへり

第八十八問　ペリシテ人ハ彼を追ひしや

答　然り彼等ユダに往き陣を取り曰けるハ我等彼を縛らんため來れり彼我等になせし如く我等彼になさん

第八十九問　サムソンハユダの人よりいかに爲られしや

答　彼等サムソンを捕へペリシテ人に付せりされどサムソン彼等にその命を害せざらんことを約せり

第九十問　サムソンレビに至れるとき何事の起りしや

答　ペリシテ人聲を揚げサムソンに近きし時サムソンエホバの靈

ふかんじて力を受ろの繫がれし繩を截りたり因て驢馬の腮骨を發見してこれを取りて千人を殺し曰けるハ驢馬の腮骨を以て山を築づき山を作る驢馬の腮骨をもて我千人を擊殺せり

第九十一問 彼ろの場所を何となづけしや

答 ラマテレヒと名づけたり之を譯けバ腮骨と云ふ義ふり

第九十二問 サムソンハ何をヱホバふ願ひしや

答 サムソン甚だ渇きヱホバに呼わりければ凹める所より水流れ出たりサムソン之をエンハッコレ(呼バれる者の泉)と名づけたり

第十六章

第九十三問 サムソンハ如何ふしてガザより遁れしや

答 彼邑の門を負ひされり

第九十四問 其後彼ハソレクにて誰を寵愛せしや

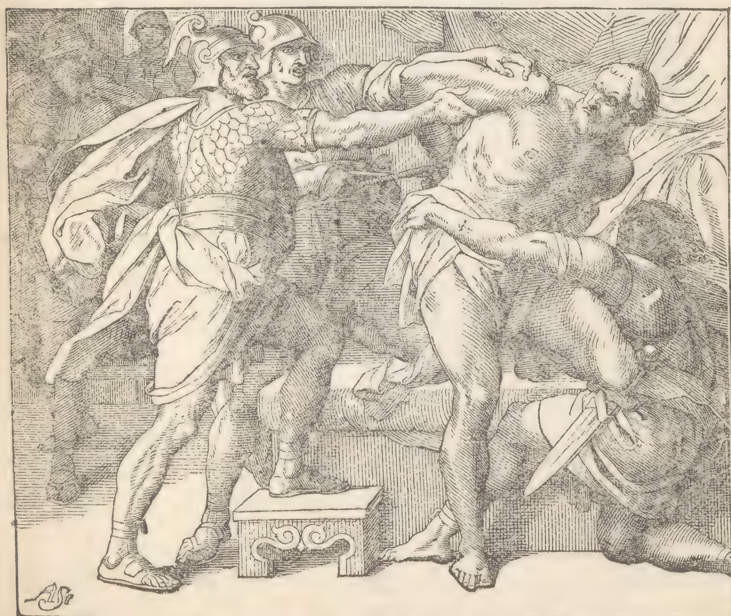
答 デリラと云ふ婦人ふり

第九十五問 ペリシテ人の宰相ハサムソンの大力ある源因を如何ふして發見せしや

答 彼等サムソンを誘もんことをデリラふすゝめりやがてサムソン

ンデリラを詐きしこと三度なりしにデリラ日々サムソンを迫りて力ある所以を告よと求めりサムソンは心を死るばかりに苦ませ遂に心を打明し我は神に事へて髮を薙ことなし若髮を薙らば弱くなりて別人の如くならんと告ければデリラ之をペリシテ人へ傳へたれば彼等サムソンが睡りし時に其髮を截れりサムソン寤てエホバの己を離れ給ひしことを悟れり

第九十六問 其後ペリシテ人は如何に彼をあしらひしや



サムソン・ペリシテ人に捕へらるゝ圖

答　彼等サムソンの目を抉り銅の鏈をもて之を繋ぎガザに下り獄に入れて磨を挽く務をなさしむ

第九十七問　サムソンの死の狀を語るべし

答　ペリシテ人の群伯等偕に集りて其神ダゴンに大なる祭を獻じ神は其敵サムソンを彼等の手に付したりと祝せり此時サムソンを召び戯技をなさしめんとて囚獄より呼びいだし柱の間に立しめ玆に此家の內は男女充滿し屋蓋の上には三千人計り居たり

サムソン柱を執りヱホバに籲り曰けるはア、ヱホバよ願くは我を記念たまへア、神よ願くは今一度我を強くして我兩の眼の一の爲だにもペリシテ人に仇を報はしめたまへと乃ち彼中柱を執り我はペリシテ人と偕に死なんと云ひ力を極めて身をかゞめたれば家傾倒れ群伯と凡ての民は家に壓殺されたり斯くサムソンは生ける時よりも死する時に於て多の人を殺せり

○兄弟等はサムソンの屍を取り父の墓に葬むれりサムソンは

二十年の間イスラエルの民を治めたり

第十七章

○國家の解體

第九十八問　士師記の終の五章には何事を記するや

答　終の五章はヨシユアの後まで生存らへし長老の死せし時よりヲテニエルの士師となるまでに歷年起りたる事を錄るして士師記の附錄となせり此事は肝要にして之を委しく心肝に銘せべ當時人民放蕩になれば政敎紛亂一定の規矩なきを見るに足らん

此書の終り三章は恐くベニヤミン族の勇士が經驗する所の事實の衰徵を記すを以て其大趣意となすものにして次の歷史になは彼等がユダに屬せしてと及び其關係を記るを外いちじるしき者なるし

第九十九問　ミカの歷史を詳述よ

答　エフレイムの人にてミカと云るもの其母の銀錢を竊みしが彼

之をかへしければ母は偶像を造れりミカの子を祭司となし偶像の禮拜を設けたり其後レビ人の漂泊する者を祭司に雇ひたりダン族の五人地を窺ひ産業を求めん爲に遣はされしが此人等ミカのレビ人に逢ひすゝめられて偕に行きしかして彼等ライシを窺ひかへれり六百のダン人行てライシを取りミカの偶像及び其祭司をも奪へり彼等亦偶像を設けヨナタンといふレビ人及び其子孫を祭司に任ぜり

第百問

第十九章より第廿一章迄

各支派に爭を起せしエフライムのレビ人の歴史を述よ

答　或レビ人の妾夫を悦ず其父の家に歸りし途中ギベアに宿りしがエフライムの一老人ねんごろに彼をあしらへり斯邑の人々此家をとりまきレビ人の妾を耻かしめ死にいたせりレビ人は朝早く其骨を十二に分ちて各の支派に遣せり斯は此時の風俗に犠牲にされし牡牛や又は祭にさゝげられし他の者は常に分ちて民に分與せしなり今彼の肢體をさきて分與せしは普く民

に罪悪をさらせて仇を報ずる心をおこさしめんためなり（ソーロは之に倣ひ民にギレアデのヤベシ人の助を求んとて牛を剖き曰けるはソーロ及びサムエルに從つて出でざる者あらバ其牛亦如斯剖れんと）（サムエル前書十一章七節）斯事民の心を激し總ての族中より四萬人に下らざる勇兵各其族長を大將としミツバに會せり是に於てレビ人は出て彼等に訴へたり

第百一問　同盟の各族は仇をむくいんと如何なる處置をなせしや

答　第一各支派にて百人の中より拾人を撰ミ糧を備へ次にイスラエルの中に於て此罪を犯せしギベア人を處分せんとベニヤミン族の許につかはし其犯罪の人を求しめりベニヤミンの人々は之を拒み二萬六千余の兵を以てギベアに防戰せり是に於てイスラエルの同盟族は大に怒り誓て其女子をベニヤミンの族に嫁しめまじと定り〇初度の戰に殆んどベニヤミンの兵の全數に仝じき二萬二千のイスラエル兵戰死し再度の戰に復死傷せし者一萬八千人なりし斯てイスラエル人ベテルに上りエホ

バの前にて燔祭と酬恩祭を供へ夕暮までかなしみをなせり祭司の長ピ子ハスは契約櫃の前に立ち民に代り神に指揮を乞ひ曰けるは我等往て兄弟なるベニヤミンを攻むべきや否やと然るに神はたやすく之に答へて上れよ我必ず明日彼等を汝の手に付さんと云たまへり彼等其命にしたがひギベアを焼きベニヤミン族を撃ちて僅に六百人となり逃て荒たる磐の上に城を築けり

第百二問　イスラエル人は此殘りし族を如何にせしや

答　神彼等に憐の情を起さしめ給へり乃ち兄弟なるベニヤミンの事をかへりみ悔み曰けるは今日イスラエル族の一の支派を喪なへり此子遺の者へ妻を與へんに如何せんそは我等エホバを指て女子を彼等に與へまじと誓たればなりと彼等又イスラエル人がベニヤミン族との戰に同盟せざりし者は詛に服せらるべしと云へるによりヤベシギレアデの民は此戰に與せざりしにより男子は悉く殺されて女子は救はれたり

ろは未だ嫁がざる女子をベニヤミンの男子に與へんとすれば
なり
其後尚は二百人は妻有らざるによりて人の諭を受け大祭の際
シロに於て身を伏せシロの童女の葡萄園に來るを伺ひ之を奪
ひて新婦となし各其不足を補へり

ルツ記

紀元一千三百二十二年より一千三百三十三年に至る
開闢二千六百八十三年より二千六百九十四年に至る

此記の首なる事柄ハ何ぞや

此記ハ士師の世に暮せし一の歴史にして士師記の部内に属すべきなれど普通の歴史にあらざるにより之れを分離り

エリメレクと其妻ナオミハイスラエル人にてマロンとキリヲンの二子ありしが飢饉に苦しみ且つ其家産を費しけれバ活計のためにモアブの國にさまよへり此地にて其二子妻をめとり且つ死せりと云ふ○既にしてナオミとその媳婦ヲルバとルツはイスラ



ナオミとの其媳婦ヲルバとルツ

エルの地へたびだちせしが途中ナオミは其媳婦にモアブの地へ歸らんことを強て勸たりオルパは此勸に應じたりしがルツはナヲミと其眞神に從へりナヲミルツの兩人ベツレヘムに至りしが此地の富人にて信心なるボアズと云へる人の田に留りて刈殘の穂を拾ひしがボアズ之れを懇親くあしらひ後之を妻とせり此婦はボアズによりてキリストの先祖ダビデの祖母オベデを生めり普通の說によれば此記の作者はサムエルと云り

舊約史畧ルツ記終

モーセの死よりサムエルに至る重大事件の年表

ヨルダン川を渉る	紀元前	一千四百五十一年
メロムの勝利	同	一千四百四十五年
國の分割	同	一千四百四十四年
シロに幕屋を設く	同	同
ヨシュアの死	同	一千四百二十六年
カナン人との戰	同	一千四百十三年
ベニヤミンとイスラエル各族の戰	同	一千四百十三年
クシヤンリシヤタイムの羈軛	繼續年間	八年
オテニエルの救と平康	同	四十年
モアブ人の羈軛	同	十八年
エホデの救と平康	同	八十年
シヤムガルの勝利		
ヤビンの壓制	同	二十年
デボラ及バラクの救及泰平	同	四十年

ミデアン人の壓制	同	七年
ギデオンの救と泰平	同	四十年
アビメレクの支配	同	三年
トラの支配	同	二十三年

同時の史

東國			西國		
ヤイル士師	繼續年間	二十二年	サムソン士師	繼續年間	貳十年
アンモン人の箝制	同	十八年	エリ士師	同	四十年
エフタ士師	同	六年	サムエル士師	同	四十年
イブザン士師	同	七年			
エロン士師	同	十年			
アブドン士師	同	十年			

舊約史畧

撒母耳前書

紀元前一千百四十年より一千零五十六年に至る
開闢二千八百六十五年より二千九百四十九年に至る

第一問　書中載する所の事實は何ぞや

答　最終の士師エリサムエル及始王サウルの事等なり祭司の長エリは四十年間イスラエルを治む此は短簡にして第四章に終れりエリの子放蕩にして其身と家屬を不意に失なへりエリの後サムエル士師となり暫くイスラエルを治む彼は信仰厚き祭司名高き預言者熱心なる改革者尊大なる救者且温厚なる士師なりしかるに民はエリの子にまどはされ神を嫌ふの心起り他國に等しく王を立んことを願しによりサウルを與へられたりされど神はこれを悅ばず反てこれを詛ひたまへりサウル其位を剝れし後神の意に應ふダビデを民に與へたまへり(十六章を見よ)該章より卒章まで錄すところはダビデのたつとき行爲及びサウルより受し大なる困難を忍しろの物語なり通計八

十四年とす

第二問　サムエル書の作者は誰ぞや

答　種々の說あり或は斯記の一部分をサムエル錄し餘はナタン及びガド之を錄せりとし或はエレミヤを記者なりとせり思ふに數名の記者が同時代に記せし史乘より編輯したるものなるらん而して又世の人多く此編輯の時代は本書中の時代よりも遙か後にありと思ふ

第一二章

第三問　何族よりサムエルは出しや

答　コハテの家にてレビ人なるエルカナの子にして其母の名はハンナと云ふ

第四問　サムエル誕生並に幼時の敎育をのぶべし

答　ハンナエホバの宮にいたり哭ていのり誓をなしていひけるは主よ我惱をかへりみわれに男子をあたへたまはゞ我これを一生の間エホバに献げんとエホバハンナをわすれず其願を聽之に男子

をたまへりハンナ此子をサムエルと名く（サムエルはエホバにきかるとの意なり）此子乳ばなれするに及びて母之を携へ神の宮に往き祭司エリにいひけるは我此子のために祈しにエホバ我に求し者を與へたまへり此に其一生の間之をエホバにさゝげんとハンナ第二章の感謝の歌にてエホバに勝利と榮光と大業を歸し奉りたりさてサムエルは祭司エリの前にてエホバにつかへり

第五問　サムエルの母の費心如何

答　ハンナ小さきエポデを造り歳毎に其夫と偕に祭物をさ



ハンナ其子サムエルを宮に携來りたる圖

ゝげん爲に上る時之を持來れり

第六問　エリの子等の性質如何

答　彼等邪にして一偶像べリアルの子となりエホバをしらざるものなり

第三章

第七問　エホバのサムエルを招きたまふ事を語るべし

答　エホバサムエルをよびたまひしこと三度なりしがサムエルはエリの己をよぶならんとかんがへよばれし毎にエリの許に趨ゆきいひけるは汝我をよぶ我こゝにありと云り三度目にエリエホバの童子をよびたまひしをさとり之に答べきことを敎へいひけるは僕聽くエホバ語りたまへと其後エホバくだりてサムエルにあらわれ其くださんとする喪敗を示したまふサムエルエホバの言しことをエリに告ければエリいひけるはエホバなり其よしと見たまふ事をなし給へと

第八問　此後サムエルについて何事がはなしせられしや

答　エホバ之と偕なりしイスラエルの人々彼のエホバに立られし預言者なることを忘れり

第四章

第九問　何の目的ありてイスラエル人はシロより契約櫃をたづさへんとせしや

答　彼等其敵より救はれんためなりそはペリシテ人に四千人を撃れしによりてなり

第十問　イスラエルの陣営に契約櫃の至りし時イスラエル人は如何なせしや

答　イスラエル人大聲によばわりしが地震動せり

第十一問　ペリシテ人此喊呼を聴しとき如何に思ひしや

答　彼等懼れいひけるは嗚呼我等禍なるかな誰か我等をこれらの強き神の手より救ひいださんやこれらの神は昔諸々の災を以てエヂプト人を曠野に撃し者なりと彼等尚互にすゝめいひけるは強くなり豪傑のごとくなりして戦へよ

第十二問　戰の結局ハなんぞや

答　ペリシテ人勝つてイスラエルの三萬人を殺し神の匱を奪ひエリの子ホフニとピネハスを殺せり

第十三問　エリ此報を得て如何なせしや

答　彼イスラエル人敗れ已の二子死し又匱を奪われし事を聽仰けにおち頸を折て死り

第十四問　エリは幾歳なりしや又何年イスラエルを治めしや

答　九十八年にしてイスラエルを治めし事四十年なり

第十五問　此時また誰が死せしや

答　ピネハスの妻なり此婦其子をイカボテと名く可しと命じいひけるは榮光イスラエルをさりぬ神匱奪われたればなりと

第五章

第十六問　イスラエル人神の匱を奪われしにより神如何なる教をなせしや

答　勝利を保ちしは契約櫃のいたす事にあらず神の意なる事なりエホバイスラエル人の徒信とエホバの名をペリシテ人に凌辱め且

偶像の惑をおこし神は手を以てつくりたる物に存して分離しのたしとなせしをイスラエル人のよしとせしを責給へり契約櫃は偶像となれり是故に契約櫃は不信者の俘囚となりたり

第十七問　ペリシテ人は何処へ神の櫃を据しや

答　アシドド人のダゴンの殿におけり

第十八問　彼等如何に罰せられしや

答　神の匱のまへに



神櫃の前にダゴン斃れたるの圖

ダゴン俯伏たふきて片々となり邑の人ことごとく災を以て撃れたりガテとエクロンに神の匱ありし時も民災に遭へり

第六章

第十九問　神の匱ハ幾許の間ペリシテ人の所有となりしや

答　七ヶ月なり其後神の匱ハベテシメシにおくられたり

第二十問　ベテシメシ人神の匱を見んとして何の災を沽ひしや

答　五萬七拾人撃れたり或の說によれば五萬人の中撃れし者ハ七拾人なりと云ふ

第二十一問　其次に神の匱ハ何處へ移されしや

答　キリアテヤリムなりてゝに二十年とゞまれり

第七章

第二十二問　サムエルのイスラエル人へすゝめし事柄ハ何ぞや

答　民偶像を棄てエホバに從ふべき事なりサムエルいひけるハ汝等異る神を棄エホバのみに事へなバエホバ汝をペリシテ人の手より救ひいださん

第二十三問　ペリシテ人の來戰と其敗走を述べよ

答　ペリシテ人の諸君主イスラエル人を攻んとてミズパに來りければ民懼をサムエルの許に赴けりサムエル之が爲に供物を献げエホバに祈をり是に於てエホバ大なる雷をくだしペリシテ人を擊て之を亂したまひければペリシテ人はイスラエル人の前に敗れり

第二十四問　斯勝利の記臆せらるゝ事如何

答　サムエル一石を置きエホバ是迄我等を助け給へりと云て之をエベネゼル(助けの石)と呼べり

第二十五問　ペリシテ人について何事のはなされしや

答　ペリシテ人再びイスラエルの境にいらずしてサムエルの一生の間エホバの手ペリシテ人をふせげり又其侵地はイスラエルにかへれり

第二十六問　サムエルは何處にすまひしや

答　サムエルの家はラマにありされど彼はベテルとギルガルおよ

びミズパをめぐり此にてイスラエルをさばけり

第八章

第二十七問　サムエルは誰を士師となせしや其人の性質は如何

答　其子なり此人は父の道をあゆまずして利にむかひ賄賂をとりて審判を曲り

第二十八問　長老等サムエルへ何事を願ひしや其判決は如何

答　彼等王を立ん事を願へりサムエル悦びずしてエホバに祈りければエホバ彼に命けるはまづ民へ王の治べき常例を示し後其願を許べしと民なほせまりしにより王を與へられたり

第九章

第二十九問　イスラエル第一の王は誰なるか

答　ベニヤミン族のサウルなり

第三十問　サウルの容姿は如何ん

答　彼は壯にして美わしくイスラエルの子孫の中に彼より美はしき者なく肩より上民のいづれの人よりも高し

第三十一問　サムエルのサウルと出逢し物語をゑすべし

答　サウル父の驢馬を尋ねんと一人の僕と偕につかわさるゝあまねく國を通りすぐれどもみだすこと能ざれバ其ゆくゑを尋んとて先見者とよびしサムエルの許にゆけり神サムエルに來らんとする人を示しけれバ彼サウルを敬ひ饗應せりサムエルサウルへ其たづねし驢馬の既に見出されしてとイスラエルの望彼と彼の家にある事を告彼と其僕を導き堂にいたり上坐に位せしめたりての饗筵に美味の肩を出してサムエルクサウルの來るを待て其肩を存へおきし事をつげり

第十章

第三十二問　朝に何事ありしや

答　サムエル膏の瓶を取りてサウルの頭に沃ぎ口接していひけるハヱホバ汝をたてゝろの産業の長とゑし給ふにあらずやと又サムエルハサウルにひとむれの預言者におひヱホバの靈其上にくだり偕に預言をゑさん事を言へりはたしてろのごとくゑ

りければまへかたサウルをみたりし人々は彼が預言者と偕に預言するをみていひけるはキシの子サウル今何事に逢やサウルも預言者の中にあるやさて此サウルも預言者の中にあるやといふは遂に諺となれり

第三十三問　何處へ民は集りしや其譯は如何

答　ミズパなりてふに集りし譯は王を撰まんためなり

第三十四問　いかにして王は撰れしや

答　籤を以てせりサムエル總ての族を呼しベニヤミンの族のマテリの族なるキシのサウル籤にあたれりサウル自ら匿れしかどもとりいだされて民の中に立りサムエル民にいひけるは汝エホバの撰み給ひし人をみるか民の中に此人のごときものなし

第三十五問　民の回詞は何ぞや

答　總のイスラエル人よばはり云けるは願は王命長かれ

第三十六問　其續の事情を述よ

答　サムエル王國の典章を民にしめして之を書にしるしヱホバの前に藏めたりサムエルギベアにかへるに神に感ぜられたる勇士等これと偕に行り然れども邪なる人々は之を藐視れり

第十一章

第三十七問　サウルの國王に擇れし後如何なる國民はイスラエルと戰ひしや

答　ロトの裔なるアンモン人なり

第三十八問　イスラエルの子孫はナハシに如何なる願をなせしや

答　彼等ナハシと約を立んとなりナハシは彼等の右の目を抉る定約をもつて彼等の願に答へり

第三十九問　イスラエル人の次の願は何ぞや

答　彼等七日の猶豫をナハシに願へりそは彼等イスラエルの四方の境に使をつかわしもし彼等を救ふ者なくば彼にくだらんためなり

第四十問　此通信を聽てギベアのサウルは何事を思立しや

答　民哭ぬしかしサウルははなはだしく怒り三萬の兵を募りアンモン人を攻め之を亡せり

第四十一問　此勝利はイスラエル人の中に何の結果を來せしや

答　民サウルのおさめを拒みし者を殺さんとせしときサウル之を制しいひけるは今日エホバ救をイスラエルに施したまひたれば今日は人を殺すべからず

第四十二問　何の目的ありて民ギルガルに集りしや

答　民サウルを王となし神に謝し犧牲を獻じ皆ともによろこびをなさん爲なり

第十二章

第四十三問　サムエルの離別の演說を陳よ

答　彼人々にその幼稚の時より彼等の前にあるきし事の如何を記憶せしめて民を掠め苦め曾て賄賂を取らざりしことをあかしせり又エジプトに於て先祖等の時代より神の民になし給ひし如何と神のめぐみをわすれ之に反逆て其立給ひし者を捨て外

にみちを擇みし其罪を責て神を畏れ之にそむく事なからんな
とをいましめけり

第四十四問　如何なる兆にてサムエルハ民へ神の威稜を示せしや

答　刈收の時にサムエルエホバをよびければエホバ其日雷と雨を
くだしたまへり民サムエルにいひけるハ僕のために汝の神エ
ホバに祈て我等を死ざらしめよ我等諸の罪に王を求むるの悪
をくはへたればなりとサムエル民へエホバを信じ誠を以て之
に事ふべくいましめ又之に云けるハ我ハ汝らのために祈る事
をやめてエホバに罪をおかす事ハ決してせざるべし且我善き
正しき道を以て汝を敎へんと

第十三章

第四十五問　サムエルハ幾人の鋭士を擇しや

答　三千人なり二千人ハサウルに一千人ハヨナタンに從へり其餘
の民ハサウルかへらしめたり

第四十六問　其後サウルハ何をなせしや

答　彼ギルガルへ民を呼びしグペリシテ人ハあまたの軍勢をあつめてイスラエル人をくるしめけれバ許多のイスラエル人ハサウルより離れその餘の人ハ懼てサウルに從へり

第四十七問　サウルの犯せし罪ハ何ぞや

答　彼サムエルの命に從ひ七日の間待てとなく妄にいけにへを獻じて祭司の職を犯し且數罪をかさねたり第一サムエルの心を伺はざりし事第二彼れ自慢してサムエルに謀議なくみづからよく事をなし得べく思ひし事第三彼サムエルの來らざりしを違約の罪となして訴へ其身の不遜を訴へられし時敢てくやむ心なかりし事なり

第四十八問　サムエルの責問ハ如何

答　彼サウルにいひけるハ汝愚なる事をなせり汝の神エホバの汝らに命じたまひし命令を守らざりしなりもしまもりしならバエホバイスラエルを治る位を永く汝にさだめ給ひしならんいま汝の位たもたざるべしエホバ其意に應ふ人をもとめて其民

の長を命じたまふ

第四十九問　ペリシテ人はイスラエル人との戰にて如何なる利益を得しや

答　鐵工の業なりカナンは礦石なとみし國なれど此業はイスラエルの禁ずる所なれバ(申命記八章九節)民は投石索と棒をもちしのみにてサウル及ヨナタンの外は劍あるひは槍をもちし者なかりき

第十四章

第五十問　ペリシテ人の先鋒を撃し者は誰ぞや

答　ヨナタン及び其武器を執者進みいたりて二十人を殺せり餘の民はおどろひて膽を冷し陣中戰慄地なるひペリシテ人互に撃合り

第五十一問　此戰に於てサウルの擧動如何

答　サウル民を點撿しにヨナタンと其民武器を執者おらざりければ彼エホバに尋ねんと法匱をむかへんとせり然るに彼ペリシテの軍の騷愈まさるを聽きエホバの返詞を待ずして戰ひ出し

がペリシテ人を慄れてかくれし群集の人も赴けり

第五十二問　サウルは如何に民を絆せしや

答　サウル詛の罰を立て民をして敵に報ゆるまで食せざらしめたり

第五十三問　此事より生じたる罪悪は何ぞや

答　民餘儀なく夕までペリシテ人を追ひゆきしが餓て力尽しに前の絆ゆるされ民分捕物にはせかゝり羊と牛とを取り血のまゝに之を食しエホバに罪を犯せり又ヨナタンは父の令をしらずして發見したる蜜を取り食して詛に服せりされど民は此事をいかりヨナタンを救ひいひけるはイスラエルの中に此大なる救をなせるヨナタン死ぬべけんやきはめてしからずエホバは活くヨナタンの髪の毛ひとすぢも地に落べからずと

第五十四問　エホバ如何なる民にサウルを遣せしや

答　大軍と偕にアマレク人に向ひたり

第十五章

第五十五問　サウルはアマレク人の中の誰をさとして出立なさしめしや

答　モーセの外舅なるエテロの子孫ケニ人なりろはイスラエル人のエジプトをいでし時之に恩を現はしたる人なり

第五十六問　サウルはアマレク人をほろぼせしや

答　王アガグ及び掠物の最もよきものをのこし悉くほろぼせり

第五十七問　此時サムエルはサウルへエホバの何の旨を齎せしや

答　サウルエホバの言を棄たるによりエホバもまたすてゝ王たらざらしめ給ふとの旨なり

第五十八問　サウルはみづから遜りしや

答　彼幾分か遜りしかども其思は變ざりきサムエル云けるはイスラエルの能力たる者は謊らず悔ず

第五十九問　アガグの不幸は何ぞや

答　サムエルエホバの前にアガグを斬れり

第十六章

第六十問　何故に神はサムエルをベツレヘムに遣せしや

答 エサイの子の一人に膏をそゝぎ王たらしめんためなり

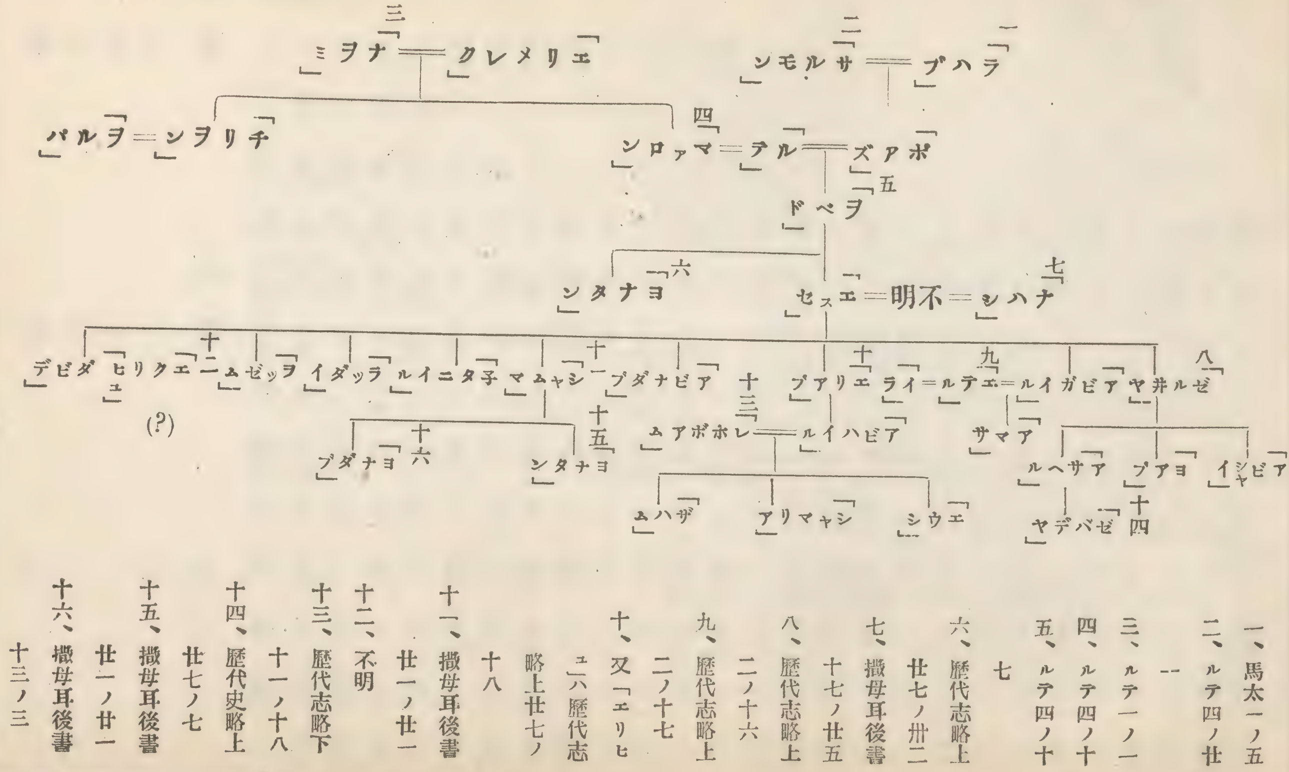
第六十一問 サムエルの膏をそゝぎし物語を述よ

答 エサイは其子の一人を擇むんとて其七人の子にサムエルの前をすでさしむサムエルは長子のエリアブをみておもへらくエホバの膏そゝぐ者は必ず此人ならんとエホバいひける



ダビデの膏をそゝがるゝ圖

エスセ家ノ系圖



一、馬太一ノ五
二、ルテ四ノ廿一
三、ルテ一ノ一
四、ルテ四ノ十
五、ルテ四ノ十七
六、歷代志略上廿七ノ卅二
七、撒母耳後書十七ノ廿五
八、歷代志略上二ノ十六
九、歷代志略上二ノ十七
十、又「エリヒュ」ハ歷代志略上廿七ノ十八
十一、撒母耳後書廿一ノ廿一
十二、不明
十三、歷代志略下十一ノ十八
十四、歷代史略上廿七ノ七
十五、撒母耳後書廿一ノ廿一
十六、撒母耳後書十三ノ三

れ其容貌と身長を觀るなかれ我觀ところハ人に異り人ハ外の貌を見エホバハ心をみるなりとて後六人サムエルの前をすぎしかどもエホバ一人だも擇みたまわざりきやがて季子を迎ふ彼ハ羊を牧ふ者にして色赤く其貌麗しエホバサムエルにいひけるハ起て之にあぶらをそゝげてれその人なりとサムエル其兄弟の中にてこれを行ふ此日よりエホバの靈ダビデにのぞめり

第六十二問　如何なる目的ありてサウルハダビデを迎へしや

答　己の前に琴を鼓きなやませる惡鬼をなづめんためなりこれハエホバの靈サウルをはなれたればなり又ダビデハサウルの武器を執者となれり

第十七章

第六十三問　イスラエル人を攻來し者ハ誰ぞや

答　ペリシテ人なり

第六十四問　イスラエルの軍を誘挑し屹驚せし者ハ誰ぞや

答　ガテのゴリアテなり彼四十日の間朝夕イスラエル人の前に出づ身に鱗綴の鎧甲を着横たへる槍の柄は機の梁の如くし楯を執者ろの前に行り精當の計算によれば其身の長は殆ど十尺にして鎧はトロイの目方にて殆んど二百ポンド槍の鋒は十八ポンドにして鎧の重量は二百七十二ポンドに殆し

第六十五問　ダビデのイスラエルの陣を訪ふろの目的は何ぞや

答　其仝儕の安否如何をしらんためなり



「ダビデ」「ゴリアテ」を斬し圖

第六十六問　ダビデはペリシテ人の活る神の軍をいどむを知り何を言しや

答　進んで戰んてとなり

第六十七問　サウルは此事をダビデに願しや

答　サウルは此事はダビデの力にあまるならんと懼れしにダビデいひけるはエホバ我を獅子の爪と熊の爪より拯ひいだしたまひたればてのペリシテ人の手よりも援ひいだしたまはんとサウルあたへて往け願くはエホバ汝と偕にいませと云へり

第六十八問　ダビデは何の武器を携へペリシテ人にむかひしや

答　谿間より五石をとり杖と投石索を携たり

第六十九問　ゴリアテはダビデを見し時何と云しや

答　汝杖を持て來る我豈犬ならんやと其神の名によりてダビデを呪詛いひけるは我許に來れ汝の肉を空の鳥と野の獸にあたへんと

第七十問　ダビデの返答は何ぞや

答　汝劔と槍と矛戟をもて我に來る然ど我は萬軍のエホバの名す

なはち汝が搦みたるイスラエルの軍の神の名を以て汝に行今日エホバ汝を我手に付し給はんこの群衆みなエホバは救ふに劍と槍を用ひたまはざる事をしるにいたらん其は戰はエホバによれば汝らを我等の手にわたしたまはん

第七十一問 戰の物語をのべよ

答 ゴリアテすゝみちかづきければダビデはせて之にむかひ石を其投石索にはさみ投ければ石ゴリアテの額に突いりて俯伏に地にたふれたりダビデはしりてゴリアテの上にのり其劍を取て首を斬る是に於てイスラエル人はペリシテ人を追ひてこれを掠めり

第十八章

第七十二問 如何なる愛情がこゝに現るゝや

答 ダビデとヨナタンの親和ありダビデサウルにかたる時ヨナタンの心ダビデの心にむすびつき彼等共に契約をむすべりしかしてヨナタンは其明衣をダビデに與へり

第七十三問　サウルはダビデを如何なる職務に任ぜしや
答　ダビデを兵隊の長となせり

第七十四問　彼をいかに敬ひしや
答　ダビデは民の心にかなひ又サウルの心にかなへり彼ペリシテ人を殺してかへれる時婦人踊躍つゝ相和へて歌ひけるはサウルは千を撃ち殺しダビデは萬をうち殺す

第七十五問　ダビデの人望愈高きによりサウルは如何に爲せしや
答　サウル妬をおこし怒いひけるは萬をダビデに歸し千を我に皈す此上彼に與ふ可き者はたゞ國のみとて彼ダビデを殺さんとはかれり

第七十六問　サウルはダビデに誰を妻わせんと約せしや
答　サウルの長女メラブなりされど之を他人に妻せたり次女をミカルと云ふダビデを圖る手段として其箕帚を取らしめたり

第七十七問　ダビデミカルを與へられし時なんとこたへしや
答　王の婿となる事汝等の目には易き事とみゆるや且我は貧しく

賤しき者なり

第七十八問　サウル其女をダビデに與ふるによりダビデに求し務は何ぞや

答　ペリシテの百人を殺さん事なりされどサウルはペリシテ人がダビデの撃れん事を願へり

第七十九問　其結果は何ぞや

答　ダビデ二百人を殺し王の娘を得民に大に敬われたりされどサウルは彼を恨みヨナタンと其僕にダビデを殺さんことを命ぜり

第十九章

第八十問　サウル如何になだめられしや

答　ヨナタンとびいひけるは願くは王其僕ダビデにむかひ罪をおかするかれダビデの行爲はよしペリシテ人を殺してイスラエルのために大なる救をほどこし汝これをよろこべりとヨナタンの言を聽いれダビデを殺すまじと誓へり

第八十一問　何故サウルは再びダビデを妬みしや

答　ダビデがペリシテ人の戰に勝しによりサウル再び殺さんとせ

かれり

第八十二問　此時ダビデは如何にして救われしや

答　ミカルの謀によれりミカルダビデを牖より縋おろし其父をあざむき像を牀におき使者にいふ彼は疾りと

第八十三問　此時ダビデが書す詩は何ぞや

答　五十九篇の詩なり斯の詩はダビデが其心に懼を抱き大難の中に急遽するもその信仰神をはなれざりき何となれば彼の力に我たよらんそは神は我まもりなればなりといへるに由て知るなり

第八十四問　ダビデは何處に遁れしや

答　ラマのサムエルの許に遁れたりサムエル彼と共にナヨテに往きかしこにおれり

第八十五問　何故ダビデはサムエルの許に遁れしや

答　サムエルはダビデに彼の王たらんことを保しによりてなり當時ダビデはこれを信ずるの心うすくなりしならんかサムエル

は預言者にしてダビデになすべき事をさとすに最巧なるのみならずサムエルの許に預言者の學校ありしによりダビデ玆にて預言者と共に神を讚ためなり

第八十六問　サウルは尙も彼を追索せしや

答　しかり彼三度使者をつかわせしがナヨテにいたり預言者の中にサムエルの立をみしが神の靈其上にのぞみ共に預言をなせり終にサウルみづから往しが彼と其僕の上に靈くだり預言せりサウルは其衣服をぬぎすて一日一夜臥り是故にサウルも亦預言者の中にあるやと再び人にいわれしほどなりし

第二十章

第八十七問　ダビデの教訓者は誰ぞや

答　ヨナタンなり彼等親睦の約を改め更に契約をなして之をたしかならしめたり則ちダビデ仁惠をつくす事たゞヨナタンのみにかゝわらず限なく其全家に之を尽すべしとなり

第八十八問　如何にしてダビデは再びサウルの手より救われしや

答　ヨナタンダビデを遁れしめんと謀を設け弓矢の合圖にてサウルの企をダビデに知らせしによるなり

第八十九問　ヨナタンとダビデの離別を說け

答　サウルヨナタンを悦ばず益ダビデを殺さんとはかる故ヨナタンはダビデに其生命の危殆なる事を示しければ彼等互に親を結んで離を居れり

第二十一章

第九十問　ノブに於てダビデに何事ありしや

答　ダビデ祭司アビメレクの許に至りて彼より聖きパンとゴリアテの劍を得たりサウルの僕の一人エドムの人ドエグと云ふ人ダビデがパンを願ひし事を聽之をサウルに知らせたり

第九十一問　ガテに於てダビデに何事起りしや

答　アキシの僕ダビデを追出してればダビデにあらずや人々歌てサウルは千を殺しダビデは萬を打殺すといひしにあらずやと云りてこゝにおいてダビデおそれて狂人の樣をなしアドラムに

のがれたり（詩篇五十六〇三十四〇百四十二篇）

第二十二章

第九十二問　かしこにてダビデの許にあつまりし者は誰ぞや

答　ダビデの兄弟及び父の家みなダビデの許にいたる又なやめる人負債者心にあきたらぬ者彼の許にあつまりてダビデ其長となれり

第九十三問　我等再びダビデの事をいづこに於てきくや

答　モアブのミズパに於てなりダビデミズパの王にいひけるは神の我をいかゞなし給ふかをしるまで願くは我が父母をしていでゝ汝と共におらしめよと王はダビデの願を許せり

第九十四問　ダビデをユダの地に帰るべくさとせしは誰なるや

答　預言者ガテなり

第九十五問　サウルは其僕に如何なる愁歎をなせしや

答　サウルの僕不忠にして僕等の内一人もサウルの子とダビデのためになせし契約をサウルにしらせる者なかりしことなり

の事ドエグの心を勵し彼ろの見たりしアビメレクの事をサウルに告て〻に於てアビメレク及び外の祭司をよびいだしたり

第九十六問　其祭司等の不幸は何ぞや

答　サウル兵卒へ彼等を殺さん事を命ぜしかども兵卒は之をいなめりよりてサウルこれをドエグに命じければ彼八十五人を殺し祭司の邑ノブを撃て男女童稚と總て其邑の人畜を殺せり遁れし者はたゞアビヤタル一人のみなり(詩篇十七、三十五、五十二、六十四、百九、百十一篇)

第九十七問　アビヤタルは如何になりしや

答　彼ダビデの許に遁るダビデは其滅亡の事をもつてみづからを咎め祭司の防禦を請合いひけるは汝我と共に居懼る〻なかれわが生命を求むる者汝の生命をもとむ汝我と偕にあらば安全なるべし

第二十三章

第九十八問　ケイラにて起りし事は何ぞや

答 ペリシテ人來りてケイラを攻むダビデエホバに問ひ其從者といでゝペリシテ人と戰ひケイラを救へりダビデのケイラにいたれる事サウルに聞へければ往てダビデを捕へんとせりエホバダビデにケイラ人が彼をあざむきてサウルの手に彼を付さんとするをしらせ給ふ故にダビデケイラを立てジフの野に遁れたり

第九十九問 ダビデのジフに居りし時彼を問ひし者は誰ぞや

答 ヨナタンなり彼神によりてダビデの力を強めいひけるは懼るゝなかれそれは汝イスラエルの王たるべければなりとかくて彼等エホバの前にて契約をなせりこれぞ二友最後の會合なりし

第百問 ジフの野にて起りし別事は何ぞや

答 ダビデの全族なりしジフ人ダビデにそむきサウルの許に往きダビデの逃躲處をつぐサウルはジフ人が己に親む人を以て彼等を祝しかつ彼等と共に往てダビデをもとめり此時サウルはダビデを捕ふる事を得しならんされど使者來りてサウルへペ

リシテ人來りて國をおかさんとするにより急ぎかへらん事を告ぐ故にサウルはそのなさんとする企を棄て歸れりこの時ダビデは二十五の詩をかけりジフの人はイスラエル人なれど此詩中に異邦人とよべり既にしてダビデエンゲデに往たり

第二十四章

第百一問　サウルの再びダビデを追しとき何事起りしや

答　サウルエンゲデの巖洞に三千人と共にダビデをたづねサウル休まんとして一の洞穴にいりしがてゝにダビデと其從者居れりダビデたちてひそかにサウルの衣の裾をきりて彼に陰險なる計略なき事を示せり又サウルの穴をいでし時ダビデ後より出てサウルの其手中におち剩さへ人のすゝめしにもかゝわらず彼の生命を救ひし事をサウルに示せりおゝに於てサウルは其罪を悔ひいひけるは汝は我よりもたゞしと而してサウルはダビデに王の位にのぼりし時サウルの家を亡すまじとの契約

をなさしめり

第二十五章

第百二問　こゝにしるされしハ誰の死なるや

答　サムエルの死にしてイスラエルの人々これをかなしめり

第百三問　サムエルの物語をなすべし

答　サムエルの享年及び治世の星霜は確に知り難しヨセフハスの説によればサムエルハ二十歳の時はじめて神の默示を蒙り其性人に勝れ位高く人にまさりて國を愛せり故に國を富さん事に深く心を盡しイスラエルの神の禮拜を保存し民の自由を維持する事をその終身の大任となせりと政體の改革に敏ならざれど改革を要する時ハ完全なる政略を行へり神の中保として徳ある事モーセの徳に等しと謂ふべし(エレミヤ十五章一節詩篇九十九篇六節)

サムエルハ預言者の始祖と考へらるべき人なり預言者學校の設立ハ彼の時代に始めてはじまりしと云ふ又彼の學舍ハ詩學

と音樂を敎へて其名高かりし神ハ拔群の忠僕を此學舍中より擇みたまへりサムエルハ後世にいたりユダの國民よりいとたかく敬まはれたり

第百四問 ナバルとアビガルの物語をなすべし

答 カレブの裔の人にてカルメルに大なる産業をもてる人ナバルと云ふ者あり(ナバルの意味ハ愚なり)此人剛愎にして其なすところあしかりき其妻ハ名をアビガルと云ひ賢く顔美婦なりダビデハランの曠野にありし時其軍勢はなはだ食物にとぼしかりければ使をナバルの許につかわし之を祝し其兵卒がナバルの牧羊者とともにありし時之にせわしたる事を示しそのむくひとしていりよふの食物をナバルに願ひしにナバルいやしめたる返答をなしければダビデ大に怒り直に此不敬を酬ひんと百人を率ひて出立り僕の一人アビガルにナバルがダビデの使者をそまつにあしらひし事を告げいひけるハ主人ハ邪魔なる者にして語ることを得ずとてふに於てアビガルハ大なる進物

を整へ携へいそいでダビデをむかへてダビデをやわらげけれ
ばダビデアビガルの中保により心和ぎ神を頌美彼へ禮をつく
して去りたりナバルは來らんとする危險を聞おそれて石の如
くなり十日ばかりを經て死せりダビデナバルの死にたるを聽
使をつかわしてアビガルを其妻とせり

第百五問　ミカルは如何になりしや

答　サウルはミカルをパルテにわたへたり

第二十六章

第百六問　ダビデの再びジフにありしとき何事起りしや

答　サウル三千人をもつてダビデのあとをおくだるダビデサウルの
陣をとざる所を去り夜中アビシャイと共にサウルの陣にいた
れりアビシャイはサウルと其人々のサウルのまわりに偃する
を見てダビデにいひけるは神汝の敵を汝の手に付したまふ請
ふ我に槍をもて彼を地にさしとほさしめよといへど彼はエホ
バの膏をそゝぎし者に手をのばす事なかれとダビデに禁ぜら

れサウルの側より槍と水の瓶を取り往てわづかへだてたる山に立ちアブネルによばわりその取りし物をあらわし王サウルを警衛の務をおこたりし事をそしりしがサウル之を聽いひけるは我子ダビデよこは汝の聲なるやと彼ダビデを追尋し事の罪たるを自首していひけるは我子ダビデよかへれ我生命今日汝の目に寶とみなされたり故に我かさねて汝に害を加へざるべし嗚呼われ愚なる事をなして甚しくあやまてりといふに於てサウルダビデを祝して已の所にかへれり

第二十七章より第三十一章まで

第百七問　ダビデはサウルを避んと再び何處へ遁れしや

答　彼ガテにのがれペリシテ人の國へ一年四ケ月とゞまれりアキシにあざむかれてダビデがユダに戰ひしを信ぜり

第百八問　サウルエンドルにいたらんとせし時の有様は如何

答　ダビデの權増々加わりイスラエルの衆人ますますダビデにしたがふペリシテ人の軍勢サウルに戰かわんと來るを知れり神

はサウルへ夢によりてもウリムによりても又預言者によりて
もこたへたまはざればサウルは憂ひて其僕によりて口寄の婦を
求めり

第百九問　其婦の言は如何

答　サウル形をかへ二人の僕と共にテボル山に近づきヱンドルの
口寄婦の許に行り此婦はサウルをてむみ願をきかざりきそは
王口寄者をことごとく禁じたればなりされどサウル誓ひいひ
けるはヱホバは活く此事のために汝罪におふ事あらじとより
てサウル婦にサムエルをよび來らん事をつげけるに老翁ある
サムエル明衣をつけて其前にあらはれたり婦はサムエルを見
て叫びしかばサウルは彼に恐るゝなかれといへり

第百十問　サムエルとサウルの應接は如何

答　サウルサムエルを見て地に伏して拜せりサムエルサウルへ尋
けるは汝何ぞ我を煩すやとサウル乃ちペリシテ人に悩まされ
しこと神の彼を離れて再び答へざりし事をつぐサムエルはヱ

ホバ汝を離れて汝の敵となりたまふに汝何ぞ我に問ふやとてエホバの爲んとしたまふ事即ち國を其手より割はなち之をダビデに與へイスラエルの國をペリシテ人の手にわたし明日汝と汝の子ども等死すべしといへり是に於てサウル地に倒れて力を失なへり

第百十一問　チクラグの攻撃の物語をなすべし

答　アマレク人來りてチクラグを侵しダビデの軍中にありし其男女兒と二妻を虜へければダビデと其民は此業爲をみて大に苦み民怒り石をもつてダビデを撃んとせりダビデ自ら其神エホバによりて勵されアビヤタルに命じエポテを携來しめ遂にエホバに問て云けるは我此軍の跡を追べきやとエホバいひけるは追ふべしろは汝總虜者を取戻すことを得んとダビデ乃ち六百人と偕に行しが二百人はつかれて後にとゞまる尚四百人を卒ひて敵兵を追ひ行しが途にて一人のエジプト人に逢ふ此人は或るアマレク人の僕にして三日の間食物もなく又水もなく

途に棄てられし者あり彼等之にパン水果實を與へしに其氣爽かになりければ此人ダビデをアマレク人の許に導きくだれり

ダビデはアマレク人の飲食し踊つゝ地にあまねく散ひろがれるを襲ひ撃てアマレク人が奪たる總の物をとり之を戰にいでし人と後に留まりし人とに均しく分てりさて此配分の方法はイスラエルの例となれり

第百十二 問　サウルの死の物語をなすべし

答　ペリシテ人ギルボア山にてイスラエル人と戰ひ之を敗るサウルの三子殺さるヨナタンも亦死すサウル負傷しければペリシテ人より辱しめられん事を恐れ武器をとる者に己を殺さん事を求めければ其人は肯わざりきこゝに於てサウル自から劍をとり其上に倒る武器を取る者はサウルに殉せりペリシテ人來りてサウルの首を斬りダゴンの殿に掲げ勝聞を國中に報じ又サウルと其子の體を取りベテシヤンの城垣に懸けおけりされどヤベシギレアデの人夜を侵し來りて死體をとりおろし之を

火きてヤベシの柳樹の下に葬りて七日の間食を斷てり

舊約史畧撒母耳前書　終

撒母耳後書

第一章

第一問　斯記如何なる物語を以て始まるや

答　アマレク人がダビデに報知たるサウルの死の物語なり聖なる記者自らサムエル記の終に於て錄たる話柄は眞實なる談話なしてアマレク人は賞美を得んと思ひしが却てヱホバの膏そゝぎし者を殺したりとてダビデより詰られ死罪に定められたり

第二問　サウルとヨナタンに就きダビデの悲歎をのべよ

答　イスラエルよ汝の榮輝は汝の崇邱に殺さる嗚呼勇士は仆れたるかな此事をガテに告るなかれアシケロンの邑に傳るなかれ恐くはペリシテ人の女等善ん恐くは割禮を受ざる者の女等樂ミ祝はんギルボアの山よ願くは汝の上に雨露降ることあらざれ亦供物の田園もあらざれ蓋は彼處に勇士の干棄らるればなり即ちサウルの干膏を沃がずして彼處に棄らる殺せし者の血を飲まずしてヨ—

ナタンの弓は退かず勇士の脂を飲まずしてサウルの劍は空く歸らずサウルとヨナタンは愛らしく樂げにして生死ともに離れず二人は鷲よりも捷く獅子よりも强かりき、イスラエルの女等よサウルのために哀けサウルは絳き衣をもて汝等を華麗に粧ひ金の飾を汝等の衣に著たり嗚呼勇士は戰の中に仆たるかなヨナタン汝崇邱に殺されぬ兄弟ヨナタンよ我汝のために悲慟む汝は大に樂き者なりき、汝の我をいつくしめる愛は尋常ならず婦の愛にも勝りたり嗚呼勇士は仆たるかな戰の具は失たる哉

第二章

第三問　偶然に起たる重なる事を說くべし

答　ダビデエホバの命により其妻及び軍勢をともなひヘブロンにのぼりすめりユダの人々彼處にてダビデに膏を沃ぎて王となせりダビデヤベシギレアデ人のサウルを葬りしことを聽き使を彼等の許に遣わしろの厚意をサウルにあらわせしにより祝していひけるは願くはエホバ恩寵と眞實を汝等にあらわしたまへ汝等この

事をなしたるにより我亦汝等に此恩惠をしめすなりとサウルの軍の長アブチルサウルの子イシボセテを取りてイスラエルの王となせりしかして彼れ二ケ年間治めたり

第三章

第四問　本章に起りし事ハ如何

答　サウルの家とダビデの家の間の戰爭久しかりしがダビデハ益強くなりサウルの家ハます／＼弱くなれり

アブチルイシボセテの言を怒りダビデの許に往く先より他人に嫁しダビデの妻ミカルをかへさんと契約をなせしによりダビデ彼をうけいれりアブチルミカルをダビデに交し軈てダビデの軍長ヨアブに殺されたりこれハアブチル曾てヨアブの兄弟アサヘルを殺せしに因てなり是に於てダビデハヨアブと其全家を詛へり

第四章

第五問　此章に記す事柄ハ如何

答　サウルの二人の臣僕イシボセテを殺しその首をヘブロンのダビ

デの許に携へ來れり時にダビデいひけるハ我ハ曾てサウルの死の報知を我にもちきたり賞美を得んと思ひしアマレク人を殺せり況や義人を其家に殺せし人おやとダビデ少者に命じけれハ少者彼等を殺して其手足を切離しヘブロンの池の上に懸たり而してイシボセテの首を取りてヘブロンなるアブ子ルの墓に葬れり

第五章

第六問 イシボセテの死後イスラエル人ハ何事をなせしや

答 彼等悉くダビデの許に詣り政を執り王となりて彼等を治めんことを願へりダビデに詣りし人の數並に祝筵の様を知らんと欲せば請ふ歴代誌上十二章貳十三節より四十節迄を見よ

第七問 ダビデハ何處を都府となせしや

答 エルサレムなりアブラハムの時代にハサレムと云ひ其後ヂハスと云ふユダ族の北境にちかくベニヤミン族の領地にあり地勢高爽各族の中心に位し既に久しく南方王國の都府と定められし者にして神今之を擇んで其都府となしたまへり

第八問　ヱルサレムの滅さきし事を告げよ

答　ヱブス人は其上を領して城堡を設けイスラヱル人ハ其下を領してあもおべニヤミン人ヱブス人と雜居せりヱブス人シヲンの城ハ攻がたく思ひダビデおいひけるハ汝此ふ入るあとハ能はざるべし反て盲者跛者汝を追ひはらわんとこゝに於てダビデの軍士にいひけるハ誰にても水道おいたりてヱブス人を撃ちまたダビデの心のにくめる跛者と盲者を撃つ者ハ首とあし長とあさんとヨアブ先往て其城を取り首とあれり（歴代誌上十一章六節）ダビデ其まわりに建築し之をダビデの城邑とよべり

第九問　跛者と盲者とハ誰を指すや

答　此事ふ係り二樣の說あり第一は彼等ダビデと其人々をいやしめて不具且つ力あき兵を石垣にあらべダビデと其人々の敵手とあして彼等に當らせんとあり第二は彼等が偶像を信ずるによりダビデいやしめて之を跛者盲者とよべりろハ彼等目をもてども見ず足をもてどもあゆまざきべあり

第十問　此事はヨシュアの初てカナンに入し其時より幾年なるや
答　大抵四百年なり此間まつたくエルサレムはカナン人の支配するところとなれり

第十一問　ダビデがエルサレムに家を建築時周旋せし者は誰なるや
答　ツロの王ヒラムダビデに檜及び木匠と石工をおくれり

第十二問　ダビデエルサレムにて王となりし後の初度の戰は何ぞや
答　ペリシテ人ダビデにむかひ來りければダビデヱホバの命なきたゞひ往て彼等と戰ひ之を撃りペリシテ人再び來るダビデヱホバに問ひしにヱホバ彼にべみの樹の上に進行の音を聞くまで上るべからずと命じたまへり（多分是は呼吸音もなき行進なりき）しかしてダビデヱホバの命にしたがひ上りて大に勝利を得たり

第十三問　ダビデは幾人の子をもちしや
答　十七人なりエルサレムにて十一名ヘブロンにて六人を産り本書三章二節より五節迄を見よ

第六章

第十四問　契約匱の移されし事に關係したる物語をなすべし

答　ダビデイスラエルの選拔の兵士三萬人を集めキリアテヤリムより七十年間とゞまりし契約匱を舁いださんとして新き車に載せ牛にひかせアビナダブの子アヒオとウザ之を御したり牛契約匱を振たればウザ手を伸してこれを扶へたりヱホバ彼れを撃たまひければかしこに死ねり蓋れレビ人が契約匱を舁可き聖規にそむけばなり(民數記一章五十節より五十四節迄を見よ)されど祭司は契約匱に觸ることを許されたりこゝに於てダビデ畏れて契約匱をヱルサレムに移すことを好まず三ケ月の間之をヲベデエドムの家に置りヱホバ契約匱のためにオベデエドムの家を惠給ふと云ふ事ダビデに聞へければダビデ及びイスラエルの人悉く樂器を備へて歡呼踊躍てダビデの城邑に舁のぼれりダビデ布のエポテを着けヱホバの前におどり犧牲を献げ且すべての人々へ賜を與へり又レビ人に匱の務を任じてイスラエルの神なるヱホバに謝しかつ讃美をなさしめり此レビ人の中にアサフはその首

なりき(歴代誌略上十六章四五節を見よ)ミカルダビデの舞躍を見其心にダビデを藐視むダビデ其家を祝せんと歸しかばミカルダビデの民の前にて其身をはづかしめしことをもつて彼をはづるしめりダビデミカルをのゝしりければミカル罰せられて死ぬる日まで子あらざりき

第七章

第十五問　契約匱をダビデの城邑に携し時詩篇の何章が作られしや

答　詩篇の貳十四篇は多分此時に作られし者と思わる

第十六問　ダビデ王國を定めし後何事を企てしや

答　エホバの殿を建んとせり王預言者ナタンにいひけるは視よ我は檜の家に住む然ども神の匱は幔幕の中にありナタンダビデに殿を建ることを勸む然どエホバその夜ダビデに言べき事をナタンに諭したまへり則ちダビデの企望は神てきを受け而して神はダビデの後の子に建築の務を命じたまふるはダビデは戰びとにして血をながしたればなり(歴代誌略上廿八の三)故にダビデに建

築の準備をなすことを命じ且其子孫の國の限りなからんことを約し給へり是の國ハ確かに斯世の國とキリストの降臨を指すものなれバユダヤ人ハ常にメッシャハダビデの裔より來らんと信ぜり(歷代誌略上十七章及び詩篇二篇二十二節)

第十七問　ダビデの祈禱を畧說せよ

答　主エホバよ我ハ誰わが家ハ何なれバ汝此まで我を導きたまひしや主エホバよ此ハなほ汝の目にハ少き事なり汝また僕の家の遙か後の事を語りたまへりされバ神エホバよ汝が僕と其家につきて語りたまひし言を永く堅くして汝のいひしごとく爲たまへ其ハ萬軍のエホバイスラエルの神よ汝僕の耳に示して我汝に家をたてんと言たまひたれバなり是故に僕此祈禱を汝になす道を心の中に得たり願くハ僕の家を祝福て汝のまへに永く續くことを得さしめたまへ其ハ主エホバ汝ぞこれを語りたまへバなり願くハ汝の祝福によりて僕の家に永く祝福を蒙らしめたまへ(詩篇百十四篇)

第八章

第十八問　ダビデに降服せし民は何ぞや

答　ペリシテ人モアブ人及びスリヤ人なりダビデ又エトム人の中に護兵を置き是等の國人をことごとく其僕となせり斯の如くエサウは其弟ヤコブの僕となれり(創世記二十七章四十、詩篇六十篇八節)

第九章

第十九問　ダビデ王位に昇るべヨナタンの子孫へ恩惠を施さんと彼へ約せし其事を何時果せしや

答　ダビデ曰けるはサウルの家の遺存れる者尚あるやサウルの僕なるヂバと名くる者ダビデ王に跛者にてヨナタンの子メピポセテあるを告けりメピポセテのダビデの許に來るや伏して彼を拜せりダビデいひけるは恐るゝなかれ我必ず汝の父ヨナタンのために恩惠を汝にしめさん我汝の父サウルの地を悉く汝に復すべし又汝は恒に我席において食ふべしとダビデまたヂバと其僕にサ

ウルの家にかゝはる凡てのことを命ぜり依てメピボセテはエルサレムに住ひ常に王の席に於て食せり

第二十問　ダビデがメピボセテに付て前に知ざりしは何故ぞや

答　此時メピボセテは其父を失ひしより漸く五歳にしてダビデがサウルの宮殿を遁しときは齢六歳なりし彼は曠野を周流しいたれば其誕生の事を聞知に由なし其後にいたりても未だ詳ならず

第二十一問　メピボセテの物語をなすべし

答　ペリシテ人勝利を得サウルとヨナタンの殺されしなとの報知キベヤにきたりければメピボセテの乳母ペリシテ人の近きてサウルの所有物は彼等に奪ひつくされんなとを察し急ぎ其孩児を抱き逃奔しが孩児と偕に倒しか又は轉落か孩児は其足を傷け跛となりき彼難を免れてヨルダンの向ロデバルマキルの家に於て鞠育られしが此事隠密にして彼の生存を知る者は甚だ稀なりし程なるが彼成長し妻を娶て子を産めり

第十章

第二十二問　アンモン人の王へ行しダビデの使節の首務は何ぞや

答　ナハシ死ければダビデはかつてナハシの彼に示したる恩恵のとけふより其子ハヌンの許に使者を遣し其父の死を慰めしにアンモンの諸伯にまどはされて使者を執へ其鬚の半を剃り其衣服を中より斷て之を歸せりダビデ此事を聽きヱリコに止まりて鬚の長るを待しむイスラエル人とアンモン人との爭は此の如く恥べき結果ありしアンモン人はスリヤ人のたすけをもとめイスラエル人はヨアブとアビシャイにみちびかれて勝はイスラエルの手に歸せり(詩篇二十、二十一篇)

第十一章

第二十三問　ダビデは如何なる顯明の罪を犯せしや

答　姦淫と謀殺となりダビデは其重官の一人なるウリヤと云る者の妻バテシバを姦しアンモン人と戰ふ所のヨアブに命じてウリヤを激烈の陣頭に出さしむウリヤ戰に死す此事をヱホバよろこび給わざりき(詩篇五十一、三十二篇)

第十二章

第二十四問　ヱホバは如何にして其怒氣をダビデに示めし給ひしや

答　預言者ナタンを以てダビデにかたり給ひし譬によりてなり

第二十五問　其譬は如何

答　一の邑に二個の人あり一は富て一は貧し其富者は甚だ多の羊と牛をもてりされど貧者は唯自己の買て育てたる一の小き牝羔の外は何をも有ざりき其牝羔これ及び彼の子女と共に生長彼の食物を食ひ彼の椀に飲みまた彼の懐に寝ぬ時に一人の旅人其富る人の許に來りければ彼おのれの羊と牛の中を取りて其旅人のために烹を惜みてかの貧き人の牝羔を取りてこれを烹たり

第二十六問　ダビデは此事を如何に判断せしや

答　ダビデ其人の事を大に怒りて曰けるはヱホバは生く誠に此をなしたる人は死べきなり且彼此事をなしたるにより又憐憫ざりしによりて其牝羔を四倍になして償ふべしと

第二十七問　ナタンの譬の適用と其宣告は何ぞや

答　ナタンダビデにいひけるは汝は其人なり汝崇められて王となり神は凡のイスラエル人を爾の手にわたしたまひしに汝ウリヤの妻を取り又ウリヤをアンモン人の刃劍をもて殺せりこの事をなせし汝の家に禍起り劍何時までも汝の家より離るゝことなかるべし又バテシバの子は必ず死べしと

第二十八問　ダビデの子病氣に罹りしときダビデは何事をなせしや

答　ダビデ斷食して祈り終夜地に臥したり(詩篇三十二篇を見よ)第七日に其子死りダビデ其子の死をしりて地よりおきあがり身を洗ひ其衣服を更てヱホバの家にいりて拜し又パンを食へり僕等が其おこないを見て驚きしにダビデいひけるは嬰孩の尙生るあいだは我斷食して哭たるはヱホバの我を憐みて此子を生しめたまふをしらんと思ひたればなりされど今死たれば我なんぞ斷食すべけんや我再び彼を歸らしむるを得んや我は彼の所にゆくべけれども彼は我の所にかへらざるべし

第二十九問　ダビデとバテシバは別に子を產しや
答　然りソロモンを生めりソロモンとは平和と云ふ義にして彼はエホバに愛せられたり

第十三章

第三十問　ダビデの家の次の禍難は如何
答　タマル其異母兄のアムノンに辱しめられけるがタマルの同母兄アブサロムこれを怒り二年の後アムノンを殺せりて之に於てアブサロムはエルサレムより遁れて三年の間ゲシユルにおれり

第十四章

第三十一問　如何にしてアブサロムは歸りしや
答　ヨアブの謀によりてなり則ち彼ダビデの其子を思ひ煩ふをしりテコアの賢き婦を雇ひてこれに造話を敎へて王の許に遣せり王之に由てアブサロムの事を知り遂に之を呼返せり

第三十二問　アブサロムの容貌を述べよ

答　イスラエルの全家に於て美貌アブサロムに如く者なし其足の跖より頭の頂にいたるまで彼には瑕疵あることなし其頭を剪る時其髮を衡るに二百シケルありき此重は殆ど四ポンドなり

第十五章より第十七章まで

第三十三問　アブサロムの謀反はなんぞや

答　二年の後アブサロム其父の恵を受けしが窃に不軌を謀り己のために戰車と馬とならびに己の前に驅る者五十人を備たり又父の議官アヒトペルを招きての徒黨強盛民次第にアブサロムに加はりぬ

第三十四問　ダビデの遁れし事を説け

答　ダビデ其全家とエルサレムを發すガテの人イツタイに遁るべく勸めければ彼ダビデに對へけるは王我王いかなる處に坐すとも生死ともに僕も亦その處に居るべしと國中みな大聲をあげて哭くダビデキデロン川を渡りて野に赴くザドクとアビヤタル契約の匱を舁て之にしたがへりダビデ彼等に匱をエルサ

レムに舁もどすことを命じいひけるは若しわれヱホバのまへに恩みをうくるならばヱホバ我を攜かへりて其住處を見し給わん

ダビデは其首を蒙ミ跣足にて哭つゝ橄欖山の路をのぼりしが民亦皆然りダビデいのりていふヱホバ願くばアヒトペルの計策を愚ならしめたまへと(詩篇三篇を見よ)

第三十五問　此祈の報を述べよ

答　ダビデの友なるホシャイは先ダビデに彼が聽ところのものは皆これをダビデに志らせんと約束をなしてアブサロムの許にゆけりアブサロムは彼をうけり當時アヒトペルの謀計は神の言に問ひたるごとくなりきダビデ及びアブサロムもまた之を的當とせりアブサロム長老等と會議をなせしとき(歷史中內閣會議の濫觴なり)アヒトペルアブサロムに曰けるは一萬二千人を撰ミダビデのあとを追ひ之を殺しなば民おそれアブサロムに歸して平穩ならんと此てとアブサロムと長老等の意にかな

いたれど更にホシャイに諮へり彼は此事のダビデに危難あることを云り此謀計の不可を陳べ且つ巧に之を証せり即ちダビデは著しき戰士にして其從者は勇士なり野にて其子を奪れたる熊の如く其氣激怒なれり等の言を以てせり故に彼アブサロムに勸めてイスラエル人の悉くアブサロムの許に集るをまちてダビデを撃なば勝を得んといへりエホバイスラエル人の心を感ぜしめたまひしかば民アヒトペルの前にホシャイの謀計を善とせり是に於てホシャイは直にザドクとアヒトペルの二子を急ぎダビデの許に遣しアブサロンの企を告んとせしが彼等の往し時一少者彼等を見て之をアブサロムにつげり然れど彼等井の中に降居りしが或女井の上に蓋を掩け其上に擣たる麥をひろげたりアブサロムの僕彼等を索めて見當らざればエルサレムにかへりたり其後彼等井よりいで往てダビデに告たればダビデ起て其民と共にヨルダンを濟れり

第三十六問　アヒトペルの末路如何

答　アヒトペルは其謀計の行はざるを見起て其邑に往き家の人に遺言して自から縊れ死す

第三十七問　ヨルダンの向岸にてダビデは如何に人民に待われしや

答　民ダビデと從ふ人々に臥床と食物を持來れりしは彼等民は野にて飢憊れ渴くならんと謂たれバなり

第十八章

第三十八問　ダビデの軍とアブサロムの軍と戰を始むる前にダビデも其子のことにつき布告したることはなんぞや

答　我ためにアブサロムを寛に待へとなり

第三十九問　戰の結局は何ぞや

答　アブサロムの軍敗績したれバアブサロム騾馬に騎て大なる橡樹の繁き枝の下を馳過たり其頭忽ち之にかゝりて彼は天地のあいだにあがり騾馬は逸行たりヨアブ之を聽き手に三本の槍を携へ往て尚生をるアブサロムの胸を衝通せりヨアブの武器を執人の少者續てアブサロムを撃ちて之を殺し而して大なる

穴に投いれ其上に石を疊げり

第四十問　ダビデ其子の死しことを聽しとき如何に悲しや

答　ダビデ高聲にて哭叫んで告けるハ我子アブサロムよ嗚呼我汝に代りて死たらん者をアブサロムわが子よわが子よ

第十九章

第四十一問　ダビデエルサレムへ歸途にて何事の起りしや

答　ダビデがアブサロムの亂を遁れし時來りてダビデを詛たりしシメイハ千八人を率ひてダビデを迎へ跪づきて其罪をざんげして罪の赦を求めけれバダビデ其罪を許せり又メピボセテダビデを迎へたり彼ハダビデに離れし以來其足を飾らず其鬚を飾らず又其衣を濯わず歎きいたりきダビデ彼に何故偕に往ざりしやと問ければ彼いふ我々僕に欺かれ僕ハ驢馬をとりさりたれバ騎ことを得ず且僕我を王に讒言せりとダビデ慰め且重ねて云爾とヂバと其地を分つべしと云ひければ彼又云主わが主安然に其家に歸りたまひたれバヂバに之を悉くとらしめたま

へといへりダビデのはじめてヨルダンを濟りし時其軍に食物を與へたりしギレアデ人バルジライ又來りてダビデをむかへたり彼は八十歳の老翁なりきダビデ彼にエルサレムの家にダビデと偕にかへらんことを勸めたれどバルジライ曰けるは我生命の年の日尚幾何ありてか我王とともにエルサレムに上らんや我は今日八十歳なり汝の僕其食ふところ飮ところを味ふをえんや我再び謳歌之男と謳歌之女の聲を聽えんや僕は王と共にヨルダンを濟りて只少しく行ん王何ぞ此報賞を我に報るに及べんや請ふ僕を歸らしめよ我自己の邑にてわが父母の墓の側に死んと民皆ダビデと偕にヨルダンを渡る時ダビデバルジライに接吻祝福して翁は己の所にかへれり王ギルガルに至るときイスラエル人は王に何故ユダ人は王を迎歸すやと問へり斯時ユダ人はユダの支派たる其權利を演べたりイスラエル人いひけるは我等は王のうちに十の分を有ち又我は汝等より多を有るなれど王を導きかへるに最初なるべきものなりとさ

れどユダ人の言はイスラエル人の言よりも厲しかりき

第二十章

第四十二問　ダビデの國に於て此次の横行は何ぞや

答　姦邪なるシバはベニヤミンの人なりイスラエル人を拒みてダビデに從ふことを止めしめたればダビデと偕に在る者はたゞユダのみなりき兩黨戰をろなふ時にダビデアマサに命じてユダの人々を召きたらしめしに彼れ延引しければアビシヤイ又命ぜられてヨアブと偕に行り途にてヨアブ殘酷にアマサを殺して其兵の指揮を執りシバをアベルの邑に追ひ其邑の石垣を崩さんと之を撃いたりしが城邑の中に名ある智き一婦其邑のために仲保をなしいひけるは汝はイスラエルの中にて母ともいふべき城邑を滅さんことを求む何故に汝エホバの産業を呑盡さんとするやヨアブ其婦にシバの首を付しなば此邑を滅すまじと約せしかば婦等シバの頭を刎てヨアブに投付せり是に於てヨアブエルサレムに歸る

第二十一章

第四十三問　イスラエルの地何故三年の饑饉ありしや又此災の停みし事を語れ

答　是は残酷なるサウルと其家のためなり則ち彼がギベヨンの人を殺してヨシユアが彼等と約したる平和の契約を破りしによりてなり是に於てダビデギベヨン人に如何に賠償をなすべきやと問ければ彼等サウルの子孫七人を取りギベアにて之を懸んことをもとめりダビデヨナタンの子メピボセテを除きてサウルの妾リヅパが二子とサウルの女メラブの五子を付せり而して此人等はエホバの前に懸られたり

第四十四問　ダビデは斯の死せし人々に如何なる憐をかけしや

答　ギベア人死体の滅敗までかけをきしが彼の二人の母なるリヅパは麻布を取りて磐の上に布きて晝は空の鳥を屍の上に止らしめず夜は野の獣を近よらしめざりき斯事ダビデに聞へければ人を遣わして彼等の骨及びサウルとヨナタンの骨を取

てベニヤミンの地キシの墓に葬むり

第二十二章

第四十五問　こゝにダビデは己の家及びサウルの手と諸の敵の手より屢救はれしことを如何に祝しや

答　詩篇十八篇に符合する感謝の頌歌なり斯の歌は己一身の爲めに室内の竪琴を以て調べる者として此に記されたれども後にいたりて伶官の長に與へられて敎會の聖歌となされたり

第二十三章

第四十六問　ダビデの最後の言は何ぞや

答　エサイの子ダビデ高く擧られし人ヤコブの神に膏を沃がれし者イスラエルの善き歌人いひけるはヱホバの靈わが中にありて言たまふ其論言わが舌にありイスラエルの神いひたまふイスラエルの磐われに語たまふ人を正く治むる者神を畏れて治むる者は日の出の朝の光の如く雲なき朝のごとく又雨の後の日の光明によりて地に萌いづる新草のごとしわが家かく神と

ともにあるにあらずや神萬具備りて鞏固なる永久の契約を我になしたまへり吾が救と喜を皆いかで生ぜしめ給はざらんや

第二十四章

第四十七問　ダビデ何事をなしてヱホバの怒を起せしや

答　ダビデ諸の支派の中をダンよりベエルシバに至るまで行めぐりて民を核べしめたりヨアブはダビデの民を核べることを諫けれども容れられざりき

第四十八問　ダビデの罪は何に基くや

答　此罪はダビデの高慢と名譽の心及び埃及記三十章に記されし人數を核ぶる時は各半シケルの贖罪金を出すべしとのモーセの律法に背きしによるならん又詳に言へばヱホバの命ぜざりしことを爲しによれり剛愎にして恩をしらざるイスラヱルの民の如くなれば神の怒を蒙るも奇むに足ざることにて歴代誌畧上二十一章一節にサタンイスラヱルにむかいダビデをしてイスラヱルの民を核べしめたりとは之を謂なり

第四十九問　ダビデの悔改と其罰を述よ

答　ダビデ心に民を核べる事の愚なるを感じ其罪を懺悔せり此後ガテと云ふ預言者エホバの言をうけてダビデの許に來り彼に三箇の罰の其一を撰しめり即ち七年の饑饉三ヶ月敵に追るゝこと三日の疫病是なりダビデ第三の罰をえらみいひけるは我苦甚しエホバの憫れ大なり願くは我をエホバの手に陷いれよ人の手に陷いれ給ふ勿れと是に於て疫病起りイスラエルの死者七萬人なりき

第五十問　疫病の消滅せし物語をなすべし

答　エホバの使者エルサレムに至り撃いたりしにエホバ天使を顧みていひけるはこれ足りとダビデ仰視しに天の使天地の間に立て手に拔刀をもちエルサレムにむかへるを視て長老等と麻布を衣て地に俯伏いひけるは罪を犯し惡をなせしものは我にあらずや斯群羊何の罪かあるエホバよ我と我全家を攻て斯民に災を降給ふなかれとこの後天の使ダビデにアラウナといへ

るエブス人の禾場に於て臺を築くべしと命じければダビデ之を買わんことを願へりアラウナいひけるは燔祭のためには牛あり薪には打禾車と牛器あり又禮物の麥をも與ふれば汝欲する所の物を取べしとダビデいひけるは否我財を費さずしてエホバに燔祭を獻るを好まず我之を買わんと金六百シケルをアラウナに與へ玆に壇を築き物を獻じてエホバを籲べりエホバ天より火を壇の上に降して應へ給へり天使乃ち刄を鞘に納めたり(歴代誌畧上二十一章十五節より二十七節迄)

第五十一問　ダビデは宮殿を築かん爲め如何なる準備をなせしや

答　ダビデは石工を招き石を刻ましむ又ツロとシドンの檜巧なる諸工師又數がたき程の金銀銅鐵を備へ其子ソロモンにいひけるは汝ぢ起て斯の業をなせエホバ汝と偕にあらん(歴代誌畧上二十二章)

第五十二問　イスラエルの民とダビデとの對話を述よ

答　ダビデ群臣をエルサレムに集てこれに告ていひけるは彼エホ

バのために殿を築んと志ざしたれど戰人なして血を流したるにより神之を禁じ給へりされどヱホバ我を撰んで限なくイスラエルの王となし又子輩の中よりソロモンを撰んでヱホバの國の位に坐せしめたまへりヱホバ曾ていひたまわくソロモン我家と我殿を建可し彼もし我法律を守ば我限なく彼の國をたてんと云り之によりてダビデは民へヱホバの法律を守り其地を保ちて限なく產業として其子孫へゆづらんことを諭せり（歷代誌畧上二十八章、詩篇七十二、九十一、百四十五篇）

第五十三問　ソロモンへダビデの命令は何ぞや

答　我子ソロモン汝宜しく汝の父の神を知て誠の心と悅をもつて之に事べし之を求めて得ざることなく之を棄てるば汝限なく彼にすてられきんヱホバ汝を簡て殿を建てしめてれを聖所となし給ふ汝恪强其業をなすべしと又ダビデは殿廊及び總ての工事の模式を示しいひけるは諸の式はヱホバ圖を以て我に示したまへりとダビデソロモンに志を强くし心をさかんなせば

エホバ即ち我神はエホバの殿の工事を竣まで汝と偕なありて汝を忘るゝことなく又汝を棄ることなしと奬勵せり(歷代誌畧上廿八章)

第五十四問 ダビデが民に工事の寄附をなさせしや

答 ダビデ民にいひけるは我子ソロモンは尙齡弱神彼を遴選給ひしかど工作甚だ鉅にして彼にあまれりそは斯殿は人のためにあらずエホバなる神のためなればなり又曰けるは神の室の爲に金銀寶石及び花石を備へたり是もとより我神のために殿を建んことを仰慕しにより是所有の物を獻ぜしなりダビデ民に忠を竭し誠をもつて神に奉事者の誰なるかを問りてこゝにおいて大官軍長及び士官等は欣心を以て金銀銅鐵寶石等を出し獻じければ王ダビデは民と偕に大に喜べり(歷代誌畧上二十九章)

第五十五問 如何にしてダビデは民と偕に其悅を爲せしや

答 ダビデ總の會衆の前にエホバを讚美感謝して民とソロモンのために祈をなせり會衆エホバを跪拜し數多の犠牲をそなへた

り斯日エホバの前にて飲食し再びソロモンに膏を沃ぎ王となせり(歴代誌畧上廿九章)

第五十六問

ダビデの政治は幾年間なりしや且其死を記せよ

答　彼三十歳にて政を執り四十年の間王位に臨めりヘブロンにて七年エルサレムにて三十三年合せて四十年王位に臨めり彼年高く財貨と榮花に滿て死ねり

サムエルの兩書中ダビデは列王の最優る者歴代誌略には慈惠聖潔に富み聖旨に適へる人として記さる特に讃べき信仰と聖なる作爲は汗青を照し其位に登るや心を教務と神の聖き務に委し終身之を用ひ神殿を建んてとに熱心するが如きは燄炎の水に消ざるに似たり救主キリストを表したる斯殿にダビデが其心を盡せしなとは神殿建築の準備と死に臨んてイスラエルの民と其子ソロモンへ建築の事を懇命じたるに由りて知らるゝなり

イスラエル王ダビデの政治の大体はジヲンの王イエスの支配

を表せりダビデは多の防碍の中より王位を得義を以て民を治め諸の敵を從がへて國の富を計れり彼れ其民へ眞成の聖潔熱き信仰耐忍と從順の傑烈を示せりされどキリストのなしたまひしてど尙遙か彼に勝れるなり我等が·ダビデの國史を讀む大主意ハメツシヤの國を測知るの益あり讀者必らず詩篇を參覽せん事を勸む

舊約史略 撒母耳後書 終

列王紀略上

ユダヤとイスラエルの王

紀元前一千十五年より同五百八十八年にいたる
開闢二千九百八十九年より三千四百十六年に至る

列王記の上下に錄す所はダビデの時よりバビロンへ俘囚となるまで王政の下にありしイスラエルとユダの歴史にしてソロモンの死に發端す然どユダの王とイスラエル王の間には國體と云ひ政體と云ひ著しき不同あり○ユダは神の命に從ひダビデの即位よりバビロンの俘囚まで五百十年の間父より子に傳りて此間少しの內訌なく又革命もなきは比類なき一例と云ふべしダビデの時より俘囚までユダは二十二人なり十族はヤラベアムの指揮によりユダの連合を破りて其邪なる心にかなへる一の政府と敎法を立り○イスラエルにては何きの族よりも種々の逆徒おこり強奪押領專ら行はれたりヤラベアムの時よりアッシリヤの俘囚まで三百十一年にしてイスラエル王の數は十九人とす
列王紀上書は百二十六年間の歴史にして下書は大畧三百余年間を含めり

歷代志略後書は其要畧列王紀に等しただ左の不同あり列王紀に錄す處はユダとイスラエルの歷史參雜し歷代志畧下はユダの王ダビデの家譜にしてイスラエル王の分は全く除かれたり其事柄は最も肝要廣大にしてメツシヤに關る系圖ダビデと其子孫への契約を遂給ふ神の信實を表わせり○ソロモンの後の王紀を見れば善王は昌へて民も亦樂み惡帝は困蹙みて民も亦安んぜず惡慝貫盈に及て國家終に亡ぶ(サムエル前書二章三十節)

第一章

第一問　ダビデ年老て弱くなりし時誰が非望を圖りしや

答　ダビデのヘブロンに王たりし時生たるダビデの四子アドニヤなり襲家の法によれば王位を嗣ぐは長子なるにアムノン、アブサロム死後(多分キレアブも死す)アドニヤ自から位を嗣がむと思しがヨアブ及び祭司アビヤタル之に一和し彼を王とせんとて即位の禮を設け家畜や羊を宰り大なる饗筵を設けソロモンと其他數人を除き王の諸子イスラエルの軍の長等を招き曰けるは神アド

ニヤを守る

第二問 アドニヤの謀計は如何にして敗れしや

答 預言者ナタンソロモンの母バテシバの許にいたり之に語りいひけるはダビデ王にゆきアドニヤがなせし事且ダビデの後はソロモン王たるべしとの誓を彼に思ひいださしめよと○バテシバ、ダビデの許にいたりナタンの教へたる事を彼に告し時ナタン來りてバテシバの話を堅ふせり○是に於てダビデ彼等に命じけるは汝等我子ソロモンを我騾に乗せ彼をギホンに導き下り彼處にて祭司ザドクと預言者ナタンは彼に膏を沃ぎ王となすべしと又ダビデの命ぜし如く喇叭を吹きければ民悉くソロモンに從ひ大に悦祝ひ地は彼等の聲にて裂たり○アドニヤ及び來賓この聲音を聽しがやがてダビデソロモンを王となせし事を知りたり

第三問 此報知に由てアドニヤと其賓客は如何にせしや

答 彼等驚て各其途に去りゆけりアドニヤはソロモンに殺されんことを恐き起て往き壇の角を執へたり王ソロモン人を遣て彼を壇

より携へ下らしむ彼来りてソロモン王を拝しけれバソロモン彼に汝の家に往といへり

第二章

第四問　ダビデがソロモンへ授けし末次の命令ハ何ぞや

答　汝ハ強く丈夫の如くなれエホバの職守を守り其道に歩み其誡命を守るべしとダビデ又ヨアブがアブチルとアマサを殺せし事を憶わしめて曰けるハヨハアの白髪を安然に墓に下らしむるなれ但しバルジライの子等にハ恩恵を施し彼等をして汝の席にて食ふ者の中にあらしめよそハ己がアブサロムの面を避けし時我に就たる者なれバなりされどシメイハ此時厲しく我を詛ひたれバ血を流して其白髪を墓に下すべし

第五問　アドニヤに係る別の事情ハ如何

答　アドニヤバテシバの許に往きすゝめて言けるハ汝ソロモン王に往きダビデの老て求めたる娘即ち彼の死する日まで愛したるアビシャグを我に與へられん事を請ひたまへと是に於てバテシバ

ソロモン王に至りければ王起て彼を迎へ彼を拜してバテシバのために座を設けて其右に坐せしむバテシバソロモンにアドニヤへアビシヤグを與へられん事を請へりソロモンアドニヤが國を私せんと企てしを見てエホバに誓ひけるはアドニヤは今日殺さるべし彼れベナヤを遣はしければ彼れアドニヤを撃て死しめたり

第六問　アドニヤと偕に往しアビヤタルの罰は何ぞや

答　彼はダビデの前に神の匱をかつぎ又ダビデと偕に艱難をうけし人なればソロモン彼を殺すことを欲せずして但彼が祭司の職を奪へり

第七問　ヨアブの末路は如何

答　ヨアブアドニヤの風聞をきゝしとき幕屋にのがれ壇の角を執れりソロモンきゝてベナヤを遣せりヨアブ壇を退くことを肯んぜざるによりベナヤ此處にて殺し野にある其家に葬れり

第八問　シメイの終は如何ん

答　ソロモンシメイに命じけるは汝エルサレムに家を建てこれに住べし汝こゝより去るとき戮さるべし○三年の後かれガテに往き再びエルサレムにかへりしがソロモン之をきゝ再びベナヤに彼を殺すことを命ぜり是に於て國はソロモンの手に固く立り

第三章

第九問　ソロモンは誰を娶りしや

答　エジプトの王パロの女なり

第十問　ソロモンへエホバの現れ給ひしこと如何

答　ソロモンギベオンに往てエホバに一千の燔祭を献げたり茲にエホバ夢にソロモンに顯れいひけるは我何を汝に與ふべきかソロモンいひけるは汝は僕をして我父ダビデに代て王とならしめたまへり而るに我は小き子にして出入することを知ず且僕は汝の選たまひし汝の民の中にあり即ち大なる民にて其數衆くして數ふる事も書すことも能はざる者なり是故に聽き別る心を僕に與へて汝の民を鞫しめ我をして善悪を辨別ることを得さし

めたまへ○此言エホバの心にかなへりエホバいひけるは汝此事を求めて己のために長壽を求めず又己のために富有をも求めず又己の敵の生命をも求めずして惟訟を聽き別る才智を求めたるに因て視よ我汝に賢明く聽慧き心を與ふれば汝の先には汝の如き者なく汝の後にも汝の如き者起らざるべし我亦汝に富と貴とを與へ列王の中汝におよぶ者あらざるべし汝若汝の父ダビデの歩し如く吾道に歩みて我法憲と命令を守らば我汝の日を長うせん

第十一　問　ソロモンの智慧に付て初の實事は何ぞや

答　二婦の訴訟の判決なり此婦等一の家に在て偕に子を生めり幾もなく一人の子死にければ其母夜中に起て他の婦の子とかへれけり○朝に至りて二婦偕に生る子を己のものと云爭へり○ソロモン！劍を持來らしめ活る子を二に分ちて一半を此に一半を彼に與へよといへり時に其活る子の母之がため心焚が如く王にいひけるは請ふ我主よ活る子を彼に與へたまへ必ず殺したまふなか

れど然ども他の一婦は是を我と汝の物にならしめず判たせよと言りてゝに於て王は活子を二に分つを好ざりし婦は必ず其子の母なりと判決せり

第四章

第十二問　ソロモンの國の榮花と尊貴につき何事が錄されしや

答　ユダとイスラエルの人は多くして濱の沙の多きがごとくなりしが飲食して樂めりソロモンは河よりペリシテ人の地にいたるまでとエジプトの境に及ぶまでの諸國を治めたれバ皆禮物を餽りてソロモンの一生の間事たりソロモンの一生の間ユダとイスラエルはダンよりベエルシバに至るまで安然に各其葡萄樹の下と無花果樹の下に住り

玆にしるされたるソロモンの國の物語は詩篇百二十二篇に錄されたる預言に應ふ又此預言はソロモンよりも多くはキリストを指り

第十三問　ソロモンの智慧と名譽につき何事が錄されしや

答　神ソロモンに智慧聰明と廣大き心を賜ふ海濱の沙の如し、ソロモンの智慧は東洋の人々の智慧とエジプトの諸の智慧よりも大に して箴言三千、詩歌一千五首あり且草木禽獸匍行物と魚の事を論じてレバノンの檜より墻に生る苔に迄及べり天下の諸の王ソロモンの智慧を聽んとて人を遣わせり

ソロモンは勸善者にして三千の箴言即ち人の行爲を導に妙力ある格言を傳へたり今時の箴言は此の中のものなるやたしかならず彼は詩人なり又逸類なる智者なり一千零五首の詩歌は神託として世に擴まれり此中の一歌をソロモンの哀歌と名く又ソロモンは博識の理學者にして天然の奥義に達し植物動物の性質を説り四方の人々はソロモンの智慧を尋ねんと隣國より來れり嗚呼ソロモンの邸は學術の市にして理學者の會場と云ふべし

第五章

第十四問　ソロモンが神殿建築の準備を語るべし

答　恒にダビデの大なる友たりしツロの王ヒラムソロモンの王位に

昇りしを親せんとて人を遣しければソロモン其使者に建築の目的を示せり

ソロモンいひけるは父は戰によりて殿を建る事能ざりきされど今エホバ太平を賜りたりと又ツロの王へ工事の補助を願ひいひけるは汝の知るごとく我等の中にはシドン人の如く木を砍に巧なる人なしとヒラムはソロモンの願を聽き偕に約束をなせりソロモン三萬のイスラエル人を募り之を一月交代に一萬づゝレバノンに遣わせりソロモン負戴者七萬人山に於て石を砍る者八萬人外に工事の長なる官吏三千三百人ありて工人を統たり

第六章と七章

第十五問　簡畧に殿の物語をなすべし

答　此殿はエホバの家と名けられたり限なきの智識は此建築者にしてモーセが山に於て幕屋の圖式を與へられし如く聖靈により又筆錄によりてダビデに建築の範摸を示されたりエホバの家と名ける譯はエホバのほまれのために献ぜられたればなり此建築は

ヱヂプトの地を出し後四百八十年ソロモンのイスラヱルに王たる四年に始まれりされど四百年の後子ブカド子ザルによりて燒れたりソロモンが治世の始の三年間は工事融暢のために國内の事務と材料を整備し材料備ふるに及で其造作に着手せり是ぞ平和なる神の家なれば工事中に鐵器の聲なく殿の廣濶悉くダビデに與へられたる模範に從ひ七年の久きを渉りて其功竣りたり

第十六問　ソロモンは外に如何なる家を造りしや

答　ソロモン已の家を立しが十三年を經て竣れり(多分ヱルサレム及負郭の邸宅)其地位と家を環る樹木の美しきにより之をレバノンの森の家と稱せり彼其妻即ちパロの娘のために家を建しが彼れ此處に住めり

第八章

第十七問　修殿節の物語をなすべし

答　縦へ殿は美しくも神の櫃なくば靈魂なき人の體の如く又人の住ざる家に同じ殿の工作を畢て後必須の事は神の櫃を殿の中に藏

むる事なり故にソロモン匱をダビデの邑より昇上せんとてイスラエルの長老と諸の支派の長イスラエルの家の長等をエルサレムに召集む祭司エホバの匱と集會の幕屋と其内にありし諸の聖き器を昇上りしがソロモンと諸の會衆は許多の羊と牛を獻げたり祭司神の匱を至聖所の中ケルビンの翼の下におけりかくて祭司聖所を出けるに雲エホバの家に盈ければ祭司は雲のために立て供事ることあたはざりき其はエホバの榮光エホバの家に盈たればなり

第十八問　ソロモンの祈は如何

答　ソロモンイスラエルの凡の會衆の前にてエホバの壇のまへに立ちその手を天に舒て祈けるは願くは爾の目を晝夜此家即ち爾が我名は彼處に在べしといひたまひたる處に向ひて開きたまへ願はくは僕の此處に向ひて祈らん祈を聽たまへ願くは僕と爾の民イスラエルが此處に向ひて祈る時に爾其懇願を聽たまへ爾は爾の居處なる天に於て聽き聽て赦したまへと(歷代誌畧下六章四十一、

四十二節に於てソロモン其父に教へられし言語にて此祈を約めり其言にいふヱホバなる神よ爾の尊榮なる法匱を此殿に歸し爾の安居の所となしたまへ爾の祭司をして拯救を衣せ爾の聖人をして爾の矜恤に喜しめよヱホバなる神よ爾の膏を以て沃ぎし者の祈を却くる勿れ矜恤を以て爾の僕ダビデを念ひ給へとあかして王と諸のイスラエルの人ハ酬恩祭の爲に牛二萬二千羊十二萬を献げ十四日の間節筵を開きて民大に悦べり(詩篇百三十二篇八節より十節迄を見よ)

ソロモン此家を神に献し神亦徵を以て之を納れたまふソロモンは格別に家の使用を示し謙りて神の旨に適ひたる犠牲の爲のみならず祈の家に用らるん事を願へり福音公會の模範亦以て見るべし

第九章

第十九問　默示にて神とソロモンの契約如何

答　神ハまことにソロモンの祈に應じ之を受し徵に天の火牲犢を燒

きつくせしは歷代誌畧下七章に錄さをしが如し本書に尙は明ふ神の答を見る神ハキベオンふあらわきし如くソロモンふあらわき神其殿ふ在して彼の祈を聽給ハん事を示しソロモン亦神ふ己と其人民の行爲の正しふらん事を約せりソロモンの國の堅固なるハ神に從ふ心の厚薄によるとなりろハ約束ハ此事によきべふり又ソロモンと其子等の信仰神ふとふざふり神を棄るより其國亡び殿ハ神に棄らるべし

ソロモンの子等ハ何故ヱホバ此家に斯くふし給ふと問きて答ふる事あたハざりき蓋ハ彼等ろの神ヱホバを棄たれバふり

第二十問　ソロモンハヒラムとの約束を果せしや

答　然り王はガリラヤの地の城邑二十をヒラムに與へ曾てヒラムはソロモンへ金百二十タラントを與へり

第廿一問　ソロモンの僕ハ誰ぞや

答　ソロモンハアモリ人ヘテ人ペリシテ人ヒビ人エブス人の遺存る人々を奴隷とふせりされどイスラエル人ハ一名も奴隷とふらざ

りきイスラエル人は軍人にして貴とき僕なり

第十章

第廿二問 シバの女王ソロモンを訪ひし事を說くべし

答 馬太傳三章四十二節に我等の救主より南の女王或は地の極(多分ユーメンの地)より來る者と云れたるシバの女王ソロモンの風聞を聞き難問をもつてソロモンを試みんと多の從者香物黃金寶石を負ふ駱駝を從へてエルサレムに來れりソロモン彼に凡の事を告げ知ざる事なし彼ソロモンの諸の智慧と建家と貨財及び其臣僕を見て氣を奪きたり彼ソロモンにいひけるは我自己の國にて汝の行爲と爾の智慧に付て聞たる風聞を信ぜざりしが今見るに其半も我に聞へざりしなり汝の智慧と昌盛は我が聞たる風聞に越常に爾の前に立て爾の言を聞く是等の人爾の臣僕は幸福なるかなエホバ汝を悅ぶエホバなる神は讚べきかなるかなイスラエルを愛し給ふに因りて爾を王となして公道と義を行はせ給へばなりと云かして黃金寶石香物許多の寶を王に饋きり女王の饋りた

るがごとく多の香物は重て至らざりき王亦例に隨ひて女王に物を饋りたる外に彼が求むる凡ての物を饋れりかくて彼れ其臣僕と共に國に歸れり

第廿三問　ソロモンの富と智慧は何ぞや

答　一年にソロモンの所に至れる金の重量は六百六十六タラント(即ち十八萬弗に等し)なり彼は四方の國と交易し展金の大楯二百と干三百を造れり又象牙を以て大なる寶坐を造り鈍金を以て之を蔽ふ彼の飲る器は皆金なりレバノンの森の家の器も皆鈍金にして銀の物なかりき銀はソロモンの世には貴まざりしなり〇天下皆神がソロモンの心に授けたまへる智慧を聽んとてソロモンの面を見ん事を求めたり王エルサレムに於て銀を石の如くになし檜を平地の桑樹の如くになして多く用たり

第十一章

第廿四問　ソロモンの偶像を信ぜし事を語るべし

答　ソロモン多くの外國の婦を寵愛し彼に一千の妃嬪ありしが彼が

箴言中懺悔の説敎に見る如く妃の中に一人もよろしき婦なかり

〇ソロモン年老たる時妃等其心を轉移して他の神に從ハしめけれバ彼シドン人の神アシタロテアンモン人の悪むべき者なるモロクモアブの憎むべき者なるケモシ等のために崇邸を築き香を焚き神を祭れり〇此事により神ソロモンを怒り彼と彼の僕より國を裂んと企て給へりされど神ダビデのためにソロモンの世にハ之をなさざりし但ダビデとエルサレムのために一の支派を彼の子に與へたまへり

第廿五問　ソロモンの敵ハ誰ぞや

答　エジプトにてもてなされしエドム人ハダテなり彼ハソロモンを怨恨る原因ハソロモンがエドムを撃しによる又ダマスコを治めしレヅン及びネバテの子ヤラベアムなり彼ハアヒヤが十二の支派を治んと約したる人なり

第廿六問　ヤラベアムと國に係るアヒヤの預言を述べよ

答　ヤラベアムハエフラタ人にして寡婦の子なり

彼ハ大なる能力ある者なりしかバソロモン此少者が事に勤むるを見て之を立てエフラタとマナセの貢の役を督どらしむ彼が王位にのぼらんと企しことハ預言者アヒヤが爾ハ凡て爾の心の望む所を治めんと云ひし言に因りて明なりアヒヤ此の預言の慥なる兆に其衣服を執へて之を十二片に裂きヤラベアムに其十片を與へり此後ソロモンヤラベアムを殺さんと求めけれバエジプトに遁れ王ソロモンの死まで彼處に居れり

第廿七問　ソロモン踐祚て幾年にして何處に葬られしや

答　四十年なり○ソロモン其父祖と偕に寢りて其父ダビデの邑に葬らる

サウルノ即位式（傳油ノ禮）より王國分割に至る重大事件表

	紀元前	同時の史
サウル傳油ノ禮式を行ふ	一千〇九十五年	サムエル預言者たり
サウル王冠を戴く	一千〇八十五年	ナハシアンモンの王たり
ダビデベツレヘムに生る	仝年	
サウル黜られサムエルダビデに即位の禮（傳油ノ禮）を行ふ爲めに送らる	一千〇六十三年	
サウル並其子等戰場に殺さる	一千〇五十五年	
ダビデヘブロンに於て王冠を戴き猶太國を支配す	仝年	
マハナインに於てイシボセテイスラエル國の殘餘を支配す	仝年	ヒラム第一世タイルの王たり ハダゲゼルアラムの王たり
イシボセテ殺さる	一千〇四十八年	ハヌンアンモンの王たり
ダビデイスラエル全國の王となさる	仝年	
ダビデエブス人よりエルサレムを取りて	一千〇四十七年	

其王國の政座となす	
契約櫃をエルサレムに運び來る	一千〇四十五年
ソロモン生る	一千〇三十三年
アブサロムの反逆	一千〇二十四年
アブサロムの死	一千〇二十三年
ソロモン即位の禮を行れる（傳油ノ禮）	一千〇十六年
ダビデ齢七十歳にして死す	仝年
神廟建築始る	一千〇十二年
神廟の奉祀	一千〇〇四年
王宮の竣功しこと	九百九十二年
ソロモン死す	九百七十五年

預言者ナタン及ガデの代

プシナチュス埃及の王たり

リヅンダマスカスの王たり

ヒラムタイルの王たり

預言者アハイジヤの代

シサク埃及の王たり

第拾二章

第廿八問 ヱロボアムと總てのイスラエルの人はレホベアムに如何なる願をなせしや

答 彼等はレホミアムに告ていひけるは汝の父我等の軛を難くせり然ども爾今爾の父の役と爾の父の我等に蒙らせたる重き軛を輕くせよ然ば我等爾に事へん

第廿九問 レホミアムの返答は何ぞや

答 去て三日を經て再び來れといへりては此間にレホミアムは老人と少年とに計り返答のそなへをなさん爲なり

老人の返答

爾もし今日此民の僕となり之に事へて之に答へ善き言を語らば彼等永く爾の僕となるべし

少年の返答

彼に告て斯く言ふべし我小指は我父の腰よりも大しまた我父爾等に重き軛を負せたりしが我は更に爾等の軛を重くせん我父は

鞭にて爾等を懲したれども我は蠍をもて爾等を懲さん
ヱロボアムと民第三日にレホミアムに詣りしが彼荒々しく民に答へ老人の教を棄て少年の教の如く彼等に告ぐ○王の民に聴ざりし事はヱホバより出たるなりヱホバかつて預言者を以てヱロボアムに告し言を行わんとてなし給へるなり

第三十　問　其結果如何

答　ヱロボアムと總てのイスラエル人謀反をなせりイスラエルの人王の聴納ざるを見て之に答ていひけるは我等ダビデの中に何の分あらんやヱサイの子の中に產業なしイスラエルよ爾等の天幕に歸れダビデよ今爾の家を視よとレホミアム徴募頭なるアドラムを遣わしけるにイスラエル皆石にて彼を撃ち死にいたし十族は叛きてヱロボアムを王に撰べりレホミアムは兵力にて叛徒を從わしめんと計りユダとベニヤミンより十八萬人を募れり此切迫なる戰端預言者の仲裁に止められたり預言者の言左の如しヱホバ斯く言ふ爾等の兄弟なるイスラエルの子孫と戰ふべからず

各人其家に歸れと

第三十一問 エロボアムは何事を盡力して國を安ぜしや

答 彼二の金の犢を造り一をベテルに安へ一を國の端なるダンに置き崇邸の家と壇を造り通常の民を祭司となし幕屋の節期を變じて八月十五日を節期の日と定めたり

第十三章

第三十二問 預言者が使を以てエロボアムをいさめし事を述よ

答 神の人ユダよりベテルに來たれる時にエロボアムは壇の上に立て香を焚ゐたり神の人エホバの言を以て壇に向て呼はりいひける壇よ壇よエホバ斯く言給ふ視よダビデの家にヨシアと名くる一人の子生るべし彼れ爾の上に獻げん且人の骨爾の上にやかれんと彼又た異蹟を示していひけるは視よ壇は裂け其上にある灰は傾出んとエロボアム王神の人の言を聞る時其手を伸し彼れを執へよと言ひたるが其手枯て再び屈縮ることを得ざりきしかして神の人がエホバの言を以つて示したる異蹟の如く壇は裂け

灰ハ壇より傾出たりヤロボアム神の人に其手を本に復らしめん事を請り神の人エホバの面を和げられバ王の手本に復りて前の如くになり王神の人と偕に家に來りて身を息めんことを願ひしが神の人肯わずしていひけるハ爾假令爾の家の半を我に與ふるも我ハ爾と偕に入らじ又此所にてパンを食ず水を飲ざるべし其ハエホバいふ我にパンを食ふ勿れ水を飲む勿れ汝が往る途より歸るなかれと命じたまへばなりとて彼ハ他道を往り

第三十三問　神ハ誰をベテルに歸るべく勸めしや其物語をなすべし

答　ベテルに一人の老たる預言者あり其子等來りて父に神の人がなせし事及び神の人が言しすべての事を宣たり彼神の人の後に往きて橡の樹の下に坐するを見其家に來らん事を請しが神の人ハ前にヤロボアムになせし如く之を肯ハざりき然ど老たる預言者いひけるハ我も亦爾の如く預言者なるが天の使エホバの言を以て我に告て彼を爾と偕に爾の家にたづさへかへり彼にパンを食ハしめ水を飲しめよといへり是其人を誑る

なり是に於て彼來れりされど彼等席に坐せし時ヱホバの言老たる預言者に臨ければ彼神の人に向ひ言けるは爾ヱホバにそむいて食ひ又飮たればば爾の屍ハ爾の父祖の墓に至らざるべしと神の人往きけるが獅子之に遇ひて殺せり而して其屍ハ途に棄られ驢馬ハ其傍に立ち獅子も亦其傍に立り通行の人々其屍と驢馬をさまたげざりき老たる預言者の務ハたゞ神の人を殺す事なり彼屍を邑に携へ歸り哀みて之を葬り即ち屍を己の墓に收め言けるハ嗚呼我兄弟よと其子等に命じけるハ我死したる時ハ神の人を葬たる墓に我を葬り我骨を彼の骨の側に置めよ其ハ彼がヱホバの言を以てベテルにある壇に向ひ又サマリヤの諸邑に在る邸の凡の家に向ひて呼ハりたる言ハ必ず成べければなりと神の脅と審判兆と惠はヱロボアムを棄たり

第十四章

第三十四問　アビヤの物語をなすべし

答　ヱロボアムの子アビヤに疾ありヱロボアム其の妻に言ひける

は請ふ起て裝を改へ禮物を取り我此民の王となるべきを我に告たるシロの預言者アヒヤの許に往け彼此子のいかになるかを示すべしと妻窃にアヒヤの家に至りしがアヒヤは年齢のため目凝りて見る事を得ざりき然どエホバは彼にエロボアムの妻裝を改へて爾に來るべしと告げ給へり○アヒヤ戶外に履聲を聽きていひけるはエロボアムの妻入よ爾何ぞ其身を他人とするや我汝に嚴酷き事を告命ぜられたりと往て夫に曰ふべし國をダビデの家より裂き離して汝に與へたるに汝は其命令を守ずして汝の前に在りし總ての者よりも惡をなしたるによりエホバ災害を下し給わんイスラエルの上に一人の王起りエロボアムの總の家を斷絕んエホバイスラエルを擊賜ひ此の善地より拔き去り之を河の外に散したまわん又エロボアムの子は死すべし然れども是は恩なり何となれば此子エホバに向ひて善意を懷ければなりエロボアムに屬するものはたゞ此子のみ其墓に入るべしイスラエルの人皆哀みて之を葬らん果せる哉

預言者の曰る如くエロボアムの妻家の閾に至れる時子は死し

イスラエル人は之が爲にかなしめり

第三十五問　エロボアムの治世は幾年なりや

答　二十二年なりアヒヤの死後殆ど二年にして彼れ亦死せり

第三十六問　レホボアム支配の初三年の景況は如何なるや

答　彼はエルサレムに住み防禦のために邑を建て總てイスラエルにある祭司とレビ人を彼の許に集めたりイスラエルの人の外に主なる神を求めんと決心したるものさへも彼等の先祖の神に犠牲を供ふるためエルサレムに來りて王國を強めたり其妻の中にて彼はアブサロムの娘なるマアカなるものを寵し其子アビヤムを立て彼の兄弟の支配人となせり之彼を王となさんと考へたる故なり

第三十七問　彼の支配の殘年は如何なりしや

答　レホボアム立らきし跡彼は主の命戒を棄てたり而して總てのイスラエル人はエジプトの王シシヤクと共に無數の軍勢を率

ひ來りてユダヤの垣したる邑を取りエルサレムに來れり時に預言者シマヤハレホミアムとユダヤの皇族等に逢ひいひけるハ主曰たまひけるハ汝我を棄てたり依て我も亦シヽヤクの掌中に汝等を置りと其時皇族等と王ハ其身を謙遜して曰く神ハ至正なりと玆に神ハ彼等の其身を謙遜するを見給ひ彼ハ預言者を送りて彼の怒の最早シシヤクの手よりして彼等の上に灑ぎ來らざると彼等ハ後來彼の僕たるべき事を受合しめたりシシヤクハ來りて神の家より寶物を取去りぬソロモンの作りたる金の楯をも取れり其代にレホミアムハ眞鍮の楯を作れり彼ハ支配を始めしときハ四十一歳の齡にしてエルサレムに於て十七年間支配せり彼ハ惡をなせり如何となれバ彼ハ神を求むるの心なかりしが故なり

歴代史畧下第十三章

第三十八問　レホミアムを嗣しハ誰なりしや其人の支配ハ如何

答　其子アビヤムなる者紀元前九百五十八年にユダの第二世の王と

して位を嗣げり彼はエロボアム王第十八年に支配を始めたり而して此二王の間に戰ありきエロボアムはレホミアムの死後凡の民を從へんことを欲ひしものと思わる彼のユダヤを支配せしこと僅三年にして其中此勝利は最も著しきものとす然るにアビカはエロボアムの上に大勝利を獲たり

第三十九問　各王の軍勢の數は幾何なりしや

答　アビアムの軍勢は四十萬人の拔擢兵を以て組み立たりエロボアム勢は八十萬人とす

第四十問　アビヤムは敵勢に告しことありや

答　彼はエフライムのゼマライム山のたかみに立ち云けるは聞け汝エロボアム及びイスラエルの人よ汝等はイスラエルは神が永くイスラエルの國を我父ダビデ及び其子孫に與ふる鹽の約束を爲せるを知るにあらずや然るに尚ダビデの子ソロモン僕子バテの子なるエロボアム起りて其主に叛けり彼れに集まきる所の人は妄人べリアルの兒等にしてソロモンの子なるレホミ

アムを攻たり干時レホボアム尙幼して心柔く之を拒ぐこと能はざりき而して今汝等ハダビデの子の手に於ける神の國に敵せんことを思へり汝大群あり汝等と共にハエロボアムが神として汝等の爲に造れる金の牝牛あり汝等ハ神の祭司アロンの諸子及レビ人を棄てゝ他國の法に倣ひ汝等の祭司を造らざりしや然れども我等にして之を見れバ主ハ我等の神なり我等ハ彼を棄ざりき而して神に使する祭司ハアロンの子にしてレビ人ハ其役事を成すに供せり彼等ハ毎朝毎夕神前に犧牲と薰しき香を焚けり亦彼等ハ清淨なる臺の上に麥麵を列べたり而して金の燭臺ハ其燈と共に毎夕燃くに供へたり蓋ハ我等ハ主なる我等の神の命誡を守るものなれバなり然れども汝等ハ彼を棄たり見よ神ハ我等と俱にありて我等の長となり其諸祭司も汝等を驚かさん爲に喇叭を携へて爾を攻たり嗚呼イスラエルの子等よ汝等の先祖の主なる神に向て戰ふ勿れ蓋汝等ハ榮ゆべからざればなり

第四十一問　戰の景況を述よ

答　エロボアムはユダヤ人の後に出でる樣伏兵をなしたり故に彼等の見返りし時には前後に軍兵を見たり彼等は神に號び祭司等は喇叭を吹き鳴らせり其時ユダヤ人は號びをなしたり彼等の號びし時に神はアビヤムとユダヤ人の前にエロボアムとイスラエル人を擊ち之を其手に付せり此に於て其日五十萬人の擢れたるイスラエル人倒れたり戰場の死亡數多きは常に聞く處なるが此死亡數其最も多きが如しアビヤはエロボアムの跡を追ひイスラエル人よりベテル及多の他の邑を取れりエロボアムはアビヤムの日に於て再び其力を挽回すること能はざりき

第四十二問　アビヤムは性德如何

答　彼は其父が己のさきになしたる諸の罪を行ひ其心は其父ダビデの心の如く主なる彼の神に完からざりき然るに其神エホバダビデの爲めにエルサレムに於て彼に一の燈明を與へ其子を其後に興しエルサレムを固く立しめ給へり

歴代史畧第十四章

第四十三問 アビヤムを嗣ぎしハ誰なるや

答 彼の子アサ紀元前九百五十六年ユダヤ國第三世王となれり

第四十四問 彼の支配に付て述よ

答 長くして幸なりき彼の第一業ハ偶像を毀ち偶像教を廢し神の純粹なる禮拜を回復したることなり彼日に於て土地ハ十年間休んだりアサハ其即位の時甚だ若かりし故政事ハ其母之を司どれり或人の説に依れバアブサロムの孫たりしと思はるゝ彼の祖母マアカ之を攝政せりと云ふ彼女ハ偶像教を奬勵し森に於て偶像を造れり然れども若し王政を握りてより彼の女の女王たるを除き彼女の偶像を毀ち勉めて彼の若かりし時及彼の前の支配中に繁茂したる偶像教の所業を芟除することをなせり

第四十五問 アサの兵幾何ありしや

答 五十八萬人なり

第四十六問 彼に敵せしものハ誰ぞや

答　百萬人と兵軍三百騎の軍勢を以たるクシ人ゼーラと云人あり

第四十七問　アサハ誰に救ひを請ひしや及彼の祈願ハ如何

答　アサハ神に號泣して云けるハ神よ大勢あるも或ハなきも汝に於て我等を助くること容易なり我等を助けよ嗚呼主なる我等の神よ奈何となれハ我等ハ汝の上に安んじ汝の名に於て此群に向て行く嗚呼神よ汝ハ我等の神なり人をして我等の上に逆らひ來らしむる勿れ

第四十八問　戰の結果ハ如何

答　クシ人覆へされたり而してユダヤ人ハ敵より多の物を取たり

歴代史畧下第十五章

第四十九問　如何なる預言者出て勝利を得て返れるアサに逢ひ何を云ひしや

答　オテミの子アザリヤアサに逢わんとて出で來りて彼と總のユダヤ人及べニヤミン人に云ひけるハ神ハ汝が彼と共にあらハ彼亦汝と共にあるなり若し汝彼を求めなハ汝彼を得べし然れ

ども若し汝彼を棄れバ彼ハ汝を棄べし故に汝強かれ而して汝の手をして弱からしむる勿れ汝の働ハ賞せらるゝグ故なりとアサ此語を聞て勇ミ立ち彼グ取りたる邑の中より醜むべき偶像を取去りたり

第五十問　人民は如何なる條約をなせしや

答　人民ハ神のアサと共にありしてとを見しときユダヤ人及べニヤミン人の外エフライム及びマナセシメヲン及び數多の旅人ハ皆彼の周に集まり彼等ハ一心以て彼等祖先の主なる神を求むるてと及び彼を索めざるものハ死刑に處するとの條約をなせり彼等ハ神に號び亦喇叭を吹き鳴らして喜べり蓋ハ彼等一心を以て神を求め而して之を得たるバなり

第五十一問　如何に永く土地ハ休みしや

答　アサの支配の第三十五年まで

歷代史畧下第十六章

第五十二問　二國の間に誰グ更に戰を始めしや其話を述よ

答　イスラエルのバアシヤ王なり彼はラマを建て之に砦を築く爲に行けりアサは神廟の寶を取りバアシヤとの彼の條約を破ることをベチハダデに云ひ送れりベチハダデは斯く行りイヨンダン及びアベルマイム及びナフタリの諸庫の邑を打ち取りラマを回復し處の彼の大將を送れり

第五十三

問　アサは如何に誹謗されしや又彼の預言者を取扱ふ所如何

答　預言者ハナニ彼に來りてシリヤの王に倚りて神に倚らざりしを責めて曰く爾は私利に逆て働きたり「如何となれば汝はシリヤの王に倚りて主なる汝の神に倚らざりしが故にシリヤの軍勢は汝の手より免かれたるなり」と彼は自らの經驗に逆て働けりクシ及びルビの軍勢は甚だ多くの車と騎兵とを有せる大軍ならざりしや然しながら汝が神に委ぬる故に彼は汝の掌中に彼等を付せりと」彼は神の惠を知ることに向て働けり「神の目に向て全地球中を縦横せよ其心は彼の方に全きため彼の強きを示す可く此に汝は誤てり故に此を以て汝に戰わらんと」アサは

預言者に對し怒を發し彼を獄中に投じたり亦彼ハ同時に或人民を壓制したり蓋し不服を唱へしものならん

第五十四問　彼の存生の終三年に於て彼の誹に如何なる事の記しあるや

答　彼ハ余り醫を信用せり彼ハ神を求めずして醫を求めたり

第五十五問　彼の死及び葬送を述よ

答　彼ハ支配の第四十一年に死せり彼ハダビデの邑に於て自ら造り置ける墓中に葬られ芳香を以て充たされたる床中に安置せられたり而して香料の如きハ藥舗に命じて造れるものにして又彼の爲に大に焚ものを爲せり

第五十六問　エロボアムを嗣し六王ハ誰ぞ

答　ナダブ、バアシヤ、エラ、ジムリ、オムリ、アハブなり

第五十七問　ナダブの小傳を說け

答　ナダブハエロボアムの子にしてエロボアムの世系中第二のイスラエル王となり(紀元前九百五十四年)彼二年イスラエルを治めエホバの目の前に惡を爲せり彼ギベトンを圍みしペリシ

ヤ人を撃てギベトンに勝てり後バアシヤなる者彼を殺し代りて王となれり

第五十八問　バアシヤは如何なる人ぞや

答　彼はイッサカル族の人にてナダブを殺したるイスラエル第三世の王なりヱロボアムの全家を撃てヱロボアムとイスラエルの犯せる罪にかゝわるアヒヤの預言を應せり此王とアサとの間に一生の間戰爭ありき王位にある二十四年ヱルザに葬られり

第五十九問　ヱラの物語は何ぞや

答　彼はバアシヤの子にしてイスラエルの第四世王なり紀元前九百三十年位に即き二年を經たり曾て酒に醉ふ時其戚友と共に戰車の半を督どるジムリに殺されたり是に於てヱヒウの預言應ず

第六十問　ジムリは如何

答　彼はイスラエル第五の王にしてヱルザに於て七日間世を治め

りギベトンに向ひて陣どりし軍兵ジムリが王を殺したると聞き軍の長オムリを推してイスラエルの王となしければ上りてデルザを圍みて之を奪へりジムリ其邑の陷るを見て王の家に入り火を放て死り是はエロボアムの道をあゆみイスラエルに罪を犯させしによるなり

第六十一問　オムリに付ての事實を説け

答　オムリはイスラエル第六の王にして紀元前九百二十九年位に即き十二年世を治めたりオムリギベドンを圍む時エラの死ジムリの簒奪陣營に達しければ兵士等彼を王位に上せり是に於てオムリエルザに往きてジムリを圍みたりオムリ僅に爭難を脱するやテブニなる者起り民の半之に從ひ王となせり內亂六年オムリ終に國君となる

オムリの治世中最要なる事情はサマリヤの邑の基礎なり此後サマリヤはイスラエルの一大都府となる

第六十二問　アハブの物語は如何

答　オムリの子にしてイスラエル第七代の王なりアサの三十八年即ち紀元前九百十八年に踐祚しサマリヤに於て二十二年イスラエルを治めり六王中最もエホバの目の前に惡をなせりシドン王の女イゼベルを娶りバアルに事へ之を拜めり

第六十三問　アハブの世に應されし預言は如何

答　ヌンの子ヨシュアによりてエホバの言たまひたる如くベテル人ヒエルエリコを建たり彼其基を置る時に長子を喪ひ其門を立る時に季子を喪へり(ヨシュア記六章二十六節)

第十七章

第六十四問　エリヤは誰ぞや其初の預言は如何

答　エリヤの名は我神はエホバと言ふ意なり彼は預言者にしてメルキセデクに等しろは雲の車より此世に降り其職務をおへて再び天に昇りたり聖書中其父母と誕生の事を錄さず

彼はアハブにいひけるは我事ふるイスラエルの神エホバは活くわが言なき時は數年雨露あらざるべし

第六十五問　神何處へエリヤを遣はしいかに養ひたまひしや

答　神彼に云ひ始めにヨルダンの前にあるケリテ河に遣されたり神彼に云ひけるは爾其川の水を飲むべし我鴉に命じて彼處にて爾を養はしむると果して鴉は朝夕にパンと肉を運べり次に神彼をザレパテの嫠婦に遣せり神嫠婦に命じて彼を養はしむ

エリヤザレパテに往きしが邑の門に一人の嫠婦の薪を拾ふにあひ之に少許の水とパンを携來らん事を請へり嫠婦答けるは我に一握の粉と少許の油あるのみ我は二の薪を拾ふ我入て我と我子のために調理之をくらひて死んとすエリヤ彼に曰けるは我ために小きパンを作りて其後爾のためと爾の子のために作るべしエホバの雨を降したまふ日までは其桶の粉は竭ず其瓶の油は絶ずと彼エリヤの言し如くなしけれバ粉と油は絶ざりき

第六十六問　エリヤ如何なる報を嫠婦になせしや

答　エリヤ嫠婦を生せしのみならず嫠婦の子を生せり其子疾にかゝ

り死し時婦エリヤにいひけるハ神の人よ爾なんぞ我事に關渉べけんや爾は我罪を憶ひ出さしめんため又我子を死しめんため我に來きるかとエリヤ婦の子を取り之を己の牀に運びエホバに呼ハりて曰ふ我神エホバよ爾ハ亦吾と共に宿る嫠婦に菑をくだして其子を死しめたまふやと三度身を伸してエホバに呼はりて言ふ我神エホバ願くハ此子の魂を中にかへらしめよと○エホバエリヤの聲を聽きいれたまひしかバ其子生たりエリヤ之を其母に與へていひけるハ視よ爾の子ハ生くと

第十八章

第六十七問　エリヤハエホバより如何なる使を受けしや

答　往て爾の身をアハブに示せ我爾を地の面に降さん

第六十八問　オバデヤハ誰ぞや又エリヤの面會を語き

答　オバデヤハ大にエホバを畏みたる者にしてイゼベルがエホバの預言者を絕たる時にオバデヤ百人を取りて之を匿しパンと水を以て之を養へり

此時オバデヤは馬と騾を生活しむるため草を得んと川に往しがエリヤに遭ひいひけるは我主エリヤは爾なるやエリヤ答けるは然り我こゝにあり往て汝の主にエリヤは此にありと告よと○オバデヤかくなすを畏れたり然どエリヤ彼に必ずアハブを見ん事を受合ければオバデヤアハブに遭んとて往けり

第六十九問　アハブとエリヤの遭遇の物語をなすべし

答　アハブエリヤを見し時云ひけるは汝イスラエルを惱ます者此にあるか答けるは我はイスラエルを惱さず但汝と汝の父の家之を惱すなり即ち汝等はエホバの命令を棄てバアルに從ひたりと是に於てエリヤアハブに命じて凡のイスラエル人及びバーアルの預言者四百五十人並にアジラ像の預言者四百人イゼベルの席に食ふ者をカルメル山に集しむ

第七十問　エリヤ民にエホバの眞の神なるを證せしこと如何

答　エリヤ民にいひけるは汝等何時まで二つの物の間にまよふやエホバもし神ならば之に從へ然どバアル若し神ならば之に從

へと民は一言も彼に答ざりき又云ひけるは我一人存りてヱホバの預言者たり然どバアル預言者は四百五十人あり然ば二の犢を我等に與へよ彼等は其一の犢を選みて之を截り剖き薪の上に載せて火を縦たずに置べし斯して汝等は汝等の神の名を籲べ我はヱホバの名を籲ん而して火をもつて應る神を神とすべしと民皆答て斯言は善といへりバアル預言者犢を取りて朝より午にいたるまで其名を籲てバアルよ我等に應へ給へと言りされど何の聲もなく又何の應る者もなかりければ彼等は其造りたる壇のまわりに踊れり日中にヱリヤ彼等を嘲りていひけるは大聲をあげて呼べ彼は神なればなり彼は默想をるか他處に行しか又は旅にあるか或は假寝て醒めざるべきかと是に於て彼等は大聲に呼はり其例に循ひて刀劍と槍をもつて其身を傷づけ血を其身に流すに至れりかくして午時すぐるに至りしが彼等なほ預言して晩の祭物を獻ぐる時にまで及べり然ども何の聲もなく又何の應ふる者もなかりきヱリヤ都の民

にむかひて我にちかよれと言ひ破壞れたるヱホバの壇を修理支派の數にしたがひ十二の石を取りヱホバの名をもつて壇を築き壇の周圍に溝を作り又薪を陳列べ犢を薪の上に載せて民に命じて四の桶に水を滿て燔祭を薪の上に沃ぐこと三度ならしめければ水は壇の周廻に流るまた溝にも水をみたしたり晩の祭物を献る時エリヤ祈て曰けるはアブラハムイサクイスラエルの神ヱホバよ汝のイスラエルに於て神なること及び我爾の僕にして爾の言にしたがいて是等の諸の事をなせることを今日知らしめたまへヱホバよ我に應へたまへ我に應へ給へ此民をして汝ヱホバは神なる事及び汝は彼等の心を翻し給ふといふ事を知らしめたまへと時にヱホバの火降りて燔祭と薪と石と塵とを焚つくせり亦溝の水を餂涸せり民皆見て伏ていひけるはヱホバは神なりヱホバは神なりと

エリヤいひけるはバアルの預言者を執へよ其一人をも逃遁しむる勿れと即ち之を執へたればエリヤ之をキシヨン川に曳下

りて彼處に之を殺せり

第七十一問　如何なる命令をエリヤはアハブになせしや

答　エリヤアハブにいひけるは大雨の聲あれば汝上りて食飲すべしとアハブエズレルに乗り往きエリヤ彼にともなへり

第十九章

第七十二問　アハブイゼベルにエリヤのなせし事を盡く報じたるときイゼベルは何の報答をなせしや

答　神等斯なし復重て斯なしたまへ我必ず明日の今時分汝の命を彼人々の一人の生命の如くせんと

第七十三問　ホレブへエリヤの旅中に何事のありしや

答　エリヤイゼベルの使に聽き一日程曠野に入り金雀花の下に坐し望を失なひ云ひけるはエホバよ足れり今わが生命を取りたまへ我はわが父祖よりも善にはあらざるなりと彼伏して寢りしが天の使彼に捫り興て食へと言ければ彼見しに側に炭に燒きたるパンと一瓶の水ありき彼食ひ飲て復偃臥たりエホバの

使者再び來りて彼に觸りていひけるは興て食へ其は途長くして汝勝べからざればなりと彼復興きて飮食し其食の力に依り四十日四十夜行て神の山ホレブに至る彼處にて彼洞穴に入りて其處に宿れり

第七十四問　何故にホレブは神の山と名付られしや

答　其は神此山に榮光をあらはし殊に其律法を與へたまふよりてなり多分エリヤはエホバのモーセの前をすぎしときの如く同じ洞穴に宿りしならん

第七十五問　神は茲にてエリヤに何を示し給ひしや

答　神まづエリヤに問けるは汝此にて何をなすやエリヤいふ我は萬軍の神エホバの爲に甚だ熱心なり其はイスラエルの子孫汝の契約を棄て汝の壇を毀ち刀劍を以て汝の預言者を殺したればなり惟我一人存るに彼等我生命を取んことを求むとエホバ言たまひけるは出てエホバの前の山の上に立と茲にエホバは過ゆきたまふにエホバの前に當りて大なる強き風山を裂き岩

石を碎しが風の中にはヱホバ在さゞりき風の後に地震ありしが地震の中にもヱホバ在さゞりき又地震の後に火ありしが火の中にもヱホバ在さゞりき火の後に靜なる細微き聲ありきエリヤ聞て面を外套に蒙み出て洞穴の口に立けれバヱホバ再び彼に問ふてエリヤよ汝此に何をなすやと言ふエリヤの對へ初の如しヱホバ彼に命じけるは汝ダマスコの曠野に至りハザエルに膏を沃ぎてスリヤの王にヱヒウをイスラエルの王にエリシヤを爾に代りて預言者とならしむべしと此等の人々神の爭に出全くイスラエルの仇をむくへり又神エリヤにイスラエルの中に膝をバアルに跼めざる者七千人あるを知しめて惟一人存ると思ふ其愆を諭せり

第七十六 問　エリヤの行爲の第一着は何ぞや

答　彼エリシヤに膏を沃げりエリヤはエリシヤが耕すを見て默しつゝ其外套を彼の上にかゝく是れエリシヤが神の靈にて裝わるゝ兆なりエリシヤ心に感じすべての物を棄てエリヤに從へり

第二十章

第七十七問　ベチハダデとアハブの戰を語れ

答　ベチハダデ軍を悉し三十二王と上りてサマリヤを圍む使をアハブに遣し言しめけるはベチハダデ斯言ふ爾の金銀は我の所有なり爾の妻等と爾の子等の美秀者は我の所有なりとイスラエルの王答へけるは王我主よ爾の言の如く我と我所有は皆爾の所有なりベチハダデ復使節を遣して言ふ我金銀妻子を取るのみならず僕を遣して爾の家と爾の臣僕の家を探索て爾の目に好ましく見ゆる者を取り去るべしと是に於てイスラエル王國の長老を集議し彼に許さゞる事のベチハダデに聞へければ更にアハブに遣していわせけるは神等我に斯なし亦重て斯なしたまへサマリヤの塵は我に從ふ諸の民の手に滿るに足ざるべしと

預言者の使節

時に一人の預言者イスラエルの王アハブの許に至りて言ける

れエホバ斯言たまふ爾此諸の大軍を見るや視よ我今日之を爾の手に付さん爾は我がエホバなるを知るにいたらん

戰の結局

ベテハダデ天幕にて己を助る王等と共に飲て醉居たり諸省の牧伯の少者等兵を將ひ進んでベテハダデの人を殺せりスリヤ人逃ければイスラエル人之を追ふスリヤ王ベテハダデ馬に乘り騎兵を從へて逃遁たりアハブ出でゝ馬と戰車を撃ち大にスリヤ人を殺せり

第七十八問　預言者が再びアハブに進めし言は何ぞや

答　王の力を養ふことなりそは年歸らばスリヤ王又攻上るべければなり

第七十九問　ベテハダデの僕はイスラエル王の神について何といひしや

答　彼等の神等は山岡の神なるが故に彼等は我等よりも強かりしなり然ども我等若し平地に於て彼等と戰ば必ず彼等よりも強かるべし但し此事をなせ即ち王等を除きて各其處を離しめ方

伯を置きて之に代へ失ひたる軍勢に均しき軍勢を備ふべしと年かへるに及びてベネハダデイスラエルと戰はんと上れり

第八十問 預言者何ぞアハブを勇ましめしや

答 エホバ斯言たまふスリヤ人エホバは山嶽の神にして谿谷の神ならずと言ふにより我此諸の大軍を爾の手に付すべし爾等は我エホバなるを知るに至らん

第八十一問 次回の戰爭は如何

答 兩軍相對する七日イスラエルの兵は山羊の二小群に等しくスリヤ人は其全地に充滿り七日に及びて戰を交接へしがイスラエル人大に勝て敵の歩兵十萬人を殺せり殘兵アペクに逃れ石垣に壓死さるゝ者二萬七千人ありし(此變は多分地震に由るならん)

第八十二問 アハブのベネハダデを待遇ふてと如何

答 ベネハダデの臣僕イスラエルの王等は仁慈ある王なりと建言し身に粗麻布を纏ひ縄を頭につけてアハブの許に至りいひけ

るは爾の僕ベネハダデ請ふ我生命を生しめたまへと言ふとアハブはベネハダデを兄弟とよび迎へて車に登らしめ約束をなせりベネハダデ言けるは我父の爾の父より取たる諸邑は我返すべし我父のサマリヤに造りたる如くダマスコに於て爾の爲に街衢を造るべしアハブ言ふ我此契約を以て爾を歸さんと乃ち斯くなせり

第八十三問　一の預言者アハブがベネハダデを救ひし事罪なるを如何に示せしや

答　此預言者自己傷を負はんとせしかども甚だ難かりしろは自己の手を以て之をなすを欲ざればなり彼其徒の一人に之をなさん事を請ひしに彼之を拒めり(我等思ふ彼は善心よりてなめりと)されど神の明なる命令にそむきしが故に獅より殺されたり此事はアハブに剛愎は神の怒を起すに足れり預言者とても撃べしと云たまひしを救ひしにより罰を蒙る此の如しまして惡王にして神の撃べしと云ひ給ひし其敵を救助たれば必ず罰を

受くとの儆戒を示さんためなり
此預言者も王がベネハダデを救しと同じ罪におちるは猶人不
注意より四人を遁せしが如し王判決して言ふ爾の命の彼の生
命に代ゆべしと預言者掩を取除けたればアハブ始て此人の預
言者なるを識れり預言者明に王にいひけるはヱホバの殲滅ん
と定めたる人を爾の手より放ちたれば爾の命は彼の命に代り
爾の民は彼の民に代るべしと

第二十一章

第八十四問　ナボテにアハブは如何なる願をなせしや又ナボテの返答は何
ぞや

答　アハブ言けるは爾の葡萄園は近く我家の側にあれば我に與へ
て蔬菜の圃となさしめよ我之が爲に其よりも美き葡萄園を爾
に與へん若し爾心に適ば其價を銀にて爾に與へんとナボテい
なみて言けるは我父祖の産業を爾に與る事は決してなすべか
らずヱホバ禁じ給ふとアハブ大に憂たり

第八十五問　如何にしてイゼベルはナボテの葡萄園を得しや

答　彼アハブの名を以て書をつかはし言けるは斷食を宣傳てナボテを民の中に高く坐せしめよ又邪なる二人を彼の前に坐せしめ彼に對ひて証をなして爾神と王を詛ひたりと言しめよ斯して彼を曳出し石にて撃て死しめよと彼の命ぜし如く民なせり因りてアハブは此葡萄園を己が所有となせり

第八十六問　ヱホバ何の使をアハブに遣わせしや

答　ヱホバヱリヤを葡萄園よりアハブの許に遣し言けるはヱホバ斯言ふ犬ナボテの血を舐し處にて犬爾の身の血を舐むべし

第八十七問　アハブは何とヱリヤに言しや

答　我敵よ爾我に遇や

第八十八問　ヱリヤの對如何

答　我爾に遇ふ我災害を爾に降し爾の家をヱロボアムの家の如くバアシヤの家の如くになすべし是れ爾我の怒を惹起したればなり犬ヱバレルの濠にてイゼベルを食はん

アハブに屬する者の邑に死るをば犬之を食ひ野に死るをば天空の鳥之を食れんと

第八十九問　預言者の此預言アハブに如何なる感を起せしや

答　アハブ其衣を裂き粗麻布を體に纏ひ食を斷ち粗麻布に臥し遲々に歩行り

第九十問　神アハブに惠を表せしや

答　然り如何となればアハブ謙りしによりて神災害を彼の世に降さずして彼の子の世に降せり

第九十一問　アサの後ユダの嗣王は誰ぞや

答　ユダ第四代の王はアサの子ヨシヤパテなり三十五才にして位を嗣ぎ（紀元前九百十五年）世を治むること二十五年なりき

第九十二問　ヨシヤパテと其國事は如何

答　彼イスラエルの榮昌へる國權を妨げんとてユダの邑の保障と其父アサによりて取りたるエフライムの城邑に守兵をそなふエホバ彼と偕にいませり如何となれば彼はダビデの初の道を

あるきバアルに從はざりしによるヱホバヨシヤパテの手に國を堅しければユダの民禮物を餽りて彼は大に富且榮たり(歷代志畧下十七章)

第九十三問　彼の威勢は如何

答　諸の國のヱホバを畏れ彼に抗ふ人なく却て其惠を得んと各禮物を捧げたり(歷代志畧下十七章)

第九十四問　アハブがヨシヤパテへの願と其面會を語るべし

答　アハブ彼にギリアテのラモスへ偕に行ん事を願へり此地はイスラエルに屬したりしも當時はシリヤの王の所有地なり

ヨシヤパテ彼に答けるは我は汝に等しく我民は爾の民に等し我爾と共に往て戰わんされど此事は汝ヱホバの言に問ふべしといへり(歷代志畧下十八章)

第九十五問　アハブは此勸言に順しや

答　王は四百の預言者を集問けるは我等キレアデのラモテに往き戰ふべきや否やと彼等答けるは往べしろは神之を王の手に付

さんとヨシヤパテ又問けるハ別ニエホバの預言者あらざるや
とアハブいひけるハ尚一人の預言者あり然ど我之を嫌ふそハ
彼我事につき善き預言をなさず常に悪き預言をなせバなり是
ハイムラの子ミカヤなりとされどヨシヤパテの願によりてミ
カヤハむかへられたり

第九十六問　ミカヤにアハブの使者の勸ハ何ぞや

答　預言者等の言一つの口より出るが如し爾の言ハ彼等の一人の
言の如く善言をいへと

第九十七問　アハブの使者へミカヤの答ハ何ぞや

答　ミカヤ使節に答へけるハエホバハ活く我神の言給ふ所ハ我之
を語るべしと王ニ答へけるハ我ハ山の上に散りて牧者なき羊
の如く凡てのイスラエル人の散らされしを見たりエホバ諸の
預言者に語らしめアハブを誘ひ之をキレアデのラモデに上せ
て斃れしめん

第九十八問　ミカヤハ如何ニ詰られしや又彼の返答は如何

答　アハブの預言者の一人なるゼデキヤは彼の頬を打ち云けるは神の靈何途より我を離れて汝に語るやとミカヤ之に答へて曰ふ見よ汝自ら其身を匿さんとして內室に至るの日之を見るべし

第九十九問　此後の結果は如何なりしや

答　アハブ命じて曰ふ此者は之を獄中に繋ぎ我平和にして歸るまでは罪人と同じき飲食物を以て之を養へとミカヤ曰ふ若し汝眞に平和にして歸らバ神我によりて云ひ給はざりしなるらんとミカヤ獄中に投ぜられヨシヤパテとイスラエルの王は戰を開けり而してアハブ其姿を變たり

第百問　戰爭の起事を述べよ

答　シリヤの王其戰車の長等に命じて曰けるは爾等小さき者とも大なる者とも戰ふかれ只イスラエルの王とのみ戰と其初めシリヤ人は欺かれ彼の王の裝束を着けたるヨシヤパテをイスラエルの王なりと考がへ身をめぐらして之と戰はんとしたり然ど

もヨシヤパテはエホバに呼はれれり而してエホバは彼より彼等を遠けたりアハブは免れざりし

茲に一箇の人偶然弓を挽きてイスラエルの王の胸當と草摺の間を射たりければ彼は晩景にいたりて死せりヨシヤパテは平安に彼の家に歸れり

第百一問　預言者エヒウはエルサレムへの歸路に於て如何にヨシヤパテを詰りしや

答　汝は神を敬せざる者を助け神を憎む者を愛するや是故に神の怒は汝の上に落ち來れりと

第百二問　ヨシヤパテは彼の士師に如何なる指圖をなせしや

答　汝のなす處を注意して行へ如何となれば汝は人に向て裁判す



アハブの死

るに非ず汝と共に判庭に在せる神に向ふ故なり故に汝をして
神を恐るゝの心あらしめよ如何となれば我等の主なる神と共
に人を尊重じ或は賓ものを取るも之罪にあらざればなり

第百三問　ヨシヤパテの王國は誰に寇されしや

答　モアブ人及アンモン人及其援兵なり

第百四問　ヨシヤパテは如何なる備を以て寇を待ちしや

答　彼躬親から神を索むるを勉めユダヤ全國中に禁食すべきことを布告せりユダヤ人民は妻子を携へ神の助を求めんが爲に集ひ來れりヨシヤパテは神の家に於て彼等の中に立て祈きり

第百五問　如何なる答を神より受しや

答　怖るゝ勿れ此大群の爲に慌てること勿れ此戰は汝等の戰に非ずして神の戰なればなり汝等各自ら靜に立ちて神の救を待つべし明日敵に向て進め神は汝等と共にあるべしと翌日人民唱歌祈禱を始めしとき神は敵に向て伏兵を設けたり而して敵は同士打の爲に崩れユダヤの人民は只分捕物を集むるに三日を

費せり

第百六問　イスラエルの次の王の事歴は如何

答　アハブの子アハジヤはイスラエル國第八代の後嗣にしてユダの王ヨシヤパテの十七年即紀元前八百九十七年より二ケ年支配せりイゼベルは其子に於ける其夫に於ける同じ權威を以て行なへり而してアハジヤは父の惡しき道をあるけりアハジヤの世の著しき事はモアブ人の謀反にしてアハブ死して貢税を拒みたりアハジヤはヨシヤパテと結合して紅海上に交易をなせり(歷代志畧下廿章三十五節より三十七節まで)

舊約史畧列王紀略上　終

第一章

第一問　アハジヤに何事出來しや

答　アハジヤ其樓の欄干より落て病おこりしかバエクロンの神バアルゼブブに病の愈るや否を問んとて使を遣せり

第二問　使者誰に遇ひ如何なる言葉を受しや

答　使者等エリヤに會りエホバの使エリヤに命けるハ王の使に會て言べし汝等ガエクロンの神バアルゼブブに問んとてゆくハイスラエルに神なきがゆゑなるか是によりてエホバかくいふ汝ハその登りし牀より下ることなかるべし汝必ず死ん

第三問　此使王に如何なる意思をおこせしや又王ハ何をなせしや

答　アハジヤは使に其會し人の形狀は如何なりしやと問けれバ使者對けるハ其ハ毛深き人にして腰に革の帶を約び居たりと王いひけるハテシベ人エリヤなりと是に於て王エリヤを捕んと五十人と共に長官を遣せり此等の人山の嶺にエリヤの坐し居

たりしを視ていひけるは下るべしとエリヤいひけるは我若し神の人たらば火天より降りて汝と汝の五十人とを燒盡べしと火すなはち天より降りて彼等を燒盡せり王また他の五十人の長と其五十人を遣しいはせけるは神の人よ速に下るべしと此等の人もまた燒盡されたり第三回に王使を遣せしが彼等エリヤの前に跪き生命と仝類の生命をたすけん事を願へり時にエホバの使エリヤに命じければエリヤ彼等と共に下り王に告けるは汝エクロンの神に問ふはイスラエルに神なきゆゑか是に由て汝はその牀より下ることなかるべし汝必ず死んとエリヤが預言せし如く此事成るアハジヤに代りて王となる者はヨラムなり

第二章

第四問　如何にエリヤは其末路をすごせしや

答　ベテルエリコ及びギルカルの學校に於て其青年者に敎を傳へり

第五問　エリヤの昇天前エリシャとの間に何事起しや又エリヤの移されたる物語をなすべし

答　エリヤは天に取られし時には獨居んことを願ひしか或はキリストのペテロになし給し如くエリシャがエリヤを慕の心あるや否をためさんと欲せしが其旅行にエリシャと同伴るを好ずして之にいひけるは請ふてこゝに止まれと（その實はエリシャがエリヤを慕ふや否をためさんと思へるなり）エリシャ彼にいひけるはエホバは活く爾の靈は活く我なんぢをはなれじと彼等ベテルに下りしが彼處に在る預言者等エリシャにいひけるはエホバ今日なんぢの生を汝の首の上よりとらんとしたまふを知るやエリシャいひけるは然り我しれり汝等默すべし此事エリコにても預言者によりてはなされき彼等ヨルダンに至りしに預言の徒五十人往て遙に立て望めり彼等二人はヨルダンの濱に立ちけるがエリヤその外套をとりて之を巻き水をうちけるに水は此旁彼旁に分れたれば二人は乾ける土の上を渡れりエ

リヤエリシヤにいひけるハ我取れて汝を離るゝ前に我汝になすべき事を求めよエリシヤいひけるハなんぢの靈の二の分の我にあらんことを願ふエリヤいひけるハ汝難き事を求む汝もし我取れてなんぢを離るゝを見ばその事汝にあらんしからずば此事汝にならじ彼等進みながら語れる時火の車と火の馬現れて二人を隔てたりエリヤハ大風にのりて天に昇れりエリシヤ見てわが父わが父イスラエルの兵車よその騎兵よと叫びたり

第六問　此後エリシヤに付ての譚ハ如何

答　エリシヤエリヤの身より放ちたる外套を取て水をうちエリヤ



ヨルダン河邊圖

の神エホバは安に在すやと言て水分れたれむエリヤ乃ち渡れりエリコにゐる預言者の徒彼を見ていひけるはエリヤの靈エリシャの上ふとゞまると彼等來りてかきを迎へ地に伏て彼ふ願けるは汝の主を尋ねしめよ恐くはエホバの靈彼を曳あげてゐれを或山ゐ或谷に放ちしゐらんと彼の愧るまでに強けれむ則ち遣せと言りてゝに於て彼等五十人を遣しけるが三日の間たづねたれども彼を看いださゞりし

第七　問　エリコふてエリシャの奇跡は何ぞや

答　鹽を以て毒水を淸めり

第八　問　エリシャがベテルふゐる預言者の學校に往し時何事ありしや

答　小童等邑よりいでゝ彼を嘲り彼にむかひて禿首よのぼれ禿首よのぼきといひなきむゐき回轉りて彼等を見エホバの名を以てかれらを呪詛ひければ林の中より二頭の牝熊出てろの兒子輩の中四十二人をさきたり兒子輩の語は不敬虔と不信仰の心より出しによりエリシャ激

して之を詛ひしに罰其効を奏したり是に於てベテルの民は神の預言者を汚すはまさしく其身を汚すを覺とり

第三章

第九問　イスラエルの次の王の物語をなすべし

答　ヨラムはアハブの子イスラエル第九世の王なり子無くして死せし其兄アハジヤに代りて王となり紀元前八百九十六年に登祚し十二年間治たり彼金牛に付てはエロボアムの罪ある政法を守たれどもイゼベルの造たるバアルの偶像は除けり

第四章

第十問　寡婦の油の異蹟をかたるべし

答　一人の信心ある預言者の寡婦エリシヤに來りて救を求め曰けるは我夫負債をのこして死しが今債主我二人の子を賣んとす債主は之を爲すの權理ありエリシヤ如何なる物をもつやと問ければ答て持ところの物はたゞ僅少の油のみといへりエリシヤは以前エリヤがザレパタの寡婦になせし如く其油をふや

して速に其負債をはらはしめ以て彼の兒子を救へり

第十一問　シユネミの婦の子の復活を述よ

答　此婦は信切にして富者なりしがエリシヤかしこに往きし時屢そこに入りて食せり彼之に謝せんとて婦のために何をなすべきかと問へり種々の物語の末にエリシヤ彼に子を約せしが乃ち子を産り一日此子死す婦エリシヤの許に往き伏して彼に來りて其子を復生んことを願へりエリシヤ之を復生して其母に與へり（希伯來書十一章三十五節）

第十二問　羹の奇蹟を陳よ

答　預言者の一人菜蔬を摘んとて野に往しが菜蔬と共に野瓜を摘り人々坐して食はんとせしに一人の者叫びて嗚呼神の人よ釜の中に死をきたらす者ありとエリシヤいひけるは粉をもちきたれと彼之を釜に投入きいひけるは盛て人々に食しめよと釜の中には害物なくなりぬ

第十三問　パンの異徴を述よ

答　エリシヤの前に大麥の初穗のパン二十と圃の初物一袋を持いたりしが彼之をふやして百人に食わせて尚餘りありき

第五章

第十四問　ナアマンは誰ぞや又如何にしてエリシヤの事を聽しや

答　スリヤ王の軍勢の長ナアマンは大なる者にしてまた貴き者なり彼は大勇子なりしが癩病をやみ居たり　スリヤ人イスラエルの地より一人の小女を執へゆけりかゝきナアマンの妻に事へたりしがその女主なむかひ我主サマリヤに居る預言者の前にいまさば善らん者を彼その癩病を痊すならんと言へり此事ナアマンに聽へければ彼はスリヤ王より書をうけ銀十タラントと金六千及び衣服十襲をたづさへて彼の預言者の許にいでゆけり

第十五問　ナアマンが痊さきしてと如何

答　ナアマン書をイスラエルの王に捧けきば王之を讀み衣を裂きていふ我神ならんや爭でか殺すことをなし生すことをなしゑん

然るに此人なんぞ癩病の人を我に遣わして之を痊さしめんと
するや然ば請ふ汝等彼が如何に我に爭を求むるかを見て知れ
とエリシャ之を聽き王に言遣しけるは何とて汝の衣を裂しや
彼を我許にいたらしめよ然ば彼イスラエルに預言者あること
を知るにいたるべし是に於てナアマンエリシャの家の門に來
りければエリシャ之に使を遣はして言ふ汝ヨルダンに行て七
たび洗へされば汝清くなるべしとナアマンはエリシャの言語
の輕卒と云ひ且つ僕をもつて彼を命ぜしをいかりダマスコの
川を高く讃めイスラエルの河水をいやしめて言けるはダマス
コの川アバナとパルパルはイスラエルの諸の河水にまさるに
あらずや我これに身を洗ふて清まることを得ざらんやと乃ち
身を旋らし怒りて去る時にその僕等近よりてそれにいひける
は我父よ預言者汝に大なる事をなせと命ずるとも汝はそれを
なさざらんや況て彼なんぢに身を洗ひて清くなれといふをや
と是に於てナアマン下りゆきて神の人の言のごとく七たびヨ

ルダンに身を洗ひしふろの肉本にかへり嬰兒の肉の如くなりて清くなりぬ

第十六問　ナアマンエリシャの許に歸りし時何と言しや又エリシャの返辭は如何

答　我今イスラエルのほかは全地に神なしと知る然ば請ふ僕より禮物をうけよとエリシャいひけるはわが事ふまつるエホバは活く肯て禮物をうけじと彼強て之をうけしめんとしたれども遂にこれを辞したりナアマン今より祭品を他の神に献げずして只エホバにのみさゝげんと約をなしエリシャに騾馬に二駄の土を請へりされど彼其主君の義務とし又宮に於ておのれの務としてリンモンの宮にて身をかゞむることのゆるしを請ひければエリシャ彼になんぢ安じて去れと云へりかくてナアマンさりゆけり

第十七問　エリシャの僕ゲハジの事は何ぞ

答　ゲハジナアマンの跡を追行きいひけるはわが主我を遣してい

はしむ只今預言者の徒なる二人我許に來れり因て銀一タラントと衣二襲をあたへよとナアマン強てゲハジに二タラントを與へたり彼往きてエリシャの前に立し時エリシャ之にいひけるはゲハジよ何處より來りしや答ていふ僕は何處にもゆかずエリシャ彼に其罪を示しいひけるはナアマンの癩病はなんぢにつき汝の子孫におよびて限なからんと彼其まへより退ぞくに癩病發して雪の如くなりぬ

第六章

第十八問　預言者等其住家をひろめんとせし時如何なる奇事出來しや

答　一人の材木を砍たふすに方りて其斧水におちいりしかば叫びて嗚呼主よ是は乞得たる者なりと言ふエリシャ枝を切落して其處に投いれければ斧浮びいでたり

第十九問　エリシャ神に祈て敵軍を迷わす事如何

答　エリシャイスラエルの王に敵の謀と其軍畧とを知せりスリア

王其謀を報知せし者はエリシヤなりと聽ドタンにエリシヤを捕へんとて大軍をつかわしけるがエリシヤの僕斯の軍勢を見ていひけるは鳴呼我主よ我等如何にすべきやとエリシヤ答へけるは懼るなかれ我等とともにある者は彼等とともにある者よりも多しと彼ろの僕の目の開かれんことを祈しが其目開ひて火の馬と火の車山に盈てエリシヤの四面にあるを見たりエリシヤエホバがスリヤの軍勢の目を昏ましめ給はんことを祈りければ彼等の目昏めりエリシヤ彼等にいひけるは我に従ひて來れ我汝等を汝等が尋る人の所に携ゆかんとて彼等をサマリヤにひき至れりこゝに彼等の目開けりつぎにエリシヤイスラエルの王に命じけるは擄にせる者の前にパンと水をそなへて食飲せしめて其主君に往しむべしと王すなはちそのごとくなしければ彼等其主君に歸れり

第二十問　サマリアの飢饉を語れ

答　スリアの王ベネハダデその全軍を集めて上りきたりてサマリ

アを攻圍みけれバサマリア大に糧食に乏しくなれり遂に驢馬の頭一箇は銀八十枚鳩の糞一カブの四分の一は銀五枚にいたれり

第二十一問　王の石垣の上を通りし時になされたる直訴ハ何ぞや

答　一人の婦人彼に呼はりて我主王よ助け給へと王いひけるハエホバもし汝を助けたまハずバ我何を以か汝を助ることを得んと而して心に神の婦を助たまはずバ彼自からを助ることあたハじと思ひいひけるハ汝何事あるや婦いひけるハ我等約をなしてさきに我子を食ひ後に彼婦の子を食せんと既に我子を煑て食ひたるに彼其子を與へずして隱せり王其衣を裂きエリシヤハ殺さるべしといへり

第七章

第二十二問　救拯のサマリヤに與へらるゝこと如何

答　エリシヤ預言しけるハ民の此大なる難澁にかゝはらず二十四時間の中に十分の糧食を得べしと王の大將の一人疑ひ言ける

は由やヱホバ天に窓をひらきたまふも此事あるべけんやとヱリシャいひけるは汝は汝の目を以て之を見ん然ど之を食ふことはあらじ

サマリヤは黄昏に圍れたりしがスリヤの人々は前にイスラエルの軍を目撃せしが(六章十八節)今は此軍のひゞきのみを聽りそはヱホバスリヤの人々をして車の聲馬の聲大軍の聲を聽しめたまへばなり是に於て彼ら互に言けるは視よイスラエルの王われらに敵せんとてヘテ人の王エジプトの王等を雇ひきたりて我等を襲れんとすと黄昏に逃げその天幕と馬と驢馬とを棄て陣營をその儘になし生命を全うせんとて逃たり四人の癩病の者陣營に入りしにこゝに人なきにより往


スリヤの王の圖

て王に告たりしに王は之をスリア人がイスラエル人をまねき入らんとてなせる謀ならんと思ひ使を遣はせり使者馬を取りてスリア人の跡を尾てヨルダンにいたりしが途にはスリア人が狼狽逃る時に棄たる衣服と器具盈り民はいでゝスリア人の陣營を掠めみづから養ふにあまれる程の糧食を取り殘れる糧食は之を賣て他人の利益にそなへたり斯在しかば麥粉一セアは一シケルとなり大麥二セアは一シケルと成るエホバの言のごとし

第二十三問 信ぜざりし彼の大將は如何になりしや

答 王かの大將を立て門を司らしめたるに民門にて彼を蹈たればエリシャの預言の如く死せり

第八章

第二十四問 如何にエリシャと王はシユナミの女をめぐみしや

答 エリシャ預言者の學校へ再度過りし時シユナミの女が彼に行ひし信切を意出し彼をして此地に來らんとする七年の饑饉の

事を知しめ且彼に其家族と共に其國を立去り饑饉のあひだ寄寓んと思ふ處に旅すべくさとせり女ペリシテ人の國に往きて饑饉の時すぎけれバイスラエルに歸り王の許に往き自己の家と田畝を乞り王ハ此時ゲハシと談話いたせしにより其心の中に彼をめぐまんと思ひいたりしに此ゲハシハエリシヤがなせし大なるわざと彼が彼女の子を復生たることゞもを語りをる時なりしかバ王ハ女の願をゆるせしのみならず一人の官吏を立て彼に屬する凡ての物並に彼がての地を去りし日より今にいたるまでの其田畝の產物を悉く彼に還せり

第二十五問　何の旨意にてベネハダデハ使をエリシヤに遣せしや又其結局ハ如何

答　ベネハダデ病にかゝる大臣ハザエルにダマスコの佳物駱駝四十駄を禮物としエリシヤの許におくれり彼エリシヤの前に至りいひけるハ汝の子スリヤの王ベネハダデ（てふにイスラエルの國語に預言者を父とよぶ確證を見るべし）我を汝につかは

して吾なの病は愈るやと問しむとエリシャいひけるは往て彼に汝は必ず愈べしと告よ但エホバ彼はかならず死なんと我に示めしたまふなり而して神の人瞳子をさだめて彼の羞るまでに見つめ乃て哭いでたりエリシャまたハザエルがイスラエルに行んとする大なる害惡を先知して彼に告ければ彼驚き問けるは汝の僕は犬なるか何ぞ斯る大なる事をなさんエリシャ答けるはエホバ我に示めしたまふ汝はスリアの王となるにいたらんハザエルベネハダデに歸り彼にいひけるは預言者云ふ汝は必ず愈るならんと翌日ハザエル粗き布をとりて水に浸し王の面を覆ひたれば死りハザエル乃ち王となる

第二十六問　ヨシヤパテに次ぐ王は誰ぞや

答　其長子ヨラムなり彼は三十二才にて紀元前八百九十二年に即位しユダ第五世の王とす三年の間其父と共に國權を操り專治は後の五年なり

第二十七問　彼の性質は如何ぞや

答　彼イスラエル王の道にあるきアハブとイゼベルの娘を娶り己の凡の兄弟とイスラエルの數君を殺せり

第二十八問　ヨラムに背反し民ハ誰ぞや

答　エドム人なりまた仝時にリブナ背反けりそハ彼其先祖の神なるエホバを棄たれバなり

第二十九問　彼につき尚ほ何事の話されしや

答　彼イスラエルの山の崇邱に在てエルサレムの民とユダの民に邪淫を行しめり是に於て預言者エリシャの書を送り責ていひけるに彼ユダに罪を行ハしめ爾に優りたる兄弟を殺せしにより神爾民と妻子及び凡の所有品を撃ち給ハん彼ハ難病に罹り爾臟腑裂べしとエリシャの預言應しのみならず彼其悪行によりて王等の墓に葬らるゝことを得ざりき

第三十問　誰がヨラムを嗣しや

答　彼の末子アハジアにしてユダ六世の王なり(紀元前八百八十五年)

第三十一問　彼の治世について何事があるや

答　其治世エルサレムにてたゞ一ケ年にして悪慝の王とす彼の母はアタリヤとて評議官なり

第九章

第三十二問　ヨラムの死の物語をなすべし

答　彼スリアの王に戰はんとてイスラエルの王アハブの子ヨラムなる其祖父と偕に往しがアハブの家を殄さんとてエホバの膏を沃ぎしエヒウに殺されたり

第三十三問　アタリヤが其子の死を知し時何事をなせしや

答　彼起てユダの家より諸王族を滅したれど王の娘アハシヤの子ジアシを取てエホバの家に匿るゝこと六年彼處にて養育せり此間アタリヤ國を治めり(歷代志畧下廿二章)

第三十四問　エヒウについて何事があるや

答　彼はイスラエルの第十世の王にして紀元前八百八十四年王となり二十八年の間民を治めたり

第三十五問　エヒウは誰より膏を沃がれしや又其目的は何ぞや

答　エリシヤ壯年なる一預言者をキレアデのラモテに遣はせり此處にスリア人を壓服しイスラエルの軍勢の指揮するエヒウありき預言者到りてエヒウが其軍長等と坐しをるを見彼を奥の室につれゆき膏をエヒウの首に灌て言ふイスラエルの神なるエホバかく言たまふ我汝に膏をそゝぎてエホバの民イスラエルの王となす汝はその主アハブの家を撃ほろぼし之によりて我僕なる預言者等の血とエホバの諸の僕等の血をイゼベルの身に報んと

第三十六問　エヒウの職務に臨みし始の行爲は何ぞや

答　彼エズレルに往くにエズレルの戍樓に一箇の守望者はるかにエヒウの來るを見て二人の使者をヨラムより遣されしがエヒウは是等に我後にまはれと命ぜられたりイスラエル王は終にアハジヤと偕に彼にナボテの野に會へりヨラムエヒウにいひけるは平安なるやとエヒウ答けるは汝の母イゼベルの姦淫と

魔術と斯多かれバ何の平安あらんやと此時ヨラム手をめぐらして逃げアハジアにむかひ反逆なりアハジアよと言ふにエヒウ手に弓をひきしぼりてヨラムの肩の間を射たればその矢彼の心を洞て體ハナボテの地に投すてられたり是に於てエリヤの預言應ひたり(列王記畧上二十一章十九節)彼又アハジアを殺せり此人ハアハブの家に隨ひ其黨與となりて罪悪を行ひし者なり

第三十七問 イゼベルの死の物語をなすべし

答 エヒウエズレルに來りしがイゼベルハ其目を塗り髪をかざり窓より望みエヒウに挨拶をなし其主を弑せしジムリよ平安なるやと言へりエヒウハ之に答へず言けるハ誰かあるやと言けるに二三の寺人のエヒウを望む者に彼を投おとせといへり乃ち投おとしければ其血牆と馬とに迸りエヒウ之をふみとほり内にいりて宮殿を取り後ちイゼベルハ王の娘なるにより之を葬らんといでゆきしが犬イゼベルを食ひ頭骨と足と掌とな

りしのみなりけるをバエズレルの地に於て犬イゼベル(彼女の支配れ他の王の支配の三代の間續り彼女れ其一生涯に王の娘王の妻二王の母王の繼母及王の祖母なりし)の肉を食はんと預言者エリヤの告し言をおもひいだせり

第十章

第三十八問　如何にしてエヒウはアハブの子を殺せしや

答　エヒウエズレルの牧伯等と長老等に書を遣わしてアハブの七十子を殺すべく命ぜり彼等王の子等をとらへて之を殺し首を籃につめて之をエヒウの許に送れり又彼はアハブの家の分派なるユダの王アハジヤの家の四十二君と其家に在る凡の人を殺したり

第三十九問　エヒウグバアルの從屬を滅したる物語をなすべし

答　エヒウ謀をもつてバアルの從屬を集めんとしバアルの祭禮に來らざる者は殺さるべしといへり彼僕等に禮服をしめ大なる犧牲をそなへしめて此中に一人もエホバの人なきを示し彼等

の一人だにのがれざるため守兵をおき其將卒に命じて彼等を撃たしめ且バアルの家に入りて像を燒き以てイスラエルの中よりバアルをほろぼせり

第四十問　此後ヱヒウに就て何事がはなされしや

答　ヱホバはいひけるは汝わが義と観るところの事を行ふにあたりて善く事をなしまたわが心にある諸の事をアハブの家になしたれば汝の子孫は四代までイスラエルの位に坐せんと然るにヱヒウは心を盡してイスラエルの神ヱホバの律法を行わんとはせず尚かのイスラエルに罪を犯させたるヱロボアムの罪に離れざりき

第十一並ニ十二章

第四十一問　ユダにてアタリヤを嗣し者は誰なりや

答　ユダ第八世の王アハジヤの子ヨアシなり生きて七才即ち紀元前八百七十八年に王となる彼エルサレムにて四十年世を治めたり(歴代志畧下廿四章)

第四十二問　アタリヤに何が話るゝや

答　祭司エホヤダヨアシを王とせんとて凡の民をよびあつめたりアタリヤ王と民のよろこびしを見て其衣服を裂きよばわりけるは反逆なりと是に於てエホヤダの命により殺されたり

第四十三問　ヨアシの政治は如何

答　彼は祭司エホヤダの在世の間エホバの前に正しく行爲へり(歴代志略下同上)

第四十四問　エホヤダの物語をなすべし

答　彼はソロモンの世に生れ七朝を經齡百三十にて死す神に事へ家に接しイスラエルの中に善をなせしより王等と偕にダビデの邑に葬られたり(歴代志略下同上)

第四十五問　彼の死せし後ユダの太子に如何なる事ありしや

答　彼等來りて王を拜せしに王之を許しければエホバの家を棄てゝ木柱と偶像に事へり此故に罪のためにユダとエルサレムの上にエホバの怒くだれり(歴代志略下同上)

第四十六問　神は再び彼等を救はんと何をなし給ひしや又其事の結果は何ぞや

答　神彼等の中に預言者を遣し又神の靈エホヤダの子なるゼカリーヤの上にくだれりゼカリヤいひけるは汝エホバをすてしによりエホバまた汝をすて給ふと王の命によりゼカリヤ石にて殺さるヨアシはゼカリヤの父なるエホヤダの親切を思はざりき(歴代志畧下同上)

第四十七問　ヨアシは如何にして殺されしや又其死の物語をなすべし

答　スリア人ヨアシに攻め來りて君等を亡ぼし且邑をうばへり又ヨアシの僕エホヤダの子供等を殺さんとて彼にそむき彼を其牀に於て殺せりヨアシはダビデの邑に葬られしかども王等の墓所にはゆるされざりき(歴代志畧下同上)

第十三章

第四十八問　イスラエルの次王は誰又彼に付ての事實を語れ

答　イスラエルの十一世の王ヨアハズはエヒウの子なり紀元前八

百五十六年の位を嗣ぎ十七年の間治めたり彼れエロボアムの家の悪しき道におるきしのよりハザエルとベネハダデスリア人の長となりて彼をせめければヨアハズ敗きて五十騎十戰車一萬の歩兵となれり彼危難の中にエホバの權イスラエルの上にあることを承伏し自からエホバの前の遜り請求めけるバ王の子ヨアシハイスラエルの救者として スリア人を放逐し且國法を立定むることを得たり

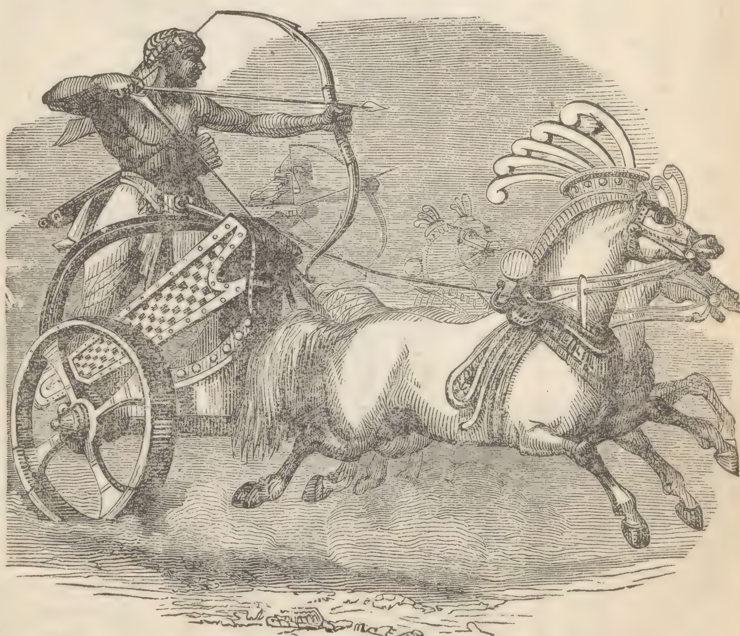
第四十九問　ヨアシの政治の物語をなすべし

答　ヨアシハヨアハズの子のして父の代りてイスラエルの王となる之をイスラエル第十二世の王とす紀元前八百四十一年に政を執り十六年の間位に在りしが先祖の例に隨ひ金犢を信仰したりされど彼に正直なる一の行爲あり即ち預言者エリシャを父の如くに思ひ最も彼を尊敬したることなり

第五十問　エリシャの病と其死の事を語き

答　エリシャ病に罹りければヨアシハ彼の許にくだり來て其顏に

涙を溢しいひけるハ吾父吾父イスラエルの兵車よろの騎兵よとゐゝに於てエリシヤスリヤ人に彼の勝利の事を預言して死去ければ人々彼を葬きり（此預言ハ死後に應ひ彼ハ三度續てスリア人に勝てり）此後或友人等死し人をかついで墓所ゐつれゆくものありしが彼等モアブ人の中間の遙に來るを見て彼等の手ゐおちんことをおろき其人をエリシヤの墓に投そてしが其人いりてエリシヤの



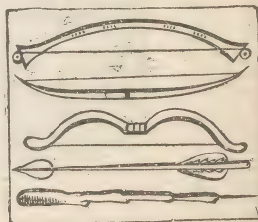
昔の兵車の圖

骨にふるゝや生かへりて起あがれり

第十四章

第五十一問　如何にしてアマジヤはヨアシを怒しめしや又何事起りしや

答．アマジヤヨアシに輕慢たる使者を遣わせしにヨアシ之に相當なる譬を以て返答けれバレバノンの荊棘かつてレバノンの檜樹に汝の女子をわが子の妻にあたへよと言おくりたることありしにレバノンの野獸とほりてその荊棘を踏たふせり汝ハ大にアドムに勝たれバ心に誇るその榮譽にやすんじて家に居れるなんぞ禍を惹おこして自己もユダとともに亡んとするやと既にしてヨアシ起りてアマジヤをベテシメシに敗りエルサレムに進み四百キユビトの石垣を毀ち殿の中にある金銀及び將來アマジヤの善行を保んために人質を取れり幾時もなくしてヨアシハ黃泉客たり



昔の弓や矢

第五十二問　ヨアシを嗣ぐ王ハ誰ぞや

答　ユダ第九世の王ヨアシの子アマジヤなり二十五歳の時即ち紀元前八百三十九年に王となり二十九年其位を踐めり

第五十三問　彼の時代に著しき事情ハ何ぞや

答　彼エホバの前にたゞしくおこなひしかども全き心より事へざりき在位中始に記されしハ其父王を弑したる僕等を殺せしかどもモーセの法律を遵守して其子孫を殺さゞりし事なり彼又エドム人と戰ひ大に人を殺し其偽神を取て之を拜したり此悪行によりてアマジヤ預言者の一人によりて責られベテシメシにてイスラエル王にとられエルサレムに拉られたり此處ハ彼等石垣をうちこわし金銀を取てサマリヤにもどりし所なり

第五十四問　アマジヤの死の物語をなすべし

答　エルサレムにて反黨おこりければ彼ラキシに遁れたりしも逆黨に追殺せられたり彼れユダの邑に先祖と偕に葬られたり

第五十五問　イスラエルの王ヨアシに嗣し王ハ誰ぞや

答　其子ヱロボアムにてイスラエル十三世の王なり紀元前八百二

十五年に王となり四十一年世を治めたり彼初はエロボアムの例に随ひ金犢を信仰せしかどもヱホバイスラエルの上に憐をたれ給ひければ治世永く國榮へたり彼常にスリア人に勝て彼等の要邑ダマスコ及びハマテを取て昔の東境なるレバノンより死海にいたる地をイスラエル恢復せり

第十五章

第五十六問　ユダの王ウジヤ即ちアザリヤの事を語れ

答　ウジヤはユダ第十世の王アマジヤの子なりしが齢十六にして王となる時に紀元前八百十年なり五十二年王位を踐たりマナセの世をのぞきヘブルの史中ウジヤの世を最も長しとす

第五十七問　ウジヤの御宇を説け

答　彼はヱホバの前にザカリヤ存命中正しく行なへり曾てペリシテ人と戦ひ許多の城邑を破り又數邑を建築しペリシテ人アラビヤ人の戦に神はウジヤを助け給へり櫓を建城を築き事業を勵し備兵を設け器械亦之に稱ふ於是國光四方を照し名聲最も

高し(歴代志畧下廿六章)

第五十八問　ウジヤの罪と其罰と死は如何ん

答　ウジヤ香を燒んとて殿に往しを祭司は香をたくの職務なれば之を禁ぜしにウジヤ大に憤れりエホバ彼が香爐を携さへ立ちしを癩病を以て擊ければ其額まで病上れり祭司彼を追ひ出せば彼はエホバの家より棄られて病死せり祭司等王を其所有地に葬むる(歴代志略下廿六章)

第五十九問　第二世のエロボアムを嗣し者は誰ぞや

答　其子ザカリヤなり(紀元前七百七十三年)是イスラエル十四世の王にしてエヒウ家の最終の王とす世を治る六月民の目前にてシャルムなる者より弑せられたりシャルム簒立す

第六十問　ゼカリヤに次ぐイスラエルの四王の物語をなすべし

答　イスラエル十五世の王はシャルムなりシャルム其王ザカリヤを殺せし後一ケ月王位に在てメナヘムなる者に弑せられたり第十六世の王メナヘムは紀元前七百七十一年に王となり十年

の間世を治たりしがイスラエルの列王に同じくエロボアムの罪より離ざりしが其統御中にアッシリヤ人パレスタインをせめけれバメナヘムハ銀一千タラントを出して己の身を全ふせりその子ペカヒヤ位を嗣ぐペカヒヤ亦金犢を信奉せしが二ケ年の後其將官の一人なるペカの爲に殿の中に亡ぶ

イスラエル第十八世の王ペカは紀元前七百五十九年より二十年間世を治めたり此間アッシリヤ人はヨルダンの東地に住する二族半を逐ひ之を領したりホセア黨を結びペカを攻め弑して王となれり

第六十一問

ヨタムの治世を語るべし

答

ヨタムハウジアの子ユダ十一世の王なりしが二十五年にして王となれり(紀元前七百五十八年)彼エルサレムに十六年君臨しエホバの前に正しく行へり城邑を築き國力強してアンモン人に勝りしハ彼エホバの前になほきたれバなり其死するに及んで先祖等とダビデの邑に葬られ其子アハズは父に代りて王と

なれり(歴代志略下廿七章)

第十六章

第六十二問　アハズについて何事が談されしや又其治世は如何

答　二十歳の時即ち紀元前七百四十二年にユダ第十二世の王となり十六年世を治たりアハズはユダ王中の最も悪王なりエホバも法律も預言者も敬まわずしてスリア人の宗教をエルサレムに導き其神に壇を築きスリアの俗に随ひて殿を變革し終にエルサレムの殿を閉せり

第六十三問　アハズの代の戰爭と其死の物語をなすべし

答　アハズ其敵なるペカ及びレジンより二三の攻擊をうけのちエドム人反しペリシテ人其國を侵しければアハズは神の約し給ひし其救助にたよらずアッシリヤの王パトに救助を乞へりパト乃ちスリアとイスラエルとユダを亡ぼさんとする其企をふせぎアハズを救ひしによりアハズ之に從へりアハズは愈苦に陷り愈罪を犯して死すエルサレムの邑に葬られたれど王等の

墓所にはゆるされざりき

第十七章

第六十四問　イスラエルの王ペカに嗣し者は誰ぞや又其治世の事は如何ぞや

答　紀元前七百三十年に即位せしイスラエルの終の王即ち十九世のホセアなり彼は其先祖の反逆し之を殺して其國を奪へり其位を得んと試みしや七年若くば八年志を得ずユダの王アハジヤの第四年にペカを殺したれども尚は十二年の後まで王となる能ずしてエホバの前の悪しく行へりされど前王等の等しきほどあしくはあらざりきホセアはアッシリヤ王シャルマネセルの軛を脱せんとエヂプトの王なるソと契約を爲せりとの報を得てイスラエルの地に兵を出し三ヶ年の間之を圍みサマリヤを陥れ且つ十族をユフラテの對岸の國々へ送れり

第六十五問　ユダヤと分られて以來幾何年間イスラエル王國は存立せしや

答　凡ろ二百五十年とす

第六十六問　イスラエルの王及人民の間に流行する罪ハ何なりしや

答　偶像敎ふ歸向すること(列王記第十二章十七ノ六十八節を見よ)

第六十七問　十族の末運ハ如何

答　東國の政法に從てアッシリヤの王ハ土地より重なる住民を移せり彼等ハゴザン河の邊ハラとハボル及びメデヤの邑々等遠隔の土地に移せりと云ふ蓋ハ彼等互ふ一致して一勁敵となられんことを恐るればなり都府を遠ざかりたる地或ハ山中ふ住居せし人民等ハ其家に止まりしや固より疑ふに足らざるなり戰爭中殊に鏖戰に際し人民多く國中を脫しエジプトに行きし者ありと雖も多くハユダヤに至りヒゼキヤの幕下となり又多くハアッスリヤ王に擒にせられたり而して地中海の港にハ到る處彼等賣奴となさきたり其後イスラエル王國に付てハ記事なし如何となきば「神ハ其國を終らしめたればなり」

第六十八問　アッスリヤの王ハイスラエルの人民の代りに誰をサマリヤに

置きしや

答　打從へし諸國の人民を置けり即ちバビロンクタアバ、ハマテ及パルワイム等の人民是なり

第六十九問　我等はイスラエル王國轉覆に付爾余の傳記を有するや

答　然りアッスリヤ記錄中に左の如き王の語あり

予サマリヤの都府を回みて之を取り二萬七千二百八十の自由人民を送れり而て分捕したる總車の中より五十輛を予が使用に擇び取きり他の分捕物は臣下に取しめ其地に官吏を置き前に拂はきたると同額の年貢を負はせたり虜として取り去きる跡には他の打勝たる人民を移しアッスリヤ人と同じき年貢を徵收す

第七十問　アッスリヤの王がイスラエルに送りし人民の宗敎は如何

答　偶像敎徒ふして處々より人民相合併せるを以て彼等は各種の神を拜せりバビロンの人民は尙テルバニットなるバビロン女神の像「サッコスベノス」を有せり(或は小き幕中に女神の像を含

有せるものならん)クタの人民は獅子神なるネルガルを彼等の
國神となせりハマテの人民は犬頭の神なるアシマアビ人と二
ブハズを拜せり而して尙惡しきはセパルワイムの人は日の神
なるバアールの拜禮を勉めモロクの男女兩像なるアデランメ
レク及アンナメレクに彼等の子供等を生ながら燒きて犧牲と
なせり

第七十一問 ユダヤ人は虜を逃れて北方に至り此處彼處に散在せる遺族を
除くときは獨りイスラエル人あるのみ爾來エルサレムは眞敎
信仰の中心となり將來敎會歷史の依て起る所となれり
十族は其故鄕に返るべしと云ふことを信ずるは聖書中其證あ
りや

答 然り預言者は皆聲を同してユダヤ及イスラエル人は既に上帝
の敵たらず偶像敎より一洗して主なる神を求め神に事ゆるの
志を以て共に故鄕に歸りたりと云ふことを述ぶ(耶利米亞記)三
章十八節、三十章三節、三十三章七節、五十章四節、及(以結西)三十

七章二十一節二十二節、を見よ)總て國の分割ハ失せ人民ハ只ユダヤ人或ハイスラエル人と名けられたり

紀元前一千年より
同上　七百年まで

重大事件年表を左にかゝぐ

イスラエル	ユダヤ	スリヤ	アッスリヤ
紀元前壹千年 九百七十五年 王國分割エロボアム第一世王となる小牛の禮拜始まるアビヤ豫言者たり 九百五十七年 ゼマライム山に於てエロボアム敗北す 九百五十四年 ナダブ第二世王となる 九百五十三年 バアシヤ第三世王となる	九百七十五年 レホボアム第一世王となる シマヤ豫言者たり 九百七十年 シシヤク入寇 九百五十七年 アビヤ又アビヤム第二世王となる 九百五十五年 アサ第三世王となる ユダヤ宗教革命	七百七十五年 レゾン王となる ダマスコ獨立す 九百五十七年 タブリンモン王となる	(アッスリヤ王國ハソロモンの支配中及其後數年國勢弱ハく紀元前千壹百年より八百八十三年に至る迄大王と稱せらるべき者なし)

紀元前九百五十年
ユダヤと戰爭あり
九百三十年
エラ第四世王となる（殺さる）
九百二十九年
ジムリ第五世王となる（殺さる）
オムリとテブニの間に內亂あり
九百廿五年
オムリ第六世王となる
サマリヤ建つ
九百十八年
アハブ第七世王となる
バアル禮拜初る
九百十年
エリヤ預言者たり

九百四十一年
クシ人ゼラ敗北す
アザリヤ預言者たり
スリヤと同盟す
ハナニ預言者たり
九百十四年
ヨシヤパテ第四世王となる
ユダヤ宗教革命

九百四十年
第一世ベ子ハダテ王となる
九百十年
第二世ベ子ハダテ王となる

九百三十年
第二世アススル、ダン王となる
九百十三年
第二世ヴヲル、ニライ王たり

イスラエル

紀元前九百年

九百年
スリヤと戰ふ

八百九十七年
アハブ殺さる

八百九十七年
アハジヤ第八世王となる

八百九十六年
エリヤ天に昇る
エリシヤ預言者たり

八百九十六年
ヨラム第九世王となる

八百八十四年
エヒウ第十世王となる
バアール教亡ぶ
小牛禮拜舊に復す

八百七十八年
ハザエルヨルダン川エドムに勝つ

八百五十六年
エホアハズ第十一世王となる
イスラエルスリヤに屬す

ユダヤ

九百年
アハブと同盟す

八百九十六年
アンモン及モアブ敗る

八百八十九年
ヨラム第五世王となる

八百八十五年
アハジヤ第六世王となる

八百八十四年
アハジヤエヒウに殺さる

八百八十四年
アタリヤ第七世女王となる
(簒奪人)

八百七十八年
ヨアシ第八世王となる
(アタリヤ殺さる)
エホヤダの宗教革命
神殿の修繕

スリヤ

九百年
イスラエルに依て敗らる

八百九十六年
スリヤ人ナアマンのこと

八百九十年
ドタンに於てエリシヤの事

八百八十四年
ベ子ハダテハザエルに殺さる

八百八十四年
ハザエル王たり

八百七十八年
ハザエルイスラエルに勝つ

アッスリヤ

八百八十三年
アスシユルダニパル王たり
第二即舊アッスリヤ帝國始まる

八百五十六年
第二世シヤルマ子セル王となる

紀元前八百五十年

八百四十一年
エホヤシ即ちヨアシ第十二世王となる
八百三十八年
エリシヤ死す
八百三十五年
スリヤに勝つ
イスラエルの獨立を復す
八百二十六年
ヨアシエルサレムを取る
八百二十五年
第二世エロボアム第十三世王となる
スリヤモアブアンモンに勝つ
アモセ及ホゼア預言者たり

八百五十年
ヨアシの主唱に依り「バアル」の禮拜始る
ザカリア預言者たり石にて打ち殺さる
ハザエルエルサレムを劫かす
八百三十九年
アマジヤ第九世王となるイドムに勝つ
八百二十六年
ヨアシに敗らる
八百十年
アマジヤ殺さる
八百十年
ウジヤ第十世王となる

八百五十年
ハザエルアツスリヤ人に敗らる
八百三十九年
第三世ベテハダテ王たり
八百二十年
スリヤイスラエルの第二世エロボアムに勝たり

八百四十五年
アツスリヤ東國に權あり
八百四十一年
シヤルマチセルイスラエルより年貢を取る

イスラエル	紀元前八百年 七百八十四年 イスラエル王位空く且つ亂る 七百七十三年 ザカリヤ第十四世王となる(殺さる) 七百七十二年 シャルム第十五世王となる(殺さる) 七百七十二年 メナヘム第十六世王となる イスラエルアッスリヤに屬す 七百七十年 ヨナ預言者たり(?) 七百六十一年 ペカヒヤ第十七世王となる(殺さる) 七百五十九年 ペカ第十八世王となる(殺さる)
ユダヤ	八百年 ヨエル預言者たり(?) 七百七十三年 ユダヤ榮ゆ 七百六十五年 ウジヤ聖を犯し癩を患ふ 七百五十八年 ヨタム第十一世王となる
スリヤ	七百九十五年 王マリバアッスリヤに屬す(紀念碑にあり) 七百六十一年 ダマスコアッスリヤ人に取らる
アッスリヤ	七百八十一年 シャルマ子セル第三世の王となる 希臘史の始る「ヲリンピアド」の紀元 七百五十三年 羅馬府建つ

紀元前七百五十年

七百四十年
ヨルダン川エドム人種虜となりてアッスリヤに送らる

七百三十九年
ホゼア第十九世王となる
アッスリヤに叛く

七百二十一年
サマリヤ取らる
イスラエル虜となりて送らる
イスラエル王國終る

紀元前七百年

七百四十七年
ミカ預言者たり

七百四十二年
アハズ第十二世王となる(ユダヤ王の最惡しき者なり)
イザヤ預言者たり

七百四十一年
イスラエル及スリヤに依てアハズ敗らる

七百四十年
アハズアッスリヤに屬す

七百二十六年
ヒゼキヤ第十三世王となる宗教大革命

七百十三年
ヒゼキヤ病

七百四十二年
レヂン王となる

七百四十年
ダマスコ取られテグラテピレセルに依て亡さる
スリヤ王國終る

七百四十五年
第二世テグラテピレセルとなる(大勝利者)
第三次新アッスリヤ帝國建つ

七百二十七年
第四世シャルマチセル王となる

七百二十年
サルゴン王となる
アッスリヤ其頂点に達す

七百十三年
メロダクバラダンバビロンを自由にせんことを企て敗る

第十八章

第七十二問　アハズを嗣し者は誰ぞや又其事柄は如何

答　ユダヤの十三世の王なるアハズの子ヒゼキヤは廿五歳にて紀元前七百二十六年に王となり二十九年世を治めたりダビデの後政治の善良推して第一とす且つ宗教に熱心に信仰に富める王なりといふ

第七十三問　ヒゼキヤのユダヤの改革は如何

答　ヒゼキヤのユダヤの改革は殿の門を開き祭司とレビ人をいさめて其身を洗ひ殿を潔めて崇拜のため凡の物を備へしめたりヒゼキヤ回顧して彼等の終の政事の罪を贖わんとて七犢七牡綿羊七綿羊羔及び牡山羊七頭をユダヤ人の聖所を敬わざりし者の罪の贖に牽來りければヒゼキヤはアーロンの子孫なる祭司等に命じて之をエホバの壇に献ぜしめたり殿の事備りて其序定まりければ民は命に隨ひ祭品と酬恩祭を携へ音樂鏗々の中に燔祭をさゝげたりヒゼキヤ民と偕に樂むるは民の役事速に終りたればなり（歴代志畧

畧下廿九章）

第七十四問　ヒゼキヤの人を使ユダヤとイスラエルの人民に云しめしと如何

答　彼二月に於て逾越節を守るべく凡の民に布告せり斯て王書をイスラエルとユダヤに遣し言けるはイスラエルの子孫よ爾等アブラハムイサクイスラエルの神に帰へるべし凡そアッスリア王の害に遺れる民は必ずヱホバの祐けを蒙らん爾の父と兄弟は列祖の神ヱホバに叛きしにより殲滅を見しは今日その證をなすが如し故に爾等彼等にならふなかれ汝宜しくヱホバと其聖所に従ふべし此はヱホバ潔めて歴代替ることなく之に入りて爾の神なるヱホバに奉事なばヱホバの怒息みて爾神なるヱホバ汝を憫み給わん爾ぢヱホバに帰るにおひてはヱホバ必ず爾を棄てず虜となりし爾の兄弟も亦矜憫を蒙りて再び斯の地にかへるべしとかくて捷足の使者遍くヱフライムマナセの諸の邑を歴てゼブロンの地に至りければ人々訕けり笑へりされどアセルマナセ及びゼブロンに在る數人は自から卑りてヱ

ルサレムに詣れり神ユダヤにある民に一心を與て王と群伯の傳しエホバの命を遵從しめたり(歷代志略下三十章)

第七十五問　會議の物語をなすべし

答　二月會衆エルサレムに至て除酵節を守る其人甚だ多し一にモーセの法律に從へりエフライムマナセイッサカルセブルンの會衆其體を潔めず常例に背きて逾越節を守りければヒゼキヤ祈りけるは人々其列祖の神なるエホバに事ふるに聖所の例に背き己を潔ざるも惟其心を一にして事ふるに於てはエホバ之を惡となさゞれば願くは彼等人々をゆるし給へとエホバヒゼキヤの祈を聽て之をいやし給へり會衆十四日の間除酵節を守り欣をなせりダビデの子ソロモンの時より今日に至るまでエルサレムにありて未だ此の如きの樂はあらざりき(歷代志略下同上)

第七十六問　セナケリブのユダヤを攻擊せし事を語れ

答　ヒゼキヤ王の十四年にアッスリアの王セナケリブ攻のぼりて

ユダヤの諸の堅邑を取り是れ神ヒゼキヤの信仰をこゝろみ且以賽亞書十章六節に偽善者と稱られし民を責んとて此禍を降せるなり何となれば彼等ヒゼキヤの改革を好ず又其偶像を棄ず崇邱を毀ち偶像を已の家にあがめざりしも心の中に之をまつればなり當時此侵入の事より國の錯雜を起せし事情は以賽亞書十章二十八節より三十二節までの中に錄されたりさてヒゼキヤアツスリアの王へ温順に使を遣しいひけるは我過てり我を離れて歸りたまへ汝が我に蒙しむる者は我これを為べしとアツスリアの王乃ち銀三百タラント金卅タラントをユダヤの王ヒゼキヤに課したり是に於てヒゼキヤはエホバの家と王の家の庫に在る所の銀を悉くし又神殿の戸及び柱の金を剝てこれをアツスリアの王に與へたりヒゼキヤは暫く勇力を失ひ神を頼むの心なくイザヤに議することをなさざりき

第七十七問

セナケリブがエルサレムを圍し物語をなすべし

答

セナケリブ王タルタンラブサリス及びラブシヤケをして大軍

をひきゐてヱルサレムに上らしめたりラブシヤケユダヤ王の子等に云けるはアツスリヤ王斯く言ふ汝我ヒゼキヤの頼むところは此三の事なるを志る第一はヒゼキヤの兵備是なり汝戰爭をなすの謀計と勇力とを言も只てき口の先の言語たるのみ汝ヒゼキヤに兵士に堪べき一人もあるなし汝ヒゼキヤが人を乘する事を得ば我馬二千匹を與へんと第二はヱヂプトとの契約にしてヒゼキヤがヱジプトを頼みて兵車と騎兵を仰がんとするなとありラブシヤケ之を折かゝれる葦と稱べり第三は神に頼みて利せんと思ふてと此固よりヒゼキヤが眞に頼りたる事なるがのラブシヤケはダビデの敵がなせし如く(詩篇三篇二節より十一節迄)キリストの敵のなせし如く(馬太傳二十七章四十三節)毀んと試みたりラブシ



昔の五行列

ヤケヒゼキヤの信仰を毀たんとて更に三の僞言を設けたり其一はヒゼキヤは崇邱と壇を毀ちて神の守りより離れたりと其二は神は此時に於てエルサレムを滅亡さんとの命即ちエホバ我に此處に攻のぼりてこれを滅せと言ひたりと其三はイスラエルの神なるエホバアッスリア王より彼等を助けんとなさんも之をなすこと能はずと斯く神を汚す言を以て其談をおへり

第十九章

第七十八　問　エルサレムは如何にして救はれしや

答　祈禱預言及び神の使の補助に由てなりヒゼキヤは誹を以て神を汚したる者のエルサレムに來らんとする其危難に驚き甚だ憂たり而して神は心に感ぜぬ人々を怒給へり(以賽亞二十二章十二節より十五節に至る)ヒゼキヤ作詩者の例にしたがひ思慮を得んとて神の殿に上りて祈をなしたりたゞ其憂は如何にラブシヤケに答へんとにあらず神のゆるしを得んためにて使を

イザヤに遣せしに彼答へて斯エホバいひ給ふアッスリア王の臣僕等が我を誘るところの言を汝聞て懼るゝなかれ我かれの氣をうつして風聲を聞て已の國にかへるにいたらしめん我また彼をして自己の國に於て劍に斃れしむべしと曰へりラブシヤケ果て風聲を聞急て已の國にかへり書をヒゼキヤの許に遣しいひけるハ汝エルサレムハアッスリアの王の手に陥らじと言て汝が賴むところの神に欺かるゝなかれ汝ハアッスリアの王等が萬の國々になしたる所の事を知る即ちこれを滅しつくせしなり然バ汝いかで救らんやヒゼキヤ書を受てこれを讀みエホバの家にのぼりゆきてエホバの前にこれを展開げて言けるハケルビムの間にいますイスラエルの神エホバよ只汝のみ神にいますなり汝ハ天地を造りたまひし者にいますエホバよ耳を傾けて聞たまへエホバよ目を開きて見たまへセナケリブが活る神を誘りにおくれる言語を聞たまへエホバよ誠にアッスリアの王等ハ諸の民と其國々を滅し又其神々を火になげい

れたり其等は神にあらず人の手の作れる者にして木石たれば
これを滅せしなり今われらの神ヱホバよ願くは我等を彼の手
より拯ひいだし給へ然ば世の國々皆汝ヱホバのみ神にいます
事を知にいたらんと玆にヱホバイザヤによりて言けるは汝が
セナケリブの事につきて我に祈る所の事は我これを聽り彼又
アッスリア王につきいひけるは汝の怒狂ふ事と汝の傲慢とこ
ろの事上りてわが耳にいりたれば我圏を汝の鼻につけ轡を汝
の鼻につけ轡を汝の唇にはめてして汝を元來し道へひきかへ
すべしそれ我我名のため又わが僕ダビデのためにこの邑を守
らんとその夜ヱホバの使者いでゝアッスリア人の陣營の者十
八萬五千人を撃てころせりアッスリア王起いで歸り行てニネベ
に居しが其神ニスロクの家にありて禮拜をなしゐるを其子劍
をもて殺せり

第二十章

第七十九問

ヒゼキヤの病氣と其生命の延長られしを述よ

答　ヒゼキヤ病て死なんとせしてとありイザヤ彼の許にいたりて之にいひけるハ汝家の人に遺命をなせ汝ハ死ん生ることを得じとヒゼキヤその面を壁にむけてヱホバに祈り嗚呼ヱホバよ願くハ我眞實と一心をもて汝の前にあゆミ汝の目に適ふてとを行ひしを記憶たまへと言て痛く泣り其後イザヤ再び彼の許にいたりて言ふ神汝の祈を聽汝の齢を十五年増べし第三日にハ汝ヱホバの家に入んとヒゼキヤ預言者に此約束をかたくせん事の徵を願ひけれバ日影退くてと十度ありき以賽亞書三十八章九節ヨリ四十節の中に病痾平癒の感謝を見る

第八十問　イザヤの預言及びヒゼキヤへ見舞を述よ

答　バビロン王ハヒゼキヤの疾たりと聽書およひ禮物ををくれりヒゼキヤ其家及び其國に在る寶物を使者へ見たりしかしてのちイザヤ彼に來りヱホバの言をのべけるハ凡の寶物ハバビロンに攜ゆかん又汝の子ハバビロンの王の殿に官吏たらんとヒゼキヤ言ふ汝が語れるヱホバの言ハ善し若我世にある間に太

平と眞實とあらば善にあらずやと

第八十一問 何處にヒゼキヤは葬られしや

答 ヒゼキヤ死ければダビデの子孫の嘉き墓所に葬れり凡のユダヤ人とエルサレムの民彼を尊べり（歷代志畧下三十二章）

第二十一章

第八十二問 ヒゼキヤを嗣し者は誰ぞや

答 ユダヤ十四世王ヒゼキヤの子マナセなり年十二才にして紀元前六百九十八年に王となり五十五年世を治めたり

第八十三問 彼の統御中の物語をなすべし

答 彼エホバの目の前に惡をなし父ヒゼキヤが毀ちし崇邸を再びたて祭壇をエホバの家の庭に立て天の星を拜し刻たる偶像を立てたりヒンノムの谷に其子を焚て之を献げエルサレムの民をして偶像を拜むよりも尙は惡をなさしめたり無辜者の血を多く流してエルサレムのこの極よりかの極にまで盈せりエホバマナセと其民にいさめたまひしも彼等これを聽ざりき

第八十四問　彼如何に罰せられしや

答　アッスリアの軍勢彼を捕へ鉄索をかけて彼をバビロンへ送りたり

第八十五問　彼苦痛の中に何をなせしや

答　神の前に大に卑り且祈をなせり此祈によりエホバ再び其國エルサレムへ歸せり而して彼其造りたる神を棄てエホバの壇を備へユダヤの民をしてイスラエルの神に奉事しめり

第八十六問　何處へマナセは葬られしや

答　彼その家の園に葬られたり

第八十七問　彼を嗣し者は誰ぞや其治世は如何

答　アモンなり是はユダヤ十五世の王マナセの子にして紀元前六百四十三年齢廿二にいたり王となり二ケ年の間世を治たり彼は悪しき王なりきそは其父の造りし偶像に供物をさゝげたればなり彼は其父よりもなほあしかりきそは其父マナセの如く卑らざればなり(歴代志略下三十三章)

第八十八問　彼の死の物語をなすべし
答　其僕等彼にそむき彼を其家に弑せり
第八十九問　謀反人等の不幸は如何ぞや
答　其地の民彼等を誅しアモンの子ヨシアをして王となせり（歴代志略下同上）

第二十二章

第九十問　ヨシアの物語及び其世を治めし物語をなすべし
答　ヨシアはユダ第十六世の王なり紀元前六百四十一年八歳にして登祚し三十一年の間世を治めたり
彼正しく行ひ其父ダビテの道にあるきユダとエルサレムより崇邱と偶像を淨め祭司の骨を其壇に於て燒つくせり（列王紀畧下十三章二節を見よ）かくて他を淨めエホバの家を備へたり祭司の長ヒルキヤ殿の中に法律の書を發見し王の前に携へ出しに人々之を讀ければ王は彼等に命じてホルダの許に至しめ其本の言語をエホバに問しめたり王いひけるは我等の先祖等エ

ホバの言を守ざりしによりヱホバの怒大なり

第九十一問　彼等王の命を受け誰の許に至りしや其對如何

答　彼等女預言者ホルダの許に至りしにホルダいひけるは汝を我に遣せし人に告よヱホバかく言給ふ我此書に錄されたる一切の詛を此所と其民にくださんとさきにユダの王にかく言ふ可し汝の心柔かにして汝が神の言を讀し時に自ら卑りて神の前になきしにより汝安全に其墓所に葬らるべし

第二十三章

第九十二問　尚はまたヨシアは其改革に何をなせしや

答　彼法律と約束を讀み且逾越節を守ユダヤとヱルサレムの人々祭司レビ人及び尊き者卑しき者の凡の人と偕にヱホバの家に上り彼等の前にヱホバの家に發見したる書の凡の言を讀且ヱホバの道にあるきヱホバの命令と約束及び法律を守りまごゝろを以て其書中に錄されたる契約の言を行ふべくヱホバの前

に契約を爲し且ヱルサレム及びベニヤミンの凡の民に此約を守らしめければ人々其先祖等の神の約に從ひて行へり

第九十三問　ヨシアの守りし逾越節について何事が語されしや

答　此節は即位の十八年に守られしが元來逾越節は預言者サムエルの日よりイスラエルの中に守られざりき

第九十四問　ヨシアの死を說け

答　ヨシアヱヂプトの王パロ子コにむかひ上りしがパロ子コは神の命に隨ひて來りたりといひヨシアをいさめたりしも彼之をきかずすがたをかへ上りしが弓を執る人彼を撃たり彼その僕にいひけるは我いたく傷を負たれば我を携へ去と僕等彼をヱルサレムにつれいたり彼此處にて死せり(歷代志畧下三十五章)

第九十五問　彼の死を悲みし者は誰ぞや

答　ユダヤとヱルサレムの人々なり預言者ヱレミヤ及び諸の歌ふ男女ヨシアの死について雅歌を作り之をイスラエルの律法に錄したり(歷代志畧下同上)

第九十六問 ヨシアを嗣し者は誰ぞや又其御世を語れ

答 紀元前六百十年イスラエル十七世の王なるヨシアの子エホアハズなり彼廿三歳にて王となり三月の間世を治たりパロ子コ彼を廢しエヂプトにつれゆき國には銀一百「タラント」金壹「タラント」の罰金を課しエホアキムをして王となせり

第九十七問 エホアキムの世を治めし物語をなすべし

答 彼はユダヤの十八世の王ヨシアの第二子なりしが紀元前六百零九年に齡廿五歳にして王となり十一年世を治めたり彼エホバの前に悪しく行へり

第九十八問 エホアキム執政の始に方りて預言者エレミヤは如何なる戒を説きしや

答 神は斯く云ひたまふ若し汝我法則を守るために我云ふ所の如くせずんば我も此家をシロの如くなし此都府を地球上諸國人の呪咀する所となさん

第九十九問 エレミヤは人民幾何年バビロンの王に屬すべく云ひしや

答　七十年なり

第百問　エホアキム執政第三年に於て如何なることの起りしや

答　バビロンの王ネブカデネザル來りてエルサレムを攻め之を取れり

第百一問　ネブカデネザルはエホヤキムを如何なせしや

答　彼は彼をバビロンへ虜送するため鎖を以て其体を繫げり然れども彼の王位は之を舊に復したり然るに二三年の後に反けり是を以て締約は愈苛酷なる事を強られユダヤ人は忍んで最も善美なる清き器をバビロンに於ける勝利者の神の宮を飾る爲エルサレムの神殿より取去を見の恥辱を受たり玆に七十年間ユダヤ人奴隷となりしとは紀元前六百〇六年に始る

第百二問　エホヤキムは如何なりしや

答　彼はエレミヤの預言せし如く殺され葬禮の哀歌をさへ唱ふものなかりし程人に憎れたり（エレミヤ廿二章十八節十九節三十章一節三十節を見よ）

第百三問　誰ガ彼を嗣ぎしや

答　紀元前五百九十九年にユダヤの第十九世王エコニヤ彼を嗣げり彼ガ支配を執りしときハ年甫て十八歳にして三ケ月と十日支配せり

第百四問　彼の性質ハ如何

答　彼は主なる神の御前に於て悪しきことをなしたり

第百五問　ユダヤの上にネブカデネザルの怒を述よ

答　彼は來りてエルサレムを攻取り而してエホバの家の諸の寶物及王家の寶物を其處より携へ去りイスラエルの王ソロモンガエホバの宮に造りたる諸の金器を截剥せしなとエホバの云ひ給ひし如し又エルサレムの全民及牧伯大能力者の全てと工匠と鍛冶とを一萬人擄へ行けり遺きるものハ國民の賤しきものゝみなりき彼即エコニヤをバビロンに擄へ行き亦王の母王の妻等及侍從と國中の能力あるものをもエルサレムよりバビロンに擄へ移せり(列王紀畧下二十四章十三節十五節)

第百六問　是エホヤキムの治世の中にユダヤ人の初て擄となりしより後の擄となりし迄幾年の星霜を經しや

答　七年

第百七問　ネブカデネザルはエコニヤの代りに誰を王となせしや

答　ヨシアの若子マタニヤを王となし彼の名をゼデキヤと改めり彼はユダヤ第二十世の王にして紀元前五百九十八年に政を執る時に其齢二十一歳にして彼は十一年間支配せり彼はエホバの前に惡を行ひ且エホバの預言者なるエレミヤの前に其身を遜らざるのみならずネブカデネザル王にも叛けり

第二十五章

第百八問　ネブカデネザルは如何に此謀反を罰せしや

答　彼はゼデキヤ第九年に軍を率てエルサレムに來り其第十一年迄圍を解かざりし第四月の九日に市中に飢饉ありて人民の食に供ゆる「パン」なかりし王は其家族及軍勢と共に逃れたれどもカルデヤ人其跡を追ひエリコの原にて王を捕へリブラなるバ

ビロンの王の許に連れ來たり而して彼等は其目前にて王の子を殺し且ゼデキヤの眼を抉り眞鍮の鎖を以てバビロンに縛り送たり

第百九問　誰がゼデキヤに警戒せしや

答　預言者エレミヤ絶へず彼を警戒し且つ都邑と皇族の滅亡を預言せり

第百十問　預言の事に就てゼデキヤはエレミヤを如何にせしや

答　獄に投ぜり

第百十一問　バビロンの王はゼデキヤが捕はれし後エレミヤに就て如何なる掛合をネブザラダンになせしや

答　能く彼を扱ひ且害を加へずして彼が汝に言ふ如く之を爲せと

第百十二問　ネブカデネザルは王の族を罰せし外にユダヤ人に何の罰を被せしや

答　彼は神殿王室及エルサレムの總ての家を燒けり而して衞兵の大將と共なりしカルデヤ人の軍勢はエルサレムの壁を壞し銅

の海と其下にありし銅の牛と神殿の金銀銅器及八百三十二人をバビロンに送れり

第百十三問　エルサレムの此滅亡は何年に起りしや

答　エホヤキムの初の擄より十八年後即紀元前凡五百八十八年なり

第百十四問　神の民の擄を許すことに就てエホバの述たまひし因由を問ふ

答　聖なる安息日を守り得ん爲なり（レビ記廿六章三十四三十五節エレミヤ記廿五章十一節）

第百十五問　如何なる名高き預言者バビロンの擄中に預言せしや

答　エゼキエルなり

第百十六問　エルサレム滅亡の後ネブカデネザルは誰をユダヤの奉行に命ぜしや

答　ミズパに住めるゲダリヤなり

第百十七問　ゲダリヤは大將及人民に何事を命ぜしや

答　アッシリヤ政府に從ひ其生計には夏の菓物を拾ふことなり

第百十八問　何事のゲダリヤに起りしや

答　彼はイシマエルに殺されイシマエルは逃れてアンモン人の中に行けり

第百十九問　ヨハナンは誰ぞや

答　彼は民の長の一人にしてイシマエル逃走の後一群の從者と共にベツレヘムの近傍なるキムハムの殖民地に行き預言者エレミヤに我等は何を爲すべきかをエホバに問んことを請へり彼は左の答を得たり若し彼等其國に居らばエホバはカルデヤ人より彼等を防禦すべし然れども若しエジプトに行かば刄を以て凶さんと

第百二十問　ヨハナンと他の人々は如何に此宣託を引請しや

答　彼等は之を信ぜずして云けるはバルクは彼等をアッシリヤ人の掌中に落さんが爲め此勸を爲したりと遂にエジプトに行きエホバの言に反してタパ子スに殖民せり

第百二十一問　エレミヤは如何なりしや

答　彼はヨハナンと共にエジプトに行けり彼は其地に死せりと想

像せらる

第百廿二問　彼ハエヂプトにてユダヤ人が偶像敎を用ゐるハ如何なる譯と云ひしや

答　バビロンの王來りてエヂプトの王を亡すべきこと及其土におるユダヤ人ハ逃きてユダヤに歸るものゝ他ハ皆飢饉と刃とを以て死すべきためなりと

第百廿三問　ユダヤ人ハ此戒を信ぜしや

答　否彼等ハ惡を以て死すべき覺悟なりと云へり

○十六預言者の隆昌たる時代の知得へき程を錄さんに左の如し

イスラエルの王ヨシアの子エロボアムの時代にヨナあり

イスラエルの王ヨアシの子エロボアム並にユダヤの王ウジヤ

ヨタンアハズ及びヒゼキヤの時代にホセアあり

總計殆ど八十年なり

ヨエルハウジヤの時代に於てホセアと代を同ふせり

ヨエルのかたりたる饑饉の後ウジヤの時代にイスラエルにさ

からい預言したるアモスあり
ユダの王ウジアヨタンアハズ及びヒゼキヤの時代に於てイザヤあり總計六十四年なり
ヨタンアハズ及びヒゼキヤの時代に於てミカあり
ヒゼキヤとマナセの時代に於てナホムあり
マナセとヨシアの時代に於てハバコックあり
ユダの王ヨシアの時代に於てゼハニヤあり
ヨシアの十三年にたてりしはエレミヤなり
總計四十三年とす
エレミヤの雅歌は其民の困難を示したり
ヨシアの死より始り日に增てバビロンの困難に終れり
ダニエルの盛時はエホヤキンの第三年よりペルシヤ人なるクロスの三年に至るまで總計七十年とすエゼケルはエホヤキンの虜となりし第三年より其二十五年に至る總計十九年あり
オバデヤは多分エレミヤの世に在りき

ハガイはダリヨスの第二年に在て總計三ヶ月あり

ザカリヤはダリヨスの第二年に在りて總計二ヶ年とす

子ヘミヤの世にマラカイ有り

○エレミヤ
○ダニエル
○エゼキエル
○オバデヤ
（バビロンへ虜るゝ時代に近く或は虜時に在り）

○ハガイ
○ザカリヤ
○マラカイ
（虜の後に在り）

○其外の預言者は虜の以前とす

サマリヤの沒落よりバビロンの擄迄の重大事件表

ユダヤ	アッスリヤ	バビロン	同代の史
紀元前七百廿一年 ヒゼキヤ第六年 七百十三年 ヒゼキヤ病む セナケリッブ第一回の襲 ユダヤアッスリヤの屬國となる 七百年 セナゲリッブ第二回の襲及彼の軍敗る 六百九十九年 マンナセ王たり 偶像教の回復 六百八十年 バビロンに擄囚マシナセを運ぶ	七百四年 セナケリッブ王たり セナケリッブメロダクバラダンと戰ふ 六百八十年 エサルハダン王たり 六百七十八年 エサルハダン尚多くのアッスリヤ殖民者をイスラエルに送る	メロダクバラダン王となる	七百十三年 ヌモポンピリアスの代 七百九年 メデヤディコスの代 六百九十年 エジプトに於てゼルハカス王たり

六百四十二年
アンモン王たりナハム預言者たり

六百三十九年
ヨシア王たり

六百廿九年
エレミヤ及ゼヘニヤ預言者たり

六百八年
ヨシアエジプトのパロ子コ王と戰ひ敗る
エホアハズ王たり(三ケ月)
エホアキム王たり

六百六年
ユダヤ子ブカデ子ザルの屬國となさる

六百五年
エレミヤ七十年の擄囚を預言す
第一回の擄

六百三十九年
サラカスアッスリヤの末王たり

六百廿五年
ニ子ベ陷ち

六百十六年
アッスリヤ帝國終る

六百卅九年
ナボポラスサルアッスリヤに叛てメデヤの王に同盟を求む

六百廿五年
ニ子ベ擄にせられバビロン獨立す

六百七年
ナボポラスサル其子子ブカデ子ザルを遣しパロ子コと會戰せしむ而してエジプトの軍勢を敗りユダヤを屬國となし其王と數多の人民をバビロンへ虜送す

六百四年
ナボポラスサル死し子ブカデラザル王となる

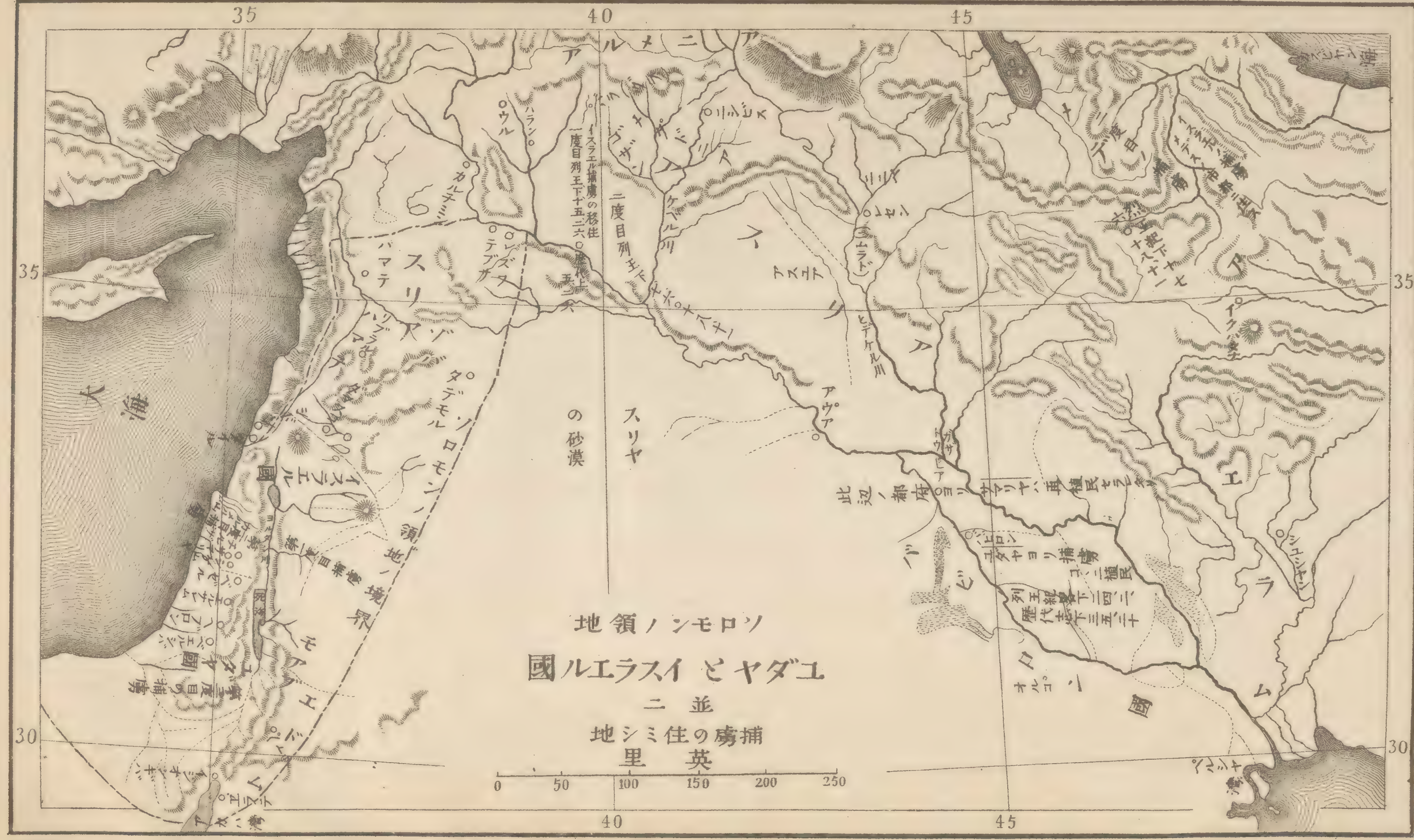
六百七十四年
エジプトに於てプサンメチクス王たり

六百三十三年
メデヤサイアキサレスの代

六百十六年
パロ子コエジプトに獨立す

六百十年
テールス日蝕を發見す

六百年
サミスエジプトの王たり


ソロモンノ領地
ユダヤとイスラエル國
並ニ
捕虜の住ミシ地
英里
0 50 100 150 200 250
大海
スリヤ
スリヤの砂漠
アルメニヤ
ハラン
ウル
カルケミシ
テブザ
ハマテ
タデモル
ソロモンノ領地ノ境界
イスラエル國
イスラエル捕虜の移住 一度目 列王下十五、二十六
二度目 列王下十七ノ六、十八ノ十一
ケブル川
ヒデケル川
アッスリヤ
アハワ
此辺ノ都府ヨリサマリヤハ再植民セラル
列王紀略下十七ノ二十四
ユダヤヨリ捕虜コヽニ植民
列王紀略下二四ノ二
歴代志下三五ノ二十
バビロン
バビロニ國
エラム
ペルシャ灣
カスピヤン海
35
40
45
30

但以理紀

紀元前六百七年より五百三十四年に至る
開闢三千三百九十八年より三千四百七十一年に至る

第一問　斯紀の重大なる事柄と其順序を述よ

答　第二章を除き初の第六章ハ歴史にしてダニエルの時にバビロンに興りたる著しき事情を記載せり即ちドラの地に偶像建築の事爐中に投ぜられたる三人のユダヤ人の事ネブカデネザル位を剝れ野獸の中に放たるゝと其回復とペルシヤザルの不信バビロンの滅亡ダニエルの獅穴に投ぜられし事にして後の六章ハ預言書なり是ハダニエルの時に起りミルレニオムの時に至る

第二問　簡短かにダニエルの物語をなすべし

答　彼ハユダの皇族の人にして二十歳の時バビロンの朝に召捕れたり恰もユダの王エホヤキム在位の三年ネブカデネザル登祚の一年とすダニエルハ虜の間バビロンに居れり

第三問　ダニエルのイスラエルに歸國せしとの記載さるゝや

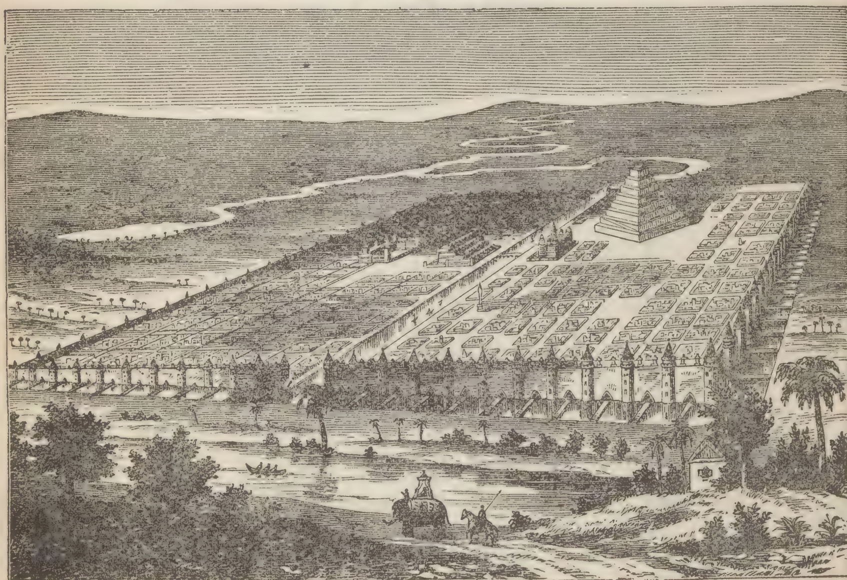
答 否彼ハ多分九十歳ニ至りてタイグリスのスサニ死せしならん

第四問 何時ダニエルハ預言の務に就しや

答 二十年以上にしてエレミヤグ預言の務を終りし前又エセケルの前十三年ニ就職し此二人の後尚ほ數年間其務をなせり

第五問 ダニエルの預言ハ幾部に區分れしや

答 五つに別る第一世界國民の歷史第二法王の政治第三モハメット教第四不信者の政



多分古のバブロン都ならん

治第五聖徒の政治是なり

第一章

第六問 ネブカデネザルのエルサレム攻撃の事及び其成功の物語を為べし

答 ネブカデネザル在位の首年にエルサレムを圍攻めたりエホバエホヤキムの手に神の家の器具を與へしが彼これを携へてシナルの地に至り神の庫におさめたり

第七問 寺人の長なるアシペナスに授けたる王の命令は何ぞや

答 イスラエルの中より王の子孫と貴族の中より容貌美しく智識を兼備へて王の宮に待るに足る者を召し之にカルデヤ人の文學と言語を教ふべき命令なり

第八問 バビロンへ來りし人々を記載べし

答 ダニエルハナニヤミシヤエルアザリヤなり

第九問 此人々の名の義は何ぞや

答 ダニエル(神は我裁判人なり)ハナニヤ(エホバの恵)ミシヤエル(彼は

強き神なり）アザリヤ（エホバハ救なり）

第十問 此等の人びバビロンに在し時先祖等の神を忘却しめんとて與へられたる名ハ如何

答 偶像を拜するカルデヤ人の悅べる名なりき即ちダニエルをベルテンヤザル（隱寶の守者）ハナニヤをシヤデラク（カルデヤ人の拜する大陽の默示）ミシヤエルをメシヤク（女神シヤクと云ふ義にて此名を以てウエナスを拜せり）アザリヤをアベテ子コと名けり（輝きたる燈の僕是ハカルデヤ人の拜する神の名なりき）

第十一問 ダニエルと其同儕ハ王より與へられたる盛饌をうけしや

答 否ダニエルメルザル官に疏食と水を願へり十日の間之を得て食せしが王の賜饌を食せし少者より面美しく豐に成りメルザル官ハ王の頒ふ饌と酒とを撤りて尙疏食をダニエル等四人へ與たり

第十二問 何にしてダニエルと其同儕ハ文學智慧を博士法術士に較しや

答 王ハ諸事によりてダニエルと其同儕の智慧の學ハ國中の博士法術士に愈てと十倍なるを知れり

第二章

第十三問 ダニエルの智慧を王に識されたる一例を述よ

答 子ブカデ子ザルが憂たる夢の説明なりされど王は夢の事柄を失念たり

第十四問 占夢の應對に付て王の命令如何

答 王博士法術士魔術士を招きて夢の解明を乞しが彼等答ていひけるは我等に夢を告給はゞ之を解き示さんと王其夢兆を忘る答ていひけるは汝等若し其夢と夢の解明を示さゞれば爾等の身は槩爛れ汝等の家は厠となるべしされど汝若し我に我夢と其解明を示さば禮物と大なる尊榮を我より獲んとカルデヤ人答けるは世の中には王に其事を示し得る者一人だにあらじとて王の諭となろの不當なるを表せり是に於て子ブカデ子ザル大に怒りバビロンの智者を悉殺せと命ぜり

第十五問 斯命令は誰に阻まれしや

答 ダニエル之を聞いひけるは王何故亟に是の如き命令を出すやと

て王の許に至り此夢を解示さんにより暫の時日を賜らんことを願り彼其事を其伴侶に告彼等智者と偕に殺れざらん爲秘密の意をさとり得るよう憐を天の神に乞ければ神夜異象の中に是秘密を示れけり故にダニエル神を讃美して曰永遠より永遠に至まで神の名ハ讃べき哉智慧と權能ハ神の所有なればなり神ハ時と期を變じ王を廢し王を立て智慧を智者に與へ知識を賢者に賜ふ彼は深奥秘密の事を示し幽暗にある所の者を識り給ふ又光明彼の裏にあり我先祖等の神よ我爾を祝謝頌美す即ち汝ハ我に賜ふに智慧權能を以てし今我等が汝に求むる所の事を以て我に示し即ち王の彼事を我等に示せりと云かしてダニエル王の許に往り

第十六　問　ダニエル王に何と云しや

答　彼王に奏しけるハ智者等ハ斯秘密を示すこと能ざりきされど天に獨一の神ありて秘密を現したまふ彼後の日に起らん事を我に示したまひしハ凡の生者より智慧の過ることを示すためにあらず王の其心に想ひたまひし事を知らしめんためなり

第十七問　夢の事實と其夢の解明は何ぞや

答　王よ汝は一の巨なる像の汝の前に立るを見たまへり其像は大にして光常ならず形狀甚だ懼しくありし頭は純金胸と兩腕は銀腹と腿とは銅脛は鐵足の半は鐵にて半は泥なり汝見たまふ時一箇の石人手によらずして鑿れて出此像の脚を撃碎きて鐵と泥と銅金銀皆毀壞て禾塲の糠の如くになり風之を吹て止まざりし而るに像を撃たる石は大山となりて全地に充り是其夢なり我等其解明を陳んと王よ汝は諸王の王即ち天の神汝に國と權威と能力と尊貴とを賜へり汝は此金の頭なり汝の後に汝に劣る一の國起らん又第三に銅の國興起りて全世界を治めん第四の國は堅き事鐵の如くならん鐵は能萬の物を毀ち碎なり汝其足と其足の趾とを見たまひしに一分は陶人の泥一分は鐵なりければ其國分きて一分は強く一分は弱くならん此王等の日に天の神一國を立たまはん此は亡る事なく諸國を從へ限なく立ん汝手によらで鑿き出で鐵銅銀泥金を打碎を見る是即ち大なる神後に起らん所の事を王

に報知たまへるなり

第十八問　此默示は如何なる感を王に起さしめしや

答　王は俯伏してダニエルを拜し禮物と香をさゝげしめたり由て彼等の神は神等の神王等の王にして能秘密を示す者たることを識しれり王遂にダニエルに高位を授け大なる賜物を與へてバビロンの全州の總督智者の長となせり

第十九問　ダニエルは其伴侶のために如何なる願をなせしや

答　彼シャドラクメシャクアベデネゴを擧てバビロン州の事務を轄どらしめん事を王に願ひければ王之を許可せり

第三章

第二十問　ドラの野に金像を建てし事を説け

答　王一の金像をドラの平野に立て方伯州牧將軍刑官庫官士師法官及び諸有司を集めて其告成禮に臨ましめ傳令者令を發し喇叭、簫、琵琶、琴瑟、箏、簫、等の諸樂器を聞時は俯伏して像を拜すべし崇拜せざる者は火の燃る爐の中に投込まるべし

第廿一問　何故にシャデラクメシャクアベデネゴは王の怒を起せしや

答　或人カルデヤ人シャデラクメシャク及びアベデネゴの王を敬はず又其神に拜せざるを王に告しに由る

第廿二問　王は此等の人に向ひ如何なる方法を設しや

答　王は此等の人を其前に引出



かしこき三人偶像を拜せざる圖

さしめ信實に彼等が神に事へず金の像を拜せざりしかを尋たり王は彼等に尚機會を與へて音樂を聞て之を拜せしめんとせり然るに彼等が之を拒みて火の燃る爐の中に投込まれんことを思ひいださしめて言けるは何の神か能汝等を我手より救ひ出すを得ん

第廿三問　彼等の返答は何ぞや

答　ネブカデネザルよ斯事に於ては我汝に對ふるに及ばず王よ我等の事る神能我等を救ふて火の燃る爐中と爾の手より脱さん假令然ざるも王よ我等は汝の神々に事へず又汝の立たる金像を拜せじ

第廿四問　王の處置は如何

答　彼怒に充命じけるは其爐を熱くする常より七倍せよと彼軍中の力強き人々に命じてシヤデラクメシヤクアベデネゴを縛りて火の燃る爐の中に投入しむ王の命甚だ嚴しく爐も甚熱りしにより三人を抱行きし強き人々を燬死せり

第廿五問　王が爐中を見し時何事を語りしや

答　王驚き遽て起立り其大臣等にいひけるハ我等ハ三人を縛りて火の中に投入れざりしやと答へて曰ふ王よ然りと王又いひけるハ我今四人の火の中に索解て遊び居るを見たり凡て何の傷をも受ず其第四の者の容貌ハ神の子の如しと彼爐の口に就き呼て彼等に出で來をと云へり諸人皆集りて之を觀るに火其身に害することなかりき是に於て子ブカデ子ザル再び神を信ぜり彼をいひけるハシヤデラクメシヤク及びアベデ子ゴの神ハ讚べき哉神其使ひを遣りて己を賴む僕を救ひ給へり彼等ハ自己を捨て王命を用ひず己の神の外に他の神にハ服事ざりきと是に於て王詔を下し彼等の神を褻瀆所の言を出すことなからしむかくて王は彼等の位を進めバビロン州に居らしめたり

第四章

第廿六問　子ブカデ子ザルの布告を述よ

答　子ブカデ子ザル全世界に居る諸民諸族諸音に諭す願くハ大なる

平安汝等にあれ至高の神我に向ひて休徵と奇跡を行へり我之を示すを善と思ふ嗚呼大なるかな其休徵盛なる哉其奇跡其國は永遠の國其權は世々限なし我ネブカデネザル我室に安然に樂み居たるに我夢を見て畏懼たり其夢に我地の當中に一樹あり其丈高くして堅固天に達し地の極まで見へ渡れり其葉美しく其實は繁く一切の者食を其中より得野の獸其蔭に臥し空の鳥其枝に棲を得視よや一の警寤者と一の聖者天より降り命じけるは此樹を伐り其枝を斫り其實を散らし其葉を搖落すべし唯其根の斬株を地に遺し天の露に濕さしめ其分を獸と共に地の草の中におらしめよ又人の心を變へて獸の心とならし七の時を經ん

第廿七問　斯夢の解明は何ぞや

答　博士法術士等王の前に召れたれど之を解こと能わざりき是に於てダニエルを召す彼夢を聞て暫く其心に驚懼れたり王いひけるはベルテシヤザルよ汝此夢と其解明の爲に懼るに及ばずと彼答へけるは我主よ願くは此夢汝を惡む者に歸せよ願は此解明汝の

敵に臨まんなとをとさて斯樹はネブカデネザルの尊大と邦國と其權力を指し示したる事を告たりさきど彼は至高神の管轄を悟る迄は人間の中より退ぞけられ牛に等しく草を食ひ天の露に濕されたり

第廿八問　王へダニエルの諫言は何ぞや

答　王よ我諫を容き義を行ひて罪を離れ貧者を憐みて惡を離れよ然らば汝の平安或は久しかるならん

第廿九問　延期應驗及び回復の物語をなすべし

答　神悔改の爲十二ケ月の猶豫を與へ給ひしが此間彼はバビロンにありし宮に樂しめり王バビロンの宮に在り言けるはバビロンは我大なる力によりて建ち我威光を耀す京城ならずやと言未だ終らざるに天より聲あり罰しいひけるは王よ國を失ひ世の人は汝に離れ至上者は人の國を治めて己の意に循ひて之を人に與へたまふを知らん斯時に於て前の言應へり即ち彼人に逐はれ牛の如く草を食ひ其髮は鷹の羽の如く其爪は鳥の爪の如く伸るまで身は

天より下る露に濕れたり

其期畢りし時彼目を擧天を望みしに其額悟性我に歸れり彼至高者を感謝頌美尊崇せり斯至高者ハ世々ふ在し其意のまゝに天の衆軍ふも地の居民ふも行ふ故に彼の榮光尊大の光耀再び歸り大臣牧伯等謁を執り彼國祚を踐んで威光前よりも增し加はきり子ブカデ子ザルの此等の事情ハ彼の頌美中に見へたり彼讚美していひけるハ我子ブカデ子ザル今は天の王を讚美且尊崇彼の作爲ハ凡て眞實彼の途ハ公義自から高ぶる者ハ彼能く之を卑くしたまふ

第三十問　子ブカデ子ザルの管轄の年ハ如何

答　在位四十五年ふり其三十六年ふ此異夢を夢む一年の後放逐せらる彼の狂氣せる事七年ふして快復の後一ヶ年存在へり即ち城邑の陷落以前三十三年に於て死せり

第五章

第三十一問　子ブカデ子ザルを嗣し者ハ誰ぞや

答　ベルシヤザルなり

第三十二問　ベルシヤザルの不信なる節筵及び之に係る事を記すべし

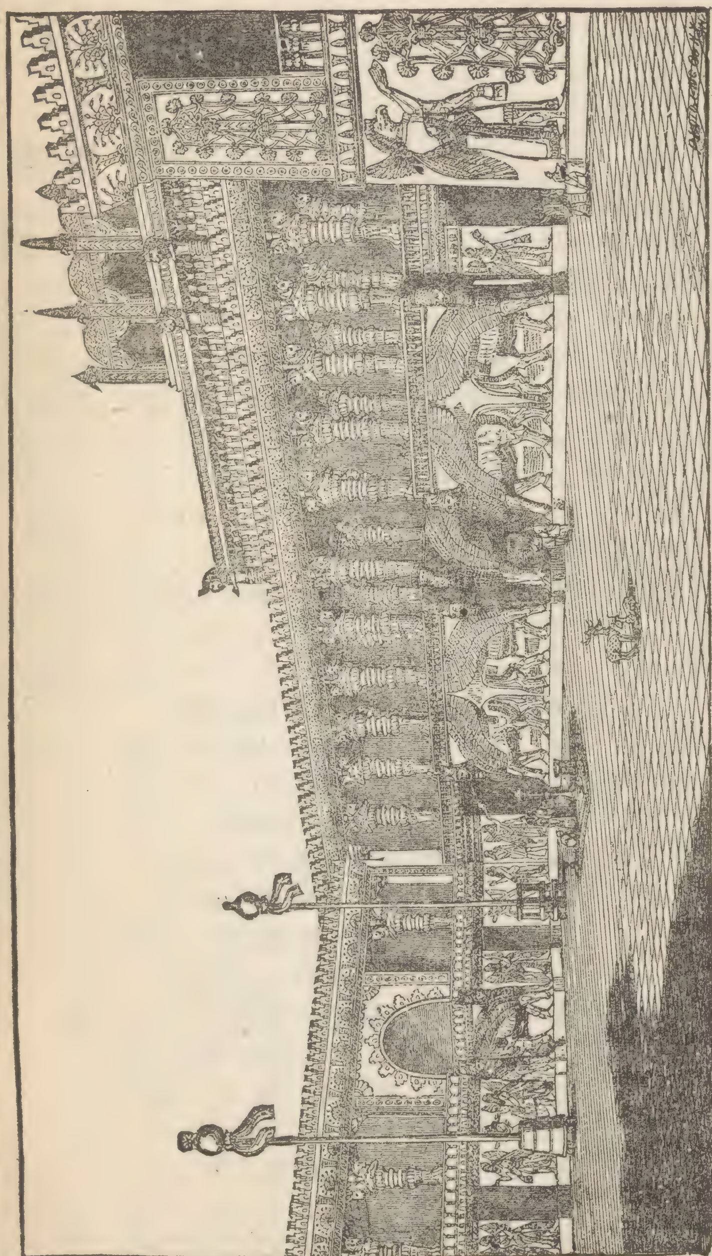
答　王盛筵を設け一千の大臣を招き酒酣なるに及んで王命じてヱルサレムよりネブカデネザルが掠たりし金銀の器を携へ出でしめ之を以て飲み邪神を讃美せし時人の手の指現き燭臺と相對する宮の粉壁に物書り王之を見て色を變じ心念煩擾腿ゆるみ膝相撃てり王大聲にト筮師カルデヤ人及び法術師等を召し約しいひけるは此文字を讀み其解明を示す者には紫を衣せ項に金索を掛させて國の第三の牧伯となさんとされど之を能く讀者あらざりし王の大后ダニヱルを薦めネブカデネザルの時にきこへたる其名譽を告ければ王彼を招けり

第三十三問　如何に王はダニヱルに告しや

答　爾は我父王がユダヤより携出せしダニヱルなるや爾は神の靈に感じ聰明了知非凡の智慧ありと我聞及びたりとかくて王はカルデヤ人に約せし如く亦彼に約せり

第三十四問　ダニエルの返答ハ何ぞや

答　爾の賜ハ爾取り爾の饋物ハ他人に與へよされど我ハ此文字を



昔しの王の宮中の圖

讀み且つ其解明を王に示さんと父王ネブカデネザルの驕傲と卑下の物語をなし王の罪を責ていひけるはベルシヤザルよ爾は此事盡く知れどもみづから卑ることをなさず却て高ぶりて天の主に向ふ其家の器皿を爾の前に携へ出し汝と汝の大臣と爾の妻妾等其器より葡萄酒を飲て見ることも聞こともも知ることもあらぬ神を讃美し爾の生命を握り一切の道を主どる神を崇めざるなり

第三十五問　何にダニエルは其字を讀且解しや

答　メネメネテケルウパルシンなりメネは(神爾の治世を算へ畢る)テケルは(權にて衡れて不足することあり)ペレスは(爾の國分れてメテア人とペルシア人に付さるゝの謂なり

第三十六問　此夜何事起りしや

答　ベルシヤザル殺されメデア人の王ダリヨス其國を奪へり

第六章

第三十七問　ダリヨスの世に於て始に錄されたる事は何ぞや

答　ダリヨスハ牧伯一百二十人を立て國を治めしむ又其上に監督三人を立つダニエルハ其一人たりダニエルハ才智と政務に巧みなるによりダリヨスハ彼を全國の主に立んとせり

第三十八問　ダニエルの殊歷たることハ他の監督州牧等へ何なる思を奐起させしや

答　彼等斯事に由りねたみをおこしダニエルを訟んと隙を伺へど彼ハ忠義の人なれバ何の咎もなかりき是に於て監督と州牧等咸く集り相議し王の詔書を得て令を布きたり即ち今より三十日の間王の外人或ハ神に願事をなす者ハ凡て獅の穴に投入るべし

第三十九問　ダニエルハ此嚴令に從ひしや

答　否ダニエルハ其家に入り常例の如く二階の窻のエルサレムに向ふ處にて一日に三度祈をなせり

第四十問　ダニエルの鬪殺より如何なる事を來せしや

答　彼の仇來て王の前に彼をのゝしり曰けるハユダヤ人の子孫の

中にダニエルと云ふ者あり彼は汝の大命にしたがわずして一日に三次所をなすと是に於て王甚しく愁ひダニエルを救わん



ダニエル獅子の穴に投入られる圖

と心力を用ひて日の入るまでに至れりされど人々又集りて王にいひけるハ王よメデア人とペルシャ人の律法に由れバ王の立たる詔制ハ改むべからずとてダニエルハ獅子の穴に投入られたり王ハ鬱々として食せず終夜眠る能わざりき王翌曉疾く起て獅の穴に至り哀み呼りけるハ活神の僕ダニエルよ爾の神ハ獅の害より爾を救ひ脱せしや

第四十一問　ダニエルの對ハ如何

答　ダニエル王にいひけるハ王よ長壽かれ我神其使を遣して獅の口を閉させ我を傷つけざらしむ其ハ我の罪なき彼に明かなれバなり王よ我ハ汝に惡をなさゞりしと王ハ雀躍命じてダニエルを穴より出さしめしに毫も其身に傷つかざりしハ彼神を頼めバなり

第四十二問　ダニエルを訴へし者は如何に罰せられしや

答　王命を發してダニエルを讒せし人々と其妻子を併せて獅の穴に投入れたりしが其未だ穴の底に至らざる前に彼等の骨肉は

咬碎かれたり

第四十三問　次の王命は何ぞや

答　神の威を顯さんためなり王ダリヨス全世界の諸民諸族諸音に詔す云く願くは平康汝に在れ今我詔命を出す我國人皆ダニエルの神を敬ふべし彼は活神にして永遠に立つ者其國は滅びず其權は終極に至る彼は救を施し天と地に休徵と奇跡を行ふ者にてダニエルを獅の力より脫救したり

第四十四問　尙バビロンにてダニエルの餘話あるや

答　ダニエルはダリヨスの世とペルシヤ人クロスの代に其身位昌へ熾たり

舊約史畧但以理紀　終

以士喇書

紀元前五百三十六年より四百五十六年に至る
開闢三千四百六十九年より三千五百四十九年に至る

第一問　エズラなる言の意味は何ぞや
答　救助人なり斯エズラはユダヤ人の救助人となれり

第二問　斯紀の區分と概畧を述べし
答　斯紀分きて貳部となる其一は本紀一章より六章に至る即ち紀元前五百三十六年クロスの即位元年より紀元前五百十五年ダリヨスヒスタスペスの第六年に放逐を受しイスラエル人の歸りしこと及び宮殿の再築を記るす第二はアルダザキスの第七年なエズラがパレスタインへ徙し歷史にて七章より十章に至る即ちアルタゼキスロンギマナスの世の七年及び八年に於て殆ど十二或は十三ケ月間のエズラの事蹟なり

第三問　斯歷史は幾年間のことなるや
答　ペルシヤ六王にして殆ど七十九年或八十年なり

クロス　七年〇〇〇
カムバイセス　七年五ケ月
コマテス或偽スメルヂス　七ケ月
デリヨスヒスタスペス　三十六年〇〇〇
ゼルキス　二十一年〇〇〇
アルタゼルキス(此王の第八年にエズラの記録おわる)八年

第四問　バビロンにありしユダヤ人の景況は如何ん

答　彼等萬事に困難せしも其中にエゼキエルダニエルなどの預言者ありて或は官吏に擧られ或は所有の地ありて樂しく世を送り時あらば自己の國にかへらん事の望をいだけり此故に民各系圖を保ち偶像の道に迷ふことなく其敎旨を守まりネブカデネザルの一年にユダヤの民を俘にし四十五年其子エビルメロダクは二十三年孫のペルシヤザルは三年君臨せり是俘虜の末王にしてイザヤが百五十年前に預言せし如くクロスユダヤ人の救主となりていでたり(イザヤ書四十四章二十八節〇四十五章一より七節)又エー

レミヤの預言に應へり此預言者はユダヤ人の歸ることを約せしのみならず期限を定めて俘囚は七十年なりと云へり(エレミヤ書二十五章十二節二十九章十節)是時シオンの榮譽は將に輝んとす

第一章

第五問　バビロンに於てクロス王第一年の布告は如何

答　パルシの王クロス云ふ天の神なるエホバ地の上の諸國を我に賜ひ我に命じてユダヤのエルサレムエホバの家を建しむ爾の中凡て其民たる者は誰ぞやユダヤのエルサレムにのぼり其處にイスラエルの神エホバ家を建べし

第六問　クロスはユダヤ人に係わる如何なる命令を其民になせしや

答　金銀財貨牲畜其他禮物を輸して神の室に供ふべし

第七問　エルサレムに上りし者は誰ぞや又何を携へしや

答　ユダ及びベニヤミンの諸の長老祭司レビ人と凡ろ神の靈に感ずる者と偕に上りてエホバの家を建んと欲せり其四周の人は更に銀器黄金財貨牲畜珍寶を以て之を助け又禮物を輸せり玆にクロ

擄の初よりユダヤに歸る迄の重大事件年表

ユダヤ

紀元前六百〇六年
子ブカデ子ザルの屬國となる
五百九十八年
エコニヤ王たり(三ケ月)
エルサレムバビロンの王に圍まる
エコニヤ流さる
ゼデキヤバビロン人の下に支配す
五百九十三年
ゼデキヤ子ブカデ子ザルに叛く彼再エルサレムを圍
エレミヤバビロンに向て預言す
エレミヤ邑の滅亡を預言して再び獄に投らる
五百八十六年
エルサレムの終の擄
ゼデキヤ擄をバビロンに率ゆ
エレミヤ釋さる
神殿燒け邑殆んど荒さる
人民へ多くバビロンに取らる
ユダヤ國終る
ゲダリヤユダヤの冢宰となされ
イシマエルに殺さる
イシマエル亦殺さる

バビロン

六百〇三年
ダニエル子ブカデ子ザルの忘れたる夢を說く
ダニエル支配者となる
五百九十四年
エゼキエル預言者としてケバル川に現るエゼキエル堂の幻象を見る
五百八十年
子ブカデ子ザル偶像を造る
ユダヤ人の三人燃る竈の中に投ぜらる
五百七十年
子ブカデ子ザル他の夢を見ダニエル又之を說く

同代の史

五百九十四年
ソロンアゼンスに支配たり
五百九十三年
サンメテコスエジプトに王たり
五百八十五年
キリシヤの七賢人榮ゆ
五百七十年
ピサゴラス誕生す

	ヨハナンエレミヤも共にユダヤ人の殘るものをエジプトに運ぶユダヤ人の歴史五十年間廢絶す
五百三十六年	ゼルバベルに率られユダヤ人歸る エレミヤの預言の通七十年の擄の終
五百六十九年	ネブカデネザル狂癲す
五百六十一年	イブルメロダクネブカデネザルを嗣くエコニヤ禁獄を解のる
五百五十九年	イブルメロダク殺さるネレグンスソル王位を嗣く
五百五十六年	ザボロメアルキヨデ
五百五十五年	ナボナデフスバビロンの末王たり
五百三十九年	彼の子ベルシヤザルを王位に陪す バビロン取られベルシヤザル殺さる バビロン終
五百三十八年	ダリユスバビロンを治め ダニエル冢宰となる ダニエル獅子の穴に投ぜらる
五百三十六年	クロスユダヤ人の歸るをユダヤに布告す
五百六十九年	エジプト王アマシスの代
五百六十八年	クロースリデヤの王たり
五百六十年	グリシヤ暴君の起算時
五百三十四年	タルクウインローマに昌ん也

スハネブカデネザルがのエルサレムより遷せし五千四百の金銀の器物を携へしめけれバ彼等之を受納たり

第二章

第八問　重なる長老等の名を錄すべし又エルサレムに歸りし人の全數ハ如何ん

答　ゼルバベルエシユアネヘミヤセラヤレエラヤモルデカイビルシヤンミズパルビグワイレホムバアナ等なり總數四萬二千三百六十人なり外に僕婢七千三百三十七人謳歌の男女二百人此中にありき全數の十分の一即四千二百人を祭司とす

第九問　系譜の明かならざる祭司に何事のなされしや

答　彼等ハ系圖に從ひ核べられし祭司の中に記なけれバ不潔として祭司の中に加へられざりきされど一の家族ハ其先祖バルジライの娘を娶りたれバ其子孫ハバルジライの系に加へられたりたゞアーロンの家譜にハあらずバビロンにてハ祭司の職により何の利する事なし故に彼等ハ好で祭司の系圖に加る事をなさゞりき

第十問　バビロンへ擒れし人を歸りし人に比すれバ其差如何

答　俘囚より歸りし人ハ二倍以上なりき

第三章

第十一問　彼等エルサレムにかへりし時何事を爲せしや

答　彼等壇を築き物を献じ築殿の備をなしたり是ハ人民の寄附に成る物にして各其力に應じ金銀及びレバノンより檜を運べる職人の費用を出せり

第十二問　何時彼等殿の礎を置きしや

答　彼等の歸りし後第二年二月なり

第十三問　民之を見て如何に感動せしや

答　祭司及びレビ人ハ樂器を以てエホバを謳歌ひ讃美且つ感謝せり民も皆エホバの宮の其礎已に落成せしにより大聲にて歡び呼べり唯以前の宮を知る祭司レビ人諸の長老ハ之を見て大聲にて哭けり歡呼と哭聲と辨することあたわざりき蓋ハ大聲にて呼れバなり

第四章

第十四問　ユダヤ人の建築を障碍せらるゝこと如何

答　ユダヤ人の敵はゼルバベルの許に來り其助勢を求むされど其實は宮の作工をさまたげん爲なり彼等云けるは我等をして汝等と偕に築くことを容し給へ我等が汝の神を求めることは猶汝等の如くイザルハトンの日より以來常に祭を神に献じたりとされどゼルバベル及びエシユア及イスラエルの長老彼等に答けるは汝等我等と共に我等の神の爲めに家を建るに勿れ惟我等自らイスラエルの神なるエホバに家を建てペルシヤの王クロスの命にしたがわん

第十五問　此後尚も彼等妨げられしや

答　然り爾後此地の民ユダヤの民の手をして疲れしめ家を建ることを擾しペルシヤ王クロスの日に在りてパルシヤ王ダリヨス在位の時まで議員に賄ひ其大成を妨げたり

第十六問　アルタゼルキスへの敵黨の奏旨は如何ぞや

答　學者レホム書記官シムシヤイ書を王に呈しけるハエルサレムに上りしユダヤ人ハ城を建て反逆をなさんとす其成るに及でハ國内の租税に從順ざるべし昔日此民ハ此城に據り反逆をなしたるにあらずや願くハ列王の青史に視よと是に於て王ハ此城を再建し彼が河を以て鴻溝となさんと確信せり

第十七問　王の返答ハ何ぞや

答　我之を閲せしに果して反逆の城なりと乃ち再び命を下すまで其建築を禁じたり

第十八問　是に於てレホムとシムシヤイハ何をなせしや

答　彼等急ぎエルサレムに上り權勢をもつて之を禁じければ十五年間即ちペルシヤ王ダリヨスの在位まで何をもなさゞりき

第五章

第十九問　預言者の誰が神の家についてユダヤ人に勸めしや

答　ハガイとゼカリヤなりゼルバベルエシユア此預言者により家を建はじめたり

第二十問　彼等尚妨を受けしや

答　然りタトナトゼダルボツナイ及び其全類なるアバルサカイ人ユダヤ人に問ひ云けるハ誰ガ汝に此家を建つべく命じたるや此家を建んとする人々の名ハ何と云ふやとされどユダヤ人の神ハ彼等諸長老を守りけれハ此事ダリヨスにおよぶまでハ罷むることを得ざりき

第廿一問　敵黨ガ王への奏疏ハ如何

答　ユダヤの地にて至大なる神の家の建築速に且盛なるによりタトナイ及ゼダルボツナイハ家を建んとする彼等の理由と建築人の姓名を尋ねしにユダヤ人返答けるハ彼等ヱホバなる神の家を建是即ち至大なる王の昔日建てんとせしものなりと又彼等ハ子ブカデ子ザルガ民をバビロンへ擒なせし歴史クロスガ民へ子ブカデ子ザルガヱルサレムの宮より遷せし器具を携へ歸りて神の家を再び建べしと命じたりし其布達を示したり願くはダリヨスへ右の如きクロスの命令ガ布達されしやを査よと云へり

第六章

第廿二問 其布達何處に發見されしや

答 アクメタメデヤの宮殿に於て發見せり

第廿三問 此時ダリヨスの返答は如何

答 ダリヨスタドナイとゼタルボツナイに云けるは神の家の工作を擾だす勿れユダヤ人に之を建しめよ彼また工作をおぎなわんため王の鈔を出し燔祭の爲に需用の諸の物を與ふべしと命ぜり且斯命を變更せし者は其家の木を取り其人を之に懸しめよと諭せり

第廿四問 宮殿の工作は如何に運びしや

答 此命令の後長老等之を建ければハガイ及ゼカリヤの預言にしたがひ宮の工作大に運びダリヨス王の在位六年即ち二十一年の後に竣工せり

第廿五問 宮殿の特別の節は如何

答 彼等大に喜び燔祭及び罪祭を獻じて七日の間無酵節を守れり

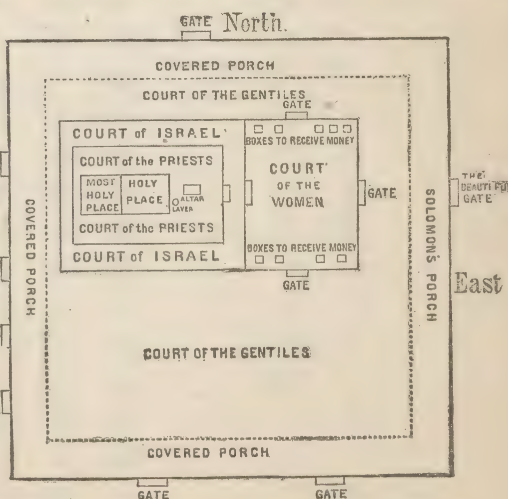
第廿六問　斯宮ハソロモンの殿と異る所あるや

答　多分斯の宮ハ其榮光ソロモンの殿の如く大ならざりき

第七章

第廿七問　エズラがバビロンを立し時王が授けたる委任ハ何ぞや

答　王ハエズラにイスラエルの諸の民の事を司さどらしむ且エルサレムに上らんと欲する人ハ之をゆるし牛牡羊羔の需用のためにバビロンの地にありし諸の金銀を人民及び祭司の寄附と偕に携へ来めしのみならず神の家の供奉に入用の品ハ何物にても王の帑庫より之を與へたり王命じけるハエズラの需る所のものハ爾速に備へよ神の諭す所の物ハ宜しく之を行ふべし奈何ぞ怒をして王の領地の中におらしめんや諸の祭司レビ人及び神の家に



エルサレムの宮の改築の圖

奉事する者に租税を命ずる事なかれ

第廿八問　エズラは如何にして此の恵を受しや

答　彼いひけるは我等列祖の神なるエホバに謝するはエホバ王に斯心を置てエルサレムにあるエホバの家を飾り王と其智者其勇士なる牧伯の前に我に矜恤を施給へればなり

第八章

第廿九問　アハワ川にて何事ありしや

答　エズラ諸の民をあつめければ彼等こゝに幕屋を立て三日留まれり彼民を査閲せしにレビ人なきによりカシビヤのイド(民の長)の許に神の家に奉事する人をつれきたらんために十一人の長老を遣せりユダヤ人の正月一日即ち一月一日に彼四十人を遣しければ彼等バビロンより出立をなせり

第三十問　何故エズラはアハワ河に於て断食を命ぜしや

答　エルサレムにいたる途中神の守を乞わんためなり蓋は彼道に敵を防がんため王に一歩隊と騎兵を王に乞ふことをはづいかなと

なれば彼王につげて我等の神の手は凡そ善をなす者の上に能ありされど其能と怒は凡そ善を棄し者の上にきたらんといひしによりてなり是に於て彼等断食をなし之を神に願ひたれば神之を允せり

第三十一問　彼等ゞのエルサレムに上りし時何事ありしや

答　王の勅諭を王の臣及諸方伯に交與ければ彼等民と神の家を助たり

第九章

第三十二問　多の祭司と民は如何なる罪を犯せしや

答　彼等異邦人を娶りしによる

第三十三問　エズラは之が為に如何に其悲を示し祈しや

答　彼其衣と袍とを裂き其髪と鬚を抜ぎ驚ひて兀坐し晩祭に及べり是時民はエズラの許にあつまりければ彼膝を屈いひけるは我神よ我面を我神の前に向けるを愧づるは我等の罪已に我等の頂を滅そに至り我等の愆已に天に冲れりと其後彼先祖等の罪を云ひあられし神の彼等を奴役の中に新生せしめて導き出しエルサレム

の神の家を建立しめ給ひたる其恵を陳しかして其民が異邦人の女を娶り罪を云ひあらはし云けるはイスラエルの神なるヱホバよ汝は義なり我等爾の前ふ在て愆を負ふが故ふ爾の前に立てと能わず

第十章

第三十四問 此後エズラは何をなせしや

答 彼ユダヤ及びエルサレムの中に布達をなしけるは民三日の中に集會べしと之を拒みし者は黜けられ其所有物は取り上げらるたりエズラはシカニヤの言し如く民に其罪をヱホバへ認わし各異邦人の妻を棄べしと言り會衆いひけるは爾の言し如く我等爲べしとかくて三ヶ月の間專ら此事をなし妻を除し人名は百十三人なりき

(或は云ふ當時此弊は全除たれど尼希米十三章二十三節ふ再び此害を見ると)

舊約史畧以士喇書終

以士帖記

自紀元前四百六十年至仝四百四十年

第一問 此書の順序及要件は何なるや

答 此書はユダヤ人の沒落より不思議に救出せる事にしてエステルの皇后となるモルデカイが廳中の愛寵を得たる傲慢なるハマンがユダヤ人の滅亡を謀り巧みに王印を捺せる彼等の死票を得たる事なり又エステルモルデカイを始としてユダヤ人は哀と怒に充されモルデカイの命を奪はんとのハマンの大計を覆しユダヤ人を殺さんとの企をも破りたりユダヤ人は永久も彼等の救を記念せんが爲にプリムと稱ふる節筵を守る此全話は詩篇を確ならしむ(詩篇三十七章十二十三節)惡者は義人を攻め己の齒を以て我身を噛む神は彼を笑はん如何となれは其日の來るを見るが故なり

歷史上にては凡そ二十年間を充たすもの也

第二問 就中此書の教ゆる所は何なりや

答　神の恵ある此書中に神の聖名を見ざれども其働きハ此内ふ明かなり此蓋其名を出さゞるハ豫め圖りたるものならん　エホバを拜する人を鏖ふせんとの謀計及其不思議なる救ふ就ての話ハ各讀者をしてユダヤ人の神ハ天地の大主宰なる事を説ざるや否やを自ら判斷し得可き樣斯く容易く説たるものなり

第一章

第三問　當時ペルシャの王ハ誰なりしや

答　アハシユエロスと云ふ人にして多分ゼルキスと同じ人ならん

第四問　此王の支配せし領地の廣ハ如何

答　彼ハ印度よりクシに至るまで一百廿七洲を領せり

第五問　此王支配の第三年に方り如何なる王の饗應ありしや

答　其數三ツなり一ハ貴顯の爲ふ一百八十日續けり第二ハ高下となく總ての人の爲ふ七日間宮園の殿に於てし第三ハワシテと呼べるゝ皇后の宮中にて婦人の爲ふ設けしものなり

第六問　ワシテの離縁の原因を述よ

答 饗應の七日に於て王の心酒の醉を以て愉快なりしとき彼は皇后の容姿美麗なるを貴顯及人民に示さんが爲女王ワシテを携へ來るべく七人の近侍を遣せり女王は來ることを嫌へり蓋は婦女にして公衆の前に出るはペルシヤ人の風俗に戻りたる故なる可し王大に怒りて心を燃し如何に彼を罰すべきやを貴臣に圖り遂に他人の之を聞きて此皇后の例に倣ひ其夫を辱しめんことを慮り先ツワシテを離縁して其產を他に與へんと云ふメムカンの勸に從ふなり

第二章

第七問 ワシテの跡に充つ可く如何なる事を行ひしや

答 國中の美少女を悉くシユシヤンの王宮に集め王をして其中より撰ばしむ

第八問 誰が撰ばれしや其事柄を說け

答 ユダヤの處女エス・テルなる者王の心を喜ばしめ衆女に擢でゝ王の目に留まれり王は其冠を此女の頭に戴かしめワシテに代へて

皇后となせり此女の父母は何れも早く世を去りて其從兄モルデカイに其子として育てられたり天姿優美布告の諸少女を集むるやモルデカイも亦彼を王宮に携へ來れり然も親族の誰たるを云はぬ樣彼女に吩咐置きたり

第九問　エステルの婚姻は如何に祝はれしや

答　王は貴顯及臣下の爲に大なる饗應を設け加之諸國に大赦を行ひ物を賜へり其時モルデカイは王の門に坐せり蓋し宮廳の門候と云ふ意なるか

第十問　王に敵せんとする徒黨をモルデカイが發見せし事如何

答　彼は侍臣の二人が王の命を奪はんとするを發見し之をエステルに告げエステルはモルデカイの名に於て之を王に奏せり依て審判を遂げ其二人は縊らる



エステル撰ばれて皇后となるの圖

第三章

第十一問　ハマンは誰なるや彼の怒を起せしは何なるや

答　彼はアガク人にして王の寵愛を得諸皇族の上に列し諸人に尊敬せらるべき事を命ぜられし者なり獨りモルデカイ彼を嫌へりハマンはモルデカイが彼に屈まず彼を敬まはざりしに由り怒れり

註　モルデカイは善良なる心を以て事を行へり彼の手神の靈座を改させるに由り彼は絶ざる戰をなすべしと誓ひ(出埃及記十七章十六節)及其人にアマレキのなせしことを記憶せよ(申命記廿五章十七節)と嚴命を出されたる國人の一なるアマレキ人に斯の如き名譽を與るは正しからずと考へたり

第十二問　ハマンの企は如何なる事なりしや

答　獨モルデカイ而已ならず彼國人を全く亡さんとの企なりハマンは王の前に進み出でユダヤ人及其人の性質に就て讒言せり彼は王をしてユダヤ人民の恐る可きなと及之を足下に留むるは安全ならざることを信ぜしめたり因て王はハマンの望し如くアダル

(即ち十二月)の十三日に於て老若男女を問はず總のユダヤ人を一日に殺し其褒美として彼等より掠取すべく書狀を送れり

第四章

第十三問 此布告の出でたるときユダヤ人は如何なる感動を起せしや

答 モルデカイは彼の衣を裂き白衣を着て市街の中央に出で高聲に叫び慘怛哭泣けりユダヤ人の中には大なる歎きと斷食と泣聲ありて多の人は麻衣を着けたり

第十四問 エステルのモルデカイに送りし數度の使者は何なりしや及每度の返答は如何

答 エステルモルデカイの歎きを聞しときエステルは無限哀みて衣服を贈りて彼の白衣を脱がしめんとなしたれども彼は之を受ざりし其時エステルは王の侍臣にして彼女の事を爲すべく命ぜられたるハタクなる者を呼びモルデカイの許に送て其何故なるを聞しめたりモルデカイはハマンが王に約定せし金の始末を彼に話し亦エステルに示すべく布告の寫を與へ且彼女の人民に代りて

王に分疏せん事をエステルに言遣わせり第二度の使にエステルはモルデカイに法を申傳へたり則ち呼ばれずして王の前に至る者は王之に向て金笏を上ぐることなれば死刑に行はるべきと云ふ之あり且彼女も最早三十日間王に呼ばれざることを云ひ送れりモルデカイ答へて云ひけるは汝獨り身を以て王家に逃るゝ勿れ若汝獨り平安に過ぎ賜はゞユダヤ人の中には救わるべし然れども其時に至ては汝と汝の父の家は亡ぶべし汝此の時爲に王國に來られたるや否を知らんとエステルは第三の使を送り云々るは願くは足下シユシヤンに在る總のユダヤ人を呼び集め三日間の斷食を爲し賜へ我も亦宮女と共に斷食を爲し後法に從わず王の前に進みて到らん我死すべくんば死せん

第五章

第十五問　王と皇后の面話を述よ

答　第三日にエステルは宮服を着て王廳の中院に立ちしに彼は王の目前に其寵を得たれば王は彼に向て金笏を上たり其時エステ

ルは近き進み笏頭に觸れたり而して王云へらくエステルよ汝の請ふ所何なりや我は國の半をも汝に與ふべし其時彼女は王とハマンと彼が設けたる饗應に即日駕を枉んことを乞へり

第十六問　饗筵に於て彼女の願ひし處は何なりしや

答　王とハマンが明日再び我設けんとする饗筵に臨まれんことを且其時我請の何事たるを知らしめんと云へり

第十七問　皇后の饗筵より歸りてハマンは如何せしや

答　彼は意氣揚々喜に溢れて出で來りしがモルデカイ尙は彼を敬はざりし其時家に歸りて朋友妻子を呼び集め其富の大なると其子の多きとエステル皇后が王の外誰も招饗せざりしに獨り我のみを其饗筵に招きしこと我譽の高き故なりと自ら己を譽る盛なりと雖もモルデカイが我を敬はざるを見る間は假令是等ありと雖も心に快からずと云へり

第十八問　彼の妻及家族の意は如何なりしや

答　高さ五十キユピトの絞首臺を建て明日王に白してモルデカイを縊るの意なりし

第六章

第十九問　其夜王は如何せしや

答　彼眠を成さずして國の正史を携へて王の前に讀まんことを命ぜり中に曰るありモルデカイ王を害せんとしたる者を告發したりと王モルデカイの功未だ賞せざるを知りハマンの外宮にありと聞くや人を遣して彼を招き云ひけるは王賞したき人あり何を以て其人に施す可きや

第二十問　ハマンの返答は如何

答　ハマン自ら以爲く我より外に王誰をか賞せんと故に答て曰けるは其人をして身に官服を纏ひ頭に官冕を戴き王の馬に乗らしめ王の最貴皇族をして市中を御せしめ王の前に至りて之に宣傳ふころ其人を賞するの法なり

第廿一問　王の指圖は如何

答　王ハマンに急ぎ官服と王馬を取らしめ其云へる如く之をモルデカイに施し諭すに違ふことなきを以てせり時にハマンは官服と馬とを取りモルデカイを裝ひ街上馬を御し王の前に於て王の賞賜せんと欲する人にハ斯く爲さるべしと宣傳へり

第廿二問　斯の如き名譽をハマンはモルデカイに與へし後如何して家に歸りしや

答　彼ハ歎きて頭を蒙り家に歸り朋友と妻とに今日の逢遇を述べ聞せたり時に彼の賢臣と妻云ひけるハ若しモルデカイユダヤ人の種ならバ其前に屈すべし故に汝憂迫する勿れと言ふ中に早くも王の侍臣來りて皇后の饗筵に伴ひ行けり

第七章

第廿三問　第二の饗筵に起りし事ハ何ぞ

答　王ハ三たびエステルに其願を陳んことを強ひたり且其約定さへも再び述て國の半に係るも尚之を聽べしと時にエステル云ひけるハ王よ若し我君の寵に叶ひなバ我願に依て我命と我鄉黨に生

を賜へ如何となれば我等は賣らるゝが故に我も我鄉人と共に將に亡びんとすと王之に答けるは斯其心に於て爲んとする者は誰なるぞ其人何處にありやとエステル云く敵は此兇惡なるハマンなりと時にハマンは王と女王の前に於て懼を懷けり

第廿四問　ハマンの運命は如何

答　彼は命乞をなさんことを企てたり然ども王は大に怒り絞罪に處せり即ちハマンはモルデカイを殺さんと造る絞架の上に縊られたり

第八章

第廿五問　彼の財產は如何なりしや

答　エステルに與へられたりエステルモルデカイと親戚なることを王に告げしに王はハマンの物たりし指環をモルデカイに與へてハマンの家を領せしめたり

第廿六問　エステルは外に如何なる願をなせしや

答　王の足下に跪き淚を垂れて偏に王にハマンの毒を去りユダヤ人

に對するの惡念を除かんことを請へり如何となれバ我我人民の上に加わる害と我親戚に來る滅亡を見るに忍びざれバなり

第廿七問　王ハ彼女の願の幾分を許せしや

答　王ハ一旦書したる布告を變ゆること能ハざりしかども彼ハモルデカイが他の布告を書て王印を捺すを諾へり則ちアダルの月十三日に於て人各我身を防ぎ其命を保ち其敵を勦くべしとの王命を以て驛卒を馳て傳送れり

第廿八問　ユダヤ人に係る王の此令に依て如何なる反對の結果を見しや

答　初の布告にてハモルデカイハ白衣を着けユダヤ人ハ啼泣措く所を知らず禁食をさへなしたり次の布告にてモルデカイハ青白紫色の官服を纏ひ金冠を戴き王の前より出て來れりユダヤ人ハ重荷を下せし如く喜び勇で饗筵を設けて其日を祝へり

第九章

第廿九問　ユダヤ人を殺すべく命ぜられたる當日に如何なる事の起りしや

答　ユダヤ人ハ其領主に依て助けられ其群敵を殺したり第一日にハ

第三十問　ユシヤンに五百人第二日に三百人なりき國中の殺傷を數ふれバ總て七萬五千人なり

ハマンの十子の運命は如何なりしや

答　エステルの願に依て縊られたり

第三十一問　此救の紀念として如何なる節筵が設けられしや

答　プリムの饗應なりエステル及モルデカイはアダル(我二月)の月十四十五の兩日は饗應を設け祝日として世々守らんことを命ぜり

第三十二問　ユダヤ人は尙此祝日を守れるや

答　然り其月の十三日にはエステルが王に起訴したるの紀念として斷食をなし第十四日の夕及十五日の朝は會堂に於て禮拜等の式ありてユダヤ人の救其敵の滅亡をエステルの書中より讀むを以て倣となせり此日はユダヤ人に最親しく歡び呼で互に贈物等をなす

第十章

第三十三問　モルデカイの顯達及其名譽は如何

ヘブル年月表

ヘブルの月名	凡ソ我國左ノ月ト符合ス	月　聖年の方	月　常年の方	時候	聖節及記念スベキ日
アビブ又ニサン 埃及記十二の二より十八 エステル記三の七	三月	一月	七月	收獲時	十四日 羔の犧牲の日 十五日 逾越の節 十六日 大麥の初穗を神に奉ぐ 廿一日 逾越の末日
ジフ又イアル 列王紀上六の一	四月	二月	八月		
シワン エステル記八の九	五月	三月	九月		六日 聖靈降臨の日 小麥の初穗を神に奉ぐ
タンムズ エゼキエル書八の十四	六月	四月	十月	夏	
アブ エズラ書七の九	七月	五月	十一月		
エル ネヘミヤ記六の十五	八月	六月	十二月	酷夏	九日 ソロモンの殿カルデヤ人に取らる又其後第二の殿をローマ人に取らる

エタニム 列王紀上八の二 又テズリ	九月	七月	一月	種蒔時	一日 吹角節 十日 贖罪節 十五日 幕屋の節 廿日 祭の末日
マルチェスバン列王紀上六の卅八 又ブル	十月	八月	二月		
キスリウ ゼカリヤ書七の一	十一月	九月	三月	冬	廿五日 第二修殿の節
テベテ エステル記二の十六	十二月	十月	四月		
セバテ ゼカリア書一の七	一月	十一月	五月	寒季	
アダル エステル記三の七 九の十八より廿一	二月	十二月	六月		十四日及十五日プリム節
此に必要なればヴェ(第二)アダルを加ふるとあり					

答　ペルシヤの年代記中に彼れ王と共に有要至大の人物たりしてとを載せられたり彼れアハシユエロスの次に列ぶ人にして其人民の福を求め其同胤を優待すなどユダヤ人中第一流お居る

尼希米記

紀元前四百四十五年より仝三百九十七年に至る
開闢以來三千五百六十年より三千六百零八年に至る

第一問　斯記の記者ハ誰ぞや

答　此記者ハネヘミヤにて其名を以て記されたり書中第一人稱を用ひたるハ他書に異なる所にして十二章の系圖ハ大なる聖權を以て後人の附加せるものと思わる

第二問　斯紀の要畧ハ何ぞや

答　斯紀ハエズラ紀の後殆ど二十年に始まりキリストの降生に最近の歴史にして虜囚の後一百十年の末に至る

ネヘミヤハ國民の苦惱を聽民を安平に護らんとて已主宰となりエルサレムに上り再び城を建んことをペルシャの王アルタキセルキスに願ひしが其事許され二十年の後成功してアルタキセルキスの許に歸れりされど復エルサレムに歸り百事方法を設け或ハ改革をなして弊害を除き專らユダヤ人の榮を來さん事に力を

盡せり子ヘミヤ在位三十六年舊約聖書の歴史此書を以て完結す

第三問　子ヘミヤハ誰ぞや

答　子ヘミヤハ信仰あるユダヤ人其先祖ハもとエルサレムの住民なりしかバ彼云ふところに先祖の墓所ありと子ヘミヤの門地についてハ別に録されし事なけれども其父の名ハハカリヤと云ひ虜にせられたる地に於て好き殖民地を得て之に住し本國へ歸らざりき子ヘミヤのバビロンに在りし間ハペルシヤの王アルタキセルキスの酒正となれり。

第一章

第四問　ハナニは子ヘミヤへユダヤ人とエルサレムにつき如何なる報知をなせしや

答　エルサレムの城垣頽き其門ハ焚き虜にせられたる者の中遺餘者ハ大なる苦に遭ひ陵辱を受

第五問　子ヘミヤの感動ハ如何ん

答　彼坐して哭き數日の間悲哀をなし食を禁じて神の前に祈れり

第六問　其祈を陳よ

答　大にして畏るべき天の神なるヱホバよ約を踐みて凡て之を愛し其誡に遵ふ者に矜恤を施し給へ願くば我等の祈を聽き給ふて爾の僕晝夜イスラエルの子孫のために祈る所ろを聽きたまへ我等汝に罪を犯せし罪人なり我等が爾の前に行なへること甚だ妄にして我等は爾が爾の僕モーセに命ぜし所の命に遵はざりき我懇に爾に求む我をして爾が其僕モーセに命じ給ひし言に爾若し罪を犯さば我爾を列國の中に散さんとすされど若し我に歸り我命を守り之を行ば汝の中天の極に逐るゝ者ありと雖も我亦必ず彼れより爾を集め爾を携へて我が擇みて我名を置きし處に至らんと言ひし言を記憶せしめ給へ今此等の民は爾が大なる力を以て贖ひ給ひし民なりヱホバよ我爾に求む爾の耳をたれ給ふて爾の僕の祈と爾の名を畏れんと欲る諸の僕の祈を聽給へ又今日爾の僕をして利達しめて矜恤を此人の目前に獲せしめ給はんことを

第二章

第七問　王ハ子ヘミヤの憂ふる故を知りて何の恵を與へしや

答　王ハ子ヘミヤの歸るべき期日を約し後其願を許し先祖の葬られしエルサレムに歸らしめ河の外にありし諸方伯及びその森を守る人に宛たる詔書を授けたりそハ材木宮殿邑の城及彼の家の用に供へんためなり

第八問　子ヘミヤの旅行を述よ又彼が其業をはじめし有様を述よ

答　王ハ其軍將と騎兵を遣して子ヘミヤを守りユフラテの河を渡らしめたり子ヘミヤ其詔書を諸の方伯に與へエルサレムに三日の間とゞまりし後數人と偕に夜中頽れたる城垣と焚けし門を閲し歸りて有司等にいひけるハ我等にエルサレムの城垣を建しめよそハ我等が仍は辱を受ることなからんためなりとかくて彼有司等へ神のなし給ひしことゝ王の彼に告し言をつげゝれバ彼等之にいひけるハ我等宜しく起て建べしと是に於てその手を堅くして此善工を行へり

第九問　彼等如何なる防碍に遭しや

答　ホロニ人のザンバラテアンモン人のトビヤアラビヤ人のガシム之を聞き笑ひ且藐ていひけるハ爾の行ふ所ハ何耶王に叛かんと欲するやと

第十問　彼等の返答ハ何ぞや

答　天の神ハ我を興さんとす故に我等即ち神の僕ハ必ず起て建へしたゞ爾ハエルサレムにありて業なく分なく又徵なからんと

第三章

第十一問　城垣建築の順序ハ如何

答　三部に分ち人々各部に働けり

第四章

第十二問　工事の將に行はんとせし時にザンバラテとトビヤハ何をなせしや

答　ザンバラテ及びトビヤ怒りてユダヤ人をのゝしりザンバラテいひけるハ此等の懦弱なるユダヤ人何をなす之を容すべけんや彼等祭を獻せんとするや彼等一日にして工事を終らんや火に燬ける石を土壘より出して之を穌らすことを得べきやと又トビヤ

いひけるハ一の狐ありて其建る所の者の上ふ登らバ其石垣必ず傾るべしと

第十三問　仍はまたテヘミヤハ何をなせしや

答　テヘミヤ先神に謀り其業をはじめりテヘミヤ言けるハ我等の神よ聽き給へ我等藐視られたり願くハ其藐視を彼らの首の上ふ歸し給へそハ彼等建造者の前ふ怒りたれバなりと民城垣を建しが其城垣の半ハ落成せり

第十四問　ザンバラテとトビヤハ仍は如何なる抵抗をなせしや又如何に之を防がれしや

答　彼等城垣の工作のすゝみゆくを知りて大に怒り咸く相謀り工事を阻げんとてエルサレムに至り之を攻けれバユダヤ人ハ神に祈をなし備を設けて之を防げり

第十五問　再びテヘミヤハ何を失望せしや

答　ユダヤ人ハ其業の大なることと其敵より聞きし所の事に因りて失望し云けるハ負載者の力巳に衰たり灰土尚多くして我等垣を

建ること能す又我等の敵ハ我等が見知ざる中に來りて何の所にも我等を殺さんとす

第十六問

ネヘミヤ之を聞きて其護兵を備ふる事如何

ネヘミヤ城後の低き所に胸壁を備へ其敵を妨害せり又其最も高き所にハ民其家を率ひて備へたりろハ彼等相共に救ひ偕に相鬪て石及び弓を城の上より其敵の頭に投るをゑせしめんためたりネヘミヤ彼等を勵まし言けるハ懼るゝなかれよろしく記憶すべしヱホバハ大にして畏るべく爾等兄弟子女妻及び家室のため戰ひ給わんと敵ハ唯彼等を虚嚇して勝んと思ひしが其謀發見れて成ざりければユダヤ人ハ喜んで歸り其工事に就りネヘミヤ民百を分て二とし一ハ工事一ハ武器を執る而して城を建る人ハ各其劍を佩たり彼等戰ふ時にハ喇叭を吹きて直に一處に集るべしとの命を受て拂曉より星を戴くまで工作きたり彼等夜ハ城に宿り一人も衣を洗ふ時の外ハ衣を脱ぐものなかりき

第五章

第十八問　民の訴訟を述よ

答　貧苦につきて訴をなせり民貧窮のあまり止を得ず其田家を抵當に入れ金を借りて其家族を養へり諸貴顯諸方伯ハ金を貸して其利を取るのミならず彼等の子供を其奴婢となし或ハ之を他へ賣渡せり民ハ其田と葡萄園を贖ふの力なかりき

第十九問　ネヘミヤが此等の事實を聞きし時如何なる感動を起せしや又如何にして此の惱を救ひしや

答　彼大に怒り諸顯者と諸方伯をいましめ民より受取りし物ハ凡て民に歸すべく契約をなさしめたりネヘミヤ躬から規を設けて方伯の俸給を受ざりき又異邦より來りし人々の外ユダヤ人及び諸方伯を招き大なる饗應をなせり彼がかく爲し理由ハ民を憫ミて其報を神に求むべき事を諸方伯に敎えて相共に慈愛の行爲をなさしめんためなりき

第六章

第二十問　三箇の惡計を順述せよ

答

第一詐計ザンバラテトビヤガシム子ヘミヤを害せんとてベニヤミンのオノふある一村の會へ來らんことを言つかわせり子ヘミヤ返答けるハ我今大なる工事をなす胡ぞ此工事を息め離れて爾に來る事を得んと彼等かく子ヘミヤへいひつかわせしこと三度なりしが子ヘミヤ前の如く答へたりき

第二風説彼等子ヘミヤを驚かさんとて開封の書を彼の許ふ遣しいひけるハ爾とユダヤ人ハ謀叛をなし爾を立て王となさん爲め城を建と異邦人の中に風聞あり我等之を王ふ奏せんとすれバ爾來りて相議すべしと子ヘミヤ其事の實ならざる事を示せしのみならず其風聞ハ僞ふして彼等が僞造に出ることあるをいひつかわせり

第三預言彼等女預言者ナアデヤをして子ヘミヤを驚さんと敵夜來りて汝を殺すべしと言しめ彼が救命んために預言者と偕に宮殿へ遁きんことを望めり然るに子ヘミヤハ我ハ遁きじ我職任の如き者ハ宮に避きて生命を全ふすることを得んや我ハ入らずと

(即ち十二月)の十三日に於て老若男女を問はず總のユダヤ人を一日に殺し其褒美として彼等より掠取すべく書状を送れり

第四章

第十三問 此布告の出でたるときユダヤ人は如何なる感動を起せしや

答 モルデカイは彼の衣を裂き白衣を着て市街の中央に出で高聲に叫び惨怛哭泣けりユダヤ人の中には大なる歎きと斷食と泣聲ありて多の人は麻衣を着けたり

第十四問 エステルのモルデカイに送りし數度の使者は何なりしや及每度の返答は如何

答 エステルモルデカイの歎きを聞しときエステルは無限哀みて衣服を贈りて彼の白衣を脱がしめんとしたれども彼は之を受ざりし其時エステルは王の待臣にして彼女の事を為すべく命ぜられたるノメクなる者を呼びモルデカイの許に送て其何故なるを聞しめたりモルデカイはハマン王に約定せし金の始末を彼に話し亦エステルに示すべく布告の寫を與へ且彼女の人民に代りて

レムへ住居せし者は何れの族なるか城邑に來り家を建てゝ住居民は何の族なるやを知んためなり。

第二十五問　ネヘミヤが調査せし全人數は如何

答　四萬二千三百六十人なり

第八章

第二十六問　何日大切なる集會を開かれしや

答　七月一日なりそれ民がバビロンより歸りし時壇を建てゝ此日に祭りし故之を祭日として守れるものならん

第二十七問　律法を說明せし者は誰ぞや又民の感情如何

答　エズラ木の臺に立ち朝より日中まで律法を讀めり彼諸の民の前に書を開ければ民其前に立てりエズラ大なる神エホバを祝しければ諸の民其手を揚げアーメンアーメンといひ首をたれ地に伏てエホバを拜せり

第二十八問　エズラを補助せし者は誰ぞや

答　十三人の祭司エズラの前に立ち更に十三の祭司立ちて律法の意

を民に敎へ且律法の讀方を敎へたり

第二十九問　ネヘミヤとエズラハ民へ何を命令せしや

答　此日ハ爾の神エホバに聖となれり憂ふるなかれ哭ことなかれ（民律法の言を聽て皆哭り）往よ肥たる者を食ひ甘者ハ飮べし備なきものハ分て之に與へよ此日我等の主に聖くなれば爾憂るなかれそはエホバによりて喜ぶハ爾の力なればなり

第三十問　次の日出來し事ハ何ぞや

答　民長老祭司及びレビ人エズラに來りて律法の言を學ばんとせり彼等律法の中に錄して七月の節（即ち幕屋の節）に於てイスラエルの子孫茅廬の中に居るべしとあるを見て虜より歸りて凡の會衆各樹の枝を攜へ來り或ハ家屋或ハ院內或ハ神の室に廬を結びて其下に坐せりそはヨシュアの時より今に至るまでイスラエルの子孫如是して行ふ者あらざりきこゝに於て大に喜をなせり又エズラハ日々神の律法の書を民に講ぜりと云ふ

第九十章

第三十一問　是月の二十四日は何なる聖節なるや

答　聖なる禁食なり此日の一分を以て神の律法を讀ミ一分を以て民其罪を認てヱホバを拜したり此の時少くも六時間なりと云ふけれど或は之を二倍の時間なりと思ふ民は先祖の日より神のイスラエルを惠み給ひしことを知り卑だりて不幸を來したる國民の罪を認めたりしかして彼等神と聖なる約を立テヘミヤ其方伯となりてこれに先づ印を捺し續て八十四人の太子レビ人及び祭司亦然せり

第三十二問　是約は彼等の餘民に何事を禁制するや

第一　彼等異邦人な結婚する事

第二　サバス安息日に於て市場の開店と其他律法な於て爾働くこと勿れと云われたる其日に働き或は其前日な食物を買ふと

第三　嚴く貸金を索る勿れ律法に隨ひ第七年な耕稼事を止て之を安息年として守るべし

第四　謹て宮の奉事をなし決してヱホバの家を捨べからず

第十一二章

第三十三問　ヱルサレムにすまひし者ハ誰ぞや

答　諸牧伯及び鬮によりて撰ミたる民の十分の一なり

第三十四問　聖城の特禮を説くべし

答　祭司及びレビ人ハ城門と垣を潔め志りして諸牧伯と祭司レビ人及び謳歌者樂器に合せ謳歌つゝ城垣をまわりて神へ特禮をさゝげたり其行列ハ兩部に分ミ一ハヱズラ導きて右の方を往き一ハ左の方を往きネヘミヤ後に從ふて往く兩隊宮殿に會して偕に神に感謝をなせりかく彼等大なる祭を獻げて歡樂をなしたりしがヱルサレムの歡樂の聲遠く聞へたり

第三十五問　祭司とレビ人に與へられし糧食ハ何ぞや

答　人を設け國の税を集めたり

第十三章

第三十六問　ネヘミヤがバビロンに在ざりし事ハ幾年と思はるゝや

答　九年なり

第三十七問　彼の留守中にユダヤ人は如何なる罪を犯せしや

答　彼等異邦人と縁組をなせり祭司エリシアブトビヤと同盟したために神室の中に一房を設たり又レビ人の分は之に與ふることなく聖日即ちサバスをけがせり

第三十八問　ネヘミヤの初發の改革は何ぞや

答　彼エリシアブがそなへたる一房よりトビヤを放逐し其家に用し諸の器具を取り出し其房を潔して神室の器具携へて其房に入れ又レビ人及び謳歌者を其許に連れ來りユダヤ人をして穀物油及び酒を出さしめ且取る所の十分の一を収納せしむるために庫吏を設けたり

第三十九問　聖日を瀆すことを勿らんためにネヘミヤは何をなせしや

答　彼ユダヤの諸牧伯を責其弊害を改め命じて城門をサバスの前日の薄暮より閉サバスの翌朝まで開くことなからしめ其僕をして城門を守らしめたり

第四十問　彼又ユダヤ人のために如何なる事をなせしや

答　彼多くの人々アンモンアシドド及びモアブの女を娶りユダヤ人の子孫の半は是等の國語を話しユダヤ國語を話すこと能はざりき祭司長エリアシブの孫サンバラテの女と縁組せしと聞き此等の人々を除きたり彼諸て此等の弊害を改めし後簡短の祈をなして此紀を終へり即ち我神よ願くは善を以て我を待よ

第四十一問　予へミヤの支配は何年に始まりしや

答　紀元前凡そ四百〇九年なり

第四十二問　予へミヤの代に如何なる預言者出しや

答　舊約聖書にある預言者の終なるマラキなり

第四十三問　就中如何なる罪を彼は戒しや

答　偶像教徒と結婚するの罪幷に十分一の納物及供物を禁ずるの罪にして予へミヤも嘗て之を改めしなり

第四十四問　マラキは舊約聖書實錄の終に如何なる著しき預言をなせしや

答　正道の太陽と彼の稱ふるキリスト及預言者エリヤと彼の唱ふる「バプテスマ」ヨハネの此世に來ることなり

第四十五問　此預言はキリスト降誕何年前に發言せられしや

答　凡そ四百年

第四十六問　ネヘミヤがエルサレムより放逐したるサンバラッテの養子マナセは如何なりしや

答　彼はゆきてサマリヤ人と共に住めり

第四十七問　此後サンバラッテはユダヤ人に對して如何なる所爲を爲しや

答　彼はペルシヤ王ダリユスノサスよりエルサレムの神殿に對してゲリジム山上に神廟を建つる許を得たり

第四十八問　誰を彼は其祭司となせしや

答　ネヘミヤがエルサレムより放逐したるヨイアダの實子なり

第四十九問　ゲリジム山上此神殿を置きたる結局は如何

答　爾來ユダヤ人とサマリヤ人との怨恨の源となれり

クロスの布告より舊約聖書實錄の終迄の重大事件年表

ユダヤ（ペルシャの一洲として）	ペルシャ	同代の史
紀元前五百三十六年 クロスの布告ふよりヱコニヤの孫ゼルバベル四萬二千三百六十人のユダヤ人と七千三百三十七人の僕をヱルサレムに引歸せり	五百三十六年 クロス	
五百三十五年 新しき神殿に礎を置く		五百三十五年 テスピス初て悲哀の戯を演ず
五百二十九年 ペルシャの王に敵より信書來る	五百廿九年 カンビセス	
		五百廿七年 ピステラテス死す カンビセスヱジプトに勝つ
五百廿二年 王の布告に依て建築を止む	五百廿二年 スメルヂス	
五百廿一年 ハガイとゼカリヤの預言	五百廿一年 ダリヨスヒスタスペス	
五百廿年 神殿の建築を再興す		
五百十五年 神殿を神に奉ず		
		五百十年 アデンス共和政治を建つ 王放たる 羅馬共和政治を建つ

四百五十七年　ペルシヤ王の委任に依りエズラに率られユダヤ人の第二組返る

四百四十四年　ネヘミヤ十二年間エルサレムの冢宰になり邑壁を再建す

四百廿三年　エズラエルサレムに歸る　マラキ舊約聖書を終る

四百〇九年　祭司マナセゲリジム山上に神殿を築く

四百八十六年　ゼルキセス(アハシユエルス)

四百八十二年　ザリス人の襲擊

四百七十四年　エステル女王となる　王ペルシヤ地内にある總てのユダヤ人の沒落を布告すハマン人を謀りて自ら其罰を招き四百七十三年縊らる

四百六十四年　アルタルゼルキセス第一世

四百三十二年　エズラバビロンに歸る

四百廿五年　ゼルキセス第二世

四百廿四年　ソグヂアノス

四百廿三年　ダリユス第二世

五百〇九年　羅馬カルセージと初て條約をむすぶ

四百九十年　マラソンの戰

四百八十六年　エジプトペルシヤに叛き四百八十四年に再勝れたり

四百八十年　テルモピレーとサラミスの戰

四百七十九年　プラテヤの戰及ミカレーの海戰

四百七十六年　キモン

四百五十四年　アテンスペリキルスの代

四百四十四年　歷史家ヘロダテスの代

四百三十一年　ペロポネスス戰爭始まる

四百廿三年　アテンスソクラテスゼノフヲンツシヂデスの代

四百年　ゼノフヲン一萬人の退去す

三百九十九年　ソクラチス死す

ヘブルの秤量

重なる一位は「シケル」(秤量の義)にして「ベカ」(二分の一の義)と「ゲラ」(一粒即ち豆の義)に小分けせり其上位は「キクカル」(環又球の義)にして「タレント」は「マチ」(部分或は數の義)に小分けせらる

(第一)常に銀と其完き價格を秤るときの基本として用ゐらるゝ時の是等の秤量の關係は尚殘れる銀貨を以て定め且つ他の原因より極むれど即左表の如し但し「グレイン」秤にて正數を揭げ「アボイルドポイス」秤には最近數を示す

第一表　別紙を見よ

(第二)金を秤るときの「シケル」は又之と異なれり其價格は百二十九乃至百三十「グレイン」にて算用せらる此秤の「タレント」は銀秤の「タレント」の二倍に當り一「タレント」は之を百「マチ」に分ち一「マチ」を百「シケル」に分つ左表を見よ

第二表　別紙に揭ぐ

ヘブルの金錢

我儕はヘブル人がバビロンの擄より返る前に彼等は既に貨幣を用ゐたるやは知るに由なし然ども銀は遲くもアブラハムの時代より其量を秤りて金錢

の代りに用ゐられたり其最も早く書き記しあるは奴隷な向て拂はれたる代價の金額なり(創世記十七ノ十三)アビメレクよりアブラハムに拂はれたる銀一千片(創世記二十ノ十六)及ヨセフがイシマエル人に賣られたる價銀二十片(創世記三十七ノ廿八)の如きは恐らく我儕がエジプトの紀念碑な刻みある秤量の法を示せる圖に於て見る如き輪なりしならん此事情に依り只數のみにて過ぎたることは其價の充分定らざりしことを證するべく見ゆ併し一方より考ゆれば或る一定の總額に向て幾何片とあれば一位を有ち夫より算用されたるが如しヨセフと饑饉の歷史はカナーン人とエジプト人は等しき通用貨幣を持ちしなとを示すべく見ゆ之を以て見れば交易(貨と貨と換る也)は只金錢の盡しとき迄のみ行はれたることと明白なり

貿易の初めて記るしある取引中にマクペラの洞穴アブラハムに依て銀四百「シケル」にて買はるとあり而して商人中の通用に許されたるは即此秤量なりし(元本には金錢とはあらず創世記廿三ノ十五、十六)銀を秤るに「セッケル」を一位と立るは降てバビロンの擒に至るまでヘブル歷史の全年代中之を見る只一ケ所金錢の總額を示すな金幾何「セケル」と記るしあり(歷代史略二十一ノ十

第一表

銀量					グレイン	ポンド	オンス	正
「ゲラ」					一一		四十分ノ一	凡奇零々六グレイン強
「ベカ」	一〇				一一〇		四分一	奇零六グレイン強
「シケル」	二〇	二			二二〇		二分ノ一	一奇零七五グレイン強
「マチ」	一、二〇〇	一二〇	六〇		一三、二〇〇	二		凡二オンス弱
「タレント」（キクカル）	六〇、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	五〇	六六〇、〇〇〇	一〇〇		凡六ポンド弱

第二表

金量			グレイン	ポンド	オンス	正
「ゲル」			一三二		奇零三	奇零七五グレイン強
「マナ」		一〇〇	一三、二〇〇	二		凡二オンス弱
「タレント」（キッカル）	一〇〇	一〇、〇〇〇	一、三二〇、〇〇〇	二〇〇		凡二十ポンド弱

五)而して此處にてすら銀ぐ記るしあるのみナーマンとゲハジの取引ゟ金六千(列王記下第五章十五節)とあるは恐らく列王記上第十章の十六節ゟ金六百とある如く「セッケル」を指すならん

擄後い夙に通用貨幣の記載ありて期せらきたる如く謎に於てペルシヤ通貨に金「ダリック」あり是等の「ダリック」の現の量い凡百廿八「グレイン」にして百三十二「グレイン」を有てる金「シケル」ゟ大概相當す

古のヘブルの金錢の表(量を以てす)

一、銀				ポンド	シルリング	ペンス
半「セッケル」(神廟への人口税)				○	一	六
二	シケル			○	三	○
一二〇	六〇	マネ		九	○	○
六〇〇〇	三〇〇〇	五〇	タレント	四五〇	○	○
二、金(トロイ量一オンス四ポンド替)				ポンド	シルリング	ペンス
シケル				一	二	○

一〇〇		マチ	一一〇 〇 〇
一〇、〇〇〇	一〇〇	タレント	一一、〇〇〇 〇 〇

ヘブルの尺度

「ダタ」を以て「モサイク」尺の長さを定むるは特に困難にして其確實なるものは得難かるべし然れども今其最も信に近きものを擧ぐれば左の如くなるべし

第一ヘブル王國の時代には三種の尺度用ゐられたり即ち一人の尺或はカルデヤ人の立てたるカナーン人の普通尺度（モサイク尺に對して云ふ）

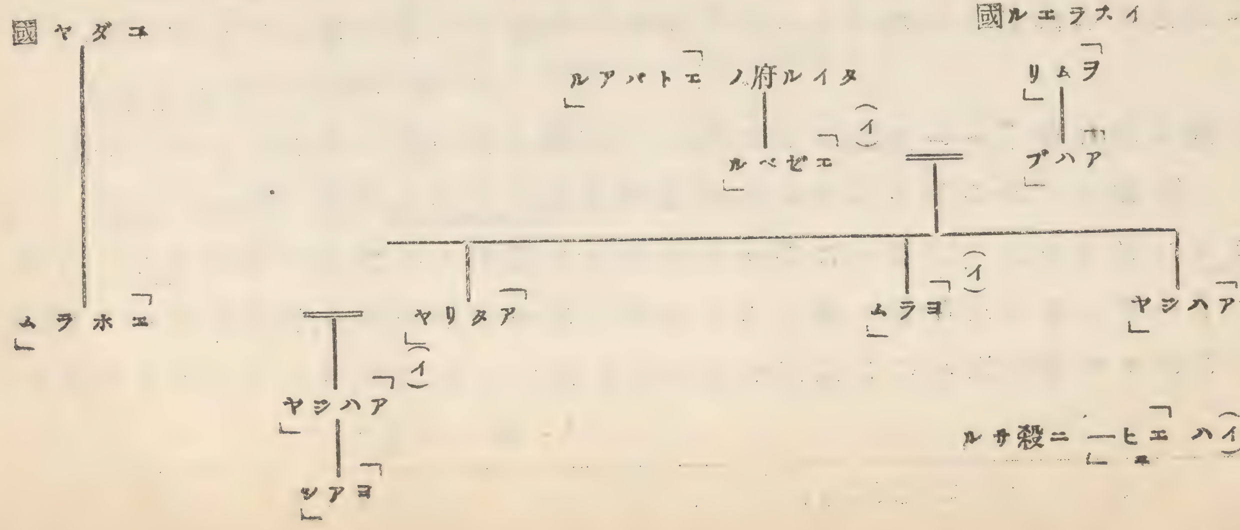
二、舊「モサイク」尺即ち法に依て極りたる尺にして前者より一手掌だけ廣くエジプトの小尺度と等し

三、新尺度にして舊尺度より大きく大凡二十インチ寄零六の長さを有てる大エジプト尺と一致し「ニロメートル」に於て用ゐられたり

第二聖書中の通常の尺度は他國の尺度の充分なる長さに及ざりし建物を度るに用ゐられたる「リード」（「カチ」）は六尺と等し（以上記載する尺とは正しく日本の一尺をいふに非ずして「キユビット」なる語を譯せしものなり左表に掲ぐる比較數は（テニアス氏に倣ふ）略ぼ確實なるを以て人々之を覺

置くべし

「オムリ」及其類屬ノ朝



ヘブル尺度					インチ	最近數 フート	最近數 インチ
デジット					奇零七九三八		奇零八又十六分ノ十三
四	パーム				三奇零一七五二		三ト十六分ノ三
一二	三	スパン			九奇零五二五七		九ト二分ノ一
二四	六	二	キユービット		一九奇零々五一五	一	七
一四四	三六	一二	六	リード	一一四奇零三零九零	九	六

27. Daniel, *Danieru*, (但) 但以理
28. Hosea, *Hosea*, (何) 何西
29. Joel, *Yoeru*, (耳) 約耳
30. Amos, *Amosu*, (歷) 亞歷士
31. Obadiah, *Obadia*, (阿) 阿巴底
32. Jonah, *Yona*, (拿) 約拿
33. Micah, *Mika*, (米) 米迦
34. Nahum, *Nahomu*, (翁) 拿翁
35. Habakkuk, *Habakuku*, (哈) 哈巴谷
36. Zephaniah, *Zepania*, (番) 西番雅
37. Haggai, *Hagai*, (基) 哈基
38. Zechariah, *Zekaria*, (亞) 撒加利亞
39. Malachi, *Marakia*, 馬拉基

THE NAMES AND ORDER OF THE BOOKS OF THE OLD TESTAMENT, WITH THEIR JAPANESE PRONUNCIATION.

---

1. Genesis, *Soseiki*, (創) 創世記
2. Exodus, *Egypto Idzuruki (Egyptoki,)* (出) 出埃及記
3. Leviticus, *Rebiki*, (利) 利未記
4. Numbers, *Minsukiriaku*, (民) 民數記略
5. Deuteronomy, *Shinmeiki*, (申) 申命記
6. Joshua, *Yoshuaki*, (書) 約書亞記
7. Judges, *Shishiki*, (士) 士師記
8. Ruth, *Rutsuki*, (得) 路得氏記
9. I. Samuel, *Samueru zen sho*, (母前) 撒母耳前書
10. II. Samuel, *Samueru kō sho*, (母後) 撒母耳後書
11. I. Kings, *Retsu-ō Kiriaku jō*, (列王上) 列王紀略上
12. II. Kings, *Retsu-ō Kiriaku ge*, (列王下) 列王紀略下
13. I. Chronicles, *Rekidai Shiriaku jō*, (歷代上) 歷代志略上
14. II. Chronicles, *Rekidai Shiriaku ge*, (歷代下) 歷代志略下
15. Ezra, *Ezura*, (喇) 以士喇
16. Nehemiah, *Nehemiaki*, (尼) 尼希米記
17. Esther, *Esuteruki*, (帖) 以士帖記
18. Job, *Jobuki*, (百) 約百記
19. Psalms, *Shihen*, (詩) 詩篇
20. Proverbs, *Shingen*, (箴) 箴言
21. Ecclesiastes, *Dendō no sho*, (傳) 傳道書
22. Song of Solomon, *Soromon no gaka*, (歌) 雅歌
23. Isaiah, *Izaya*, (賽) 以賽亞
24. Jeremiah, *Yeremiaki*, (耶) 耶利米
25. Lamentations, *Aika*, (哀) 哀歌
26. Ezekiel, *Ezekieru*, (結) 以西結

hands this book may fall be led to more extensive Biblical investigation ; may there be awakened in their minds an abiding interest in the Bible, the Book of books,—its ethics, the great salvation it reveals,—the loving Savior manifest on every page.

I desire to express my obligation to all those who have assisted in the preparation of this work, and also to those whose suggestions and kindly criticisms have added greatly to its value.

E. R.

Nagasaki, Japan.
Aug., 1886.

PREFACE.

When I began work in Japan, more than six years ago, I felt that the need of a Bible History was an urgent one. As soon as possible I began, with the aid of Japanese assistants, the translation of Mrs. Hanna's Bible History, which seemed to me the best adapted to the wants of the School-room in Japan. These translations from day to day constituted the course of instruction on this subject given to the pupils in the "Kuwassui Jogakko." When the translation was about completed, no other book supplying the need having appeared, I decided to prepare the manuscript for the press. Some additions have been made to the body of the work; and Tables of weights and measures, a Jewish calendar and Chronological Tables have been inserted, in the preparation of which I have drawn upon Geikie's "Hours with the Bible", Stanley's "History of the Jewish Church" and Smith's "Bible History." An index of the names of persons and places mentioned in the Old Testament has been prepared, which will not only make the book convenient for reference but also render it useful in supplying the need of a Bible Dictionary in Japanese.

The book is an effort to present the facts of Bible History in a connected, easy and pleasant way and as nearly as possible in the language of the Bible. No sectarian comments have been given. Although among teachers many honest differences of opinion exist in regard to both matter and method of arrangement in Text-books, all will doubtless admit that the catechetical form has great advantage in fixing the attention of the student upon important points and in aiding the memory to retain facts.

This volume is now given to Japanese youth with the prayer that as they study it there may be implanted in their minds a lively interest in the people whose history for centuries is traced in these pages and who are the most interesting people who have ever lived upon the earth, viz., the Jews. And may all into whose

though used in referring to the Hebrew nation, are written with *one* line until the people come into possession of the promissed land; after which time *two* lines are used: in the former case the Japanese refers to the people as *descendants*, in the latter case it considers them a nation.

The illustrations in this volume are from plates prepared in America. They appear rather dark in some cases because too much pressure was put upon the plates in running them through the press. It is hoped that the illustrations, maps and tables will increase the interest of the general reader in the History herewith presented.

Yokohama, 222 Bluff,
August, 1886.

PUBLISHER'S ANNOUNCEMENT.

The great want in the Christian School-room of Japan is that of proper text-books. Methodism has done something to meet this want and promises to do more. A few years since an "Abridged Introduction to the Old Testament" was issued and has been well received, especially by candidates for the ministry. "Questions on Moral Philosophy" had a large sale as it proved to be a key to the translation of "Wayland's Moral Science" which was issued by the educational department of the Government. A "Harmony of the Gospels" also did good service to Bible students generally.

The volume now presented to the public is designed to supply a real want both in the School-room and in private study. It is the first of a series of large text-books, some of which are now ready for the press while others are in course of preparation. This series will comprise Apologetics, Homiletics, Systematic Theology, Church History, etc. While the Theology of the volumes will be in harmony with the doctrinal standards of the Methodist Church, the aim will be to make the entire series acceptable to all Evangelical Christians.

Especial care was given the present work as it passed through the press; but dispite double diligence in reading the proof, a few mistakes appear in the marks of distinction between names of persons and names of places. The student is cautioned not to be over-perplexed, should "David" appear as the name of a place, or "Jerusalem" assume the form of a man.

In transliterating proper names no deviation has been made from the rules adopted by the permanent committee on Scripture translation, except in cases where a strict application of the rules would produce such a combination of Japanese syllables as would not only not suggest the English equivalent of the word but also hide its Hebrew original. The words "Israel" and "Judah,"

OLD TESTAMENT HISTORY:

A

COMPENDIUM

OF

FACTS AND EVENTS RECORDED IN THE

OLD TESTAMENT SCRIPTURES;

ARRANGED IN CHRONOLOGICAL ORDER AND ADAPTED FOR USE IN SCHOOLS AND ACADEMIES AND ALSO FOR PRIVATE STUDY.

COMPILED AND TRANSLATED BY

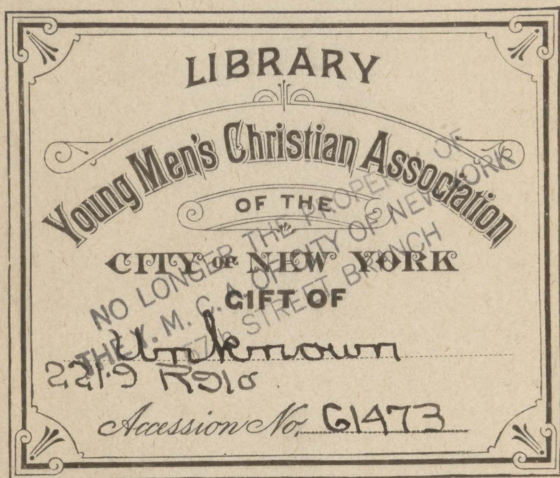
ELIZABETH RUSSELL,

OF THE KUWASSUI JO-GAKKO,
NAGASAKI.

YOKOHAMA:

Japan Publishing Agency of the
Methodist Episcopal Church.

1886.


LIBRARY
Young Men's Christian Association
OF THE
CITY OF NEW YORK
GIFT OF
Unknown
221.9 R910
Accession No. 61473
NO LONGER THE PROPERTY OF
THE Y. M. C. A. OF CITY OF NEW YORK
STREET BRANCH

